

<第4章 調査結果〔解説・グラフ〕>

第4章 調査結果 [解説・グラフ]

1. 県の基本政策について

(1) 経済の活性化について

問1 「経済の活性化」について、第4期高知県産業振興計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

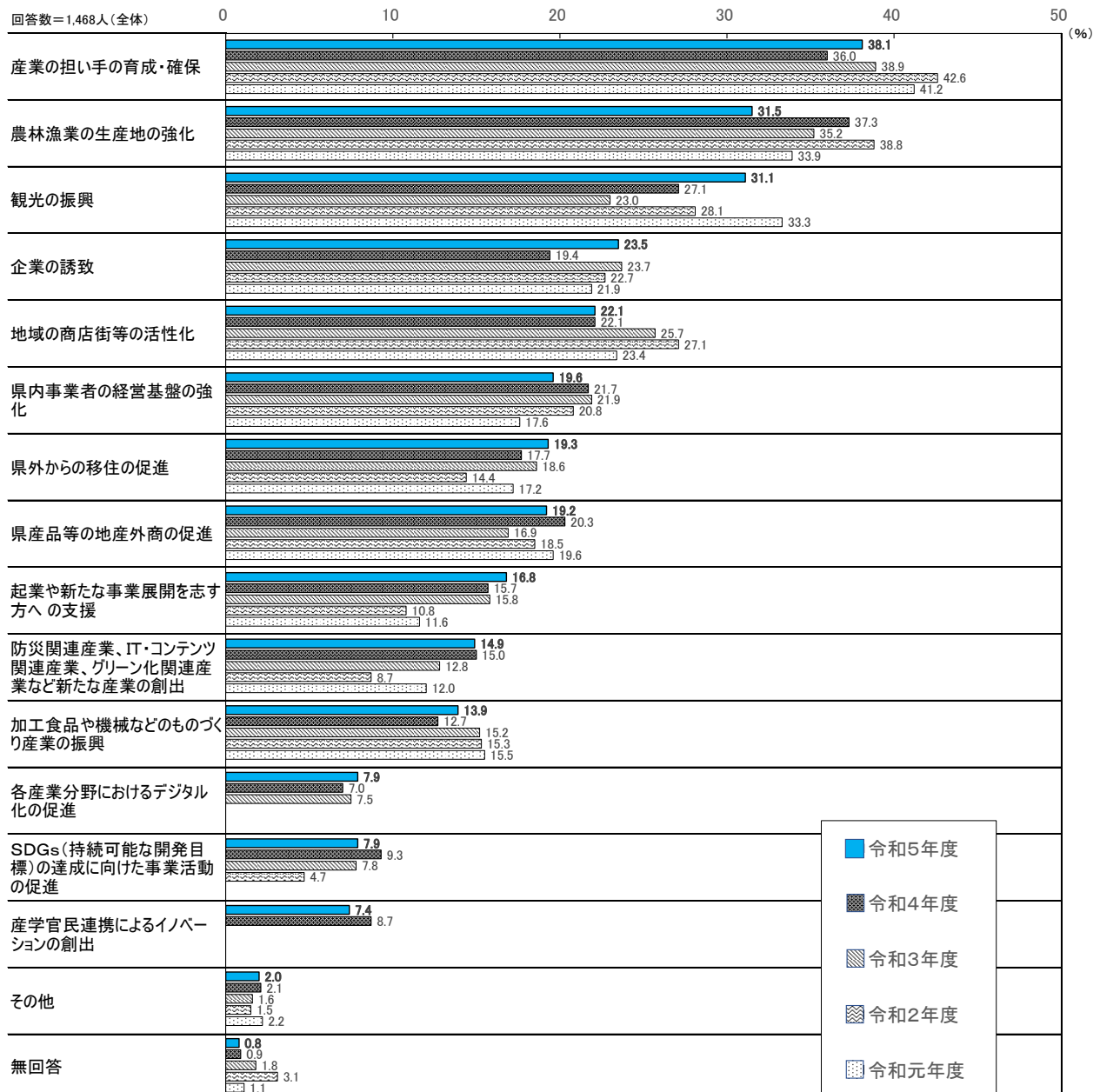
「産業の担い手の育成・確保」が38.1%と1位になっている。

次いで、「農林水産業の生産地の強化」が31.5%、「観光の振興」が31.1%と続いている。

【過去の調査との比較】

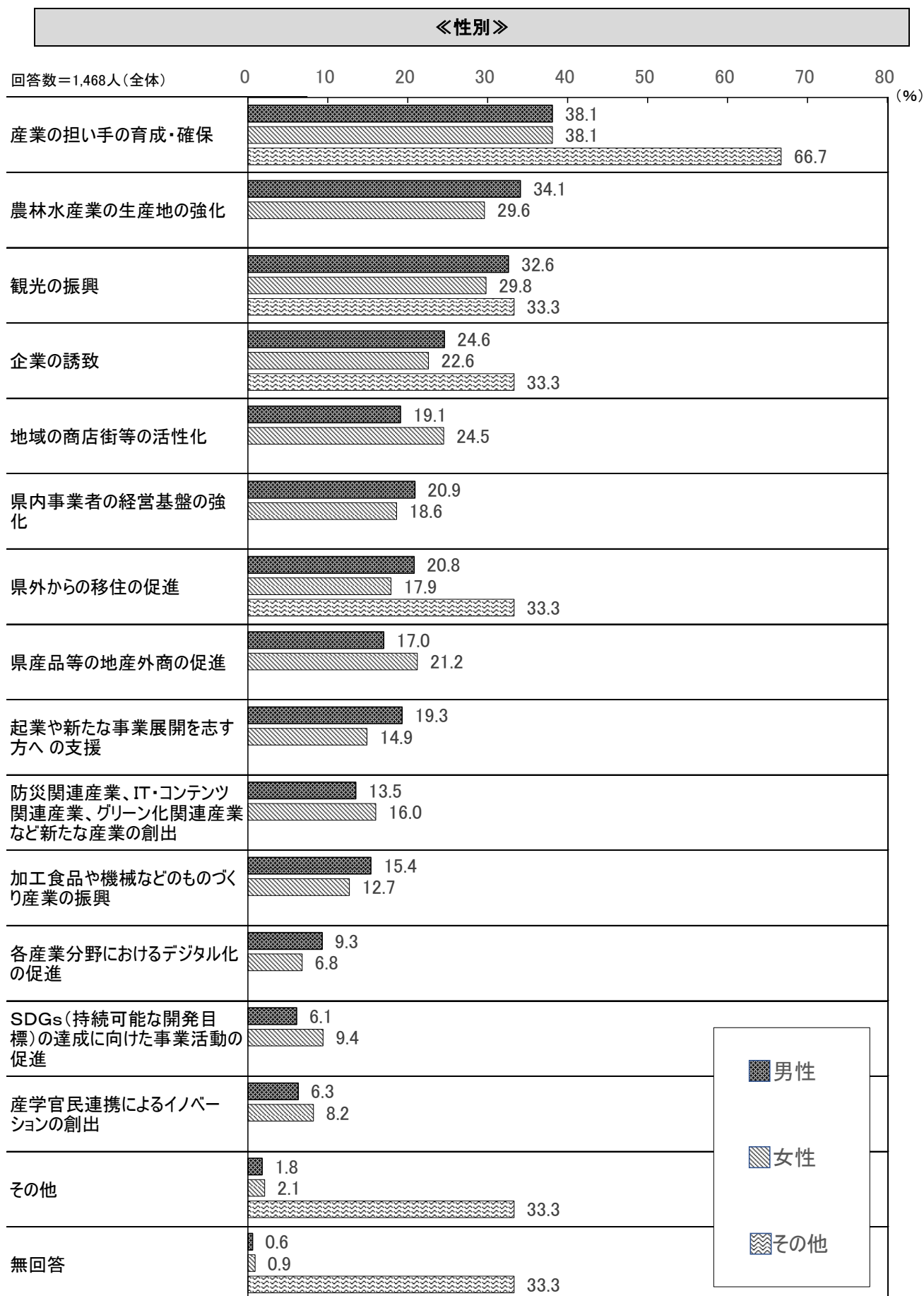
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度は「産業の担い手の育成・確保」と「観光の振興」と「企業の誘致」と「県外からの移住の促進」と「起業や新たな事業展開を志す方への支援」と「加工食品や機械などのものづくり産業の振興」が昨年度より増加している。

《経年比較》



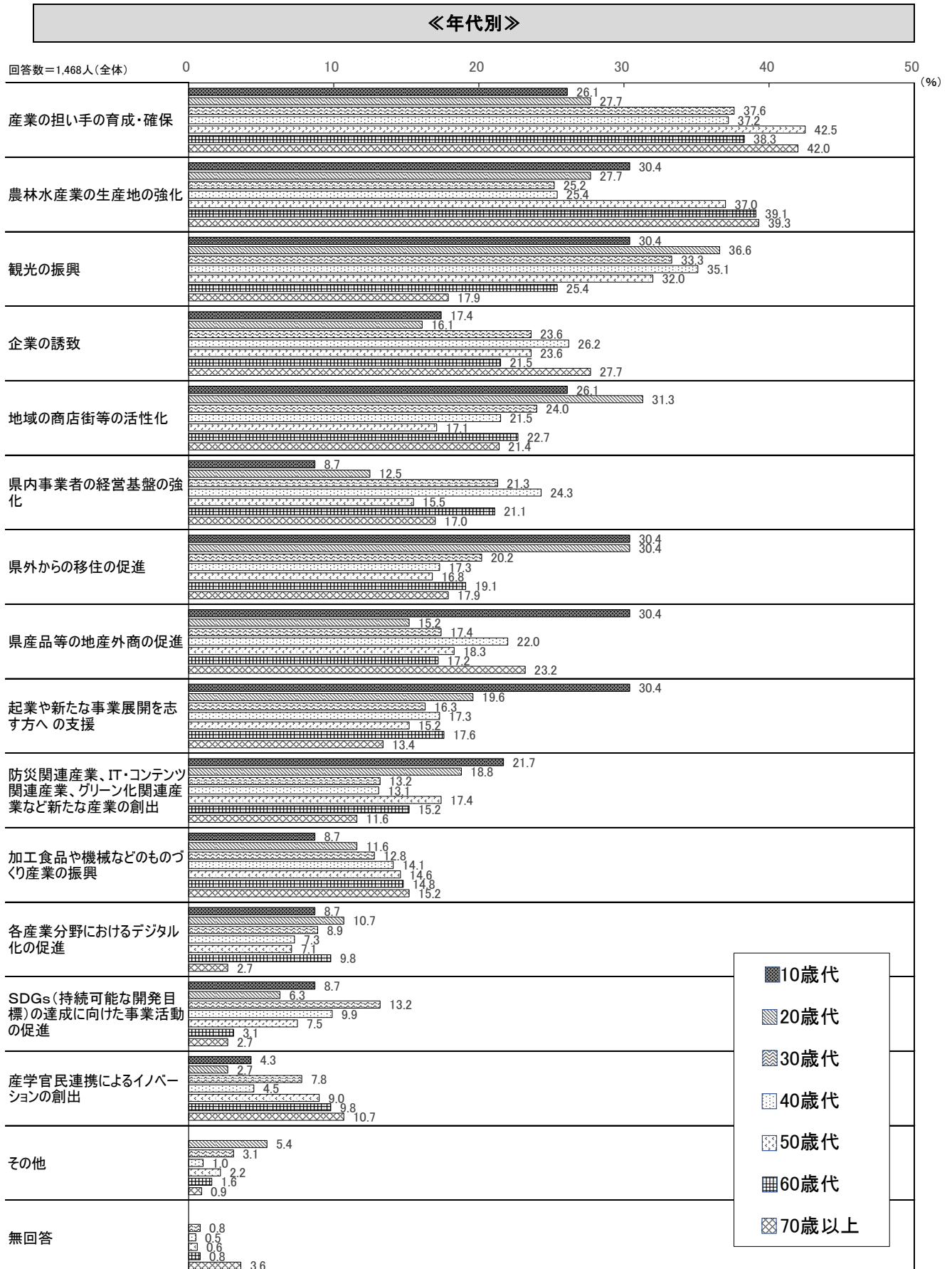
【性別】

男女ともに「産業の担い手の育成・確保」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では同率で「農林水産業の生産地の強化」、「観光の振興」、「県外からの移住の促進」、「県産品等の地産外商の促進」、「起業や新たな事業展開を志す方への支援」が最も高く、20歳代では「観光の振興」が、30歳代、40歳代、50歳代、70歳以上では「産業の担い手の育成・確保」が、60歳代では「農林水産業の生産地の強化」が最も高くなっている。



(2)「日本一の健康長寿県づくり」について

問2 「日本一の健康長寿県づくり」について、第4期日本一の健康長寿県構想に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

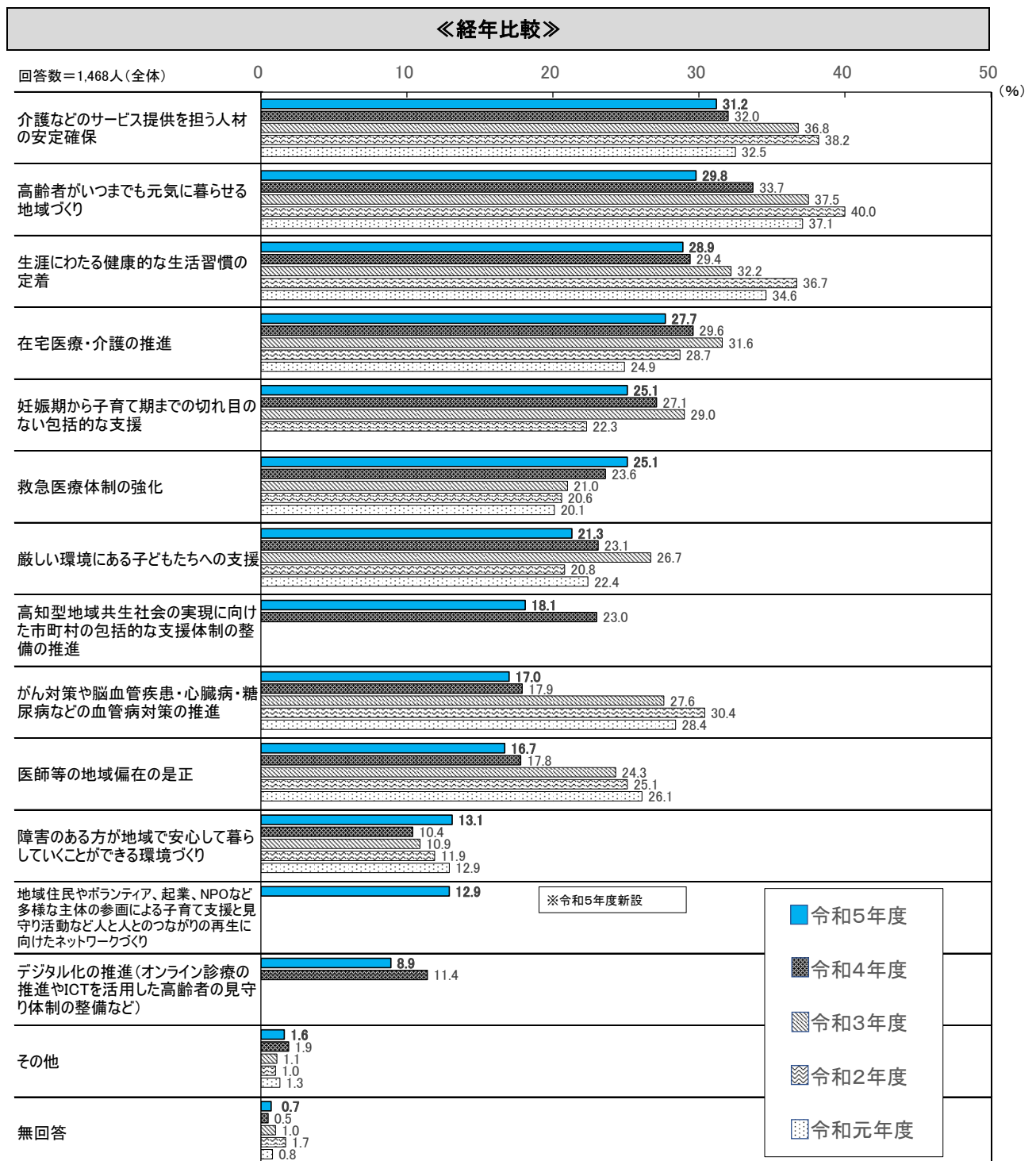
【総合】

「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が31.2%と1位になっている。

次いで、「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が29.8%、「生涯にわたる健康的な生活習慣の定着」が28.9%と続いている。

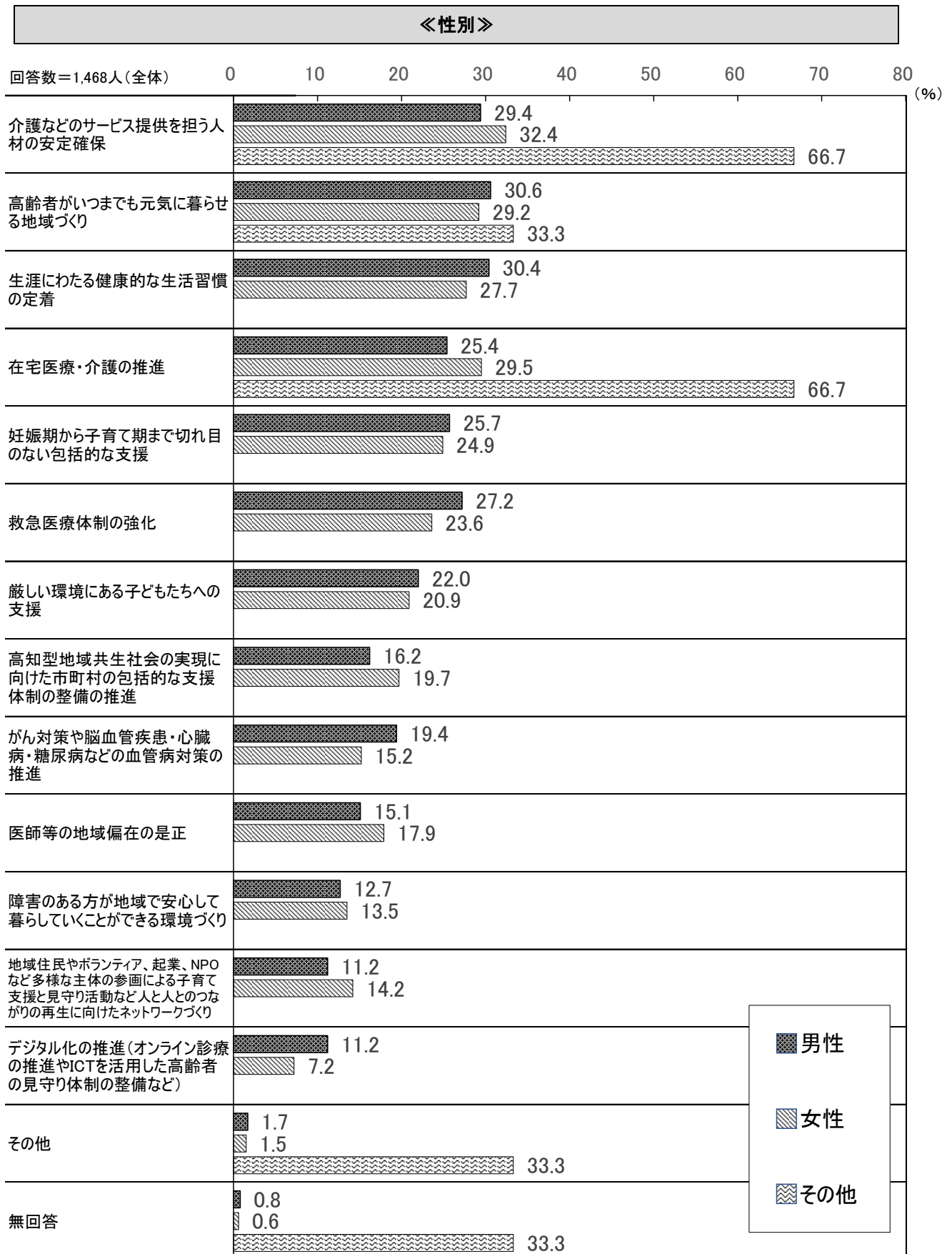
【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、昨年度2位だった「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が1位になっている。また、「救急医療体制の強化」と「障害のある方が地域で安心して暮らしていくことができる環境づくり」が昨年度よりも増加している。



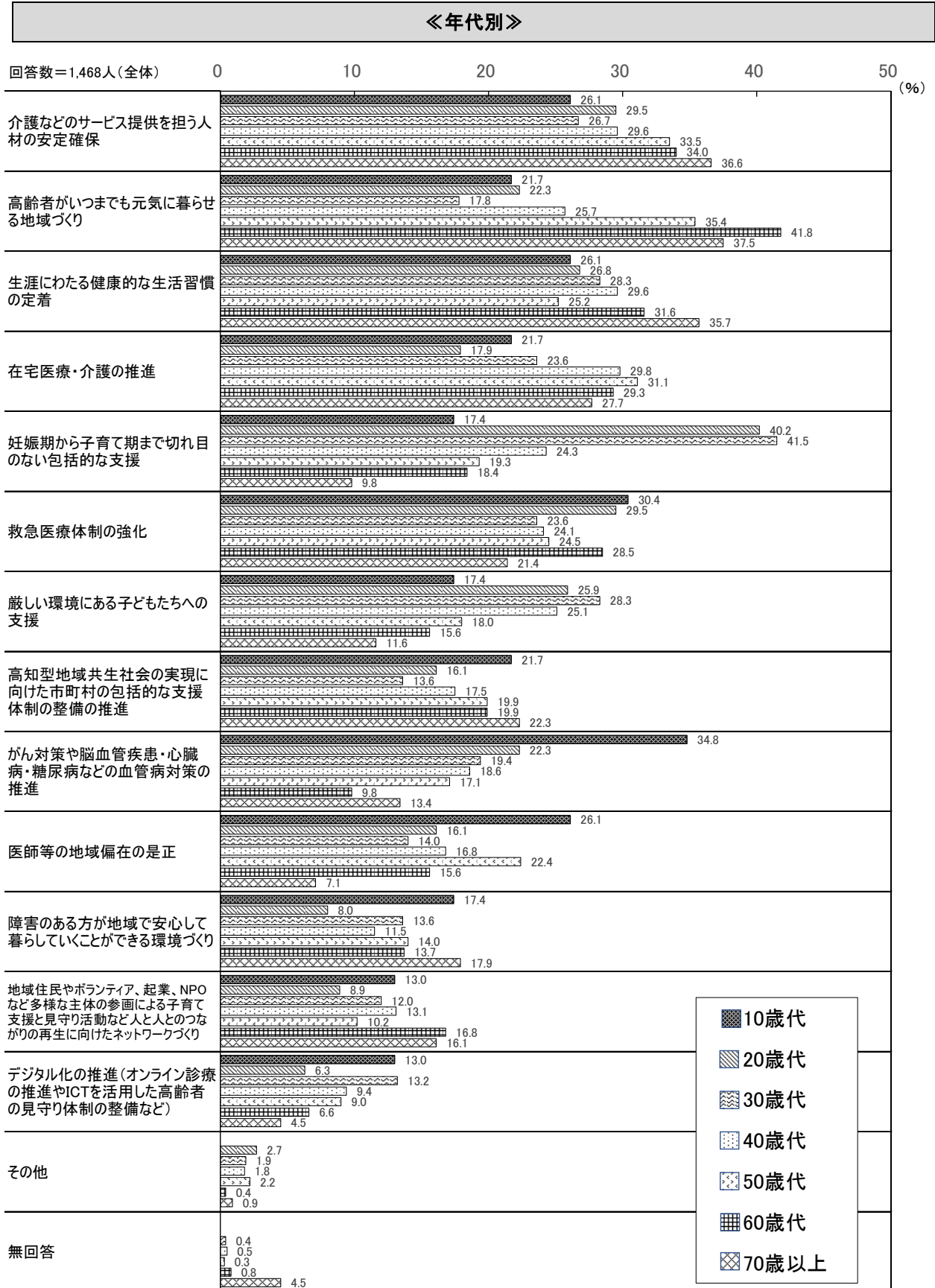
【性別】

男性では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が、女性では「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「がん対策や脳血管疾患・心臓病・糖尿病などの血管病対策の推進」が最も高く、20歳代、30歳代では「妊娠期から子育て期まで切れ目のない包括的な支援」が、40歳代では「在宅医療・介護の推進」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が最も高くなっている。



(3)「教育の充実と子育て支援」について

問3 「教育の充実と子育て支援」について、第2期教育等の振興に関する施策の大綱に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

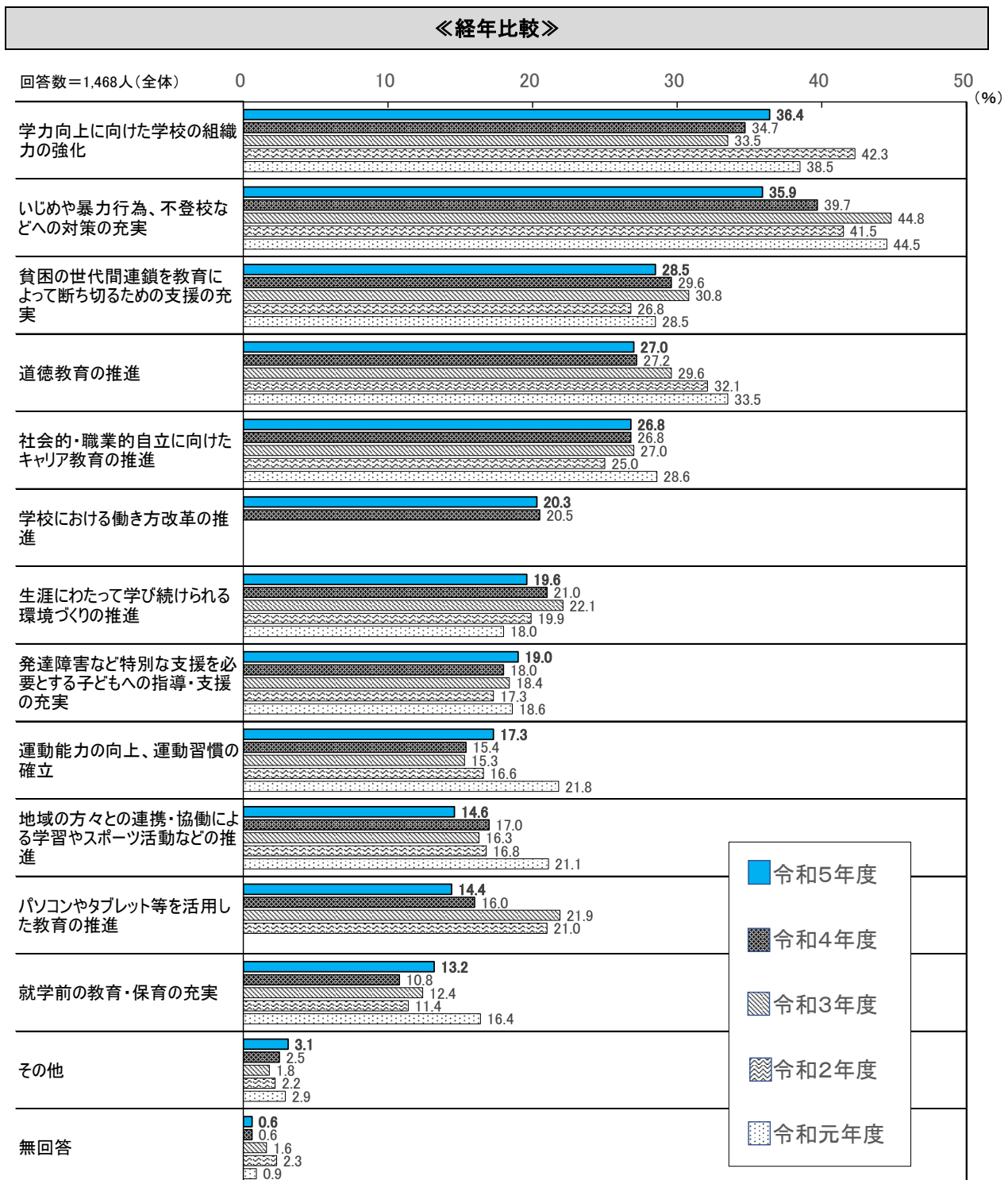
【総合】

「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が36.4%と1位になっている。

次いで、「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が35.9%、「貧困の世代間連鎖を教育によって断ち切るための支援の充実」が28.5%と続いている。

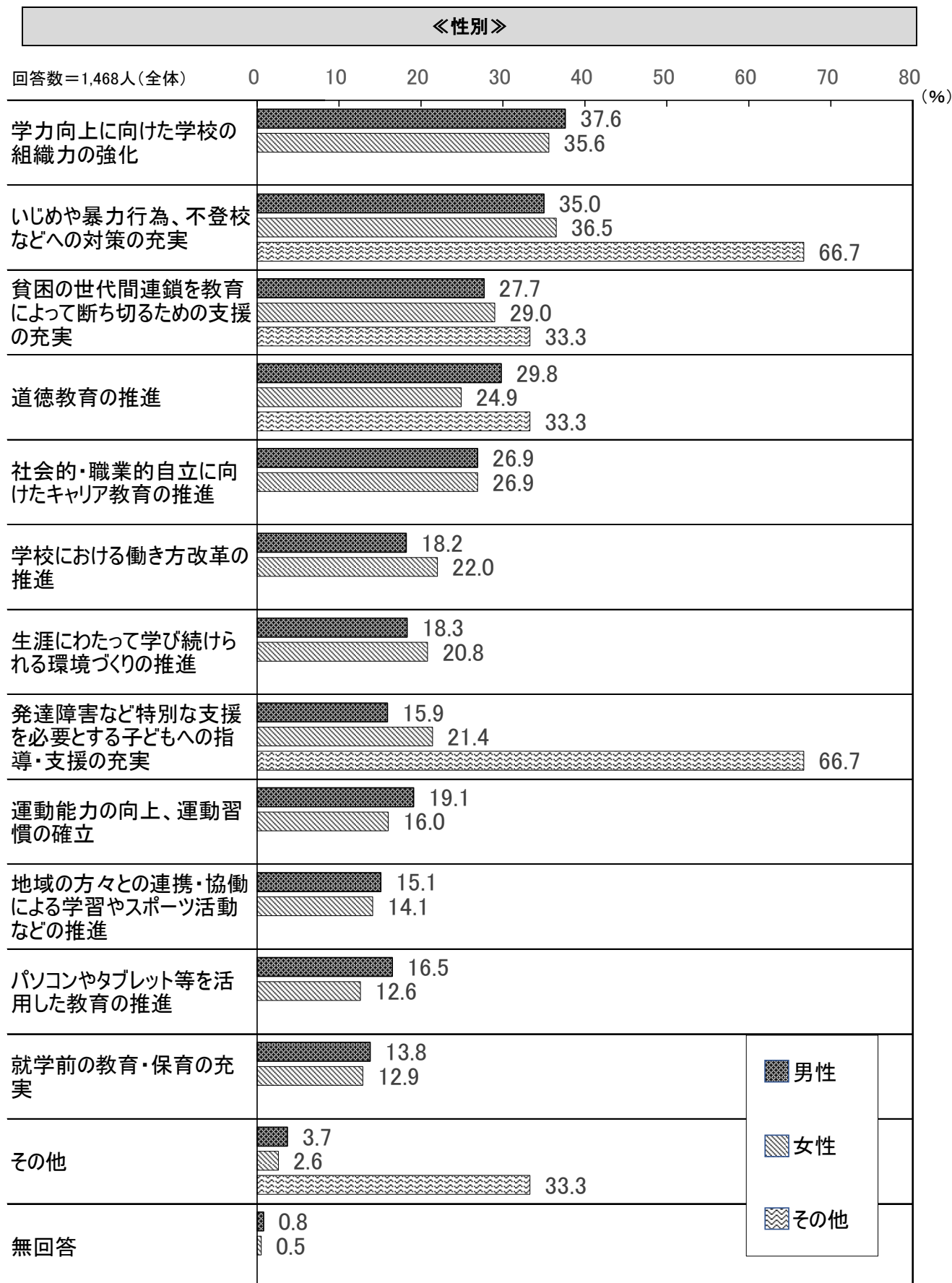
【過去の調査との比較】

今年度は、昨年度2位だった「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が1位になっている。



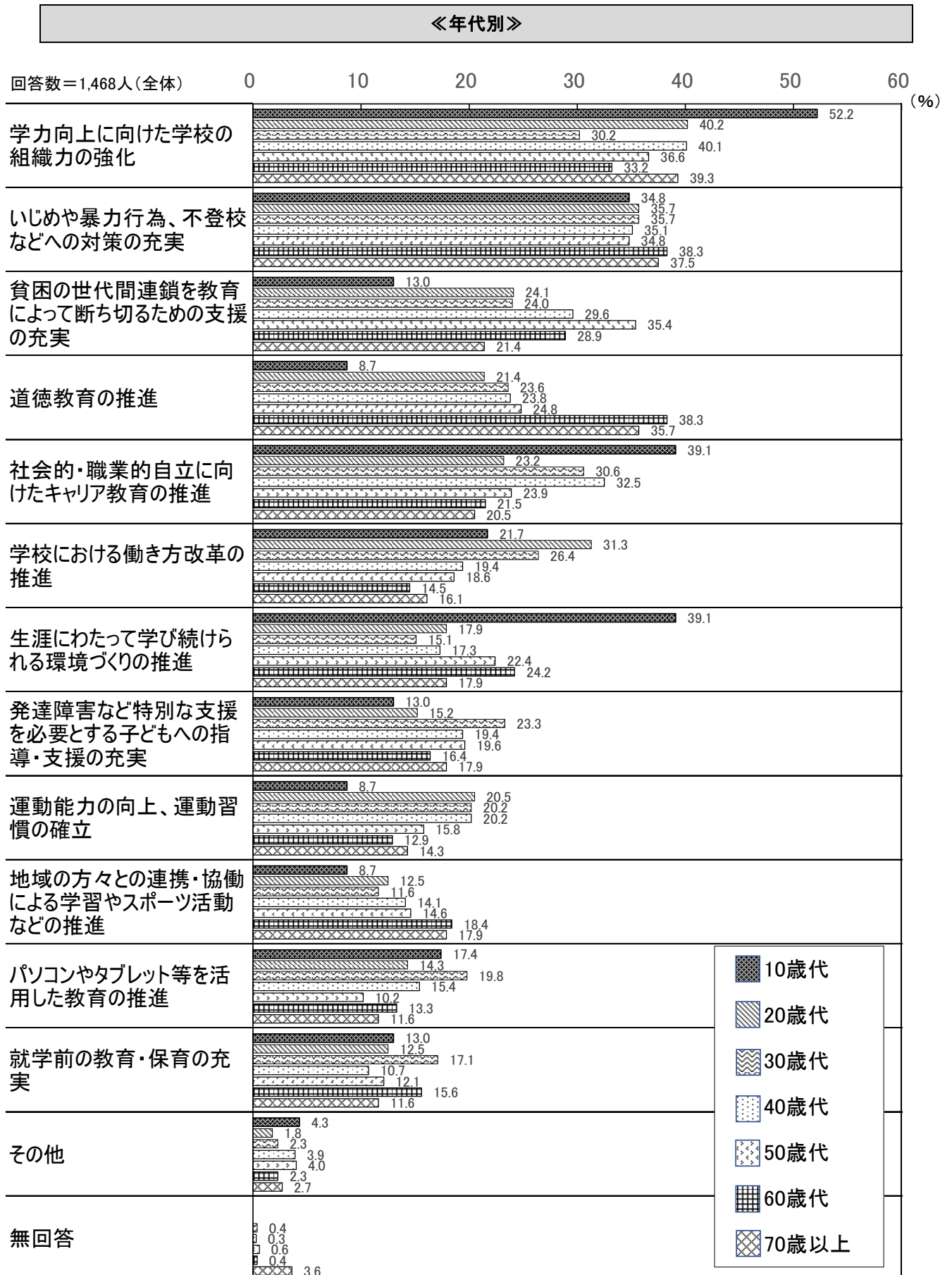
【性別】

男性は「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が最も高く、女性は「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、40歳代、50歳代、70歳以上では「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が最も高く、30歳代では「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が、60歳代では同率で「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」と「道德教育の推進」が最も高くなっている。



(4)「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について

問4 「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について、第5期南海トラフ地震対策行動計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

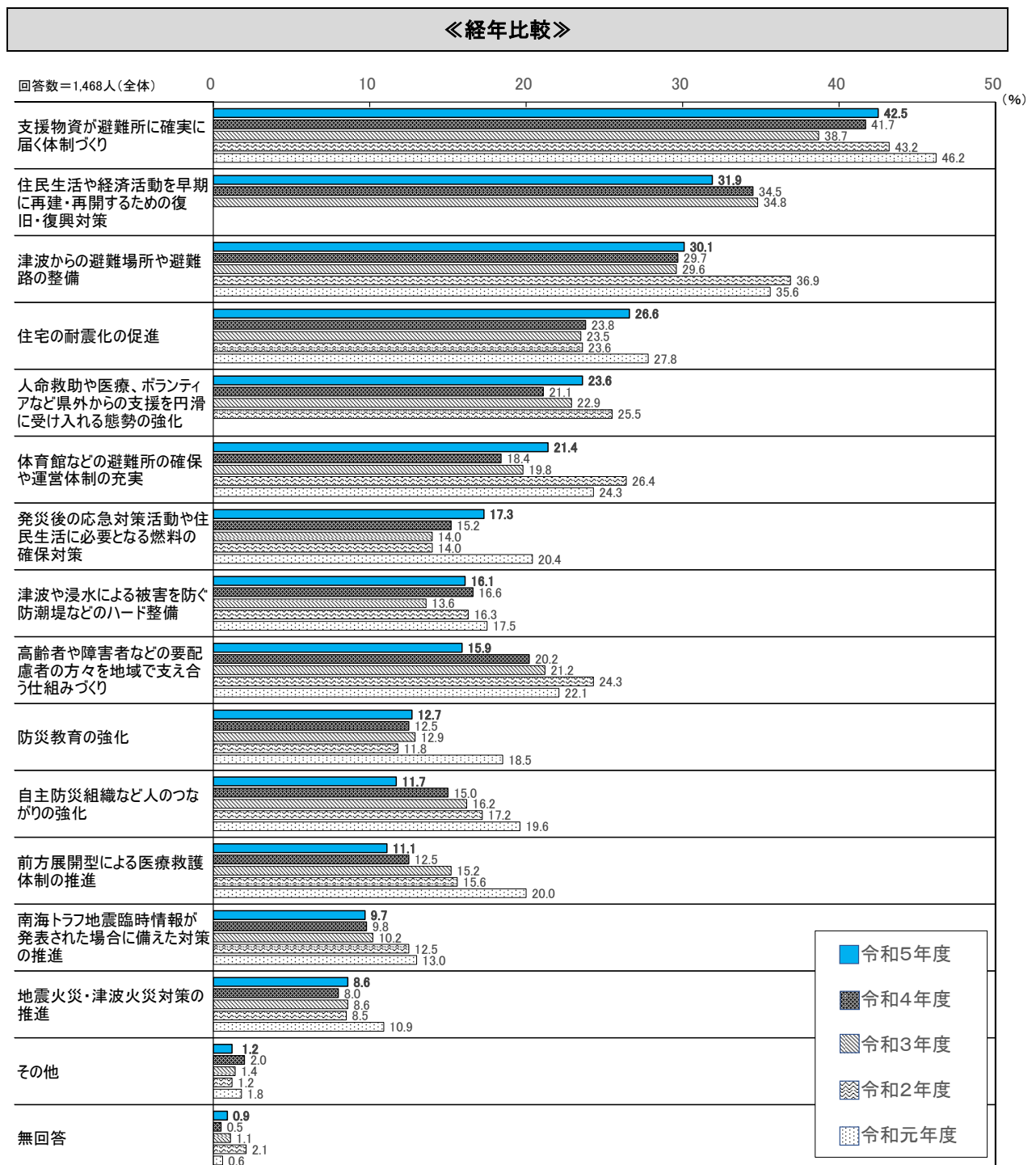
【総合】

「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が42.5%と1位になっている。

次いで、「住民生活や経済活動を早期に再建・再開するための復旧・復興対策」が31.9%、「津波からの避難場所や避難路の整備」が30.1%と続いている。

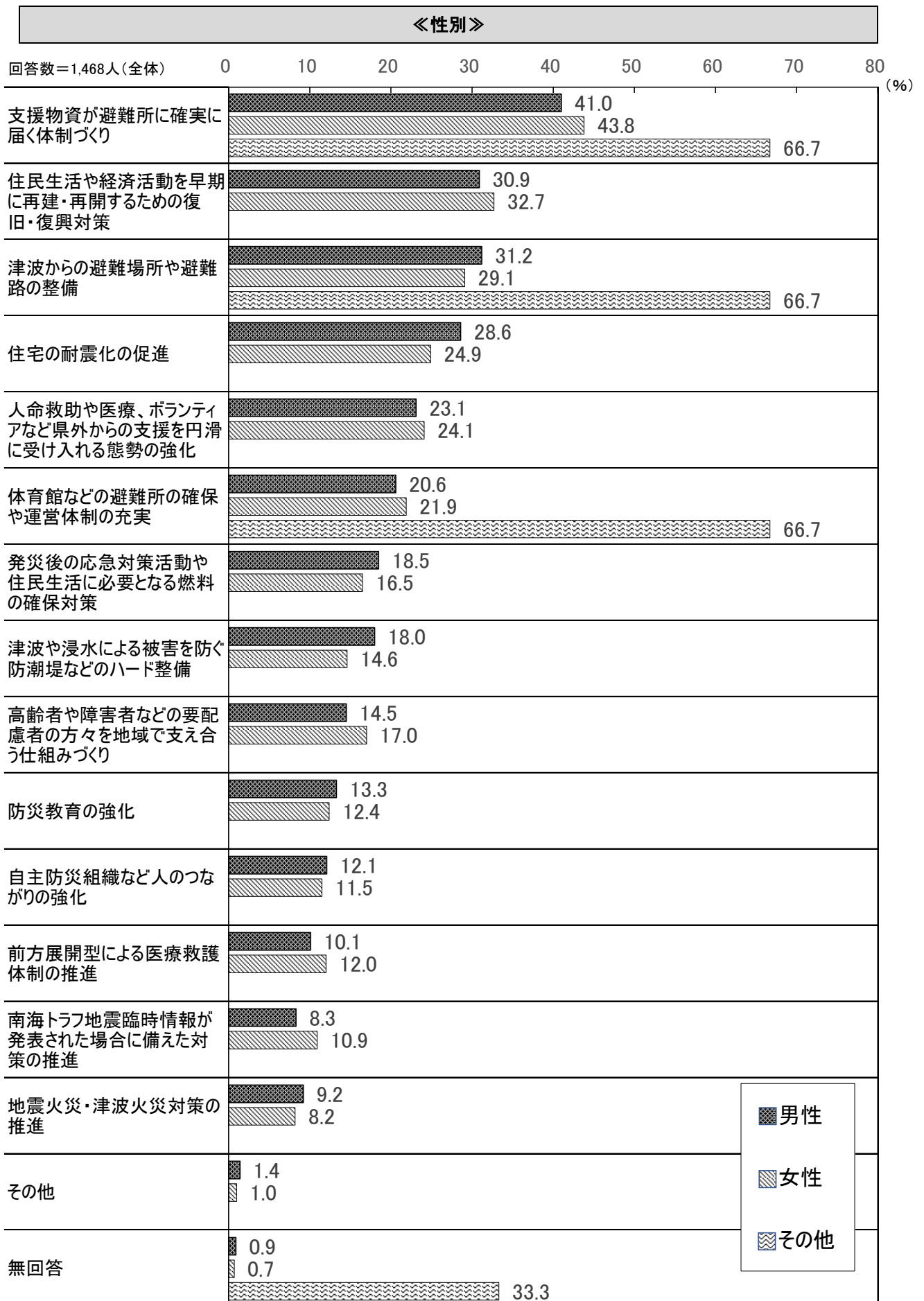
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく、今年度も「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が1位に、「住民生活や経済活動を早期に再建・再開するための復旧・復興対策」が2位になっている。



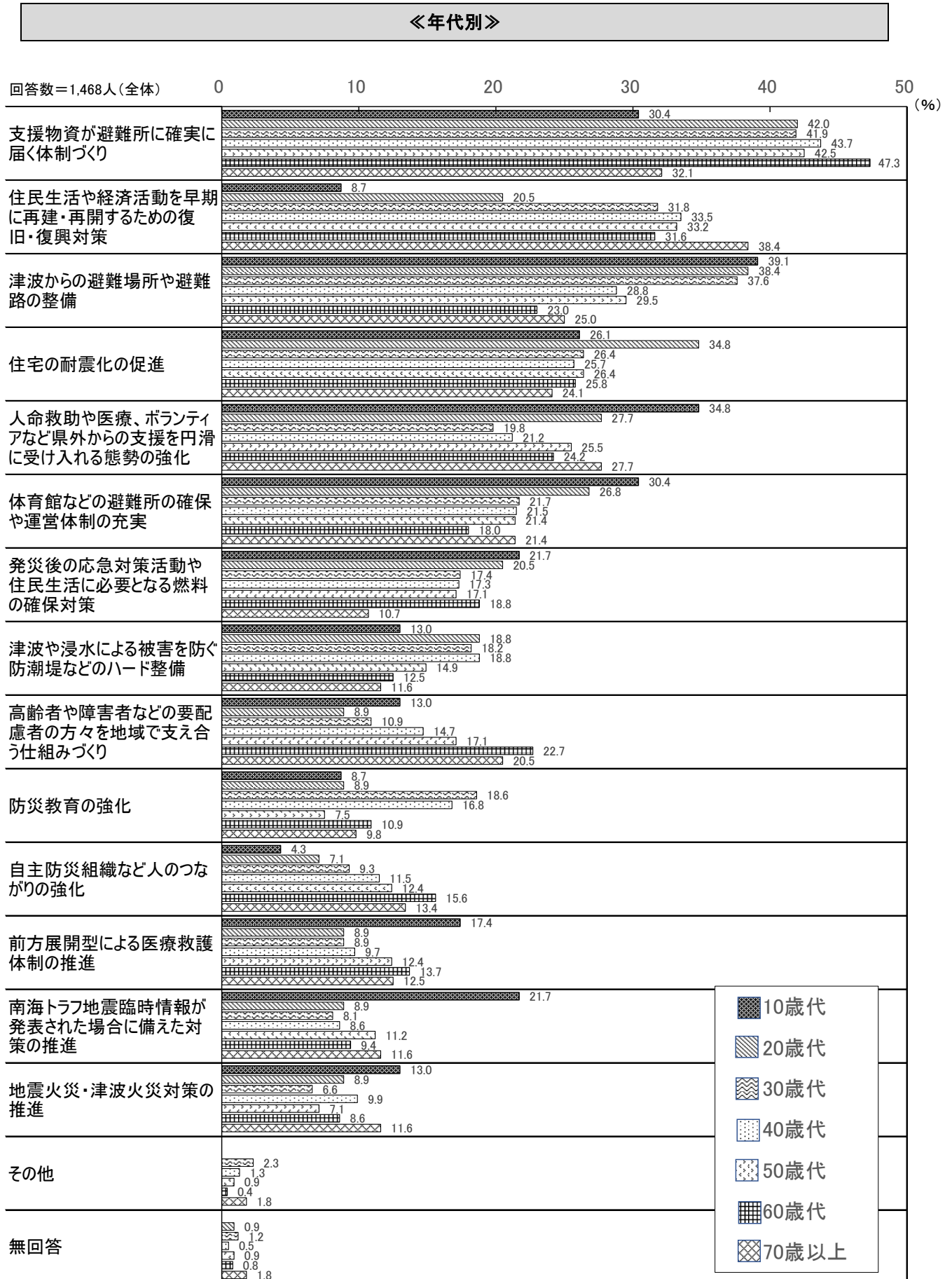
【性別】

男女ともに「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「津波からの避難場所や避難路の整備」が最も高く、30歳代から60歳代では「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高く、70歳以上では「住民生活や経済活動を早期に再建・再開するための復旧・復興対策」が最も高くなっている。



(5)「インフラの充実と有効活用」について

問5 「インフラの充実と有効活用」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。
(2つまで○印)

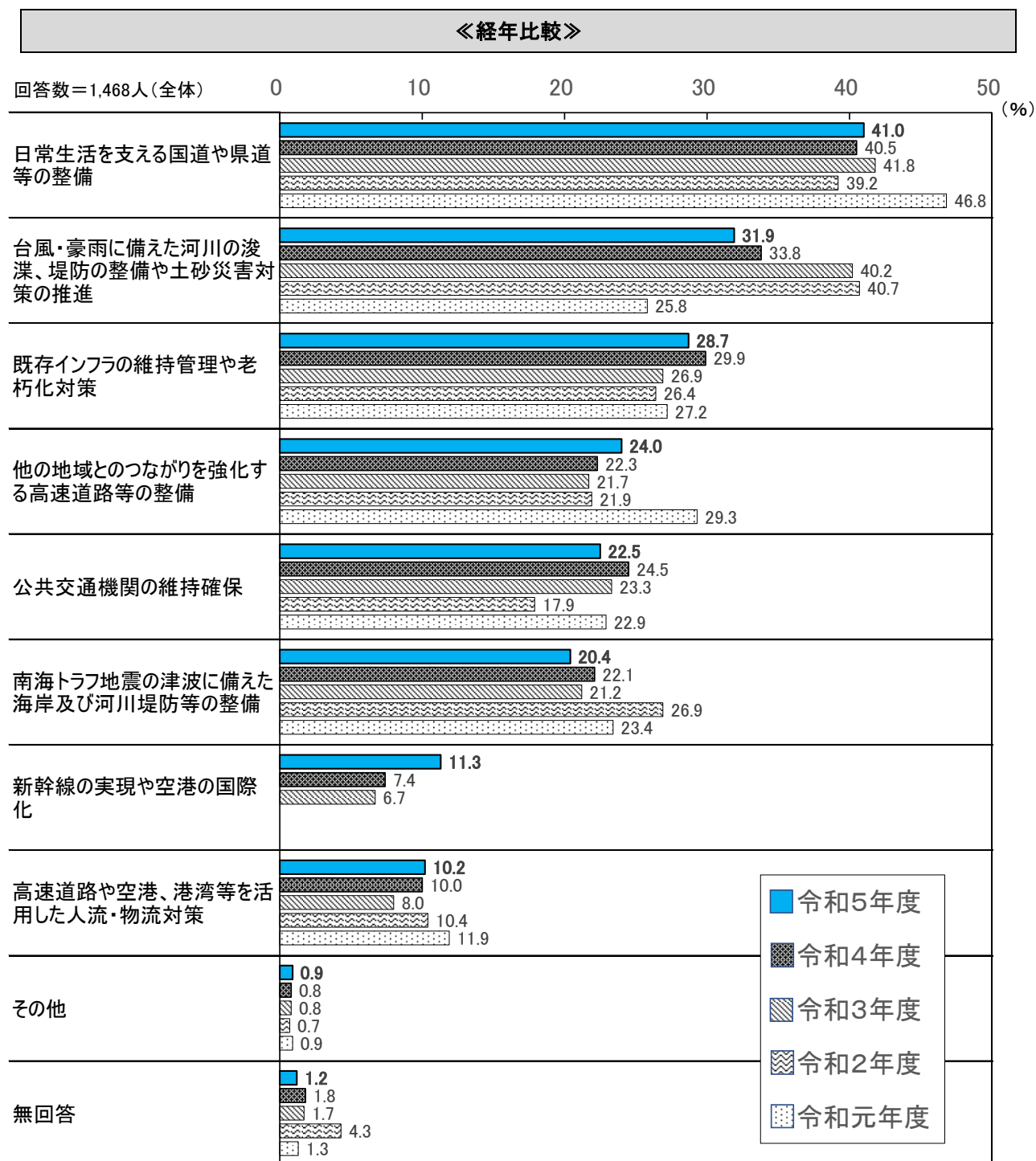
【総合】

「日常生活を支える国道や県道等の整備」が41.0%と1位になっている。

次いで、「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が31.9%、「既存インフラの維持管理や老朽化対策」が28.7%と続いている。

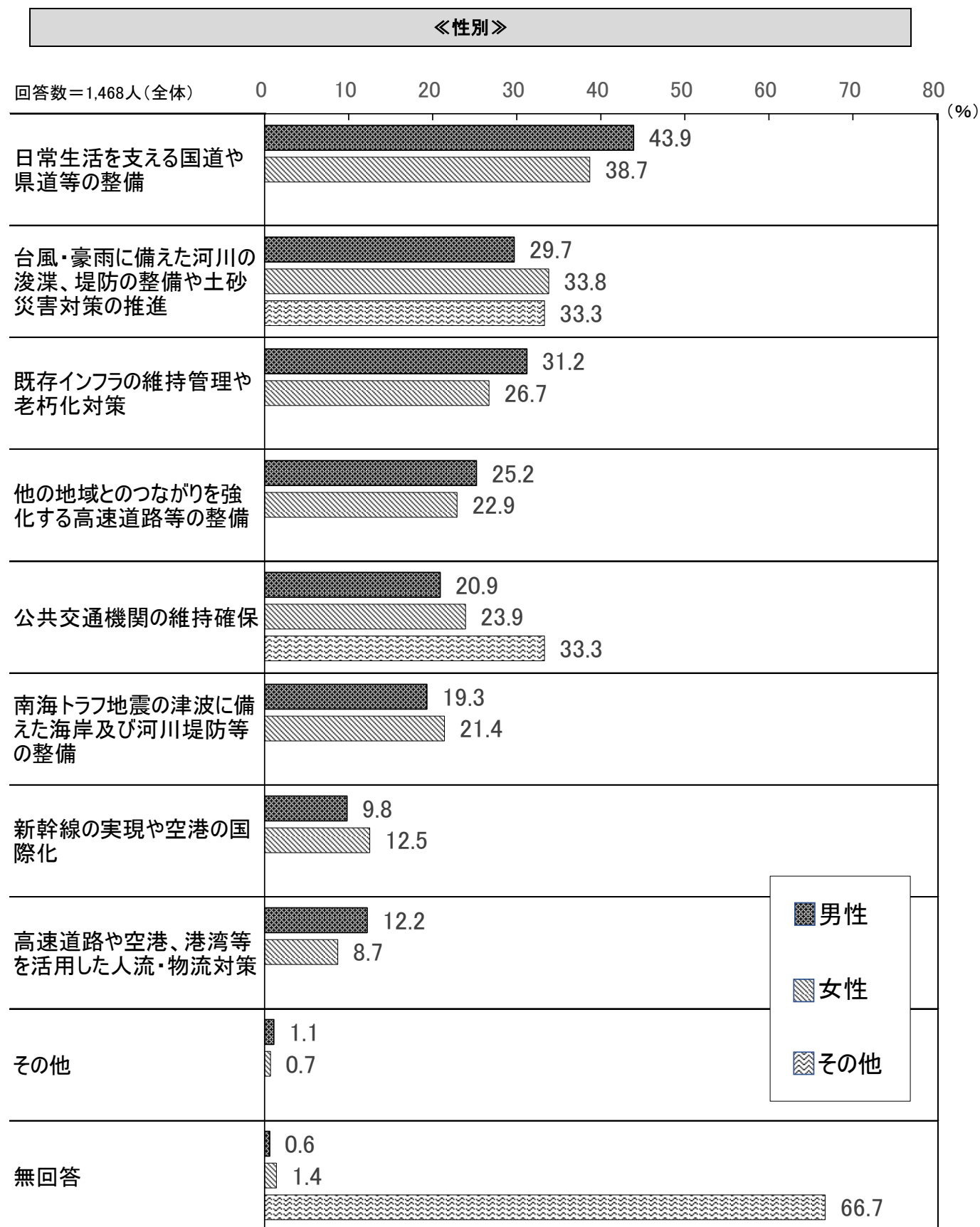
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「日常生活を支える国道や県道等の整備」が1位になっており、以降の順位も同じ傾向になっている。



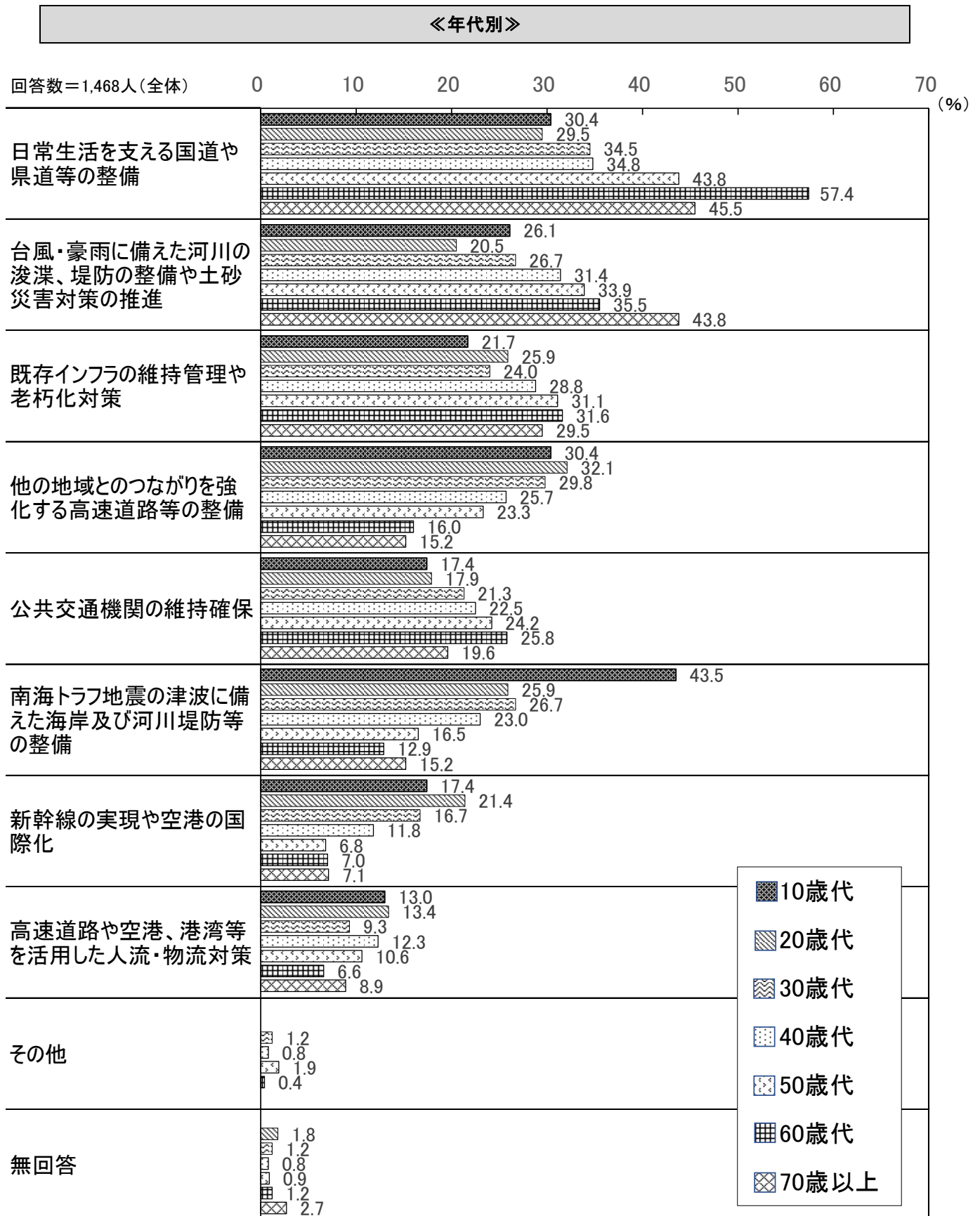
【性別】

男女ともに「日常生活を支える国道や県道等の整備」が最も高く、次いで、男性では「既存インフラの維持管理や老朽化対策」が、女性では「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が続いている。



【年代別】

10歳代では「南海トラフ地震の津波に備えた海岸及び河川堤防等の整備」が最も高く、20歳代では「他の地域とのつながりを強化する高速道路等の整備」が、30歳代から70歳以上では「日常生活を支える国道や県道等の整備」が最も高くなっている。



(6)「中山間対策の充実・強化」について

問6「中山間対策の充実・強化」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。
(2つまで○印)

【総合】

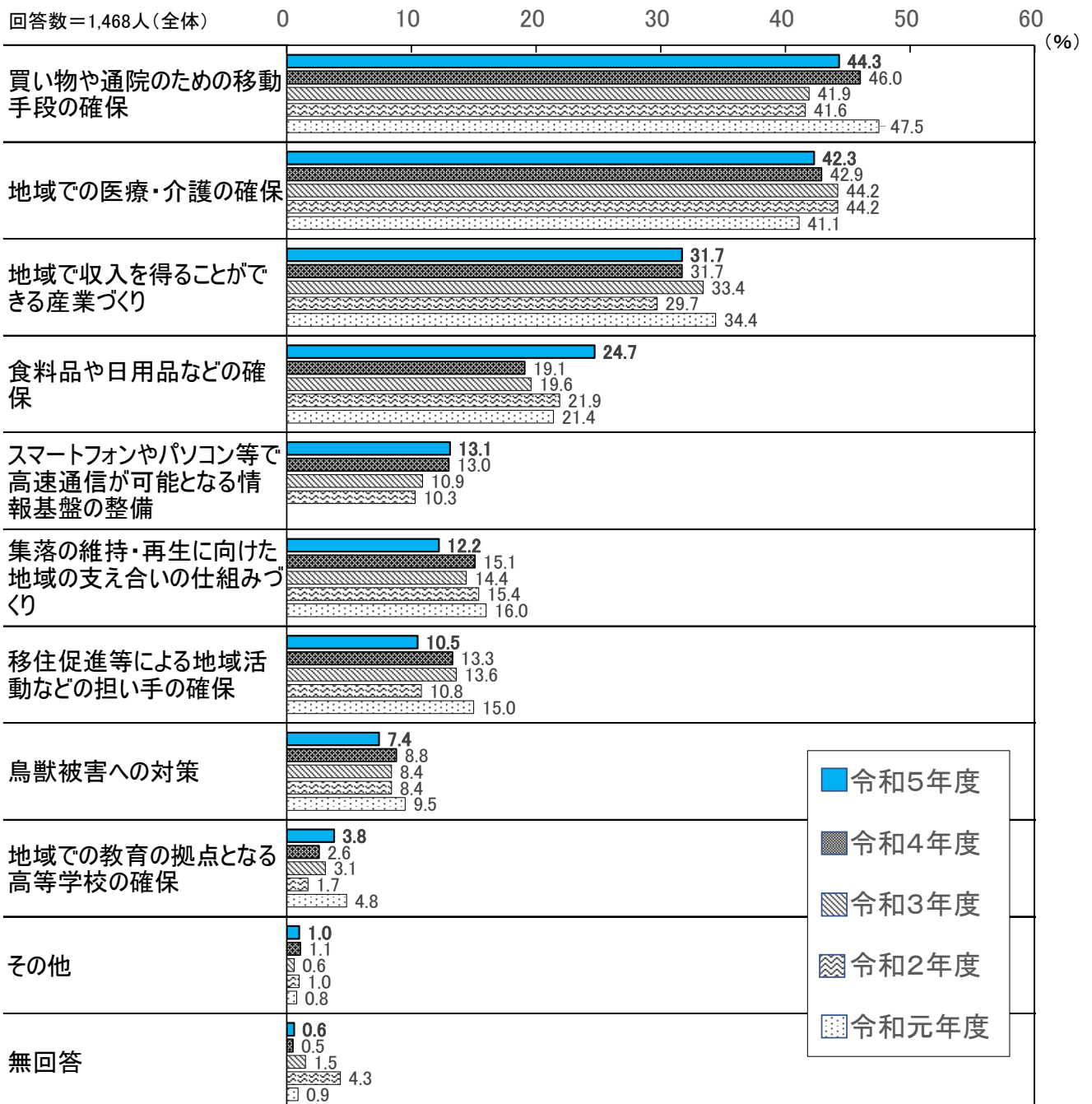
「買い物や通院のための移動手段の確保」が44.3%と1位になっている。

次いで、「地域での医療・介護の確保」が42.3%、「地域で収入を得ることができる産業づくり」が31.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

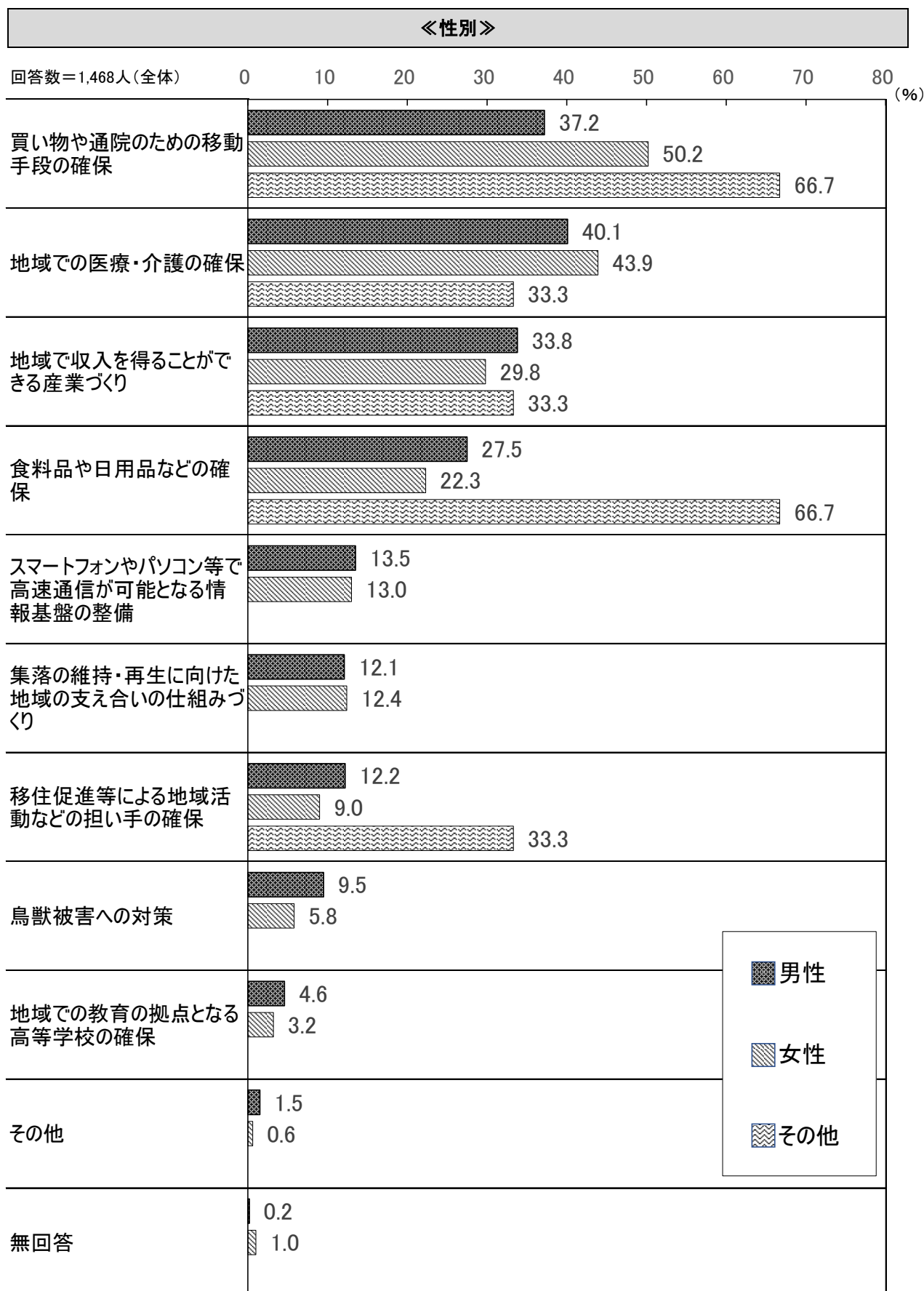
昨年度と同じく今年度も「買い物や通院のための移動手段の確保」が1位になっており、以降の順位も同じ傾向になっている。

《経年比較》



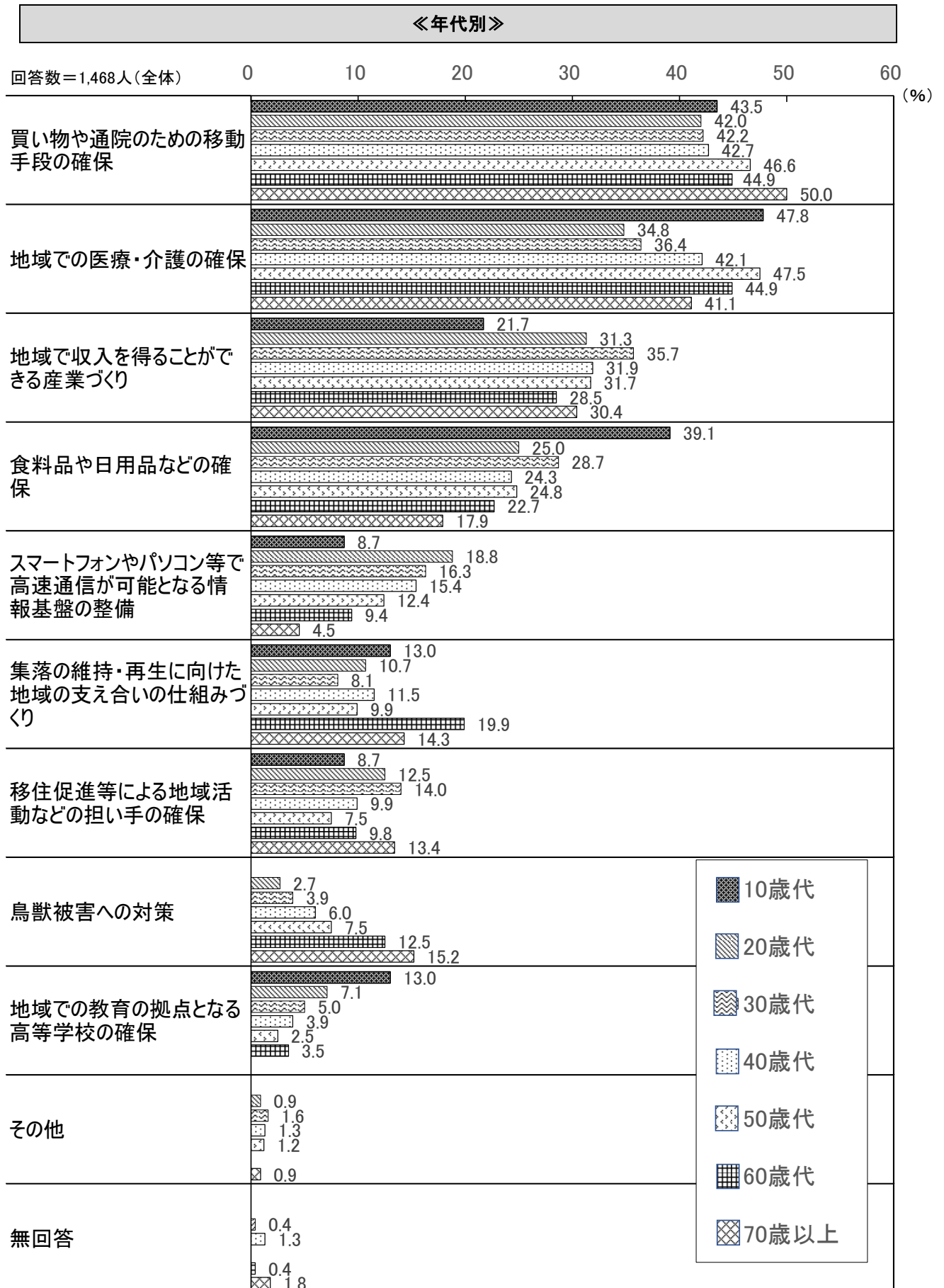
【性別】

男性では「地域での医療・介護の確保」が最も高く、女性では「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高くなっており、中でも女性は50.2%と、男性の37.2%より13ポイント高くなっている。



【年代別】

10歳代と50歳代、60歳代では「地域での医療・介護の確保」がもっとも高く、20歳代、30歳代、40歳代、同率での60歳代、70歳以上では「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高くなっている。



(7)「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について

問7 「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

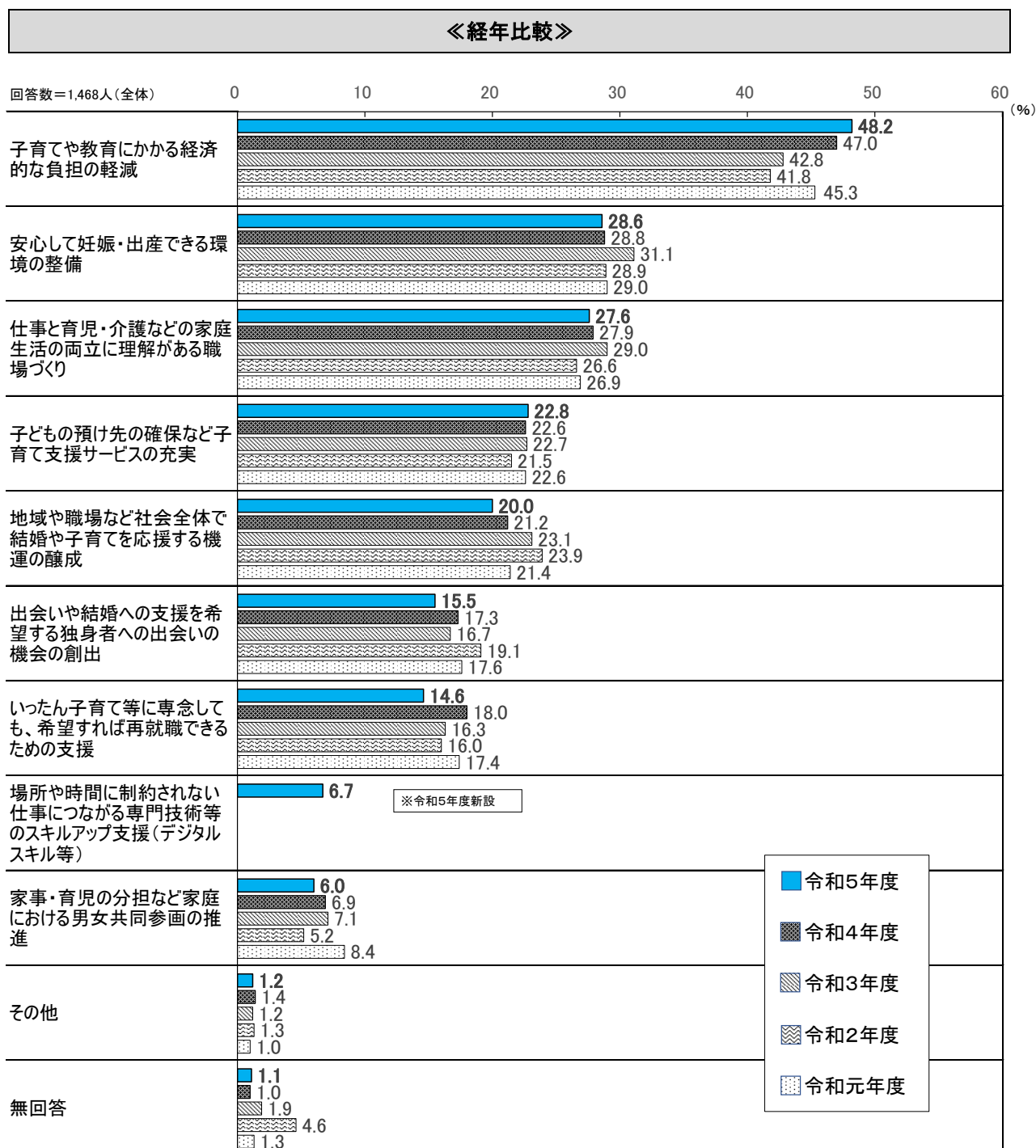
【総合】

「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が48.2%と1位になっている。

次いで、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が28.6%、「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が27.6%と続いている。

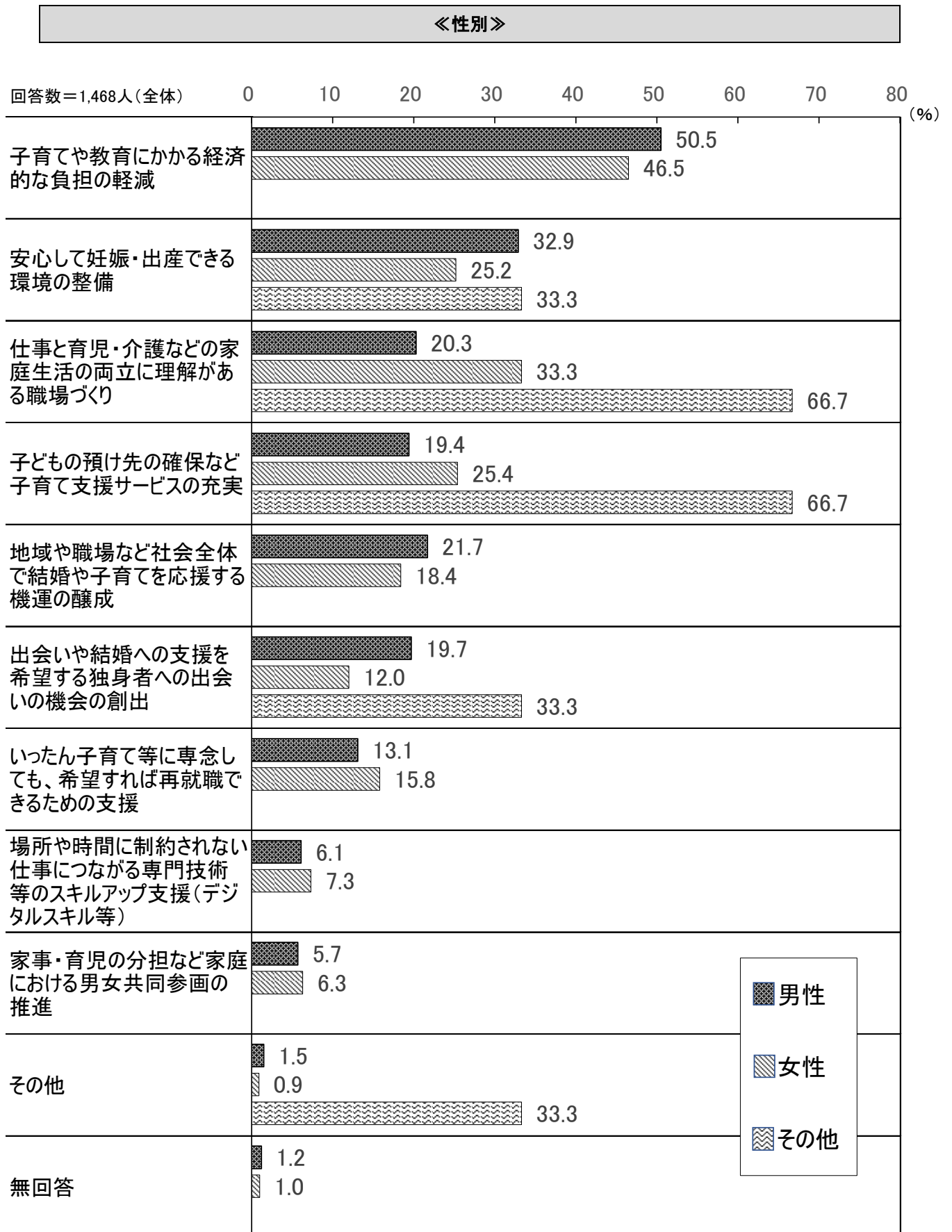
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が1位になっており、以降の順位も同じ傾向になっている。



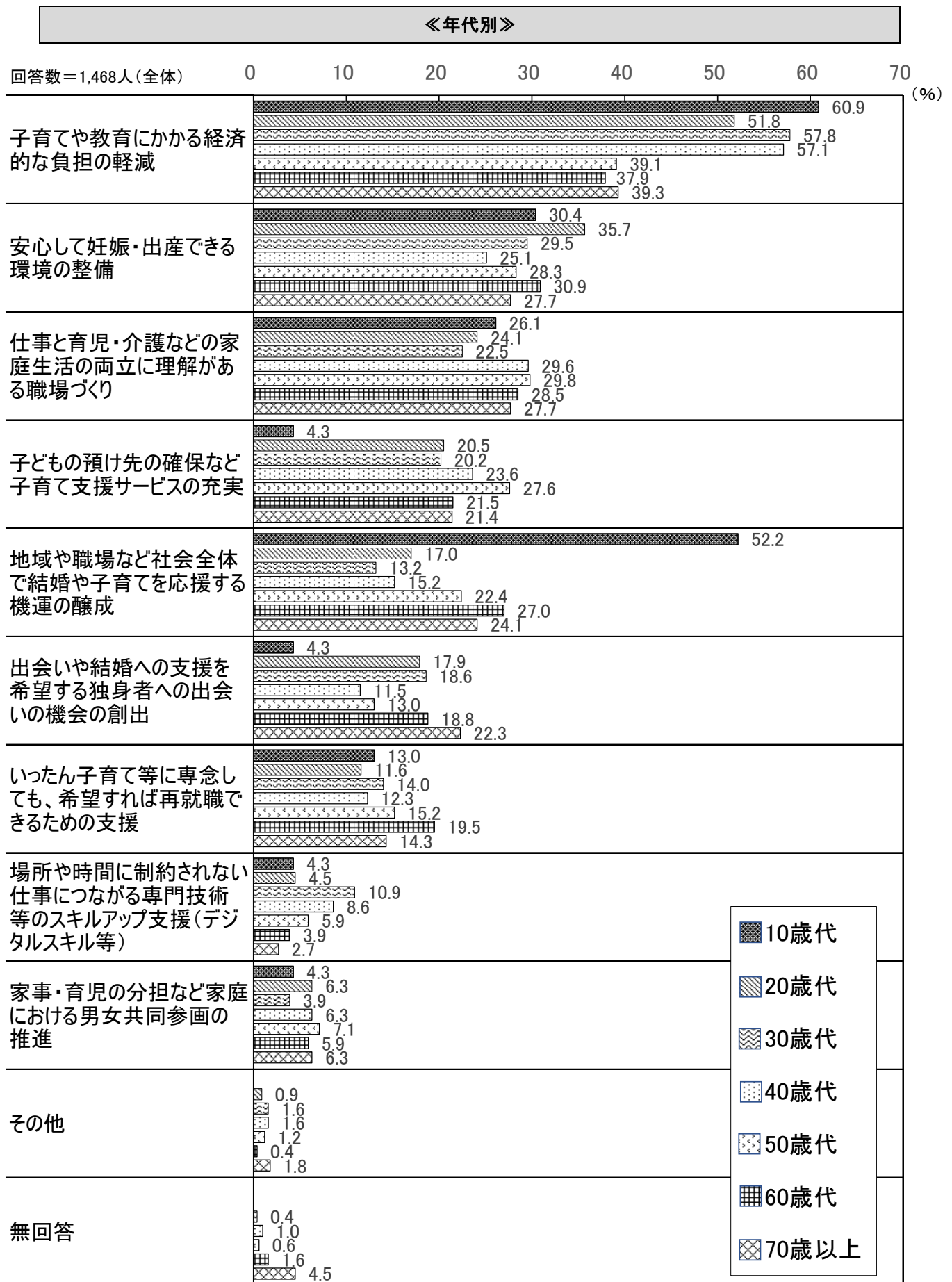
【性別】

男女ともに「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高くなっており、次いで、男性では「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が、女性では「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が続いている。



【年代別】

すべての年代で「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高くなっている。



(8)「文化芸術の振興」について

問8 文化芸術の振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで〇印)

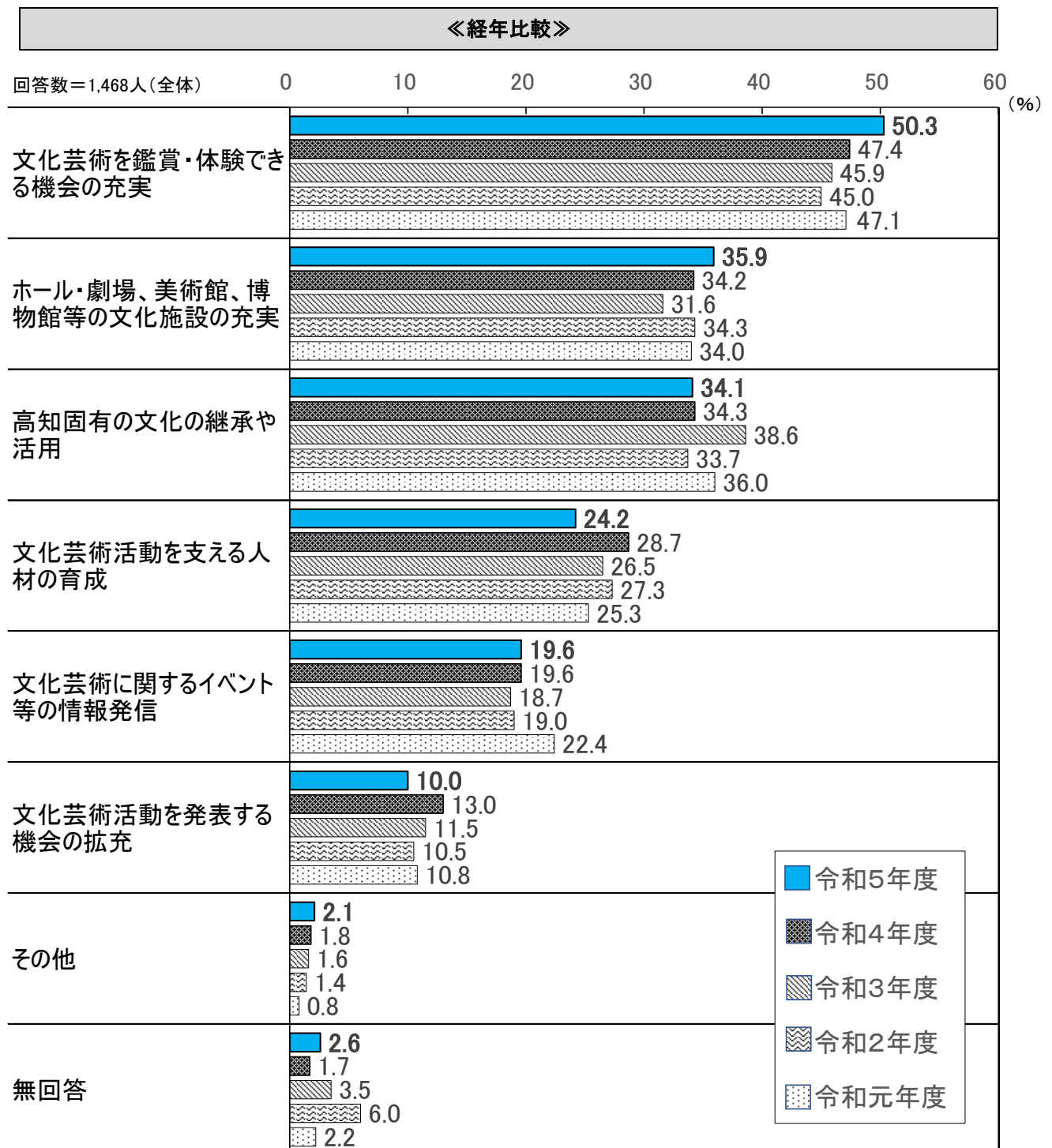
【総合】

「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が50.3%と1位になっている。

次いで、「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が35.9%、「高知固有の文化の継承や活用」が34.1%と続いている。

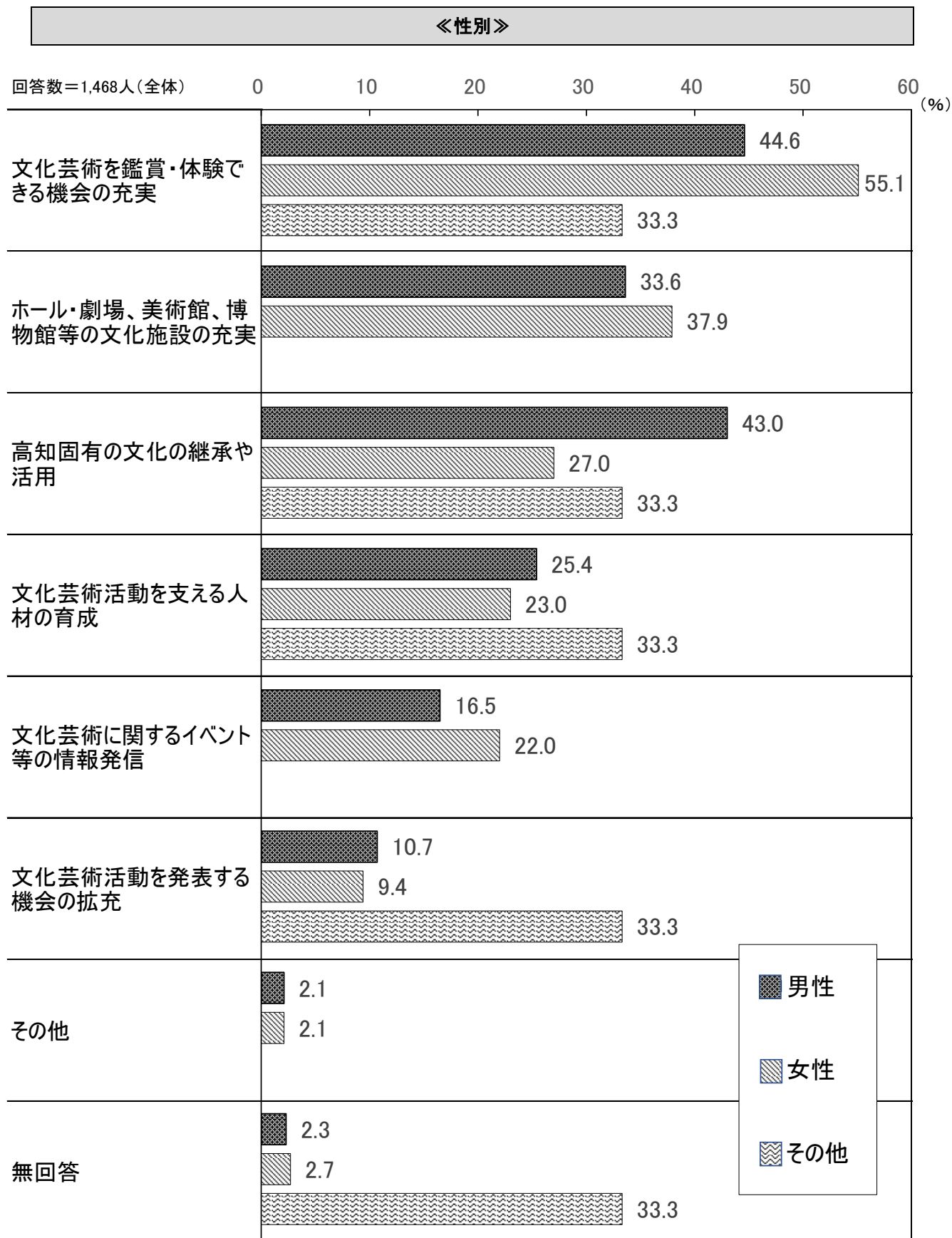
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が1位となっており、昨年度3位だった「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が2位に上がっている。



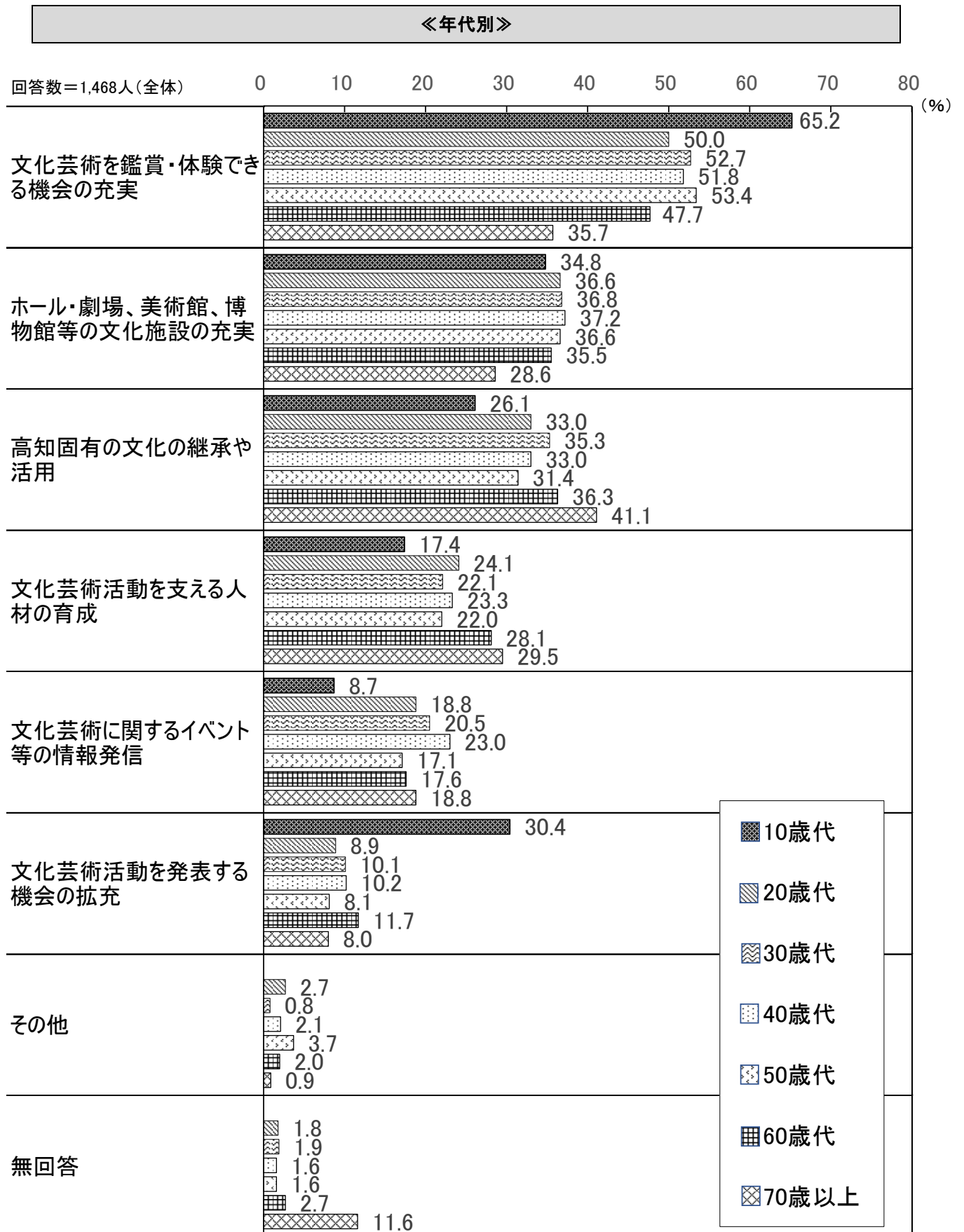
【性別】

男女ともに「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高くなっており、次いで、男性では「高知固有の文化の継承や活用」が、女性では「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が続いている。



【年代別】

70歳以上を除くすべての年代で「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高く、70歳以上では「高知固有の文化の継承や活用」が最も高くなっている。



(9)「スポーツの振興」について

問9 スポーツの振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】

「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が54.9%と1位になっている。

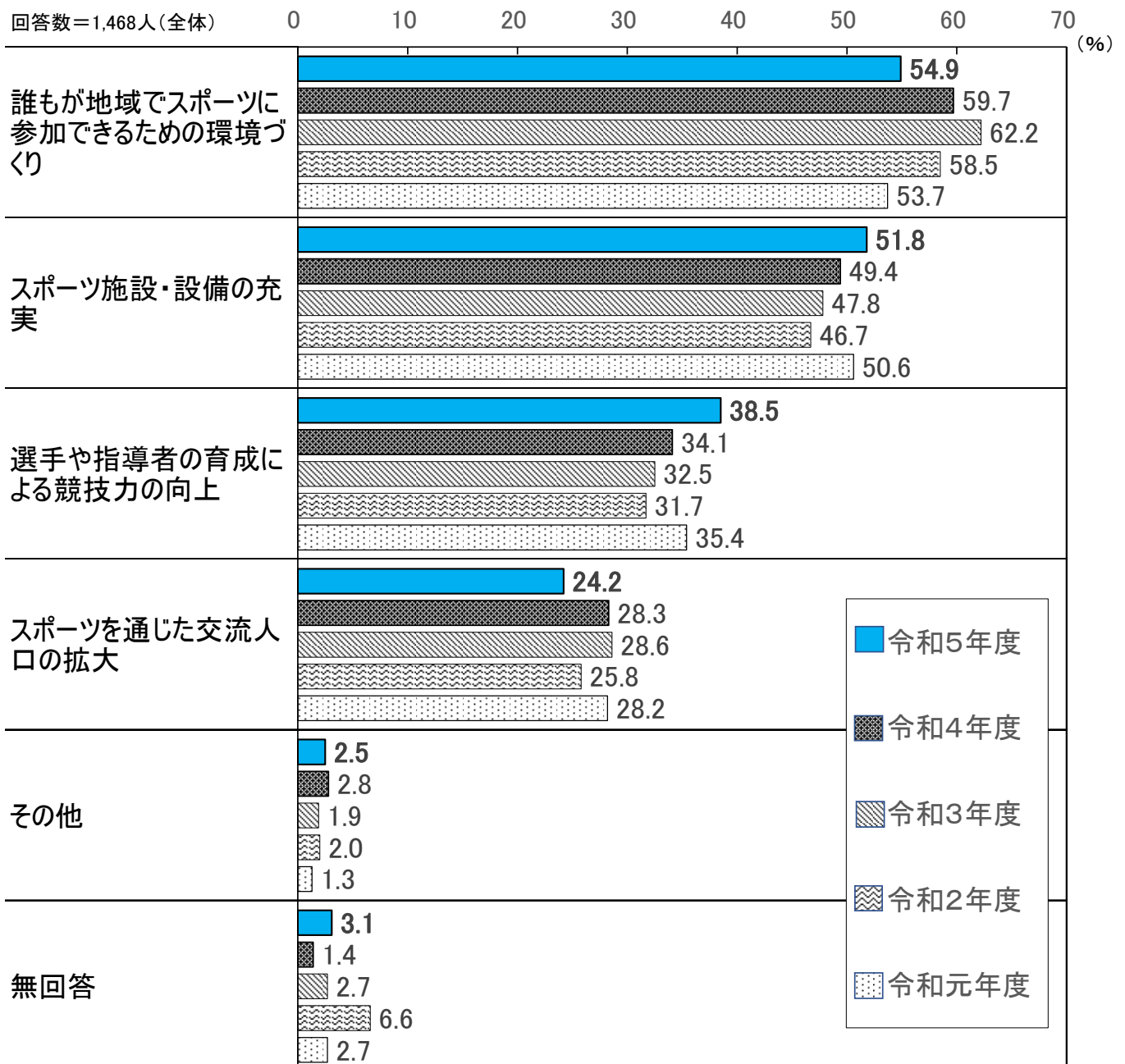
次いで、「スポーツ施設・設備の充実」が51.8%、「選手や指導者の育成による競技力の向上」が38.5%と続いている。

【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が1位となっており、以降の順位も同じ傾向になっている。

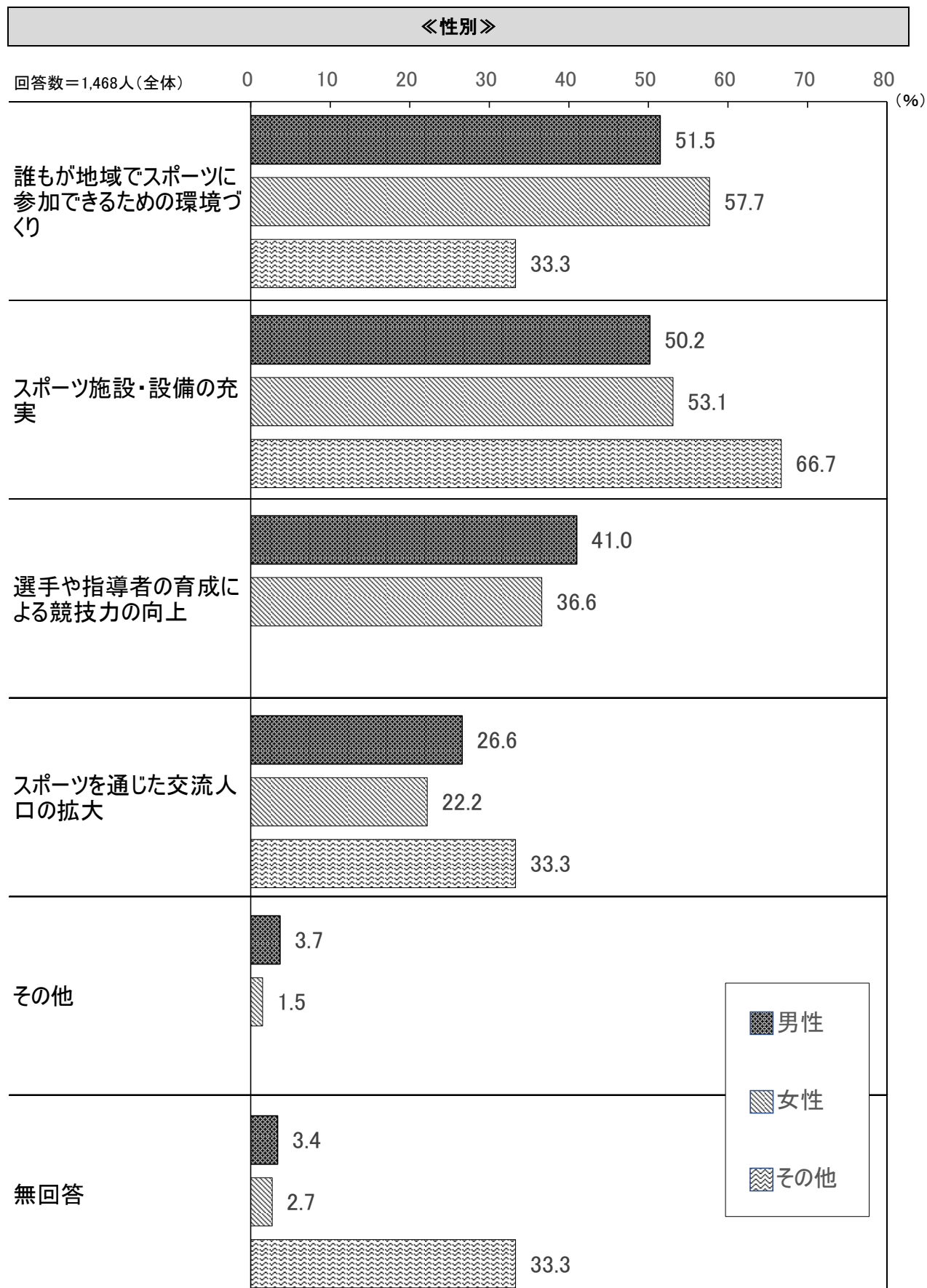
《経年比較》

回答数=1,468人(全体)



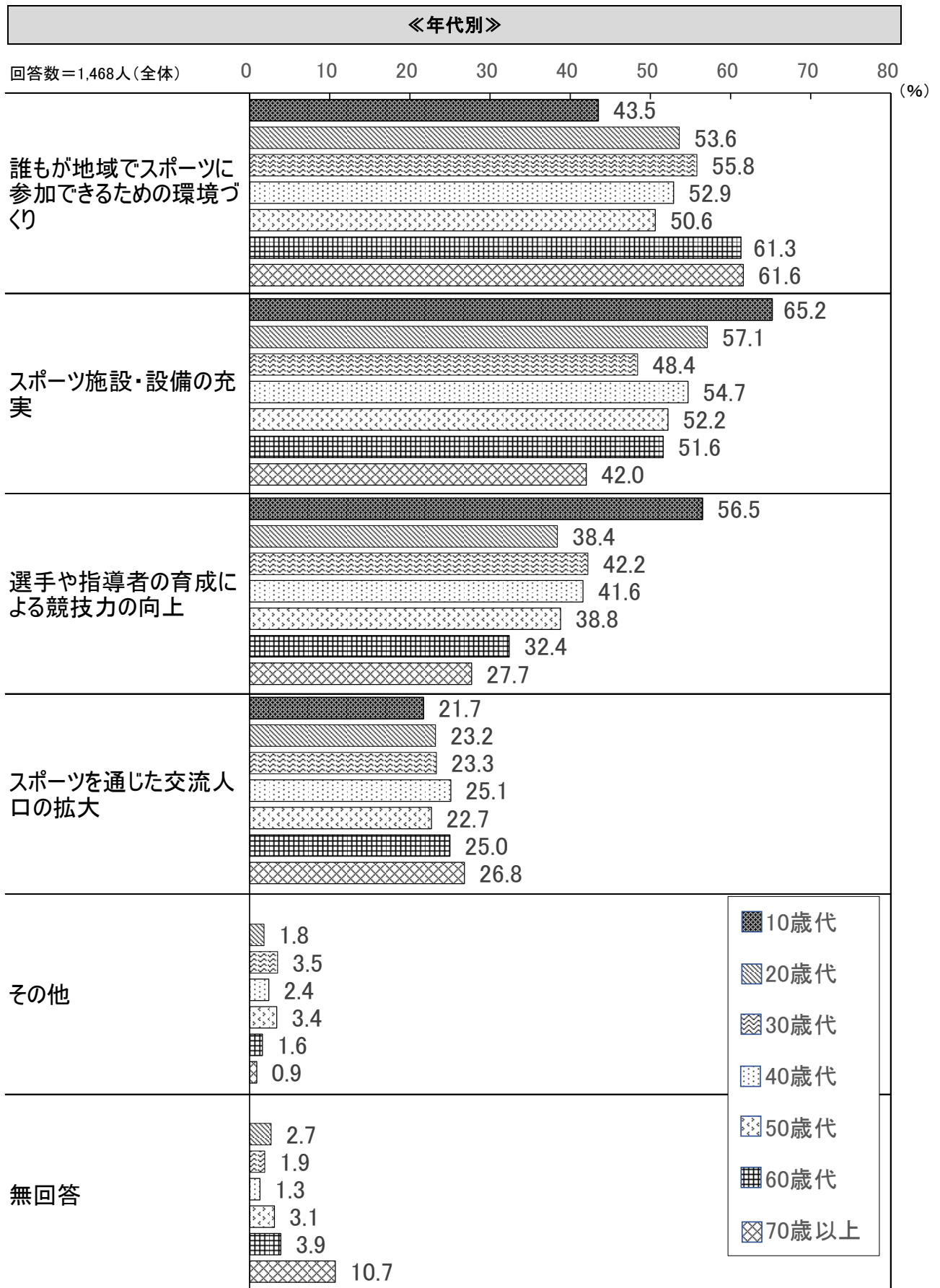
【性別】

男女とも「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高くなっており、女性の方が57.7%と、男性の51.5%より6.2ポイント高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、40歳代、50歳代では「スポーツ施設・設備の充実」が最も高く、30歳代、60歳代、70歳以上では「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高くなっている。



(10)「5つの基本政策と3つの横断的にかかわる政策」について

問 10 県が行っている8つの政策のうち、より一層力を入れて取り組むべきだと考えるものは何ですか。
(2つまで○印)

【総合】

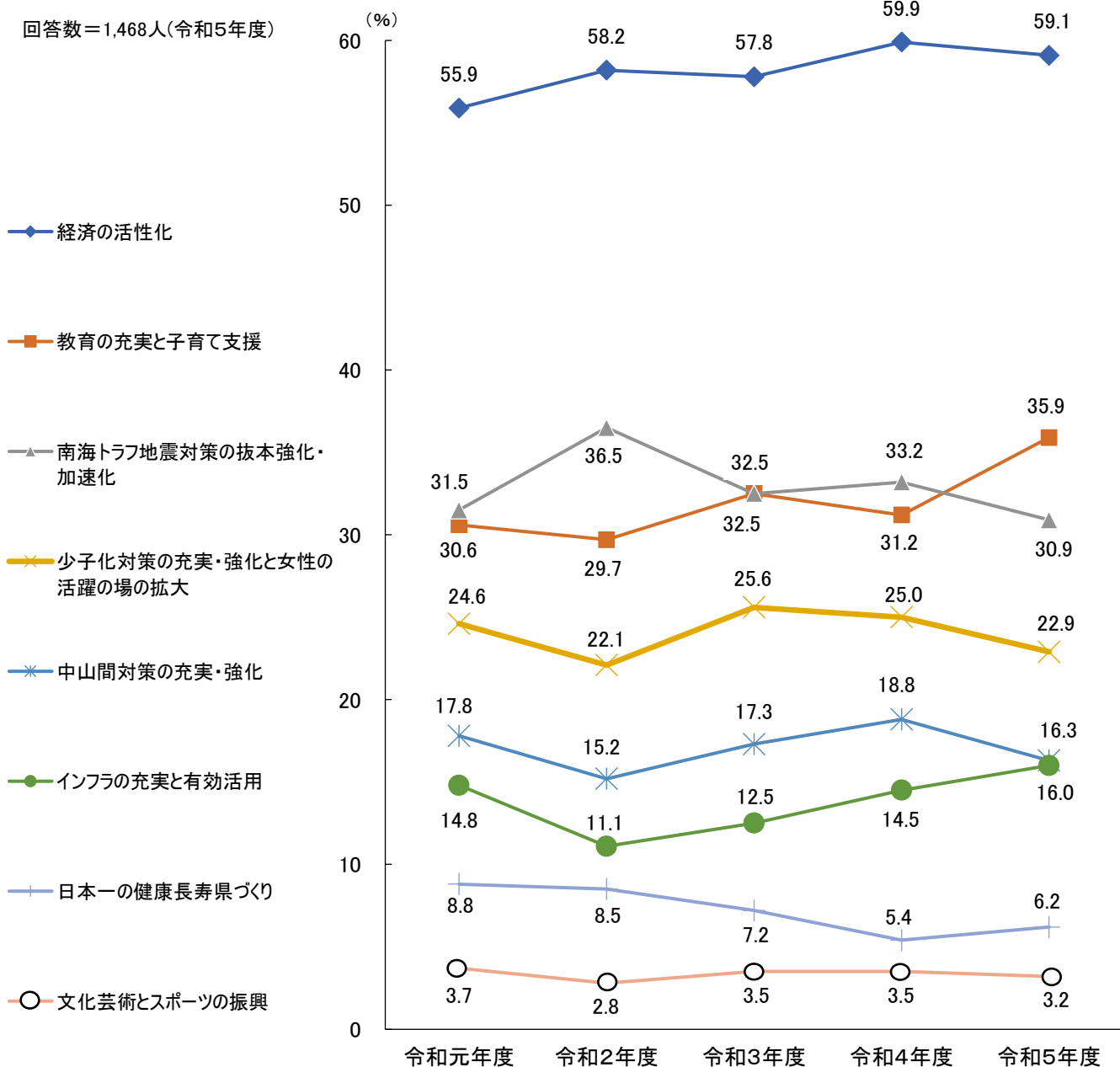
「経済の活性化」が59.1%と1位になっている。

次いで、「教育の充実と子育て支援」が35.9%、「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」が30.9%と続いている。

【過去の調査との比較】

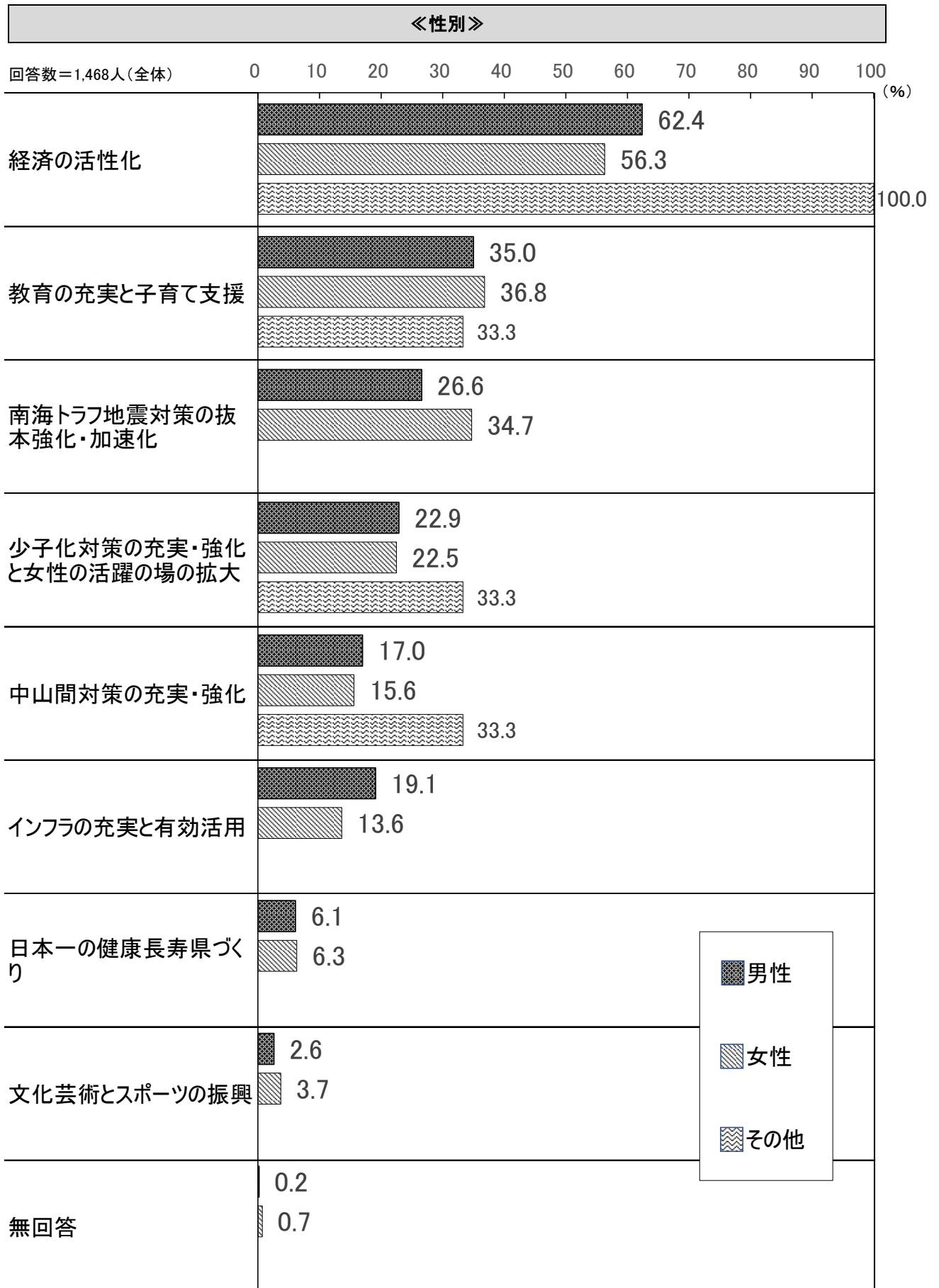
今年度も「経済の活性化」が1位となっている。昨年度3位の「教育の充実と子育て支援」が昨年度より4.7ポイント増加して2位になっている。

《経年比較》



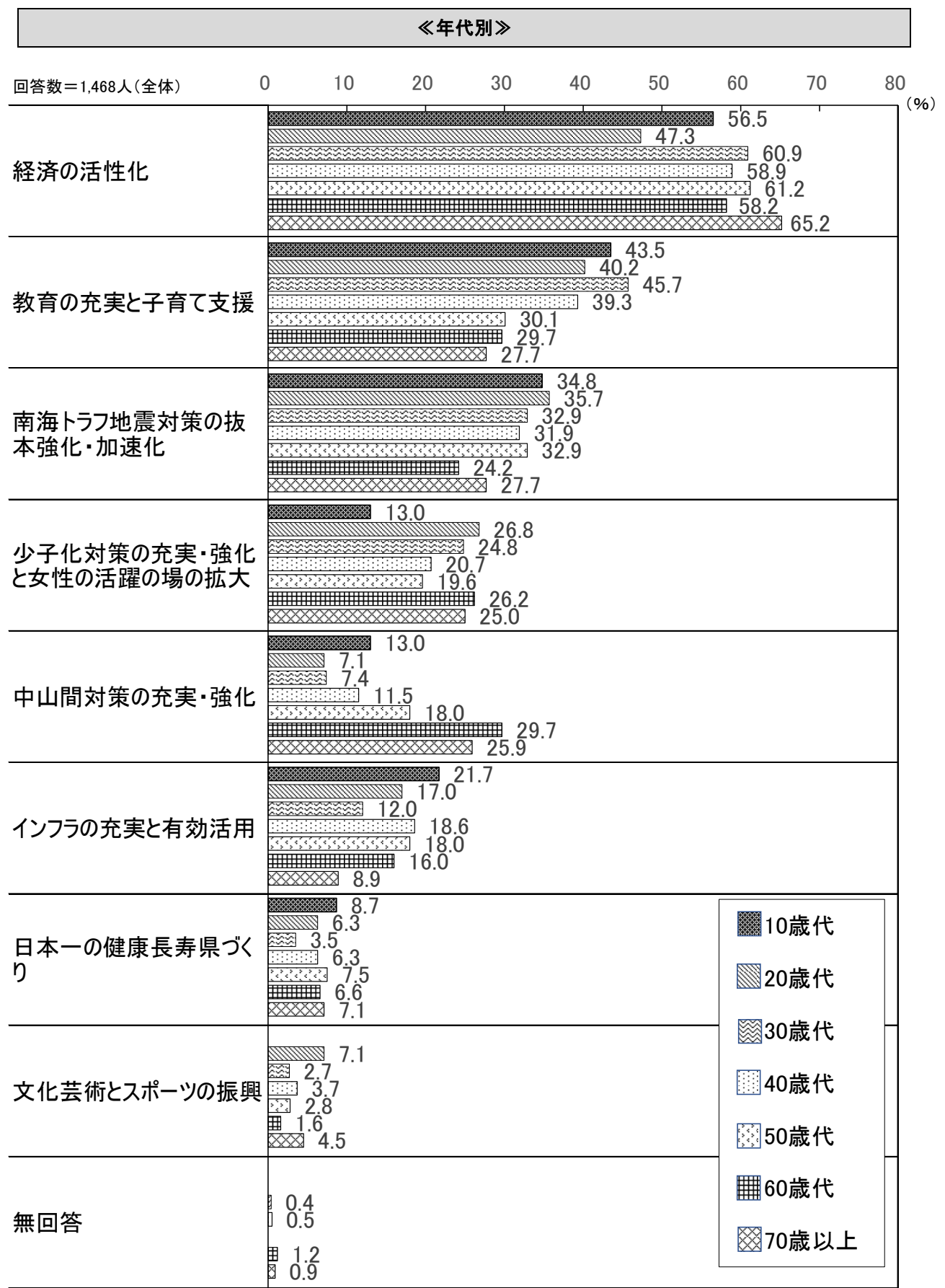
【性別】

男女ともに「経済の活性化」が最も高くなっており、以降の順位も同じ傾向となっている。



【年代別】

すべての年代で「経済の活性化」が最も高くなっているが、一番高い70歳以上では65.2%と、最も低い20歳代の47.3%では17.9ポイントの差がある。



2. 中山間地域の活性化について

問 12 中山間地域が前述の重要な役割を担い続けていくために、中山間地域の 10 年後の将来像として目指すべき姿は何だと考えますか。(3つまで○印)

【総合】

「飲用水や生活用品、移動手段など、暮らし続けることができる生活環境が維持されている」が 51.4%と1位になっている。

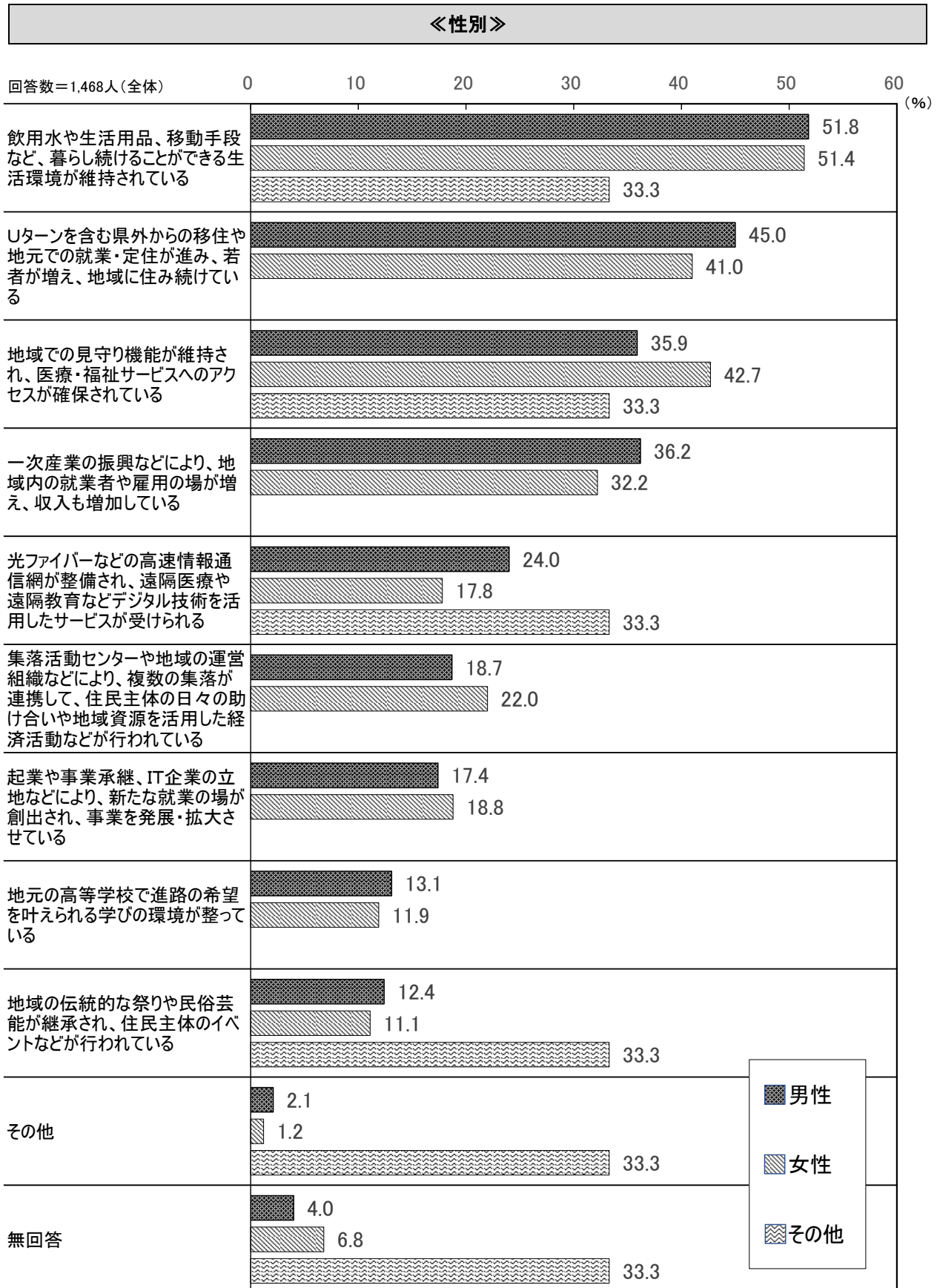
次いで、「Uターンを含む県外からの移住や地元での就業・定住が進み、若者が増え、地域に住み続けている」が 42.8%、「地域での見守り機能が維持され、医療・福祉サービスへのアクセスが確保されている」が 39.7%と続いている。

《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,468 人
飲用水や生活用品、移動手段など、暮らし続けることができる生活環境が維持されている	51.4	755 人
Uターンを含む県外からの移住や地元での就業・定住が進み、若者が増え、地域に住み続けている	42.8	628 人
地域での見守り機能が維持され、医療・福祉サービスへのアクセスが確保されている	39.7	583 人
一次産業の振興などにより、地域内の就業者や雇用の場が増え、収入も増加している	34.1	500 人
光ファイバーなどの高速情報通信網が整備され、遠隔医療や遠隔教育などデジタル技術を活用したサービスが受けられる	20.6	302 人
集落活動センターや地域の運営組織などにより、複数の集落が連携して、住民主体の日々の助け合いや地域資源を活用した経済活動などが行われている	20.4	300 人
起業や事業承継、IT企業の立地などにより、新たな就業の場が創出され、事業を発展・拡大させている	18.1	266 人
地元の高等学校で進路の希望を叶えられる学びの環境が整っている	12.4	182 人
地域の伝統的な祭りや民俗芸能が継承され、住民主体のイベントなどが行われている	11.7	172 人
その他	1.7	25 人
無回答	5.6	82 人

グラフ単位(%)

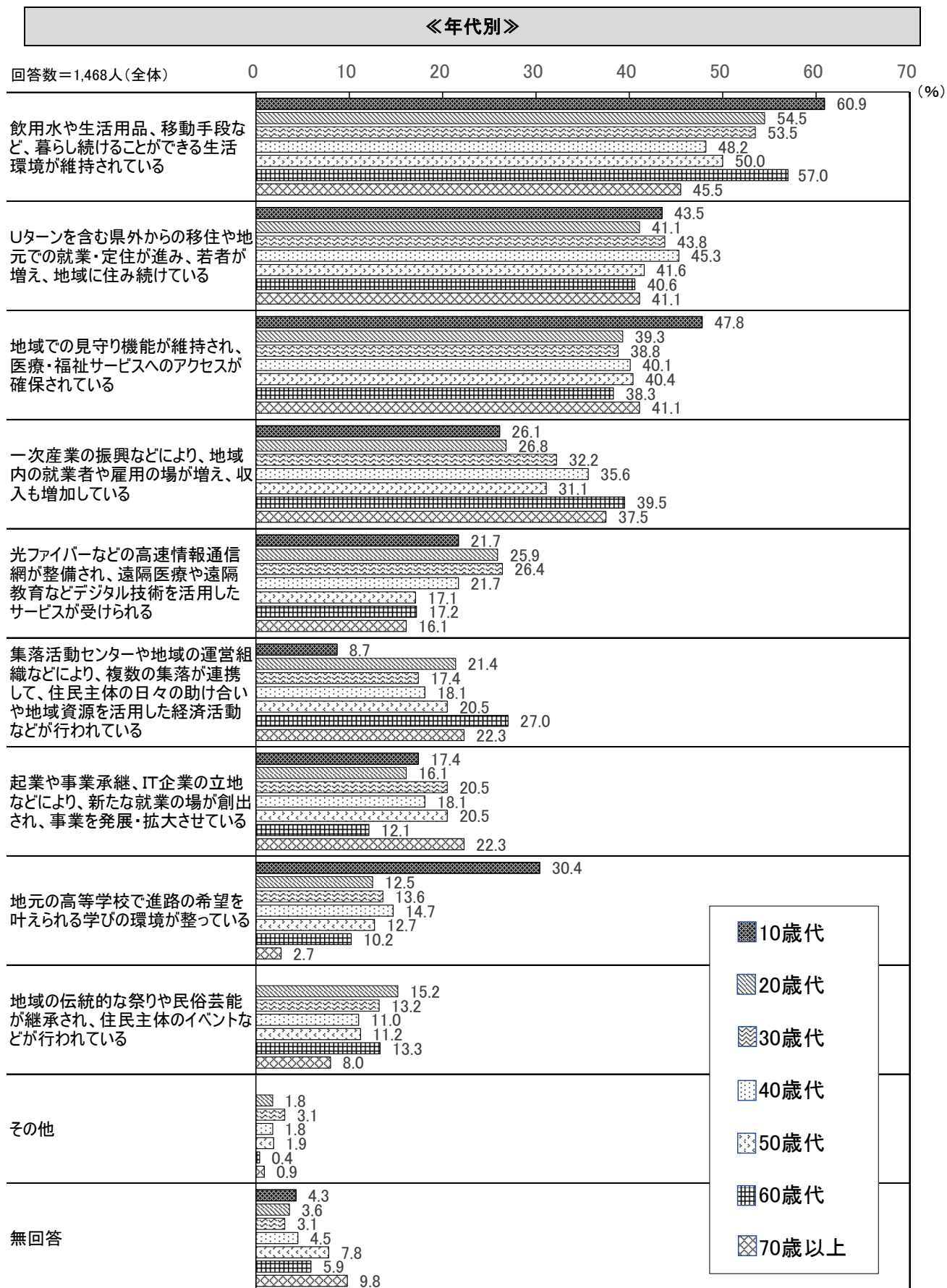
【性別】

男女ともに「飲用水や生活用品、移動手段など、暮らし続けることができる生活環境が維持されている」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「飲用水や生活用品、移動手段など、暮らし続けることができる生活環境が維持されている」が最も高くなっている。



3. 人口減少社会を踏まえた女性の活躍推進について

※女性の活躍推進の課題を明らかにするため、「男性」と「女性」に限った記載にしています。

問13 若年女性（39歳以下）が、本県から都市部（東京等）に流出する理由は何だと思いませんか。
（3つまで○印）

【総合】

「都市部と比べて給与水準が低い」が63.4%と1位になっている。

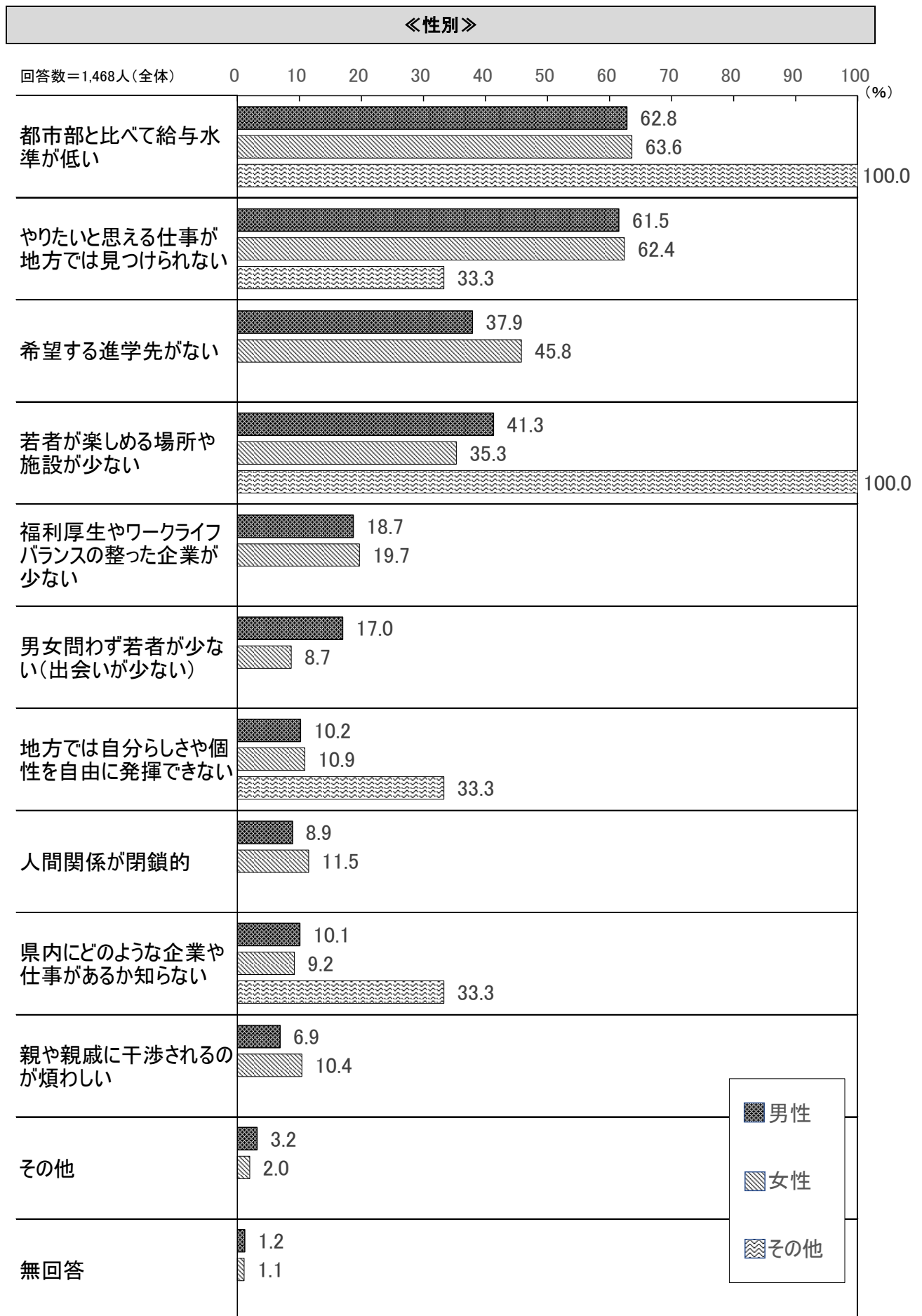
次いで、「やりたいと思える仕事が地方では見つけられない」が62.0%、「希望する進学先がない」が42.2%と続いている。

《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,468 人
都市部と比べて給与水準が低い	63.4	931 人
やりたいと思える仕事が地方では見つけられない	62.0	910 人
希望する進学先がない	42.2	619 人
若者が楽しめる場所や施設が少ない	38.1	560 人
福利厚生やワークライフバランスの整った企業が少ない	19.1	281 人
男女問わず若者が少ない(出会いが少ない)	12.3	181 人
地方では自分らしさや個性を自由に発揮できない	10.6	156 人
人間関係が閉鎖的	10.3	151 人
県内にどのような企業や仕事があるかわからない	9.6	141 人
親や親戚に干渉されるのが煩わしい	8.8	129 人
その他	2.5	37 人
無回答	1.2	17 人

グラフ単位(%)

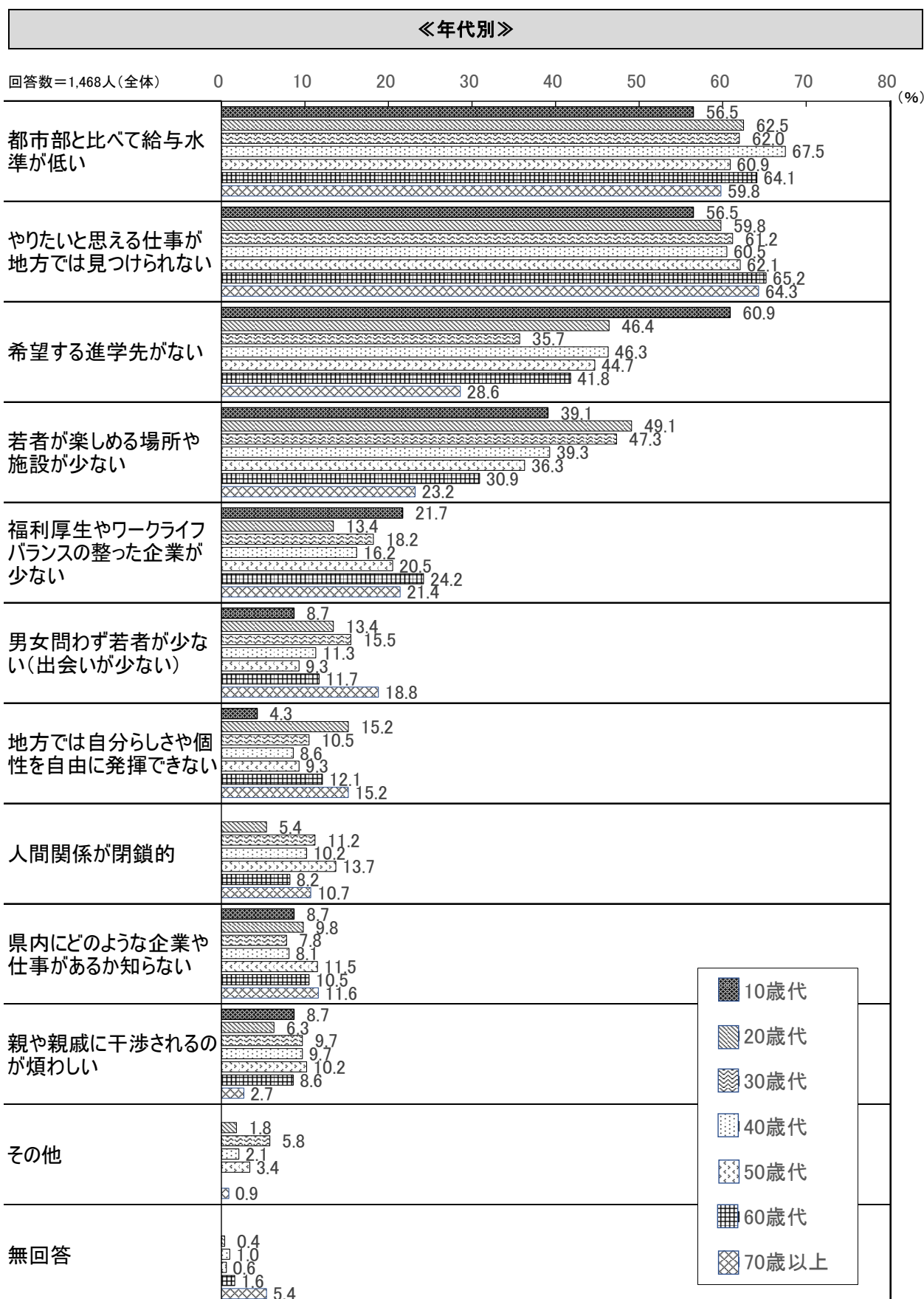
【性別】

男女ともに「都市部と比べて給与水準が低い」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「希望する進学先がない」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代では「都市部と比べて給与水準が低い」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「やりたいと思える仕事が地方では見つけられない」が最も高くなっている。



※女性の活躍推進の課題を明らかにするため、「男性」と「女性」に限った記載にしています。

問14 職業生活において女性が個性や能力を最大限に発揮するために、女性に対して、県によるどのような支援があれば効果的だと思いますか。（3つまで○印）

【総合】

「育児や介護との両立のための情報提供(支援が必要なときに使えるよう、しっかり情報を届けること)」が55.8%と1位になっている。

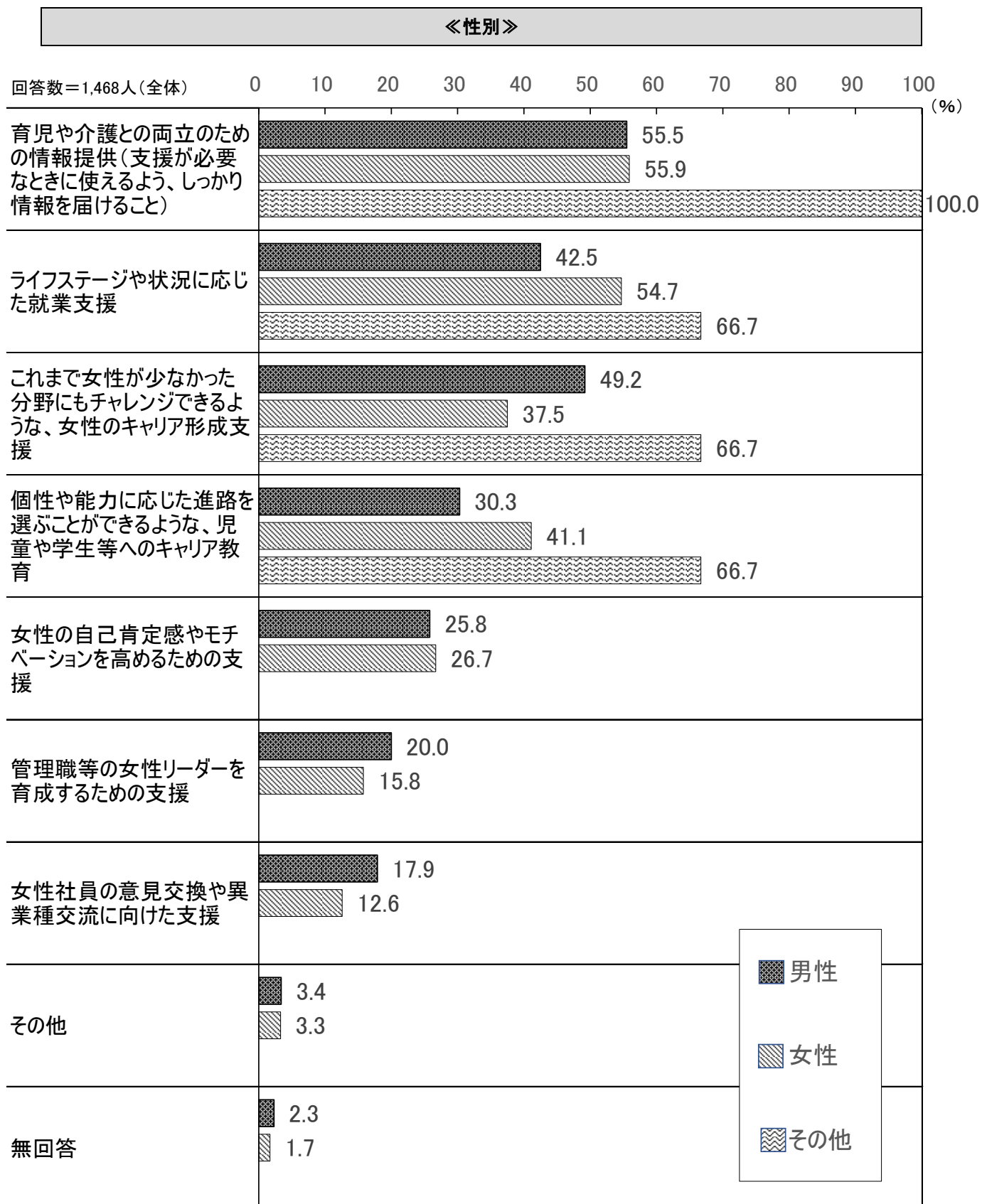
次いで、「ライフステージや状況に応じた就業支援」が49.3%、「これまで女性が少なかった分野にもチャレンジできるような、女性のキャリア形成支援」が42.9%となっている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,468 人
育児や介護との両立のための情報提供(支援が必要なときに使えるよう、しっかり情報を届けること)	55.8	819 人
ライフステージや状況に応じた就業支援	49.3	724 人
これまで女性が少なかった分野にもチャレンジできるような、女性のキャリア形成支援	42.9	630 人
個性や能力に応じた進路を選ぶことができるような、児童や学生等へのキャリア教育	36.2	532 人
女性の自己肯定感やモチベーションを高めるための支援	26.3	386 人
管理職等の女性リーダーを育成するための支援	17.7	260 人
女性社員の意見交換や異業種交流に向けた支援	14.9	219 人
その他	3.3	49 人
無回答	2.0	29 人

グラフ単位(%)

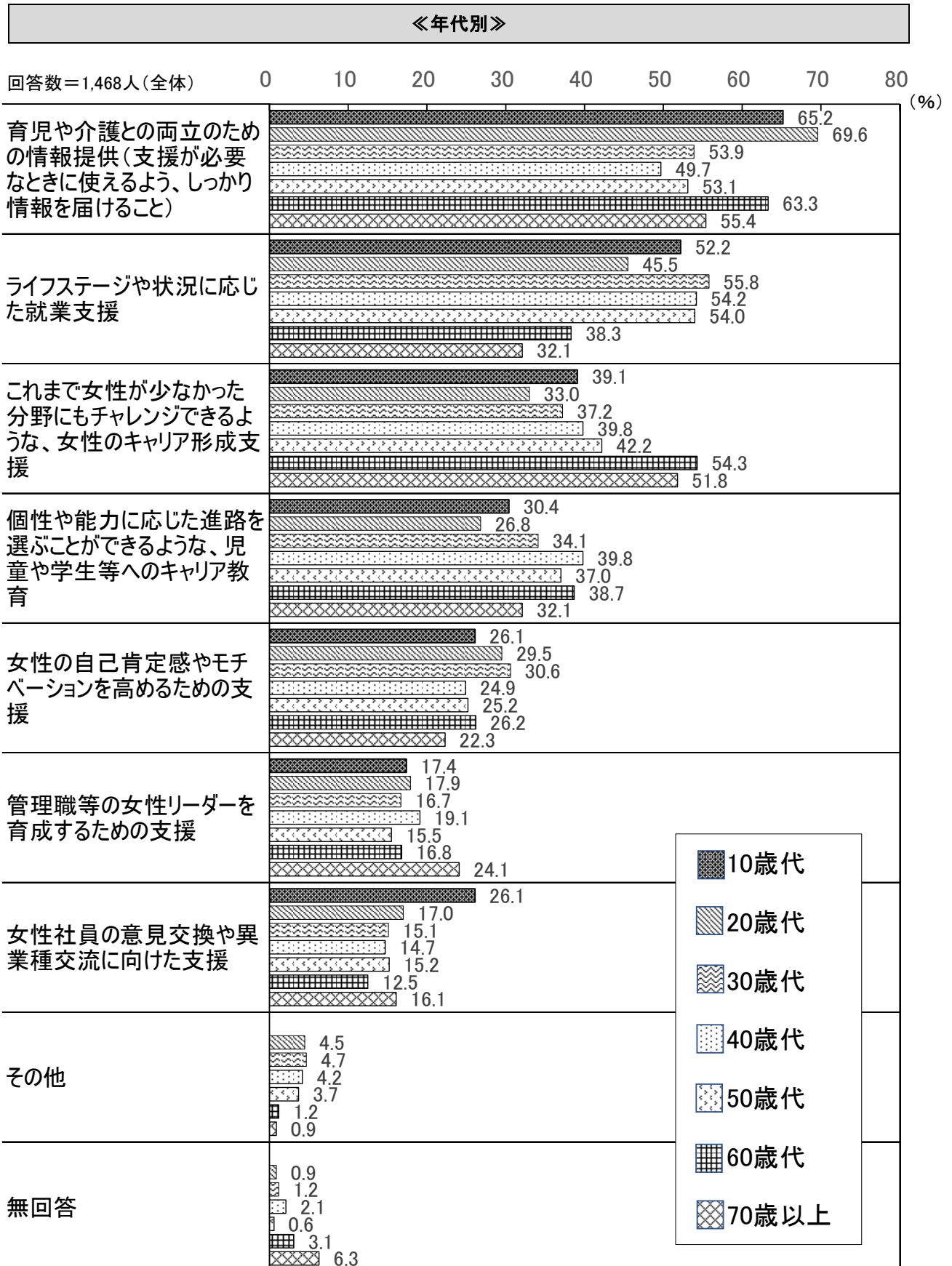
【性別】

男女ともに「育児や介護との両立のための情報提供（支援が必要ときに使えるよう、しっかり情報を届けること）」が最も高くなっている。次いで、男性では「これまで女性が少なかった分野にもチャレンジできるような、女性のキャリア形成支援」が、女性では「ライフステージや状況に応じた就業支援」が続いている。



【年代別】

10歳代、20歳代、60歳代、70歳以上では「育児や介護との両立のための情報提供（支援が必要なときに使えるよう、しっかり情報を届けること）」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代では「ライフステージや状況に応じた就業支援」が最も高くなっている。



※女性の活躍推進の課題を明らかにするため、「男性」と「女性」に限った記載にしています。

問15 あなたの職場において、男女の地位（意思決定への影響力や待遇など）は平等になっていると思いますか。

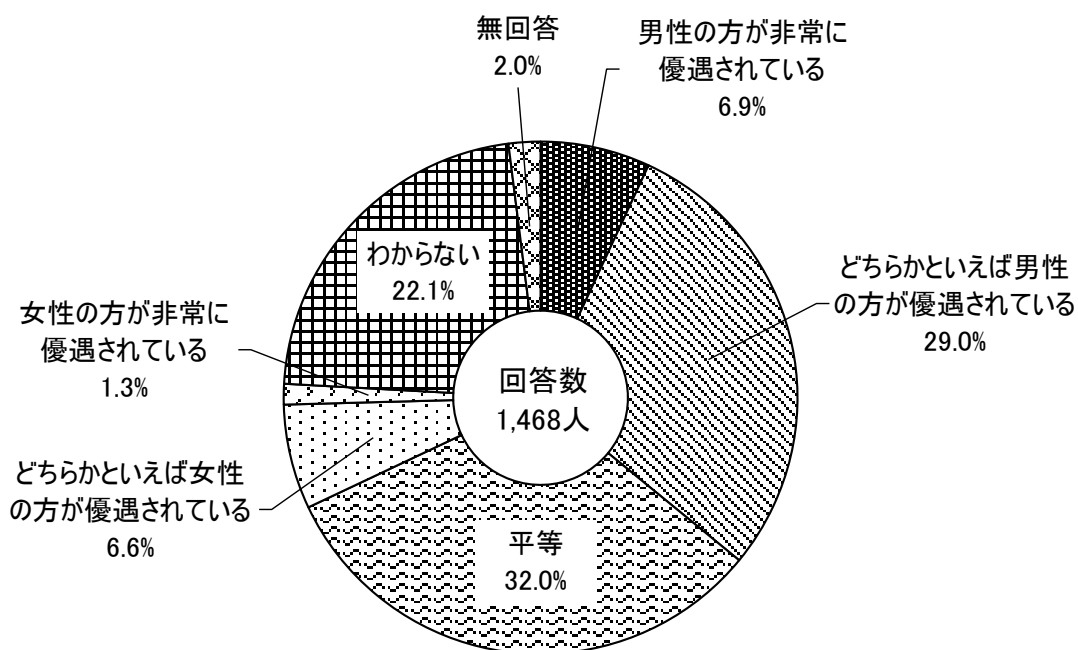
あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。（1つだけ○印）

【総合】

「平等」が32.0%と1位になっている。

次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が29.0%、「わからない」が22.1%と続いている。

《総合》

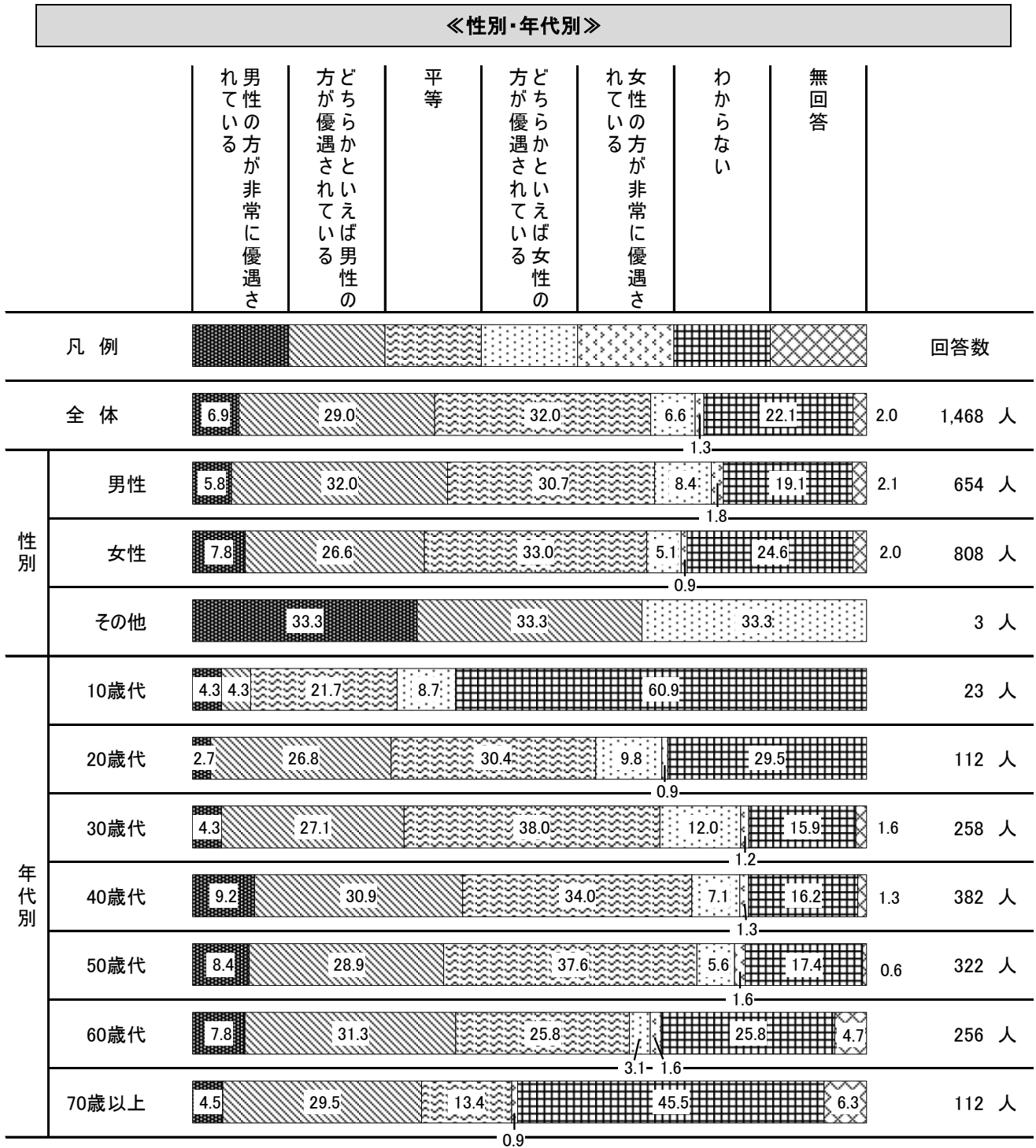


【性別】

男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、女性では「平等」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代、70歳以上では「わからない」が最も高く、20歳代から50歳代では「平等」が、60歳代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

※女性の活躍推進の課題を明らかにするため、「男性」と「女性」に限った記載にしています。

問 16 本県において女性がいきいきと活躍できる職場をつくるために必要な、職場風土の改革につながる取組として効果的だと思うものはどれですか。(3つまで○印)

【総合】

「育児と仕事の両立に向けた社内の相互理解の促進」が53.9%と1位になっている。

次いで、「柔軟な時間に働ける環境整備（短時間正社員やフレックスタイム制の導入など）」が47.0%、「仕事と生活の両立に向けた環境整備（年次有給休暇の取得促進やリフレッシュ休暇の導入など）」が45.8%と続いている。

《総合》

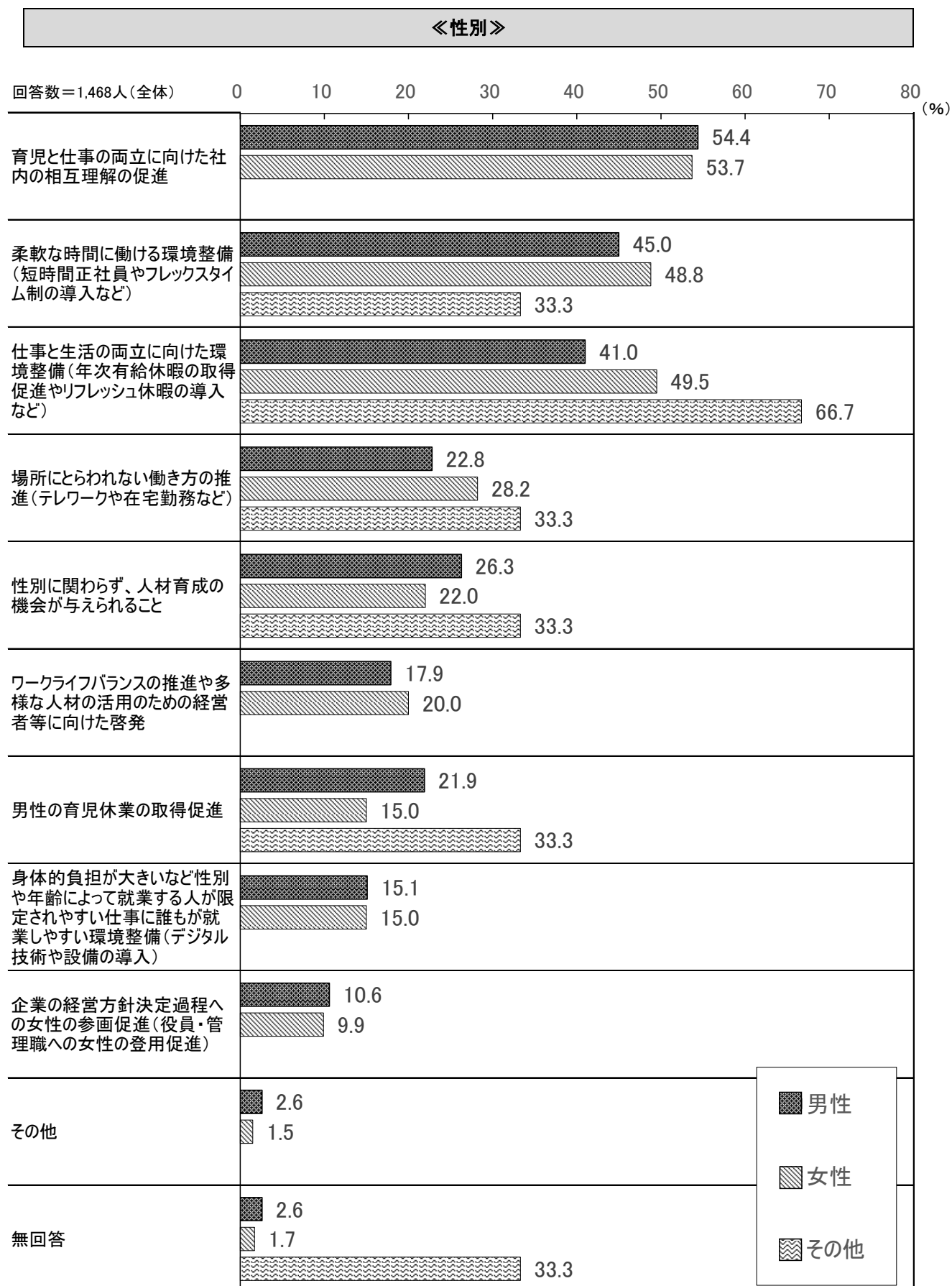
回答数

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,468 人
育児と仕事の両立に向けた社内の相互理解の促進	53.9	791 人
柔軟な時間に働ける環境整備(短時間正社員やフレックスタイム制の導入など)	47.0	690 人
仕事と生活の両立に向けた環境整備(年次有給休暇の取得促進やリフレッシュ休暇の導入など)	45.8	673 人
場所にとらわれない働き方の推進(テレワークや在宅勤務など)	25.7	378 人
性別に関わらず、人材育成の機会が与えられること	23.9	351 人
ワークライフバランスの推進や多様な人材の活用のための経営者等に向けた啓発	19.0	279 人
男性の育児休業の取得促進	18.1	265 人
身体的負担が大きいなど性別や年齢によって就業する人が限定されやすい仕事に誰もが就業しやすい環境整備(デジタル技術や設備の導入)	15.1	221 人
企業の経営方針決定過程への女性の参画促進(役員・管理職への女性の登用促進)	10.2	150 人
その他	2.0	29 人
無回答	2.2	32 人

グラフ単位 (%)

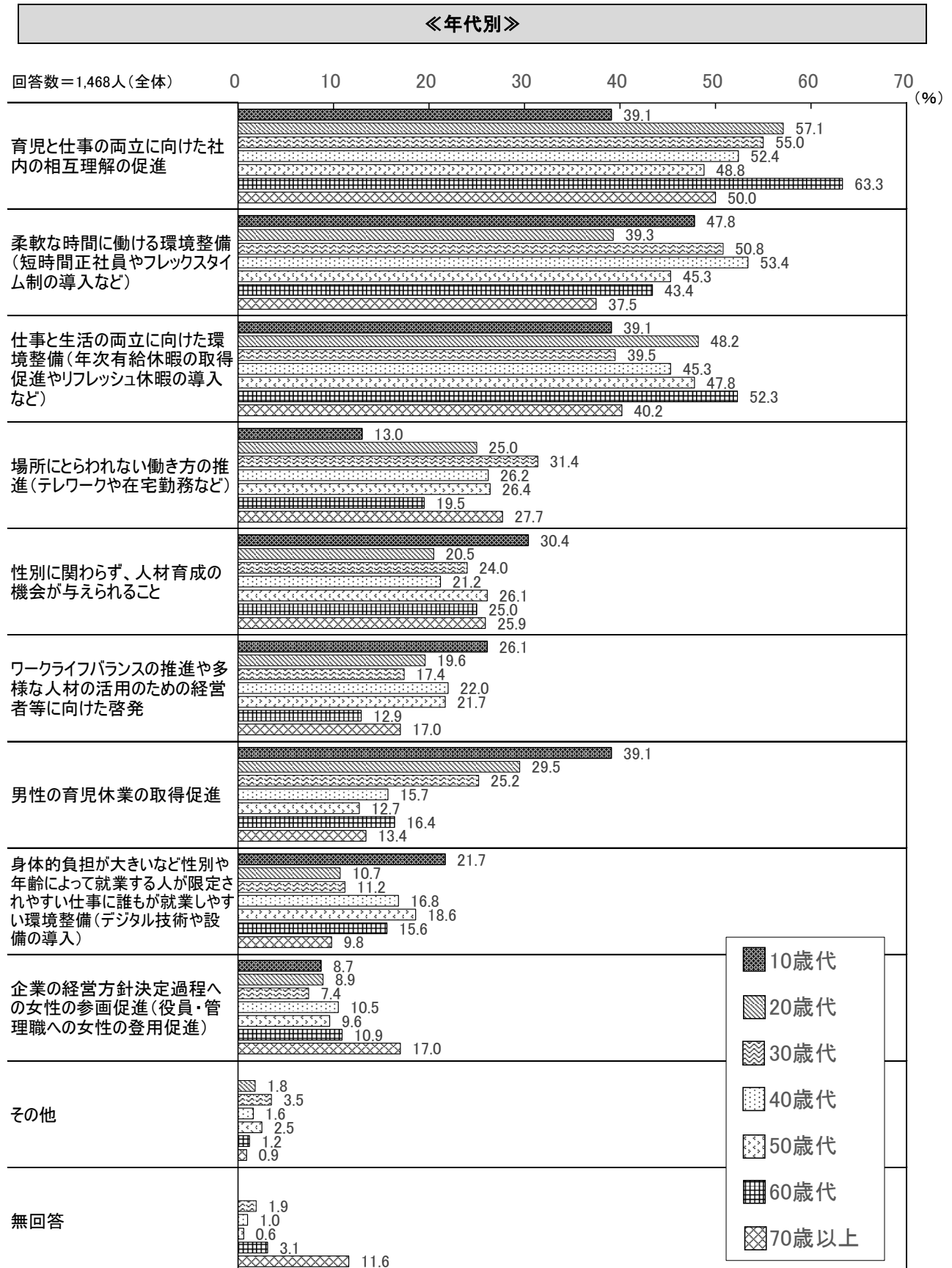
【性別】

男女ともに「育児と仕事の両立に向けた社内の相互理解の促進」が最も高くなっている。



【年代別】

10 歳代、40 歳代では「柔軟な時間に働ける環境整備（短時間正社員やフレックスタイム制の導入など）」が最も高く、20 歳代、30 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「育児と仕事の両立に向けた社内の相互理解の促進」が最も高くなっている。



【問7×問16のクロス分析】

「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について特に力を入れるべきものは何ですか。」という質問に対し、「女性がいきいきと活躍できる職場をつくるために必要な、職場風土の改革につながる取組として効果的だと思うものはどれか。」の結果を見ると、「出会いや結婚への支援を希望する独身者への出会いの機会の創出」と「いったん子育て等に専念しても、希望すれば再就職できるための支援」が同率で「育児と仕事の両立に向けた社内の相互理解の促進」と「柔軟な時間に働ける環境整備（短時間正社員やフレックスタイム制の導入など）」が最も高く、「場所や時間に制約されない仕事につながる専門技術等のスキルアップ支援（デジタルスキル等）」では「柔軟な時間に働ける環境整備（短時間正社員やフレックスタイム制の導入など）」が、それ以外の選択肢では「育児と仕事の両立に向けた社内の相互理解の促進」が最も高くなっている。

《問7×問16のクロス分析》

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)	全体	女性がいきいきと活躍できる職場をつくるために必要な、職場風土の改革につながる取組として効果的だと思うもの											
		用ワークのための経営者等に向けた啓発	進育児と仕事の両立に向けた社内相互理解の促進	男性の育児休業の取得促進	ど）休暇の取得促進やリフレッシュ休暇の導入	仕事と生活の両立に向けた環境整備（年次有給）	柔軟な時間に働ける環境整備（短時間正社員やフレックスタイム制の導入など）	やすい環境整備（デジタル技術や設備の導入）	身体的負担が大きい性別や年齢によつて就業しにくい環境整備	在宅勤務など）働き方の推進（テレワーク）	性別に関わらず、人材育成の機会が与えられる	（企業の経営方針決定過程への女性の参画促進）	その他
全体	1,468	279 19.0	791 53.9	265 18.1	673 45.8	690 47.0	221 15.1	378 25.7	351 23.9	150 10.2	29 2.0	32 2.2	
「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について	地域や職場など社会全体で結婚や子育てを応援する機運の醸成	294	26.5	56.8	18.0	48.3	40.1	16.0	22.4	22.4	9.9	1.7	3.4
	出会いや結婚への支援を希望する独身者への出会いの機会の創出	228	20.6	47.4	18.9	40.8	47.4	17.1	27.2	27.2	11.4	2.2	2.6
	安心して妊娠・出産できる環境の整備	420	17.6	62.6	22.9	46.0	46.4	15.0	21.2	26.0	10.2	1.7	1.2
	子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減	707	19.1	57.9	18.1	46.4	48.1	14.3	27.7	22.9	10.0	1.7	1.3
	子どもの預け先の確保など子育て支援サービスの充実	334	17.1	51.5	17.1	44.6	49.4	14.7	26.0	25.7	12.9	1.5	1.8
	家事・育児の分担など家庭における男女共同参画の推進	88	22.7	52.3	28.4	47.7	43.2	19.3	22.7	29.5	11.4	2.3	-
	いったん子育て等に専念しても、希望すれば再就職できるための支援	214	14.5	51.9	18.7	48.6	51.9	15.0	25.7	25.2	10.7	1.4	1.9
	仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり	405	17.8	60.2	14.8	53.8	48.4	16.0	26.7	22.0	9.4	1.0	1.5
	場所や時間に制約されない仕事につながる専門技術等のスキルアップ支援（デジタルスキル等）	99	17.2	38.4	16.2	45.5	59.6	18.2	46.5	23.2	7.1	3.0	-
その他	18	16.7	11.1	11.1	33.3	27.8	11.1	16.7	22.2	22.2	38.9	-	

※女性の活躍推進の課題を明らかにするため、「男性」と「女性」に限った記載にしています。

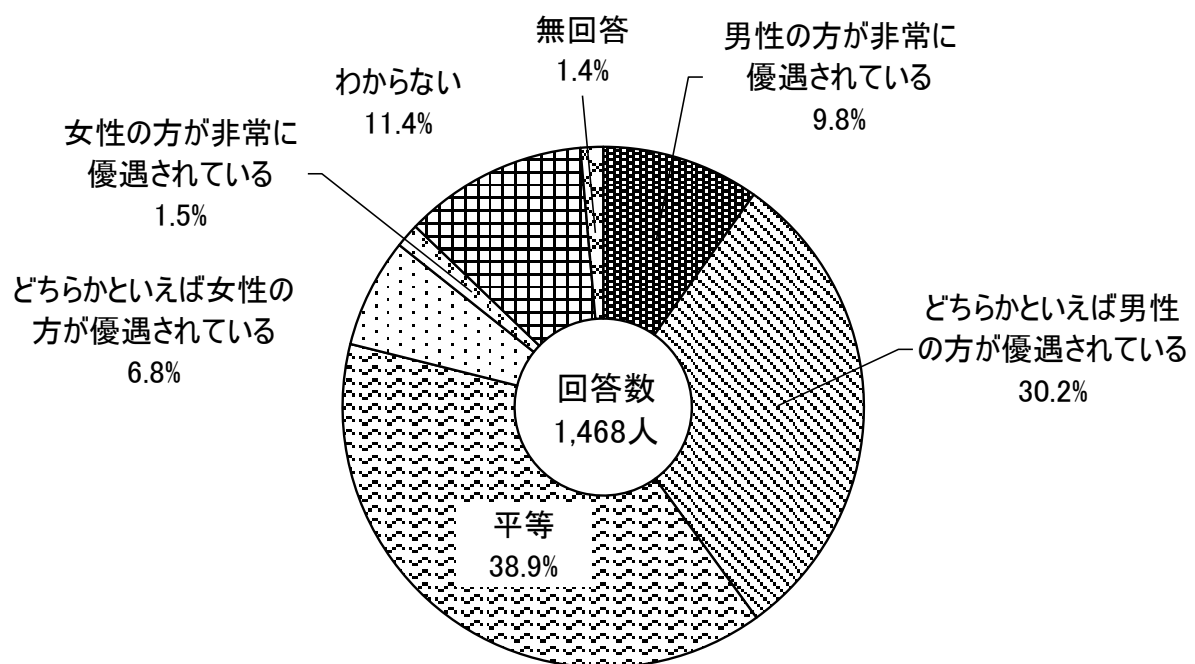
問 17 あなたの家庭生活において、男女の地位(意思決定への影響力や役割分担など)は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(1つだけ○印)

【総合】

「平等」が38.9%と1位になっている。

次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.2%、「わからない」が11.4%と続いている。

《総合》



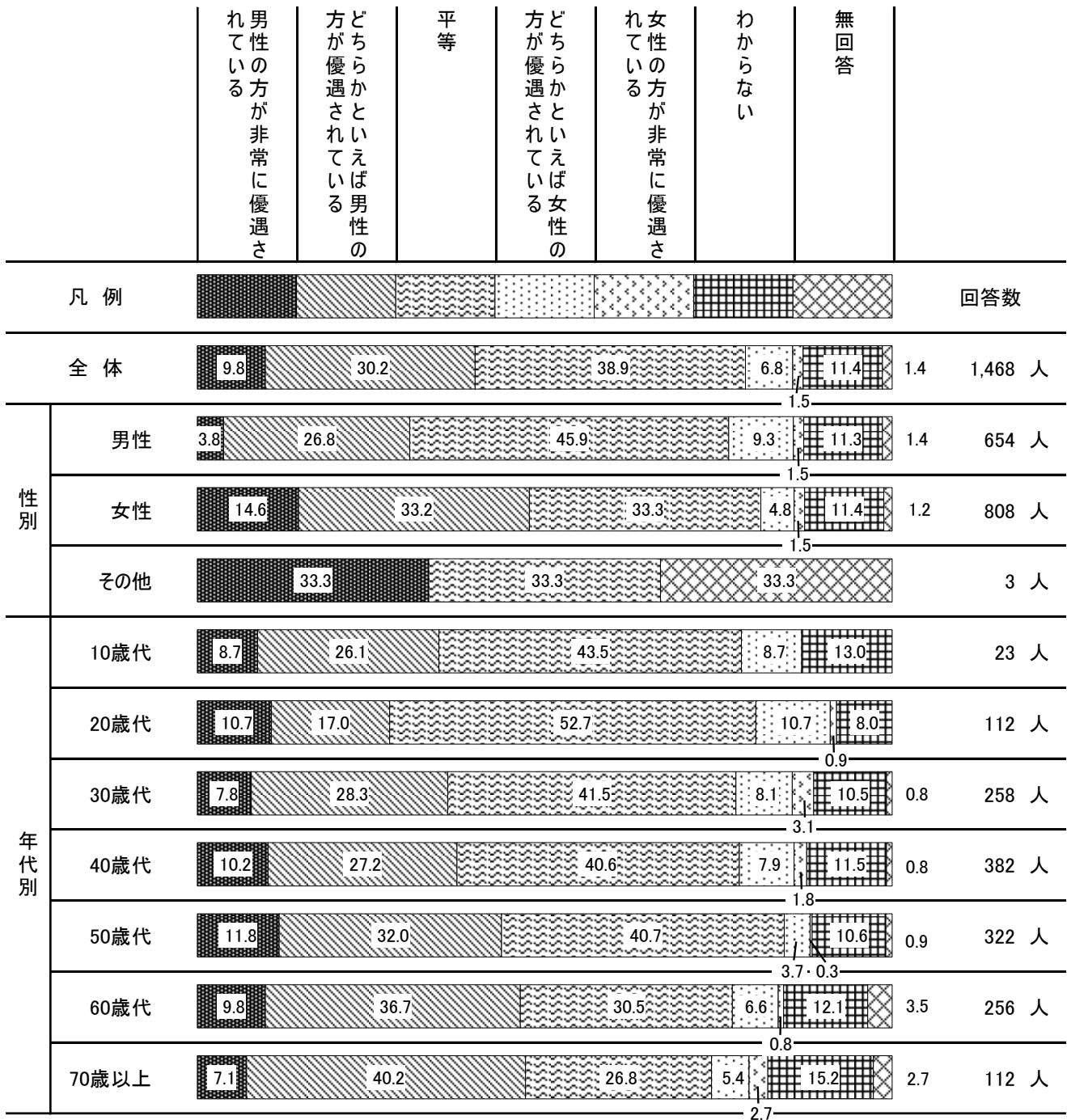
【性別】

男女ともに「平等」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代から50歳代では「平等」が最も高く、60歳代、70歳以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位 (%)

【問 15×問 17 のクロス分析】

「職場において、男女の地位は平等になっていると思うか。」という質問に対し、「家庭生活において、男女の地位は平等になっていると思うか。」の結果を見ると、職場における女性の地位を「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「平等」と回答した方は、「家庭における女性の地位」も同じ意見となっており、職場における女性の地位を「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と回答した方は、「家庭における女性の地位」ではそれぞれ「平等」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方が最も高くなっている。

《問 15×問 17 のクロス分析》

		全体	家庭生活において、男女の地位は平等になっていると思うか						
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)									
全体		1,468	144 9.8	444 30.2	571 38.9	100 6.8	22 1.5	167 11.4	20 1.4
に職 場 に お い て お い て 思 う か の 地 位 は 平 等	男性の方が非常に優遇されている	102	36.3	26.5	22.5	5.9	3.9	4.9	-
	どちらかといえば男性の方が優遇されている	426	10.8	40.4	33.8	6.3	0.5	7.5	0.7
	平等	470	5.7	25.3	54.9	6.0	1.1	6.6	0.4
	どちらかといえば女性の方が優遇されている	97	4.1	22.7	43.3	17.5	4.1	7.2	1.0
	女性の方が非常に優遇されている	19	15.8	15.8	15.8	26.3	15.8	5.3	5.3
	わからない	324	7.7	29.0	29.6	4.9	0.9	27.8	-

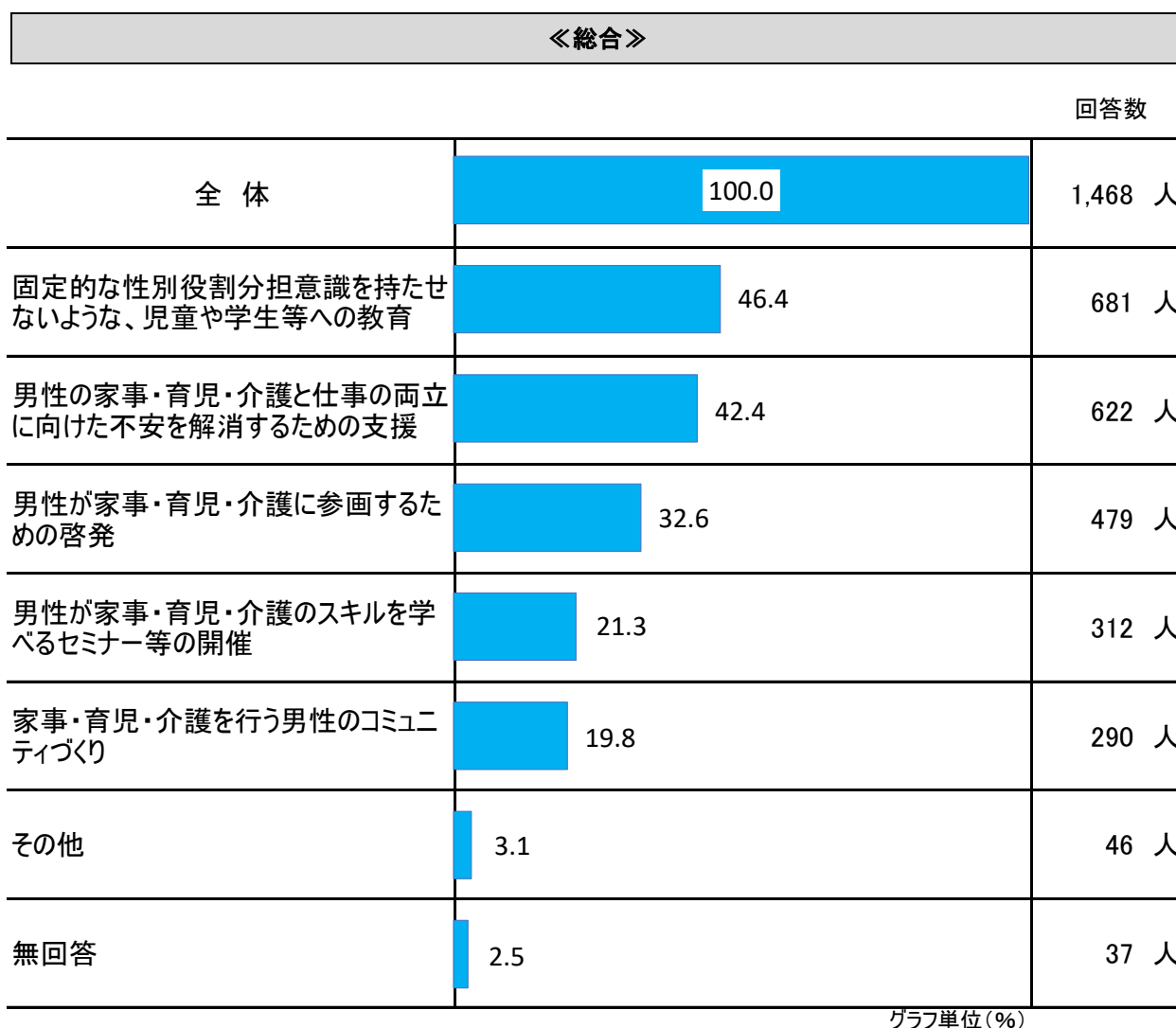
※女性の活躍推進の課題を明らかにするため、「男性」と「女性」に限った記載にしています。

問 18 本県において男性が家庭で活躍するために必要な支援として効果的と思うものは何だと思いませんか。
(2つまで○印)

【総合】

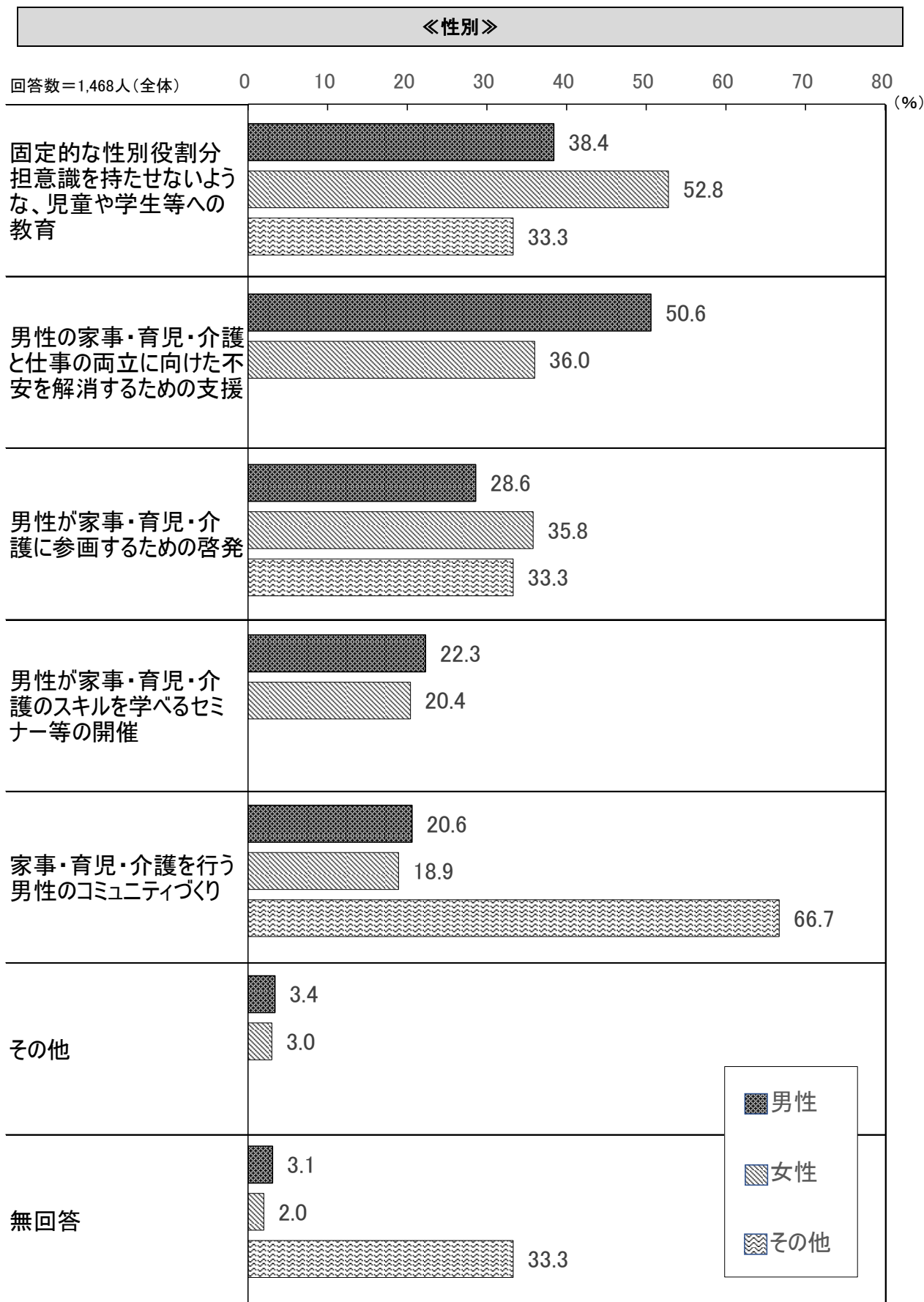
「固定的な性別役割分担意識を持たせないような、児童や学生等への教育」が 46.4%と 1 位になっている。

次いで、「男性の家事・育児・介護と仕事の両立に向けた不安を解消するための支援」が 42.4%、「男性が家事・育児・介護に参画するための啓発」が 32.6%と続いている。



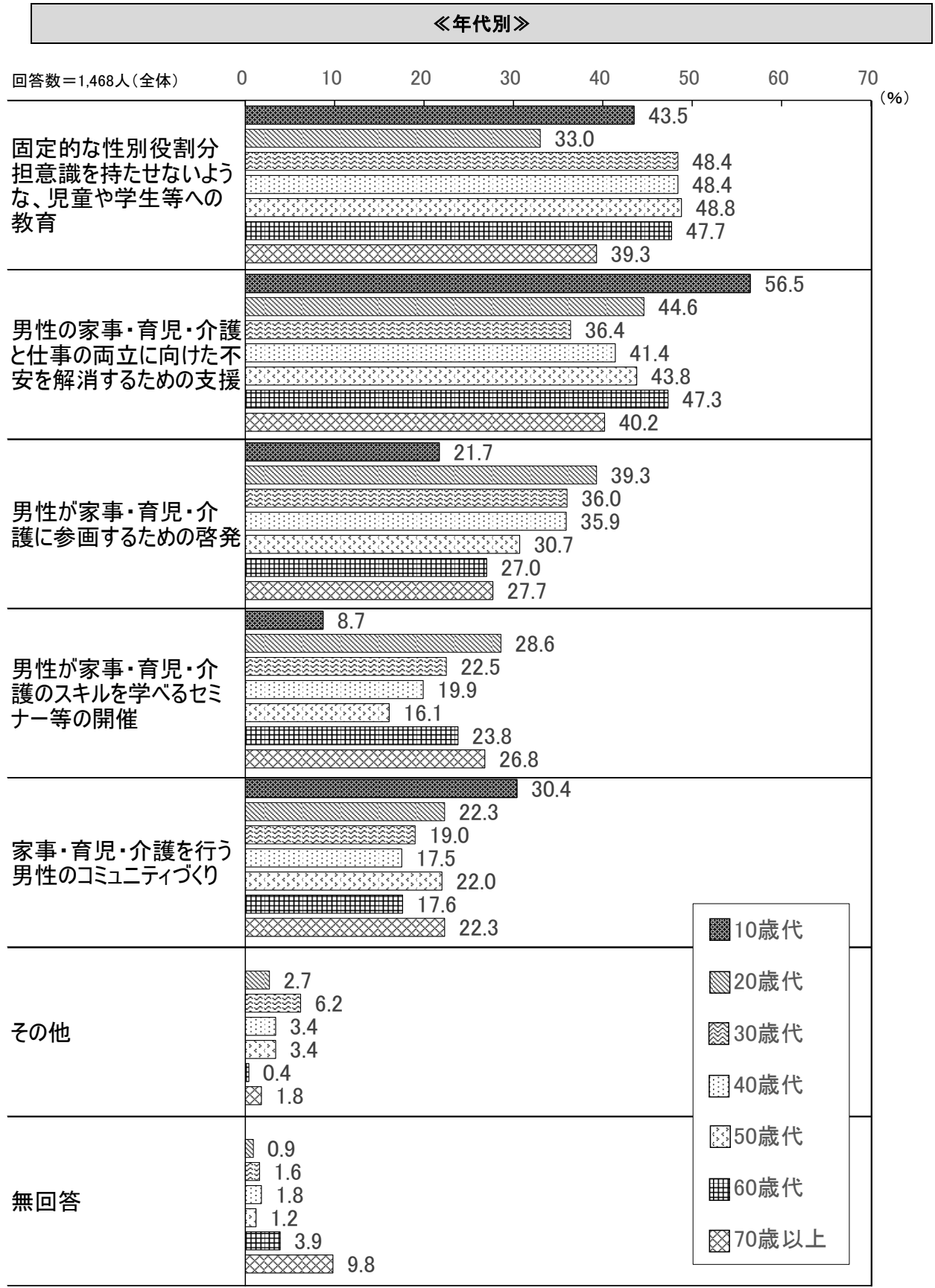
【性別】

男性では「男性の家事・育児・介護と仕事の両立に向けた不安を解消するための支援」が最も高く、女性では「固定的な性別役割分担意識を持たせないような、児童や学生等への教育」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、70歳以上では「男性の家事・育児・介護と仕事の両立に向けた不安を解消するための支援」が最も高く、30歳代から60歳代では「固定的な性別役割分担意識を持たせないような、児童や学生等への教育」が最も高くなっている。



4. 南海トラフ地震対策について

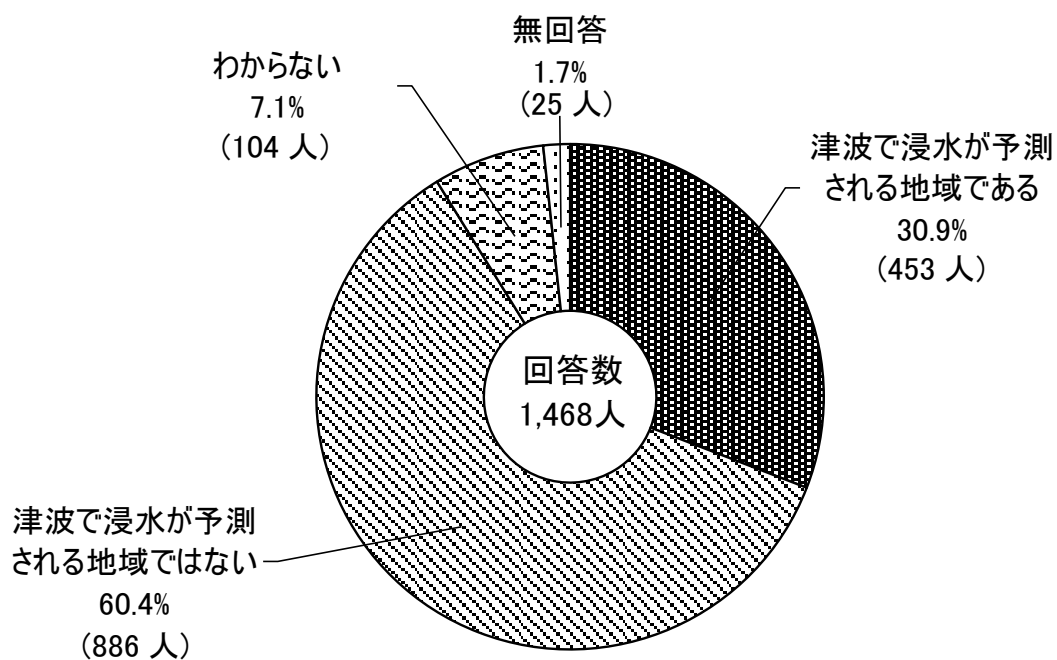
問 19 南海トラフ地震が発生したとき、高知県内では最大で約 42,000 人の方が亡くなると想定されており、そのうち約 36,000 人の方が津波によって亡くなると想定されています。
あなたのお宅は津波で浸水が予測される地域ですか。(1つだけ○印)

【総合】

「津波で浸水が予測される地域ではない」が 60.4%と 1 位になっている。

次いで、「津波で浸水が予測される地域である」が 30.9%、「わからない」が 7.1%となっている。

《総合》

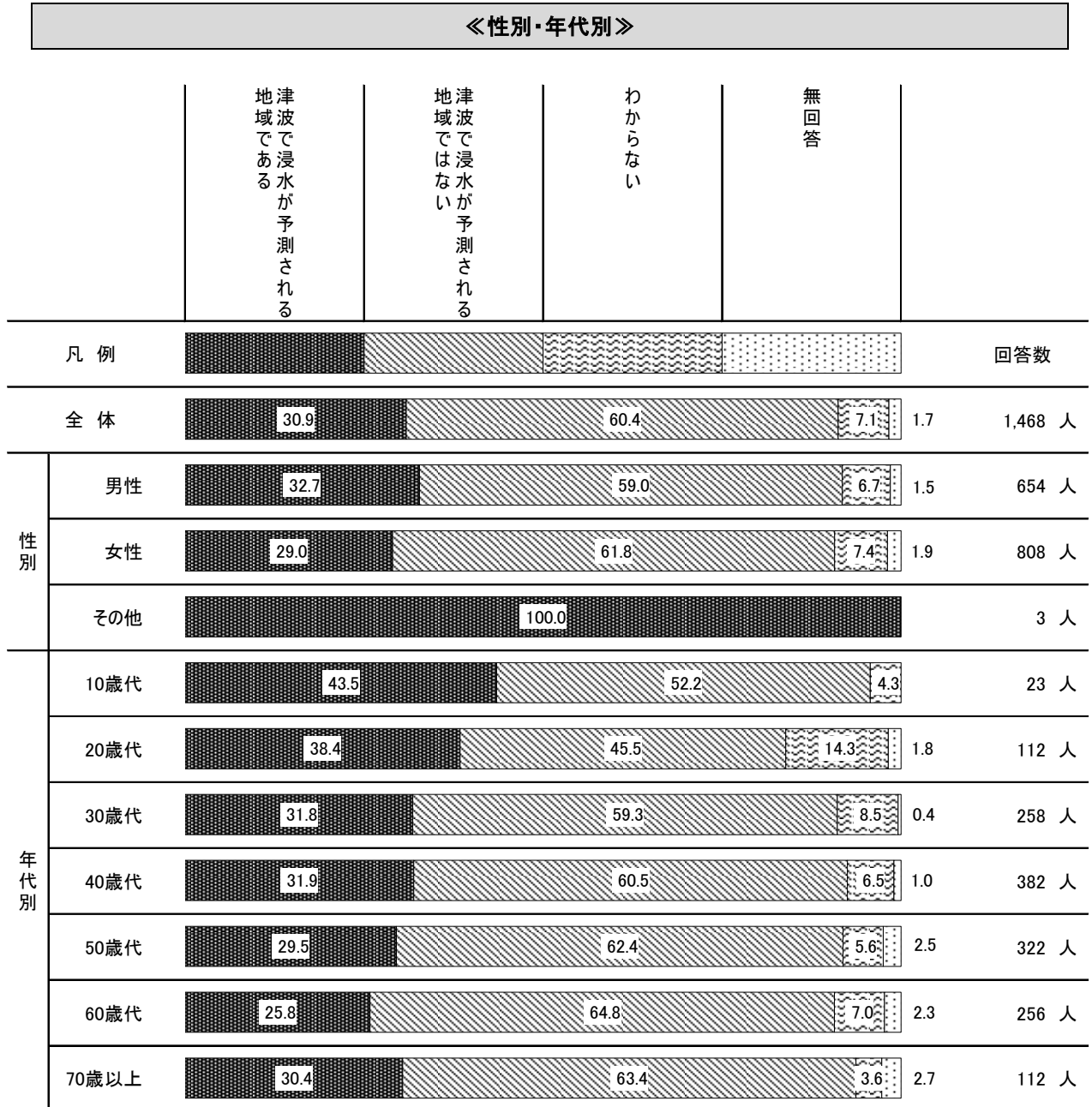


【性別】

男女ともに「津波で浸水が予測される地域ではない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「津波で浸水が予測される地域ではない」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

副問1 (問 19 で「1. 津波で浸水が予測される地域である」を選んだ方のみお答えください。)

南海トラフ地震が発生したとき、高知県では、最も早いところで地震の揺れ始めから3分程度で、津波が海岸線に到達すると予測されています。

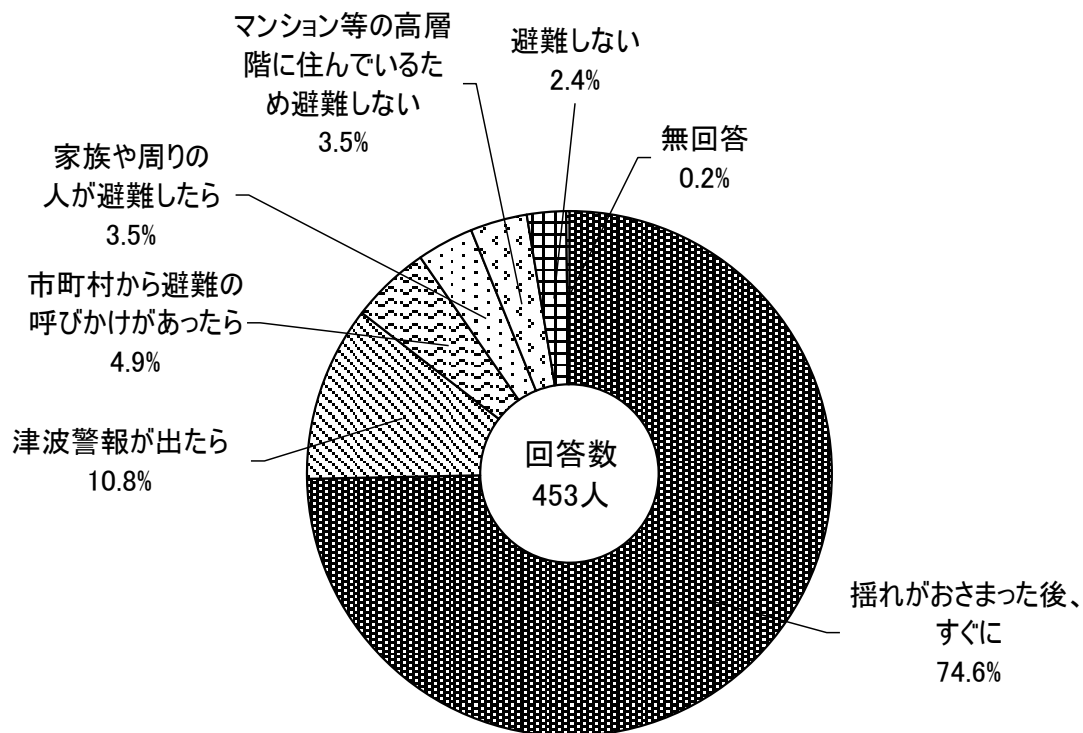
あなたご自宅にいるときに、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続いたとします。あなたはいつ避難しますか。(1つだけ○印)

【総合】

「揺れがおさまった後、すぐに」が74.6%と1位になっている。

次いで、「津波警報が出たら」が10.8%、「市町村から避難の呼びかけがあったら」が4.9%と続いている。

《総合》



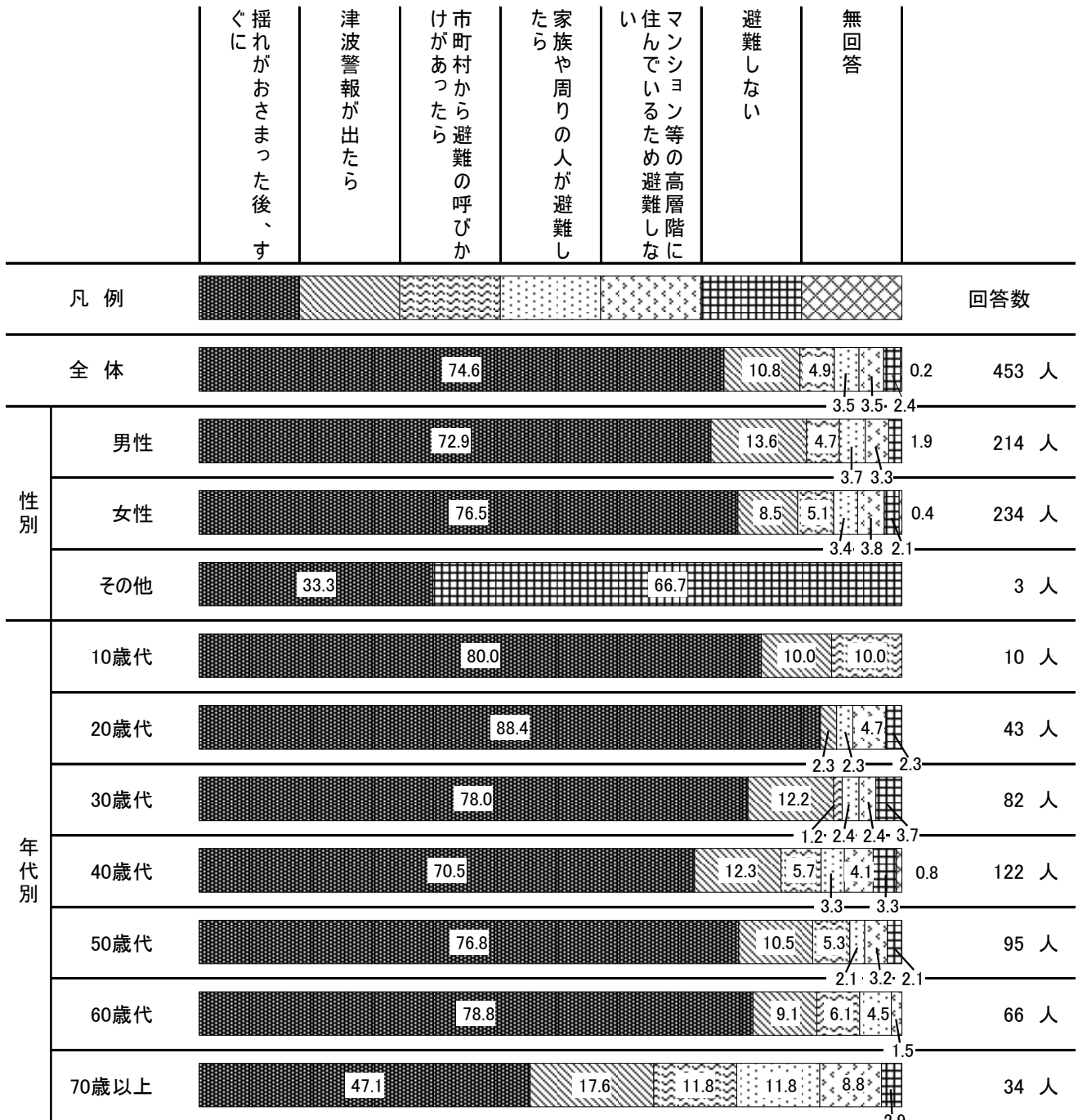
【性別】

男女とも「揺れがおさまった後、すぐに」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「揺れがおさまった後、すぐに」が最も高くなっており、特に最も高い20歳代と最も低い70歳以上を比較すると、41.3ポイントもの差となっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

副問2 (問 19 で「1. 津波で浸水が予測される地域である」を選んだ方のみお答えください。)

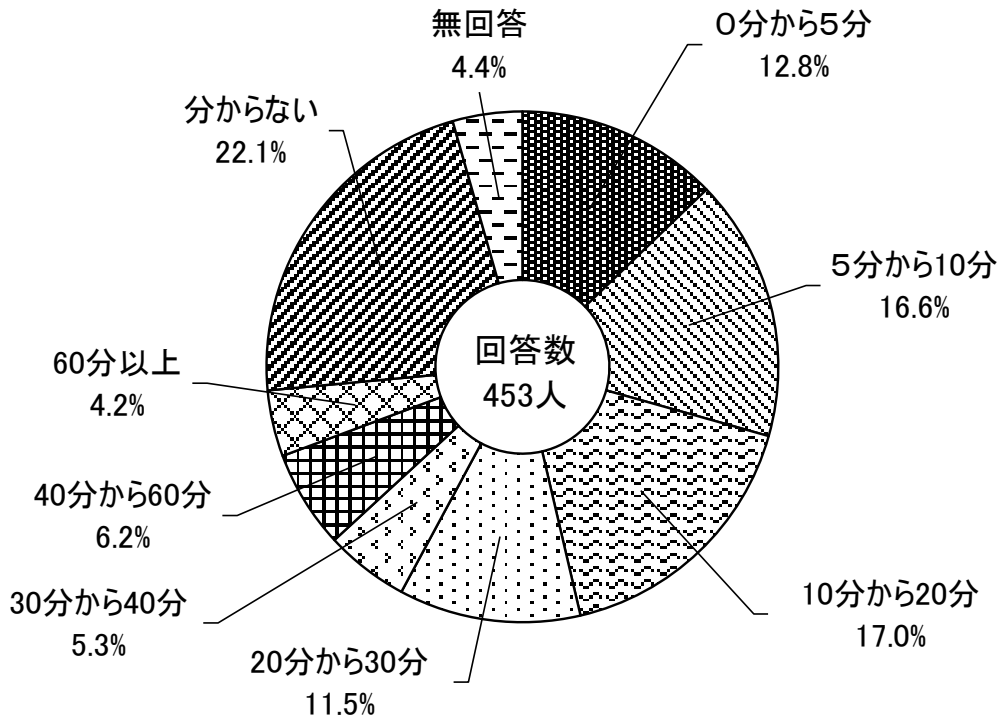
あなたのご自宅がある地域は、地震が発生してから何分で津波が到達すると想定されていますか。津波ハザードマップで示されている津波の到達時間をお答えください。(1つだけ○印)

【総合】

「分からない」が22.1%と1位になっている。

次いで、「10分から20分」が17.0%、「5分から10分」が16.6%と続いている。

《総合》

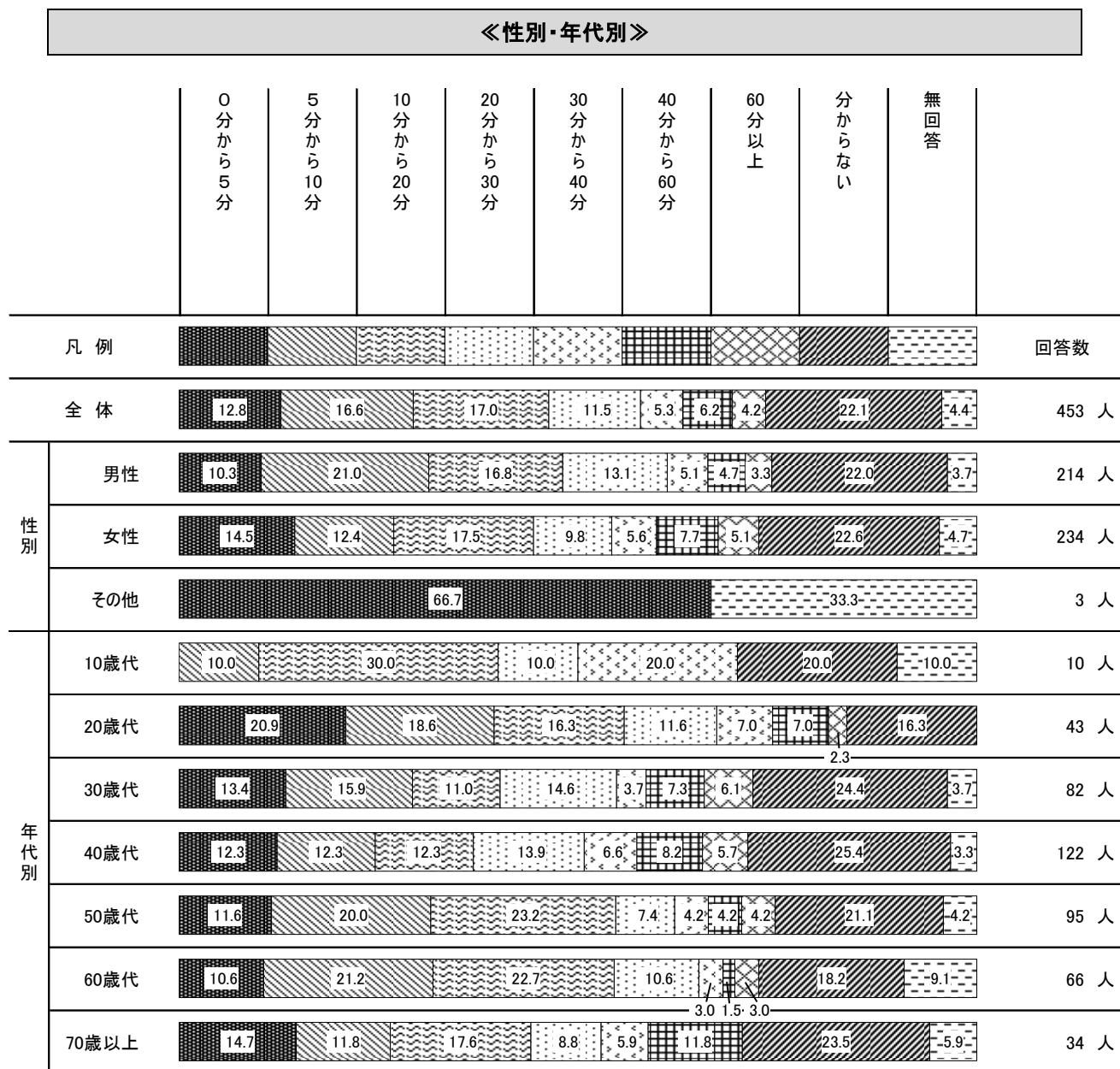


【性別】

男女ともに「分からない」が最も高くなっており、次いで、男性では「5分から10分」、女性では「10分から20分」と続いている。

【年代別】

10歳代、50歳代、60歳代では「10分から20分」が最も高く、20歳代では「0分から5分」が、30歳代、40歳代、70歳以上では「分からない」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

【問 19 副問 1 × 問 19 副問 2 のクロス分析】

「避難のタイミングは。」という質問に対し、「想定される津波の到達時間は。」の結果を見ると、すべての避難のタイミングで「分からない」が最も高く、同率で、「家族や周りの人が避難したら」では「5分から10分」が、「マンション等の高層階に住んでいるため避難しない」では「40分から60分」が最も高くなっている。

《問 19 副問 1 × 問 19 副問 2 のクロス分析》

		全体	想定される津波の到達時間								
			0 分 か ら 5 分	5 分 か ら 10 分	10 分 か ら 20 分	20 分 か ら 30 分	30 分 か ら 40 分	40 分 か ら 60 分	60 分 以 上	分 か ら 不 明	無 回 答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)											
全体		453	58 12.8	75 16.6	77 17.0	52 11.5	24 5.3	28 6.2	19 4.2	100 22.1	20 4.4
避 難 の タ イ ミ ン グ	揺れがおさまった後、すぐに	338	14.5	17.8	18.0	12.7	5.9	5.6	3.8	19.8	1.8
	津波警報が出たら	49	6.1	16.3	14.3	8.2	-	4.1	6.1	26.5	18.4
	市町村から避難の呼びかけがあったら	22	9.1	4.5	22.7	9.1	4.5	9.1	4.5	31.8	4.5
	家族や周りの人が避難したら	16	12.5	25.0	12.5	6.3	-	6.3	-	25.0	12.5
	マンション等の高層階に住んでいるため避難しない	16	6.3	-	12.5	6.3	18.8	25.0	6.3	25.0	-
	避難しない	11	9.1	18.2	-	9.1	-	-	9.1	36.4	18.2

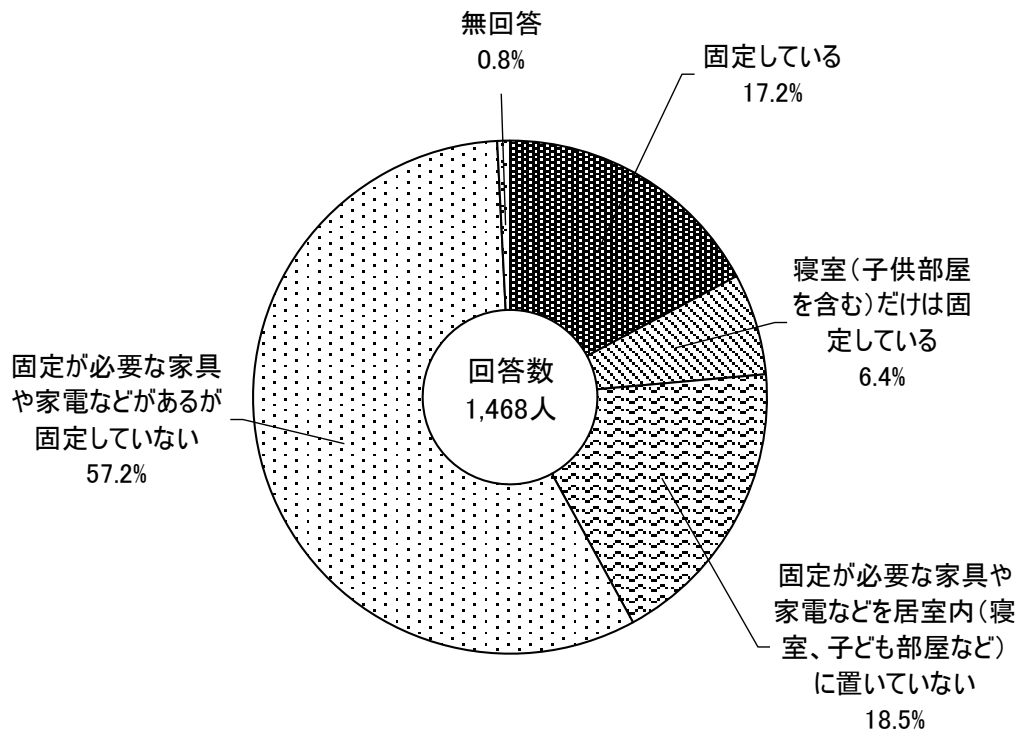
問 20 あなたのご自宅では、固定が必要な家具や家電などを固定していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が 57.2%と 1 位になっている。

次いで、「固定が必要な家具や家電などを居室内（寝室、子ども部屋など）に置いていない」が 18.5%、「固定している」が 17.2%となっている。

《総合》

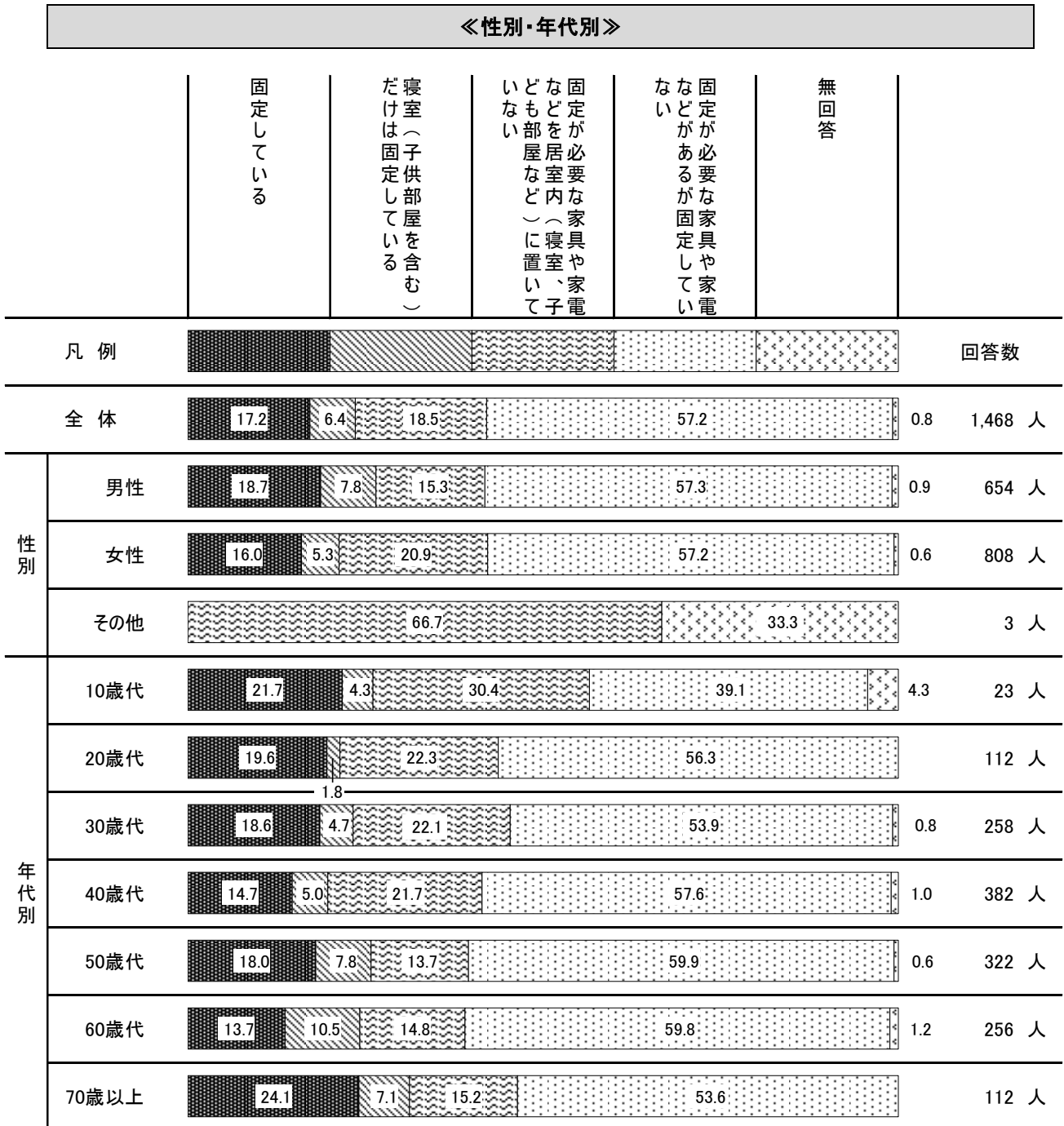


【性別】

男女ともに「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高くなっている。次いで、男性では「固定している」が、女性では「固定が必要な家具や家電などを居室内（寝室、子ども部屋など）に置いていない」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高くなっている。



グラフ単位 (%)

問 21 大規模災害が発生した時は、県外からの応援が届くまでに時間がかかるため、各ご家庭でも飲料水・食料の備蓄することが重要です。

あなたのご自宅では、日常的に消費するものとは別に、災害用の備えとして、長期保存の飲料水と食料の備蓄を行っていますか。(それぞれ1つだけ○印)

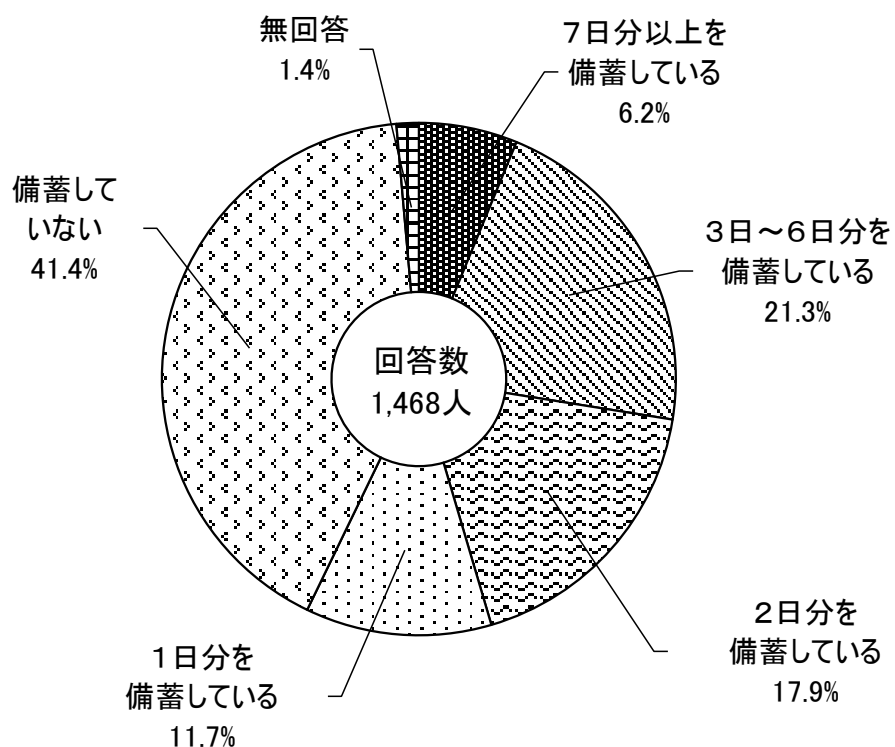
【飲料水】

【総合】

「備蓄していない」が41.4%と1位になっている。

次いで、「3日～6日分を備蓄している」が21.3%、「2日分を備蓄している」が17.9%と続いている。

《総合》



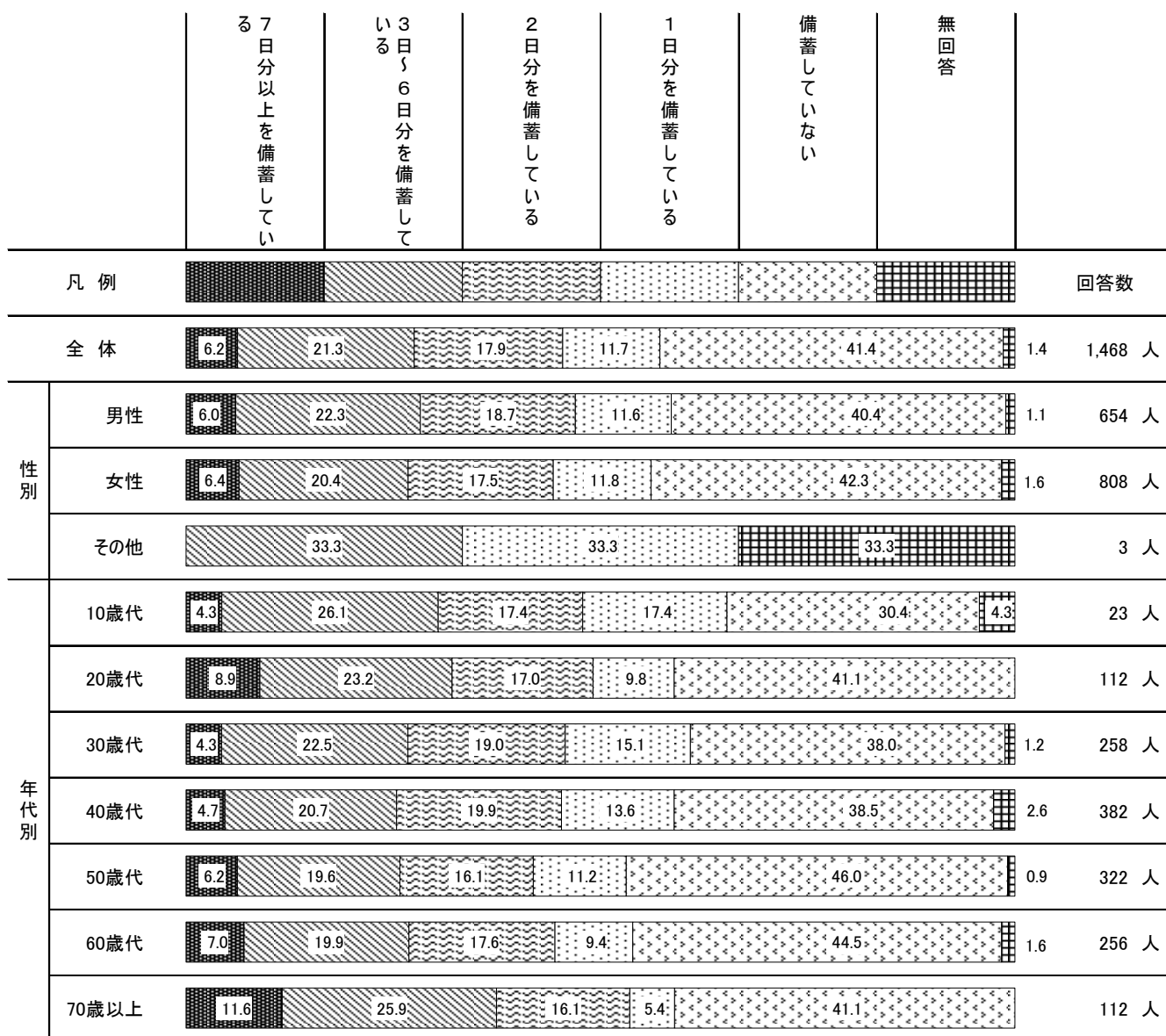
【性別】

男女ともに「備蓄していない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「備蓄していない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

問 21 大規模災害が発生した時は、県外からの応援が届くまでに時間がかかるため、各ご家庭でも飲料水・食料の備蓄することが重要です。

あなたのご自宅では、日常的に消費するものとは別に、災害用の備えとして、長期保存の飲料水と食料の備蓄を行っていますか。(それぞれ1つだけ○印)

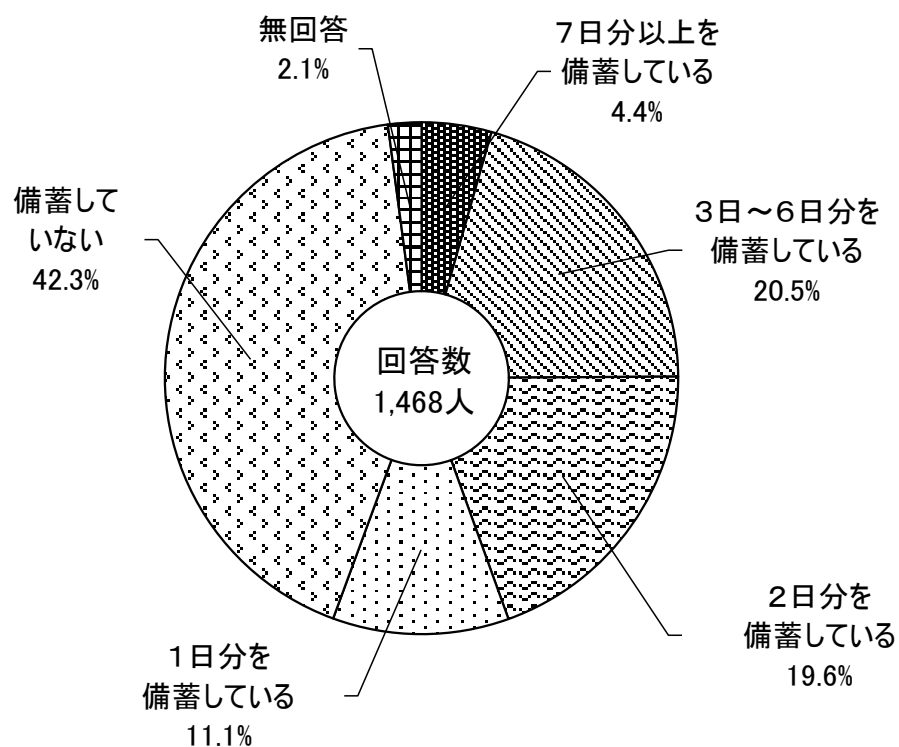
【食料】

【総合】

「備蓄していない」が42.3%と1位になっている。

次いで、「3日～6日分を備蓄している」が20.5%、「2日分を備蓄している」が19.6%と続いている。

《総合》

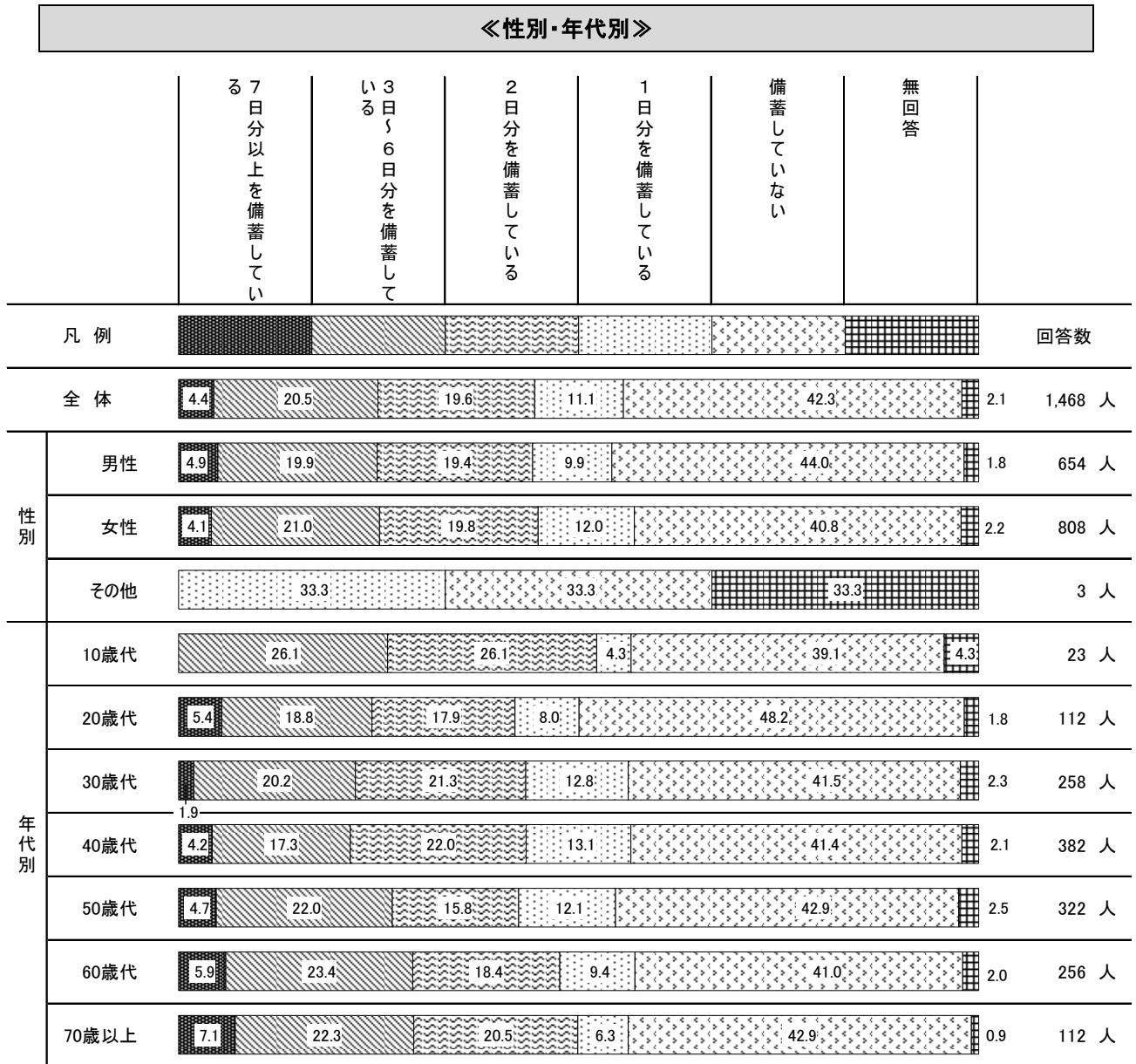


【性別】

男女ともに「備蓄していない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「備蓄していない」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

問 22 問 21 でお聞きした長期保存水や非常用保存食品とは別に、あなたのご自宅には、日常的に消費する飲料水、食料のストックが、おおよそ何日分ありますか。(それぞれ1つだけ○印)

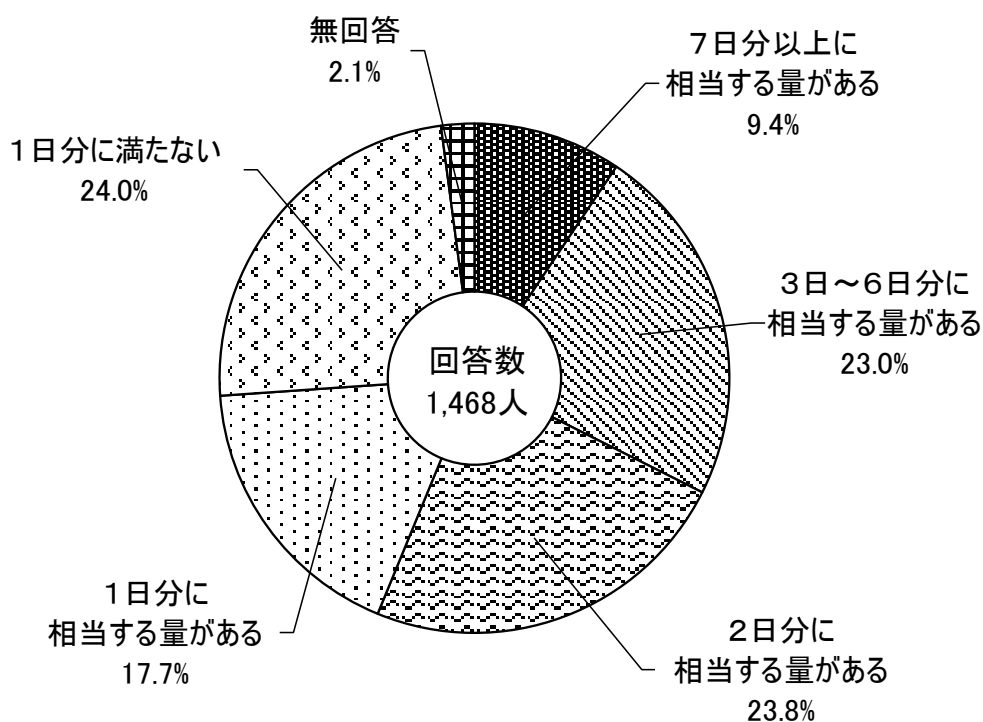
【飲料水】

【総合】

「1日分に満たない」が24.0%と1位になっている。

次いで、「2日分に相当する量がある」が23.8%、「3日～6日分に相当する量がある」が23.0%と続いている。

《総合》

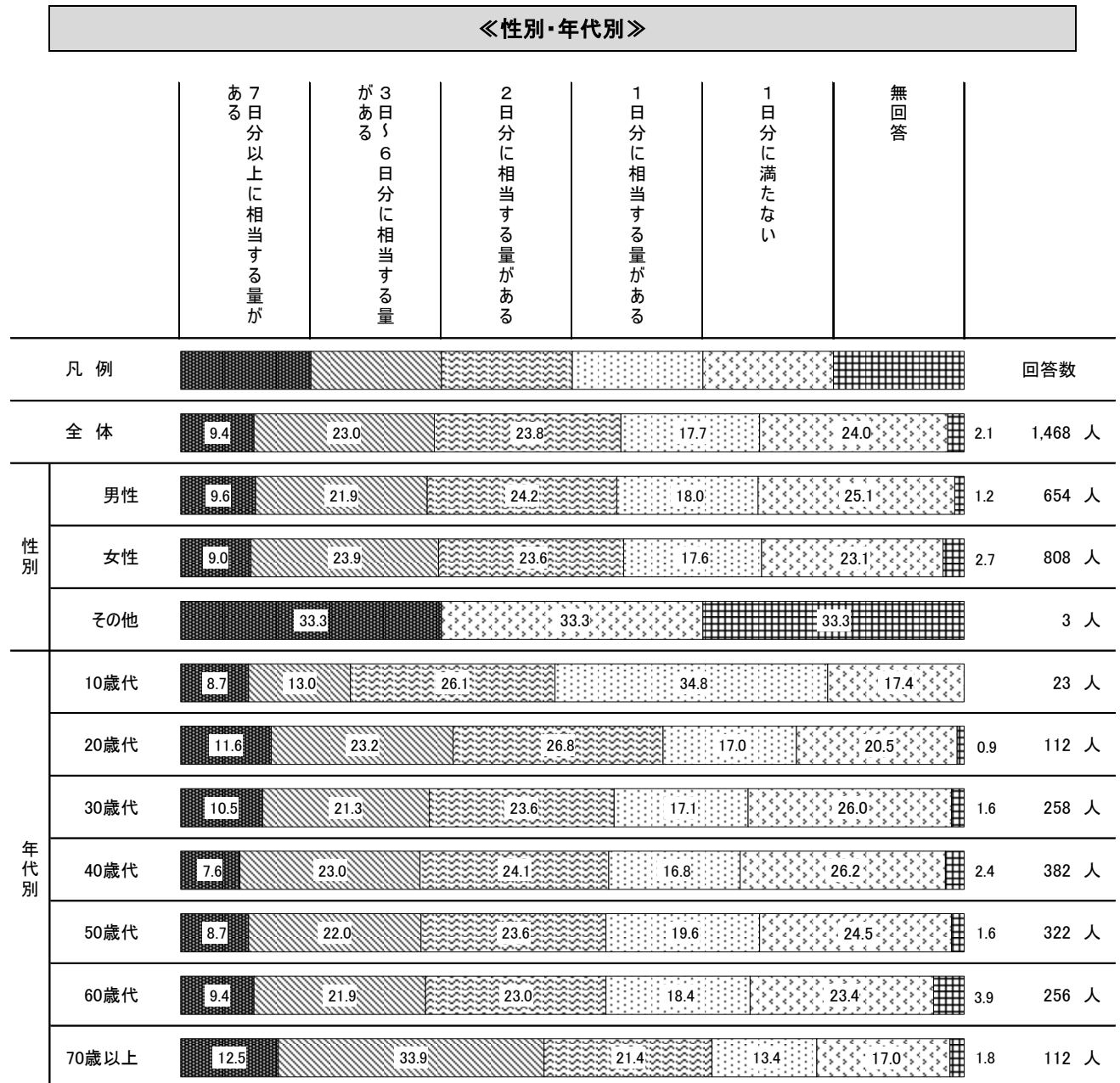


【性別】

男性では「1日分に満たない」が最も高く、女性では「3日～6日分に相当する量がある」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では「1日分に相当する量がある」が最も高く、20歳代では「2日分に相当する量がある」が、30歳代から60歳代では「1日分に満たない」が、70歳以上では「3日～6日分に相当する量がある」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

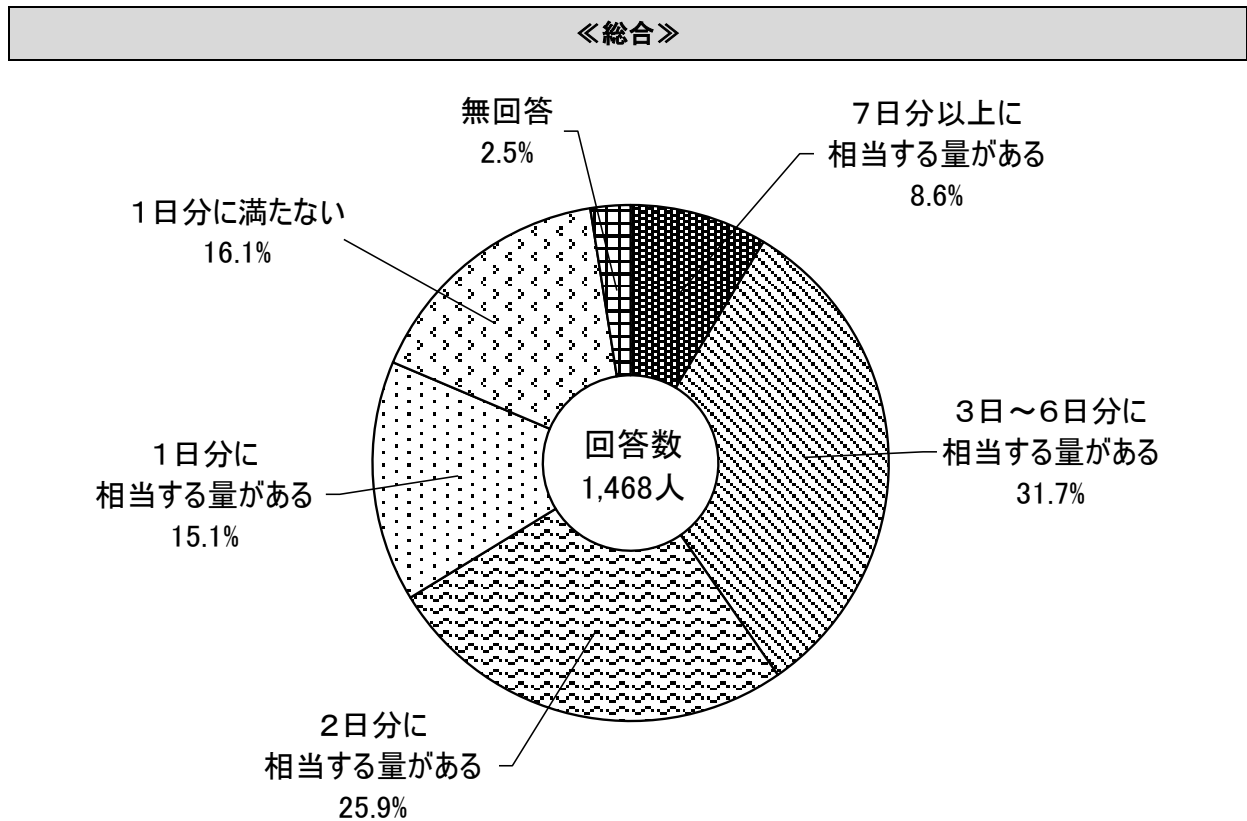
問 22 問 21 でお聞きした長期保存水や非常用保存食品とは別に、あなたのご自宅には、日常的に消費する飲料水、食料のストックが、おおよそ何日分ありますか。(それぞれ1つだけ○印)

【食料】

【総合】

「3日～6日分に相当する量がある」が31.7%と1位になっている。

次いで、「2日分に相当する量がある」が25.9%、「1日分に満たない」が16.1%と続いている。

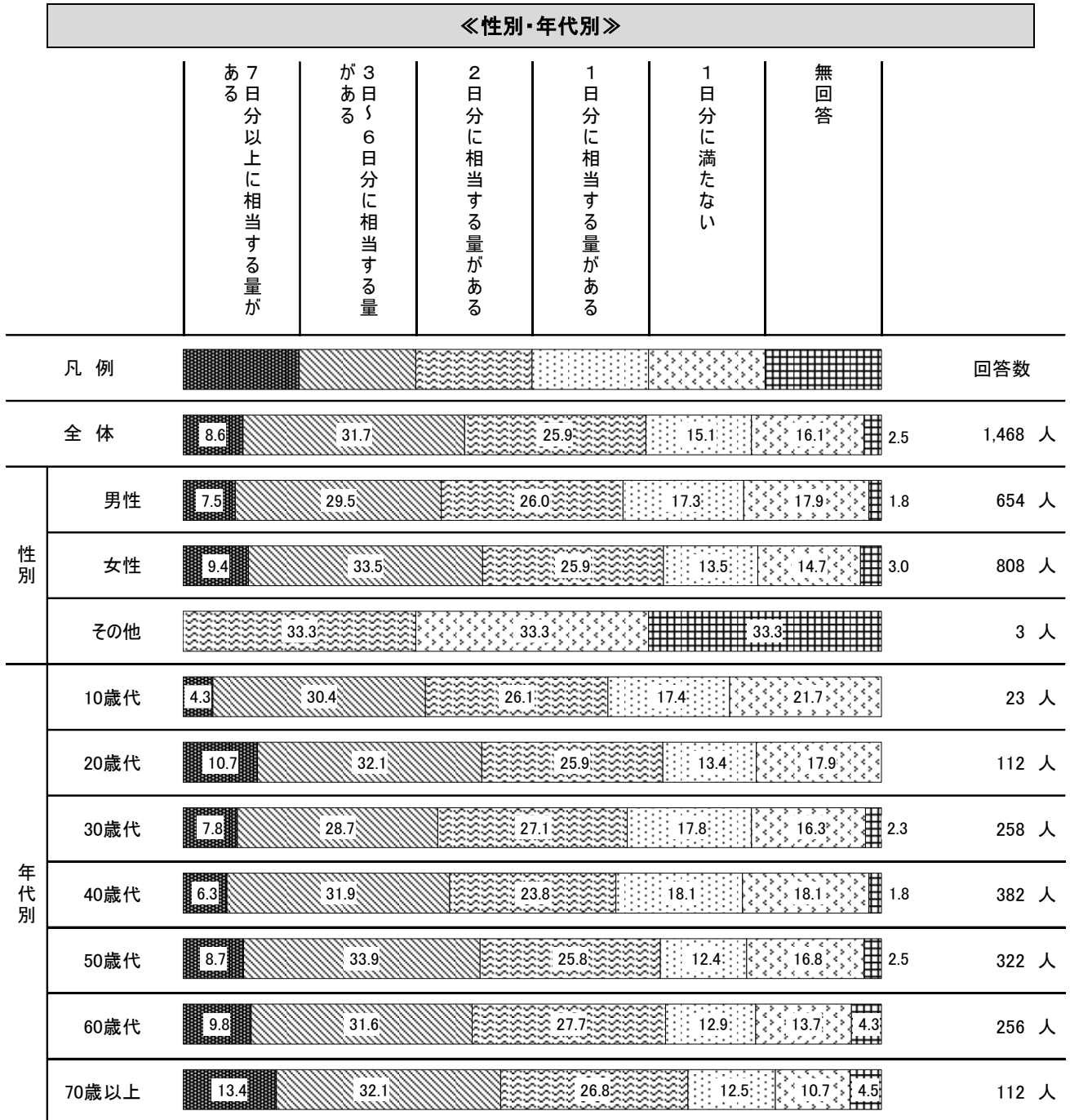


【性別】

男女ともに「3日～6日分に相当する量がある」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「3日～6日分に相当する量がある」が最も高くなっている。



グラフ単位 (%)

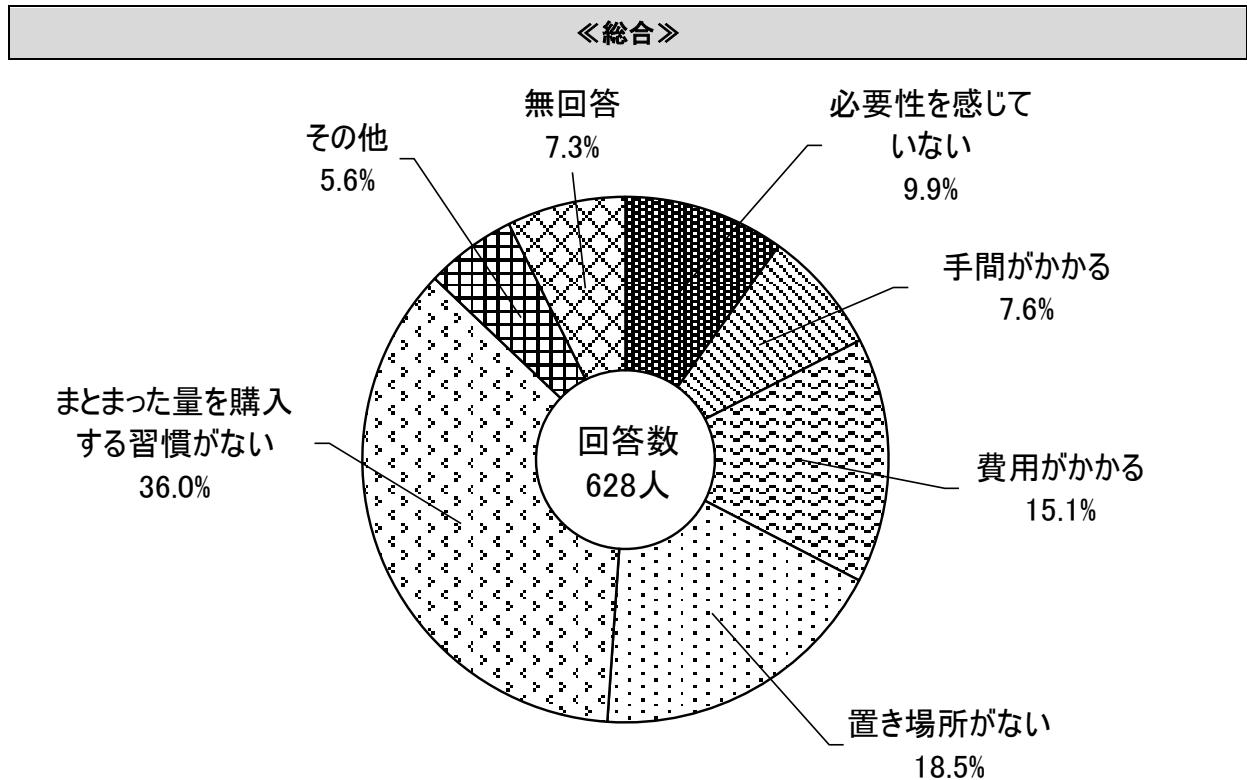
副問1 (問 21 と問 22 で回答した量が、合計しても3日分に満たない方のみお答えください。)
飲料水、食料を3日以上確保していない(できていない)のはどのような理由からですか。
(それぞれ、最も大きな理由に1つだけ○印)

【飲料水】

【総合】

「まとまった量を購入する習慣がない」が 36.0% と 1 位になっている。

次いで、「置き場所がない」が 18.5%、「費用がかかる」が 15.1% と続いている。

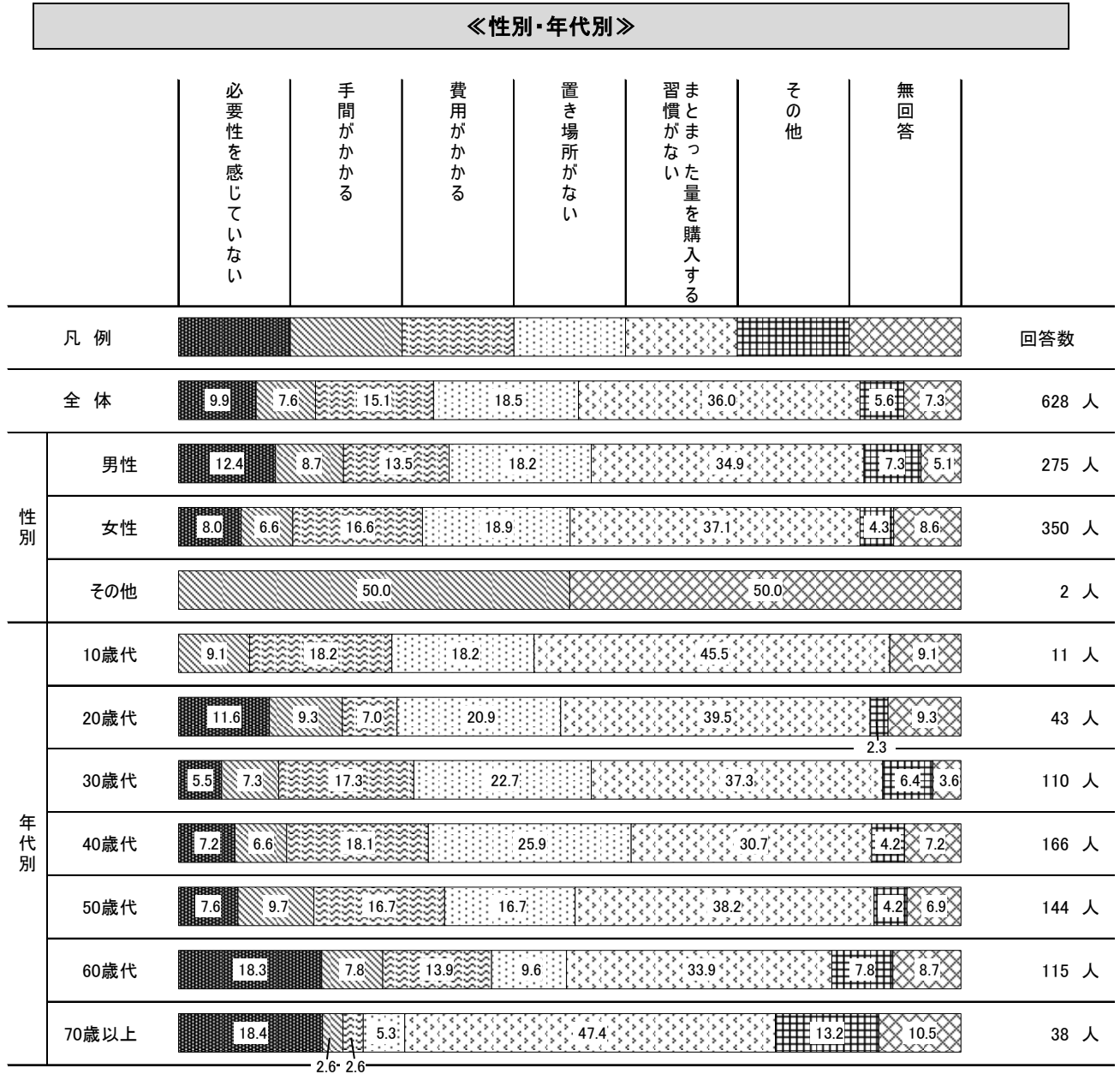


【性別】

男女ともに「まとまった量を購入する習慣がない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「まとまった量を購入する習慣がない」が最も高くなっている。



副問1 (問 21 と問 22 で回答した量が、合計しても3日分に満たない方のみお答えください。)
飲料水、食料を3日以上確保していない(できていない)のはどのような理由からですか。
(それぞれ、最も大きな理由に1つだけ○印)

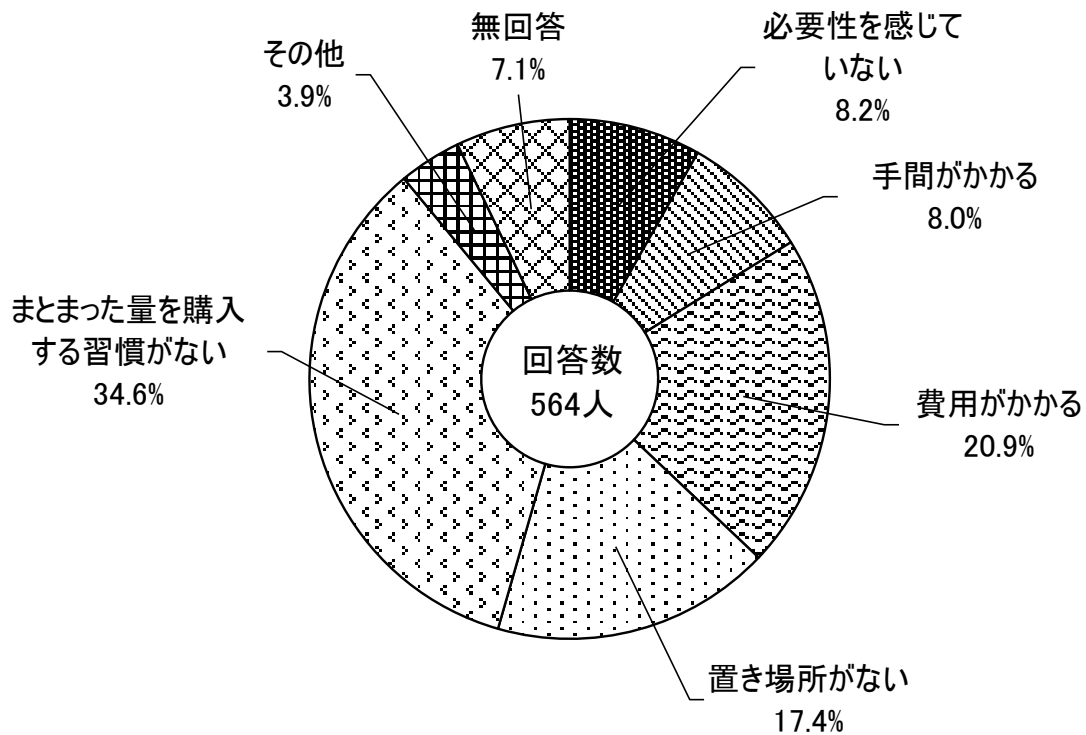
【食料】

【総合】

「まとまった量を購入する習慣がない」が34.6%と1位になっている。

次いで、「費用がかかる」が20.9%、「置き場所がない」が17.4%と続いている。

《総合》



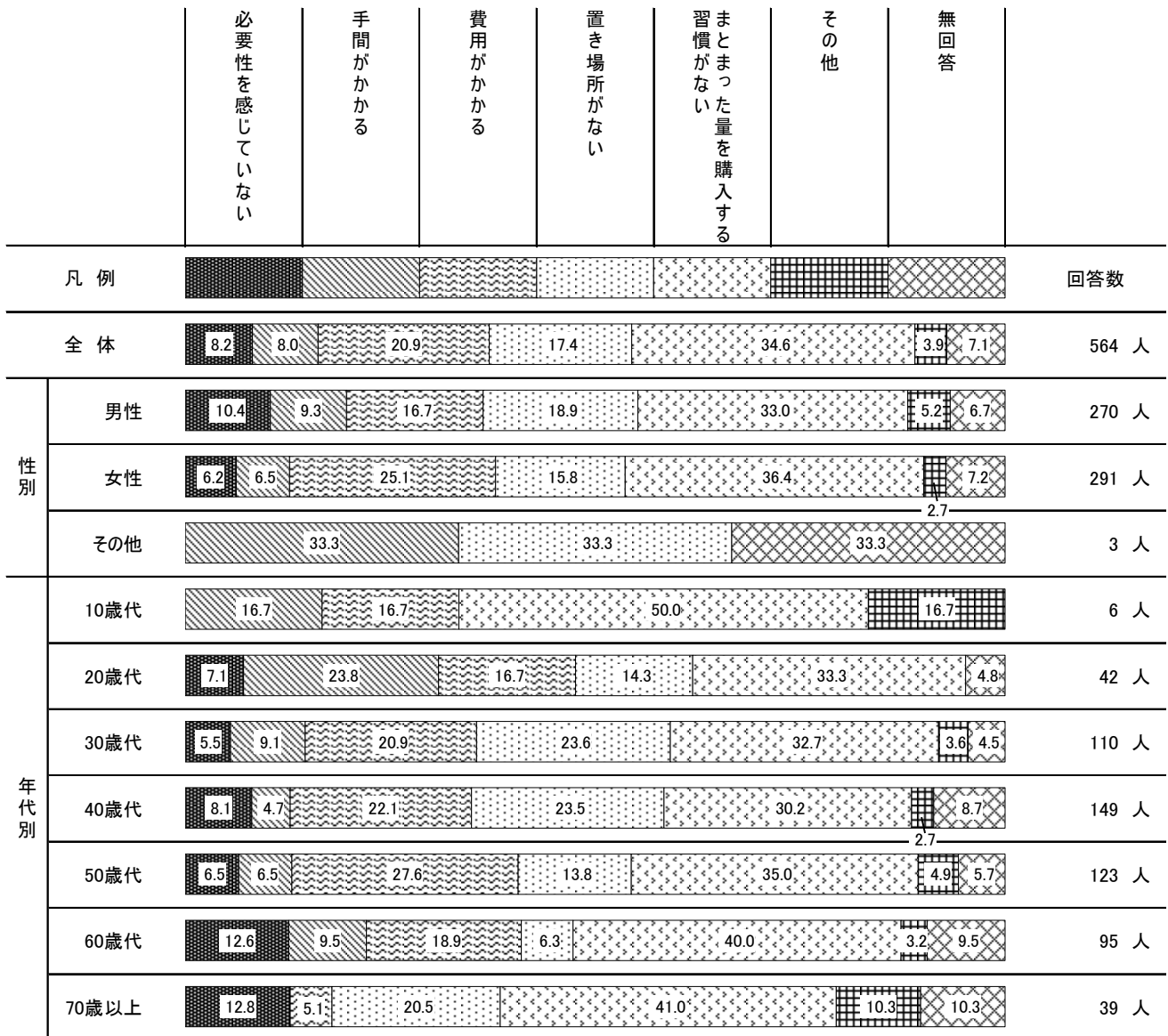
【性別】

男女ともに「まとまった量を購入する習慣がない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「まとまった量を購入する習慣がない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

【属性（性別・年代別）×飲料水のストック（問 21+問 22 の合計値が3日分未満と3日分以上の場合）】

「長期保存の飲料水+日常的に消費する飲料水の合計値が3日分未満と3日分以上の場合」を「性別」と「年代別」の各属性での結果を見ると、「男性」、「女性」、「すべての年代」で「3日分以上」が最も高くなっている。

≪性別・年代別×問 21(長期保存の飲料水) + 問 22(日常的に消費する飲料水)の合計≫

		全体	問21(長期保存の飲料水) + 問22(日常的に消費する飲料水)の合計値	
			3日分未満	3日分以上
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)				
全体		1,468	628	840
		100.0	42.8	57.2
性別	男性	654	42.0	58.0
	女性	808	43.3	56.7
	その他	3	66.7	33.3
年代	10歳代	23	47.8	52.2
	20歳代	112	38.4	61.6
	30歳代	258	42.6	57.4
	40歳代	382	43.5	56.5
	50歳代	322	44.7	55.3
	60歳代	256	44.9	55.1
	70歳以上	112	33.9	66.1

【属性（性別・年代別）×食料のストック（問 21+問 22 の合計値が3日分未満と3日以上の場合）】

「長期保存の食料+日常的に消費する食料の合計値が3日分未満と3日以上の場合」を「性別」と「年代別」の各属性での結果を見ると、「男性」、「女性」、「すべての年代」で「3日以上」が最も高くなっている。

≪性別・年代別×問 21（長期保存の食料）+ 問 22(日常的に消費する食料)の合計≫

		全体	問21（長期保存の食料）+ 問22(日常的に消費する食料)の合計値	
			3日分未満	3日以上
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)				
全体		1,468	564	904
		100.0	38.4	61.6
性別	男性	654	41.3	58.7
	女性	808	36.0	64.0
	その他	3	100.0	-
年代	10歳代	23	26.1	73.9
	20歳代	112	37.5	62.5
	30歳代	258	42.6	57.4
	40歳代	382	39.0	61.0
	50歳代	322	38.2	61.8
	60歳代	256	37.1	62.9
	70歳以上	112	34.8	65.2

問 23 大規模災害が発生すると、人命救助を行う緊急車両への給油が優先されるため、一般の車両はしばらくの間、ガソリンスタンドで給油を受けられなくなります。

したがって、災害が発生したときに車を使用するためには、平時からこまめに給油し、車の燃料を多めに保つことが必要です。

あなたは、普段、車への給油をいつ、どのくらい行いますか。(それぞれ1つだけ○印)

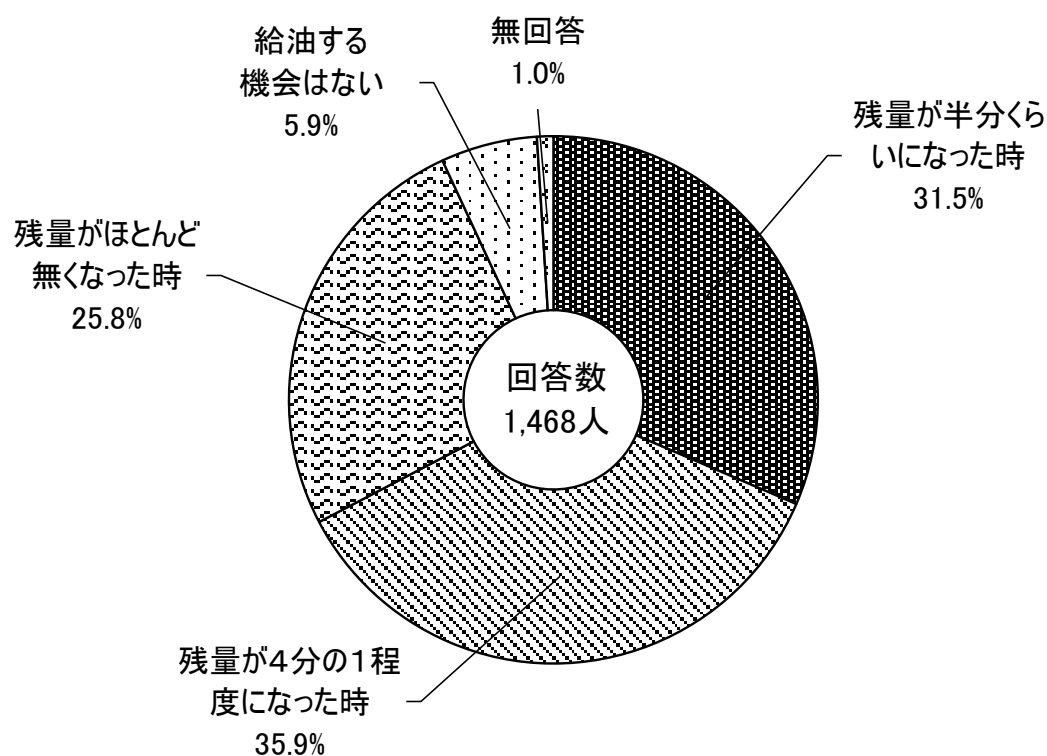
【いつ】

【総合】

「残量が4分の1程度になった時」が35.9%と1位になっている。

次いで、「残量が半分くらいになった時」が31.5%、「残量がほとんど無くなった時」が25.8%と続いている。

《総合》

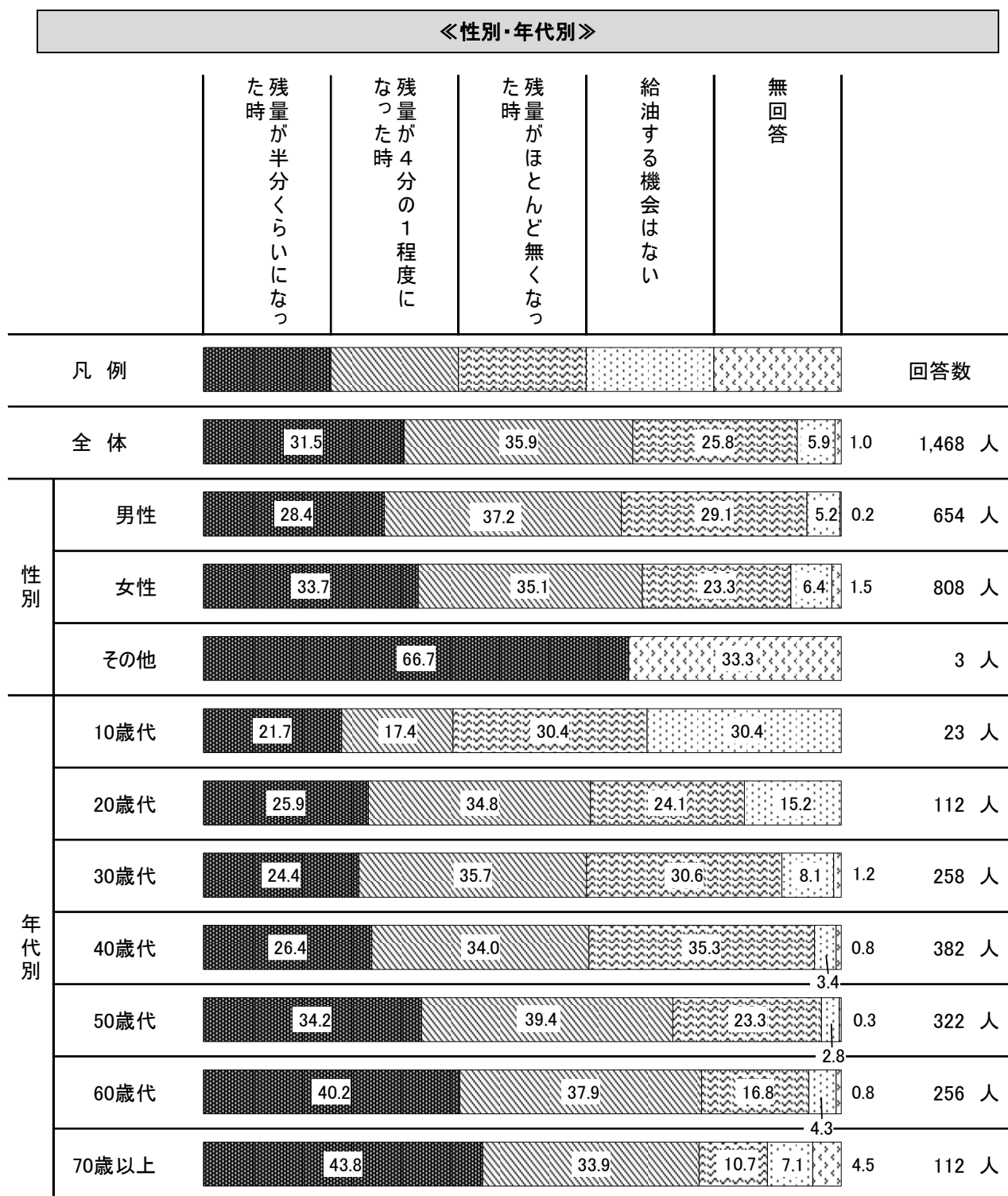


【性別】

男女ともに「残量が4分の1程度になった時」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では同率で「残量がほとんど無くなった時」と「給油する機会はない」が最も高く、20歳代、30歳代、50歳代では「残量が4分の1程度になった時」が、40歳代では「残量がほとんど無くなった時」、60歳代、70歳以上では「残量が半分くらいになった時」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

問 23 大規模災害が発生すると、人命救助を行う緊急車両への給油が優先されるため、一般の車両はしばらくの間、ガソリンスタンドで給油を受けられなくなります。

したがって、災害が発生したときに車を使用するためには、平時からこまめに給油し、車の燃料を多めに保つことが必要です。

あなたは、普段、車への給油をいつ、どのくらい行いますか。(それぞれ1つだけ○印)

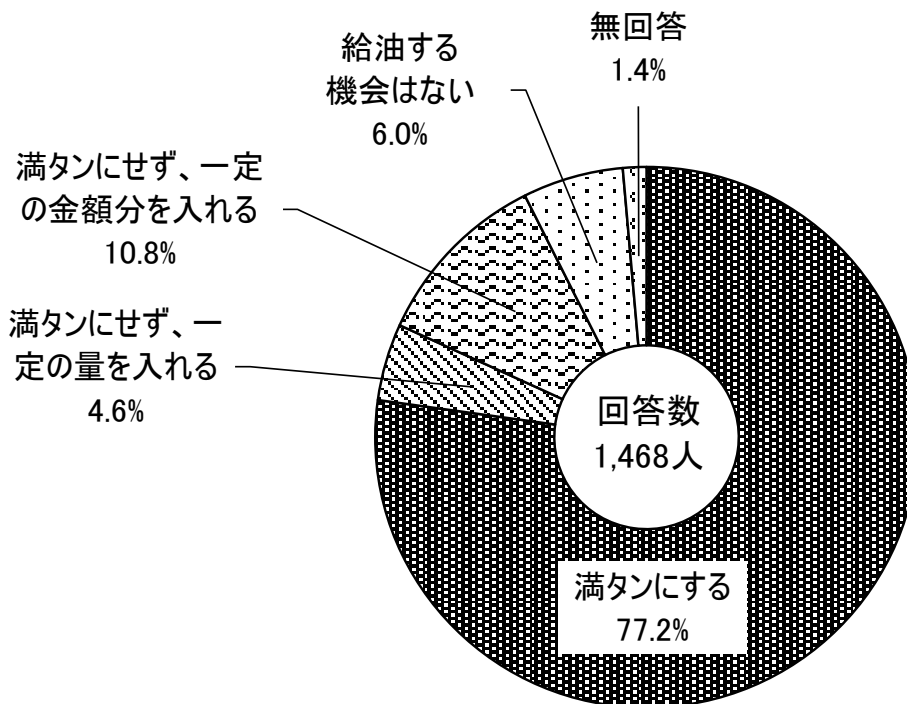
【どのくらい】

【総合】

「満タンにする」が77.2%と1位になっている。

次いで、「満タンにせず、一定の金額分を入れる」が10.8%、「給油する機会はない」が6.0%と続いている。

《総合》

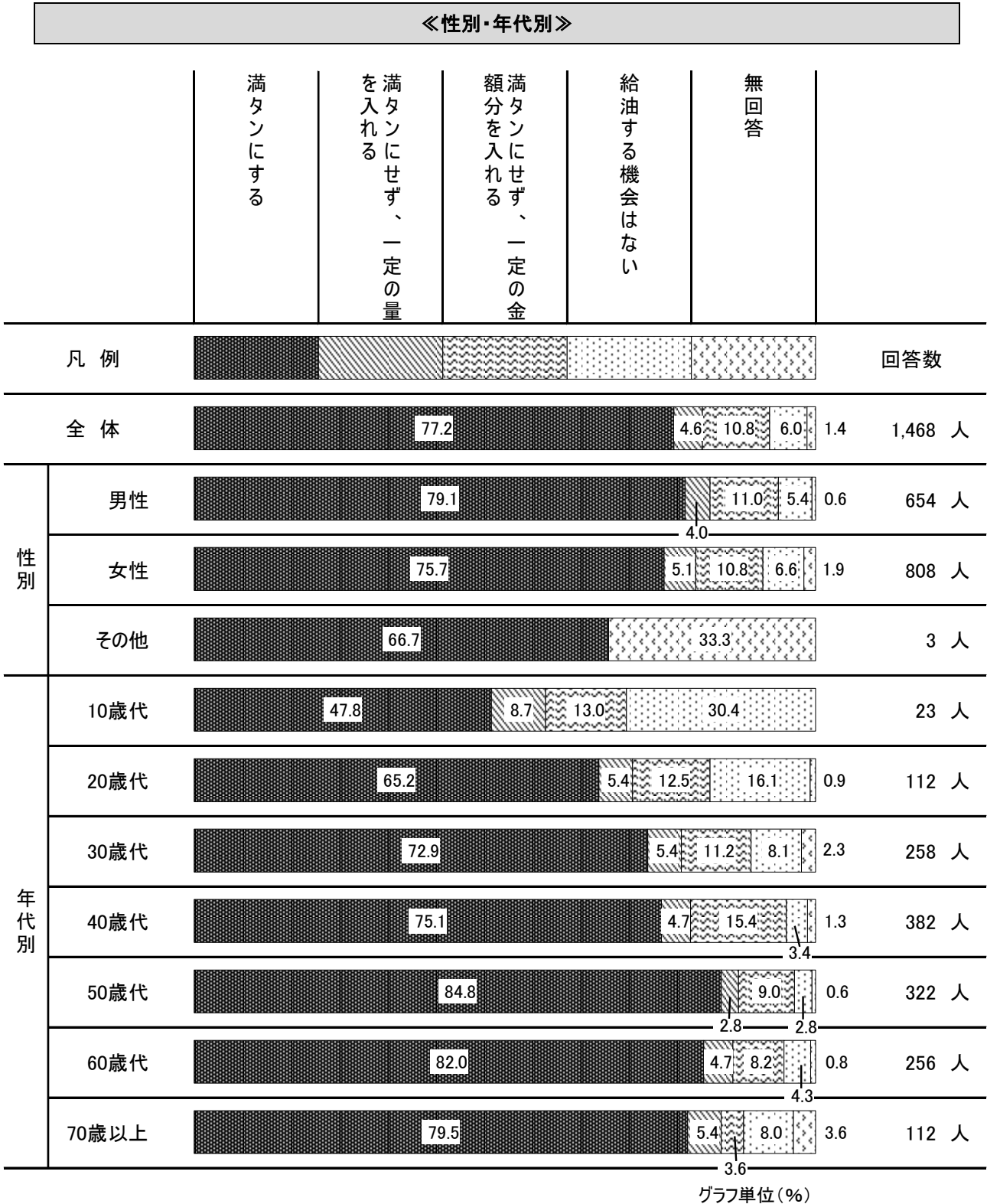


【性別】

男女ともに「満タンにする」が最も高くなっており、男女ともに75%以上となっている。

【年代別】

すべての年代「満タンにする」が最も高くなっている。



【問 23 【いつ】 × 【どのくらい】 のクロス分析】

「給油のタイミングは。」という質問に対し、「給油の量は。」の結果を見ると、すべてのタイミングで「満タンにする」が最も高くなっている。

《問 23 【いつ】 × 【どのくらい】 のクロス分析》

		全体	給油量			
			満タンにする	満タンにせず、一定の量を入れる	満タンにせず、一定の金額分を入れる	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)						
全体		1,468 100.0	1,134 77.2	67 4.6	159 10.8	20 1.4
給油のタイミング	残量が半分くらいになった時	462	92.4	2.4	4.5	0.6
	残量が4分の1程度になった時	527	79.9	7.4	12.1	0.4
	残量がほとんど無くなった時	379	75.2	4.5	19.5	0.5

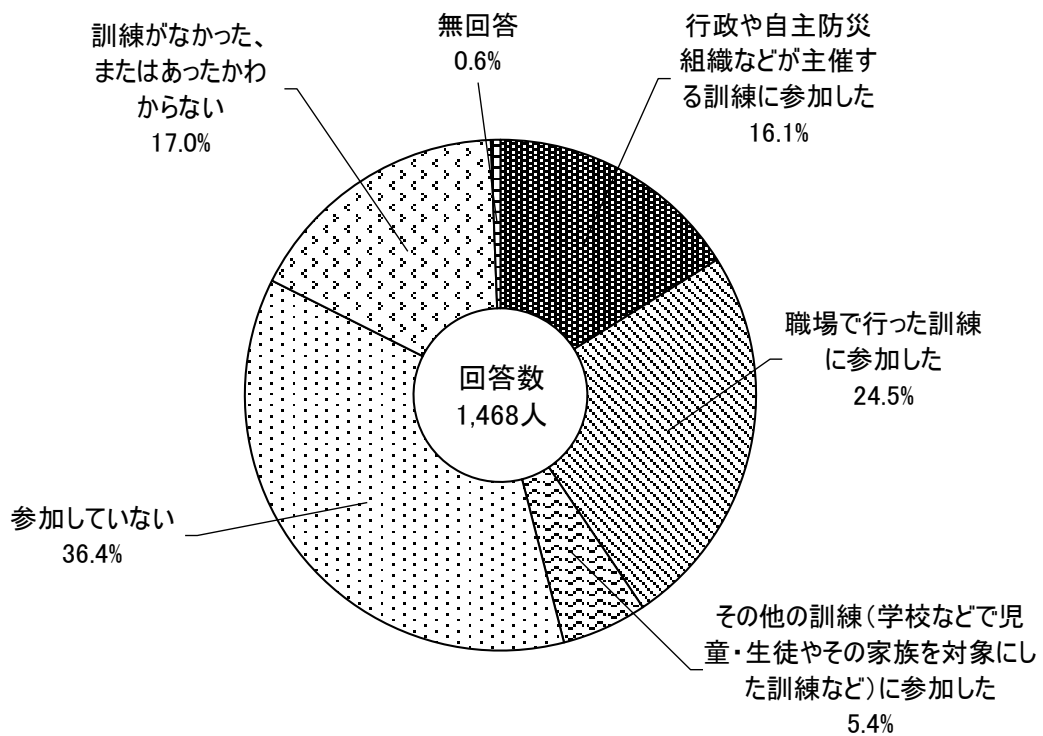
問 24 過去1年間に地域や職場の地震に関する防災訓練に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「参加していない」が36.4%と1位になっている。

次いで、「職場で行った訓練に参加した」が24.5%、「訓練がなかった、またはあったかわからない」が17.0%と続いている。

《総合》



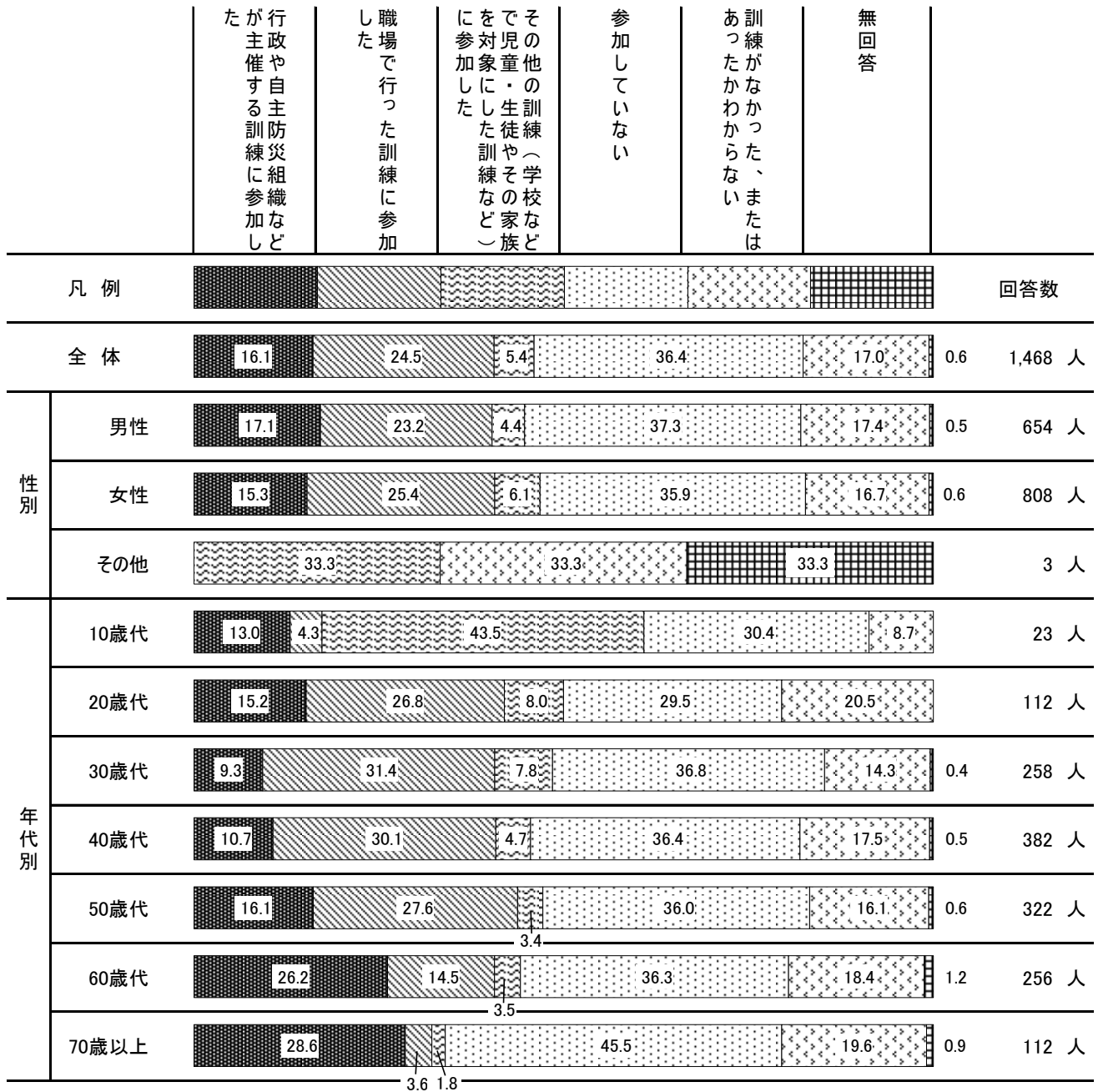
【性別】

男女ともに「参加していない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では「その他の訓練（学校などで児童・生徒やその家族を対象にした訓練など）」に参加した」が最も高く、20歳代から70歳以上では「参加していない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位 (%)

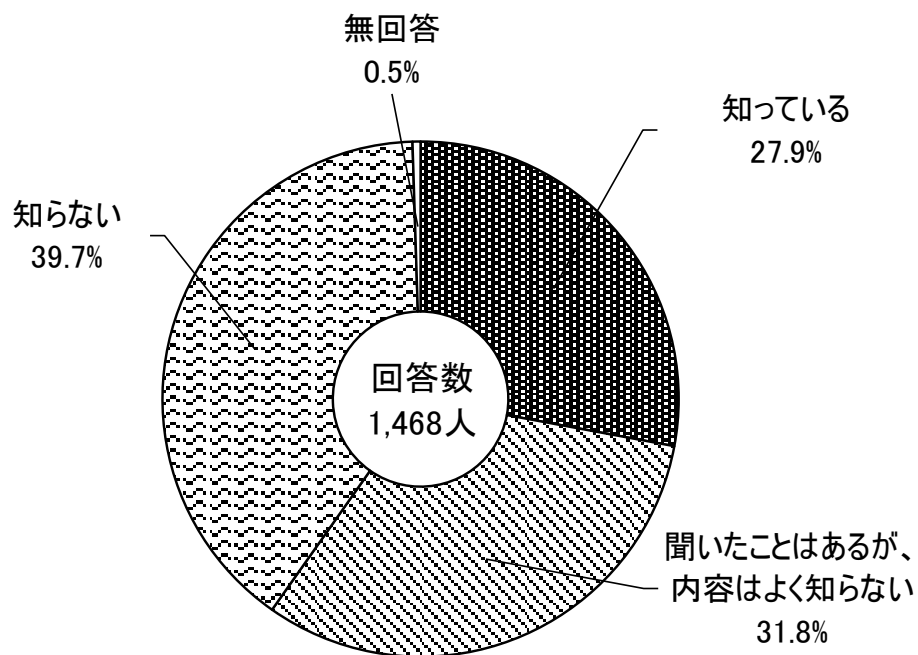
問 25 「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることについて、ご存じでしたか。(1つだけ○印)

【総合】

「知らない」が39.7%と1位になっている。

次いで、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が31.8%、「知っている」が27.9%となっている。

《総合》

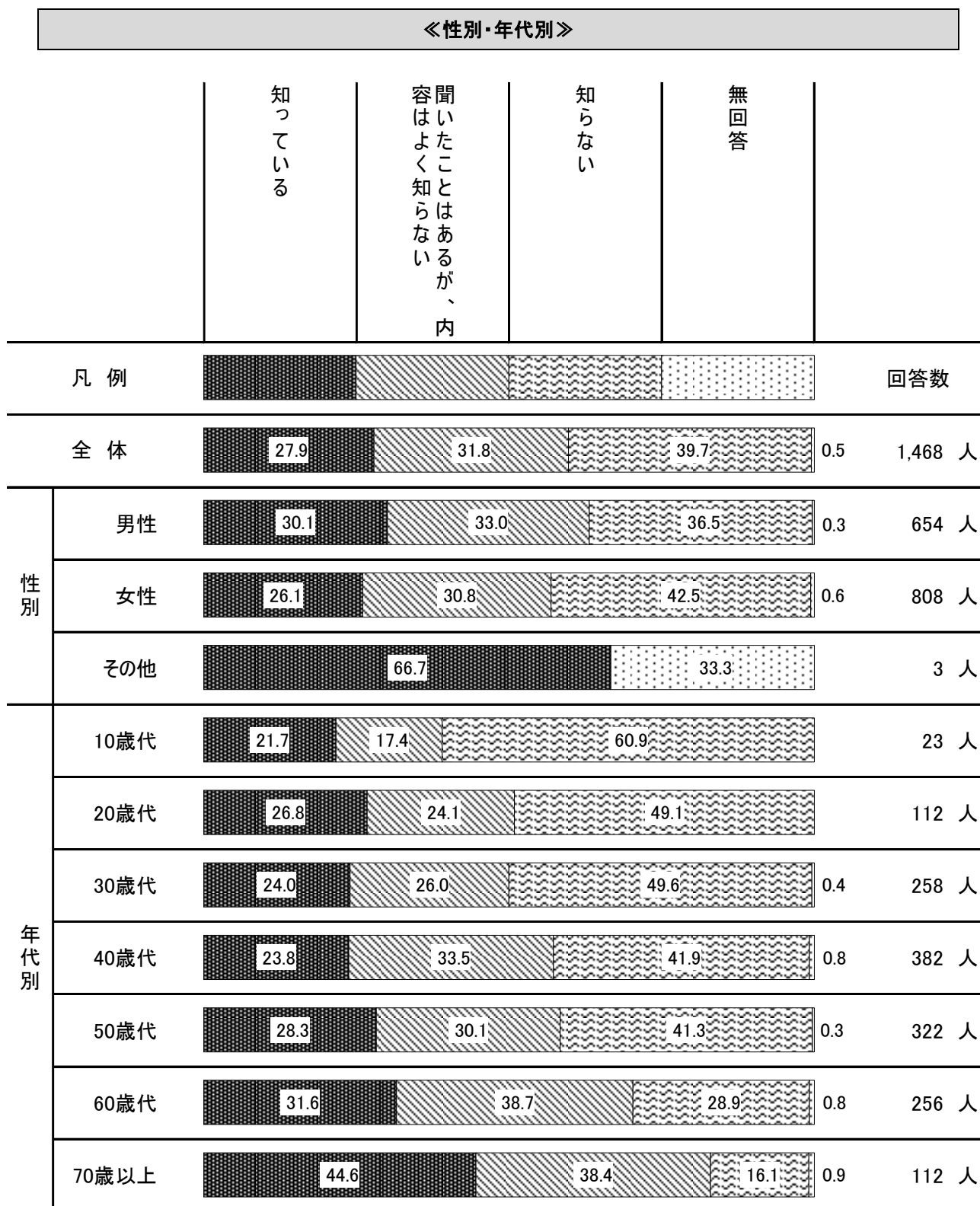


【性別】

男女ともに「知らない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代から50歳代では「知らない」が最も高く、60歳代では「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が、70歳以上では「知っている」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

【問 25×問 19 副問 2 のクロス分析】

「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることについて、ご存じでしたか。」という質問に対し、「津波の到達想定時間は。」の結果を見ると、「知っている」では「10分から20分」が最も高く、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」と「知らない」では「わからない」が最も高くなっている。

《問 25×問 19 副問 2 のクロス分析》

		全体	津波の到達想定時間								
			0 分 か ら 5 分	5 分 か ら 10 分	10 分 か ら 20 分	20 分 か ら 30 分	30 分 か ら 40 分	40 分 か ら 60 分	60 分 以 上	わ か ら な い	無 回 答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)											
全体		453 100.0	58 12.8	75 16.6	77 17.0	52 11.5	24 5.3	28 6.2	19 4.2	100 22.1	20 4.4
い 報 て 「 知 が 南 海 ト ラ フ 地 震 臨 時 に 情 報 が 発 表 さ れ る こ と に 情 づ か ら な い	知っている	122	16.4	19.7	23.0	14.8	4.9	4.9	4.1	8.2	4.1
	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	149	12.1	16.1	17.4	11.4	2.7	6.7	4.7	25.5	3.4
	知らない	180	11.1	14.4	12.8	9.4	7.8	6.7	3.9	28.9	5.0

5. 防災アプリの利用について

問26 防災情報として何を重視しますか。（当てはまるものすべてに○印）

【総合】

「気象情報（大雨、台風情報、土砂災害危険度情報等）」が90.3%と1位になっている。

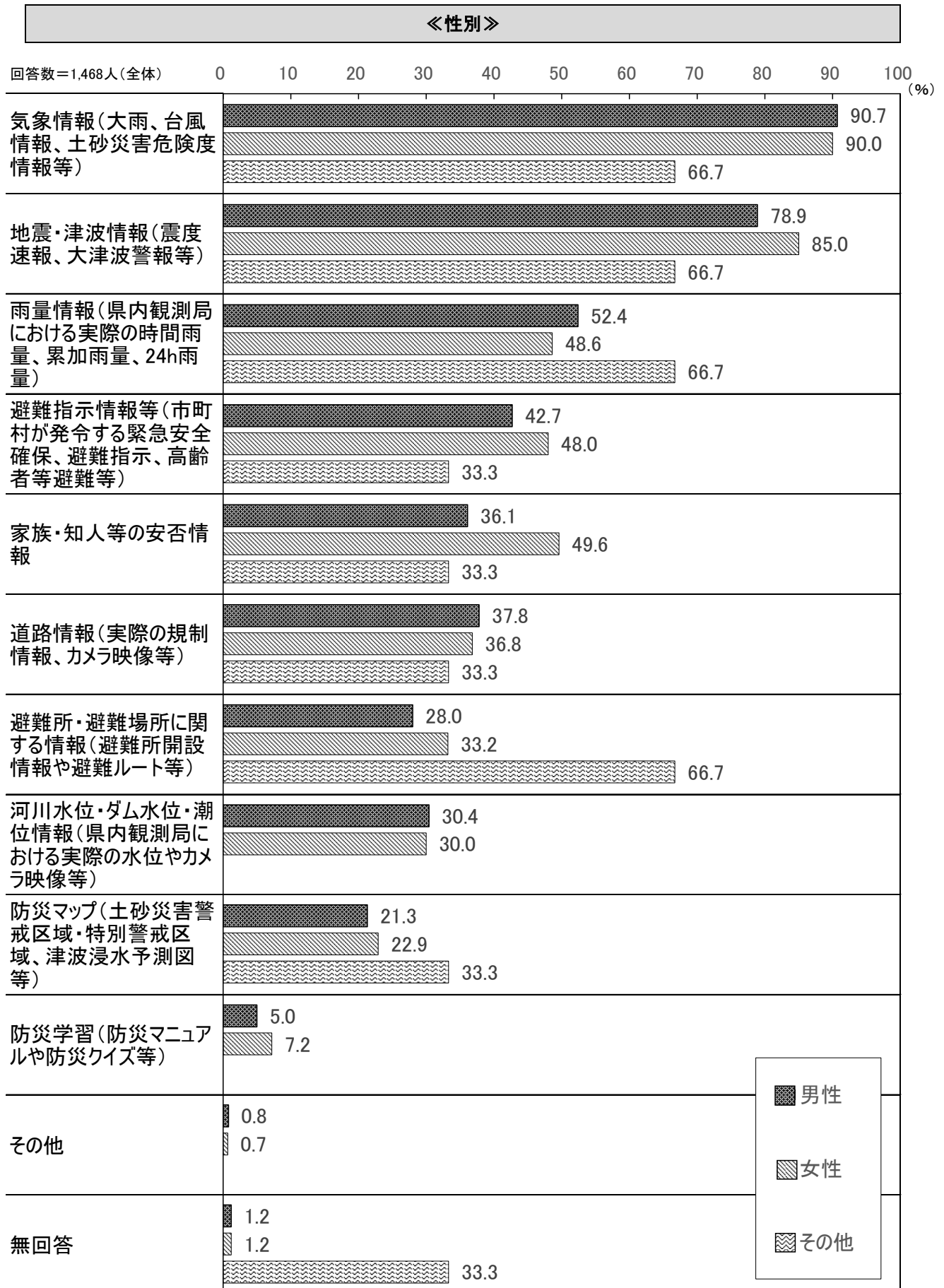
次いで、「地震・津波情報（震度速報、大津波警報等）」が82.2%、「雨量情報（県内観測局における実際の時間雨量、累加雨量、24h雨量）」が50.4%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,468 人
気象情報（大雨、台風情報、土砂災害危険度情報等）	90.3	1,325 人
地震・津波情報（震度速報、大津波警報等）	82.2	1,207 人
雨量情報（県内観測局における実際の時間雨量、累加雨量、24h雨量）	50.4	740 人
避難指示情報等（市町村が発令する緊急安全確保、避難指示、高齢者等避難等）	45.6	669 人
家族・知人等の安否情報	43.6	640 人
道路情報（実際の規制情報、カメラ映像等）	37.1	545 人
避難所・避難場所に関する情報（避難所開設情報や避難ルート等）	30.9	453 人
河川水位・ダム水位・潮位情報（県内観測局における実際の水位やカメラ映像等）	30.1	442 人
防災マップ（土砂災害警戒区域・特別警戒区域、津波浸水予測図等）	22.1	325 人
防災学習（防災マニュアルや防災クイズ等）	6.2	91 人
その他	0.7	11 人
無回答	1.3	19 人

グラフ単位(%)

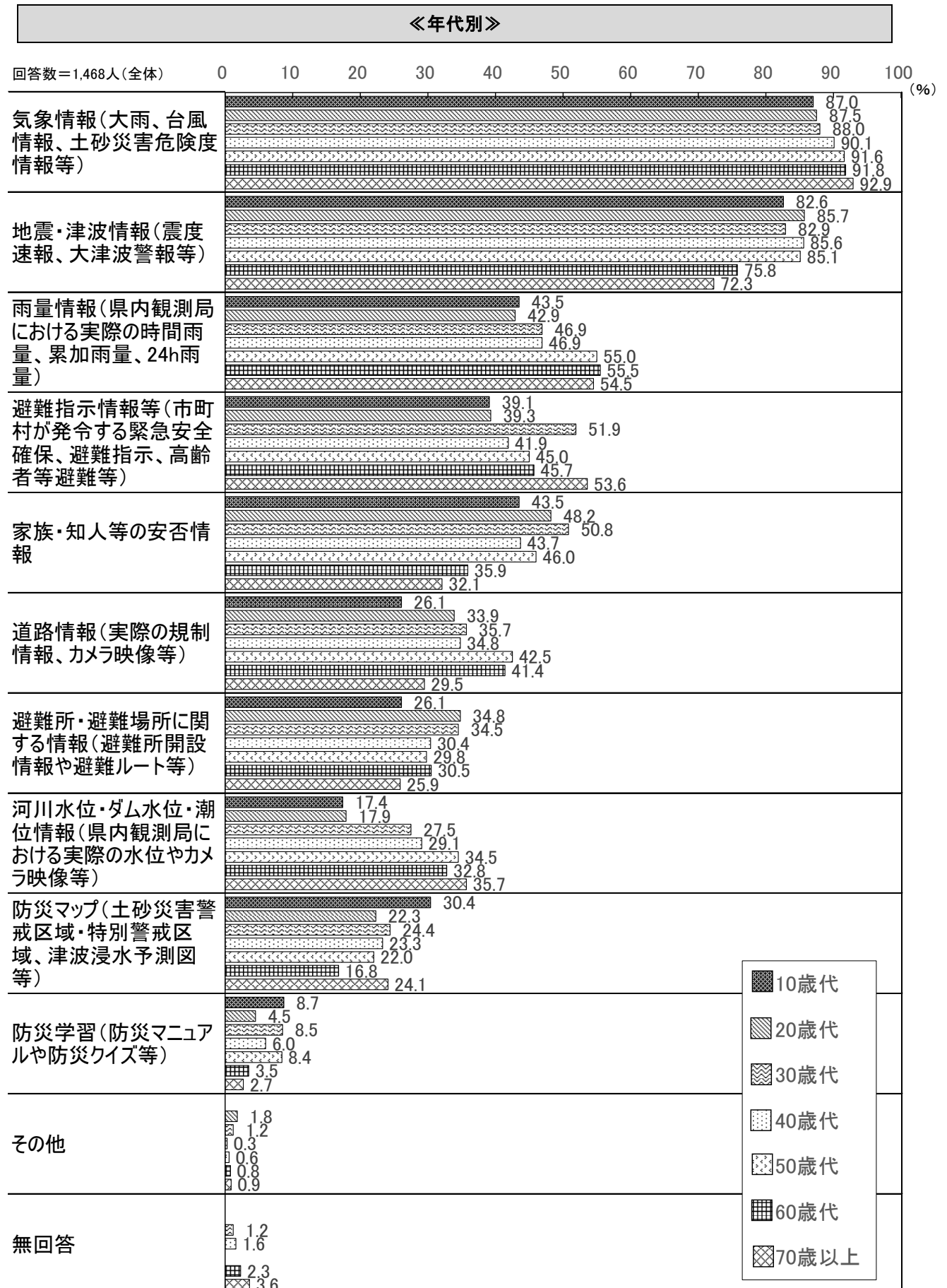
【性別】

男女ともに「気象情報（大雨、台風情報、土砂災害危険度情報等）」が最も高くなっている。
また、女性では「家族・知人等の安否情報」が49.6%と3番目となっている。



【年代別】

すべての年代で「気象情報（大雨、台風情報、土砂災害危険度情報等）」が最も高くなっている。



問 27 気象情報(大雨、台風情報等)や避難情報(避難指示や避難所開設情報等)などの防災情報を入手するために、スマートフォンやタブレットで防災アプリを利用していますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「ウェザーニュース」が30.7%と1位になっている。

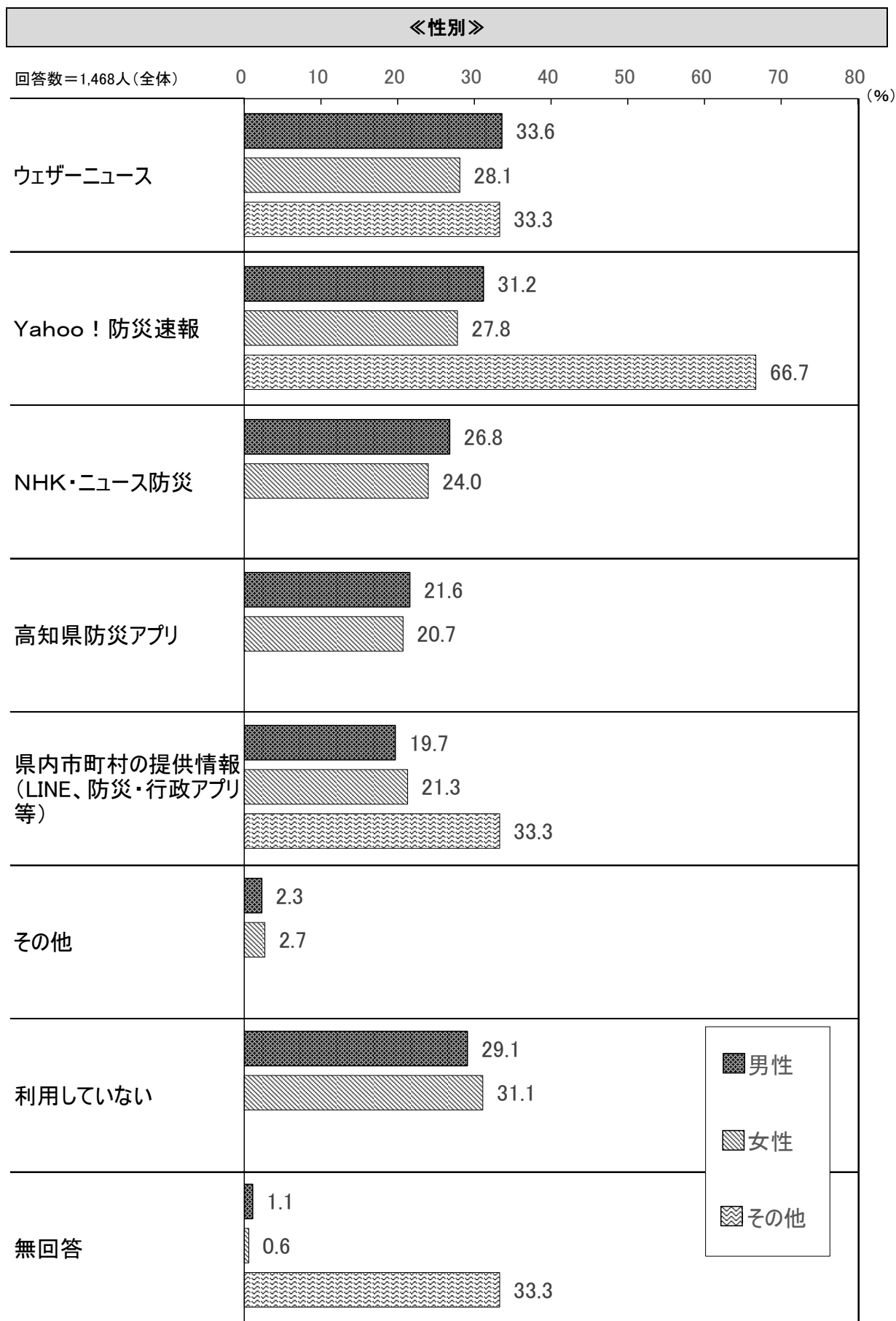
次いで、「利用していない」が30.0%、「Yahoo!防災速報」が29.4%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,468 人
ウェザーニュース	30.7	451 人
Yahoo!防災速報	29.4	432 人
NHK・ニュース防災	25.2	370 人
高知県防災アプリ	21.2	311 人
県内市町村の提供情報 (LINE、防災・行政アプリ等)	20.6	303 人
その他	2.5	37 人
利用していない	30.0	441 人
無回答	0.9	13 人

グラフ単位(%)

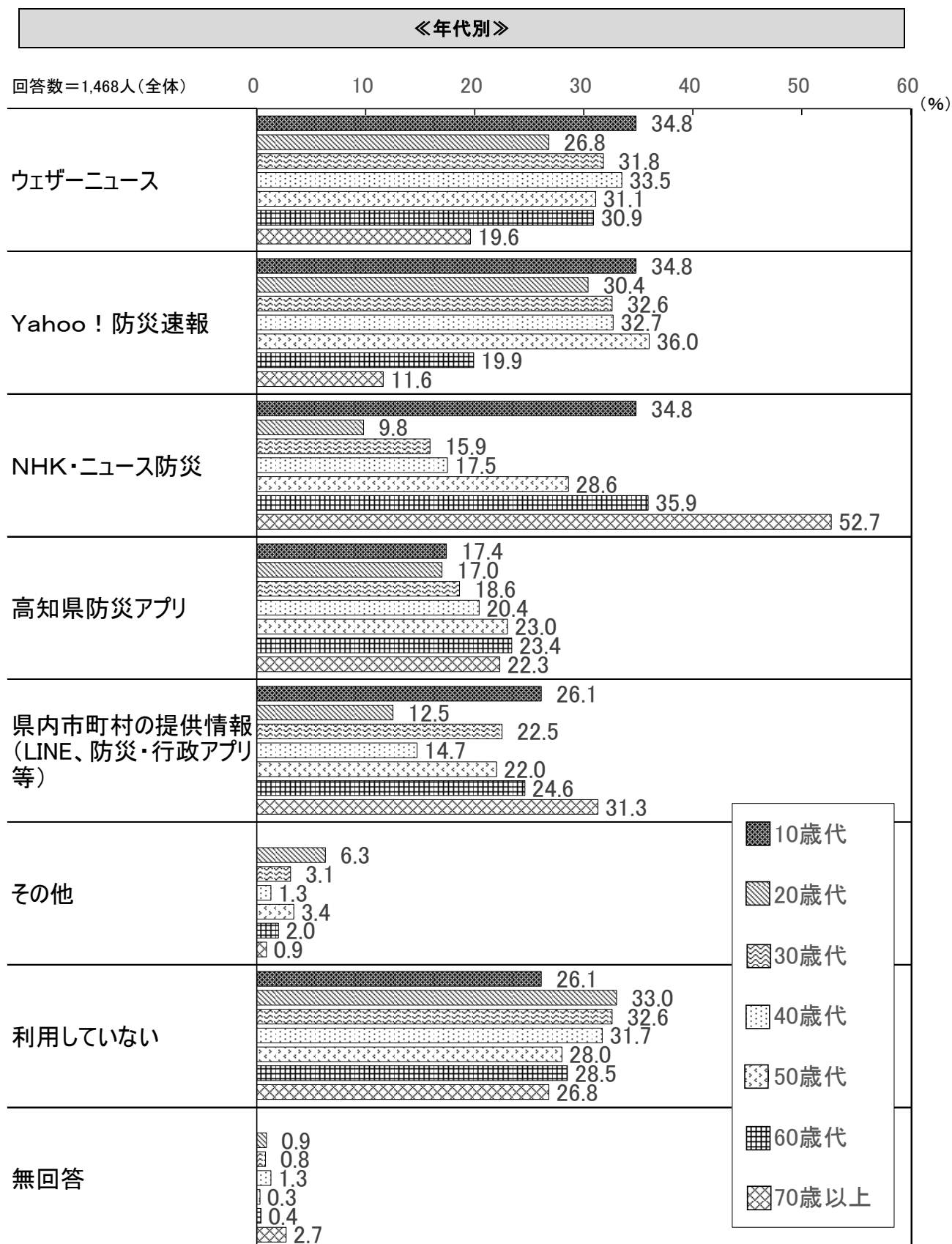
【性別】

男性では「ウェザーニュース」が最も高く、女性では「利用していない」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では同率で「ウェザーニュース」、「Yahoo!防災速報」、「NHK・ニュース防災」が最も高く、20歳代では「利用していない」が、30歳代では同率で「Yahoo!防災速報」、「利用していない」が、40歳代では「ウェザーニュース」が、50歳代では「Yahoo!防災速報」が、60歳代、70歳以上では「NHK・ニュース防災」が最も高くなっている。



副問1 (問 27 で「1～6^(※)」を選んだ方のみお答えください。)

防災アプリを利用したきっかけは何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

※問 27 の選択肢「1～6」…「1.高知県防災アプリ」、「2.県内市町村の提供情報(LINE、防災・行政アプリ等)」、「3.NHK・ニュース防災」、「4.Yahoo! 防災速報」、「5.ウェザーニュース」、「6.その他」

【総合】

「インターネット (WEBCM、バナー広告、YouTube 動画等)」が 46.4%と 1 位になっている。

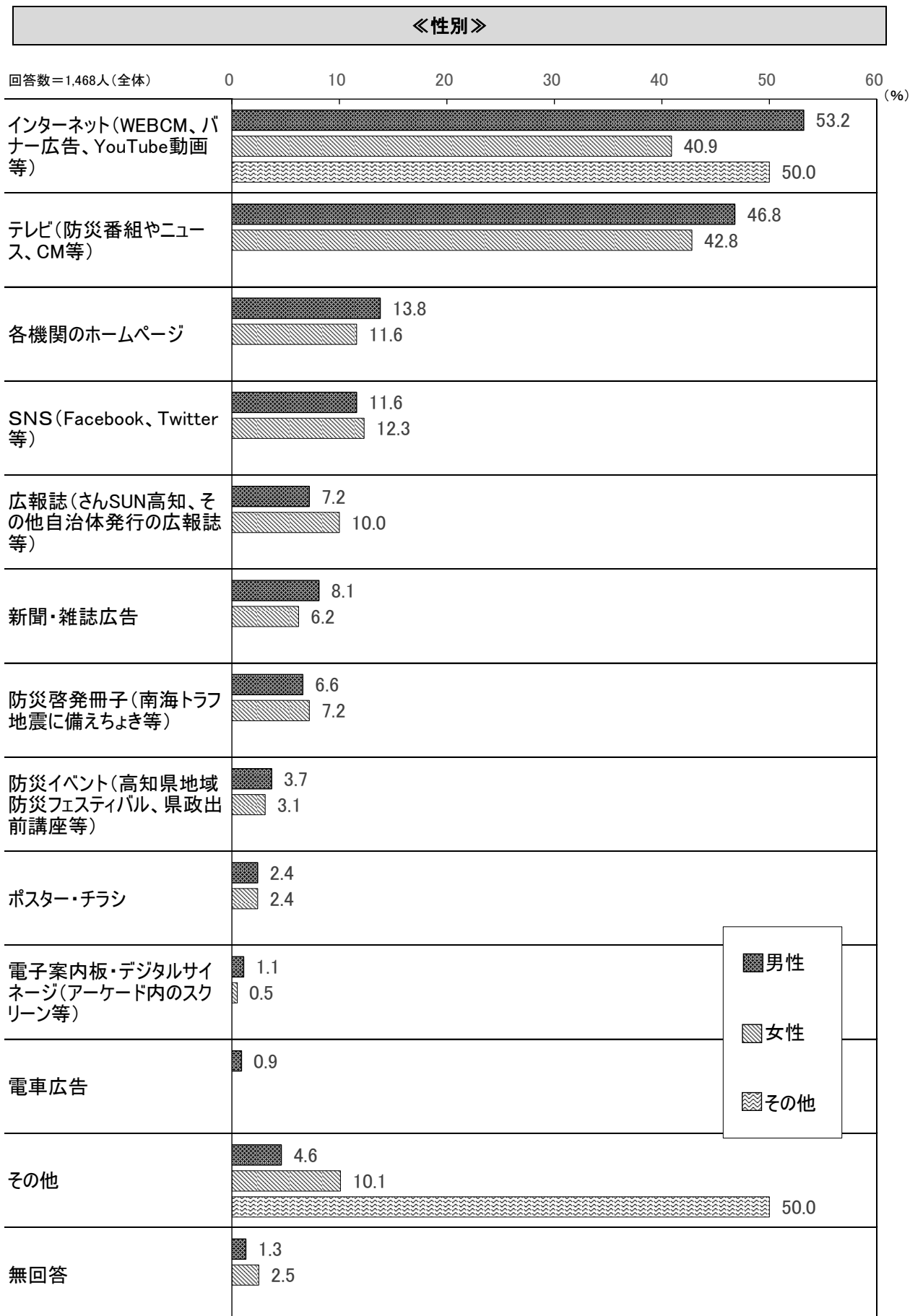
次いで、「テレビ (防災番組やニュース、CM 等)」が 44.5%、「各機関のホームページ」が 12.8%となっている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,014 人
インターネット (WEBCM、バナー広告、YouTube 動画等)	46.4	471 人
テレビ (防災番組やニュース、CM 等)	44.5	451 人
各機関のホームページ	12.8	130 人
SNS (Facebook、Twitter 等)	11.9	121 人
広報誌 (さんSUN高知、その他自治体発行の広報誌等)	8.7	88 人
新聞・雑誌広告	7.0	71 人
防災啓発冊子 (南海トラフ地震に備えちよき等)	6.9	70 人
防災イベント (高知県地域防災フェスティバル、県政出前講座等)	3.4	34 人
ポスター・チラシ	2.5	25 人
電子案内板・デジタルサイネージ (アーケード内のスクリーン等)	0.8	8 人
電車広告	0.4	4 人
その他	7.7	78 人
無回答	2.0	20 人

グラフ単位 (%)

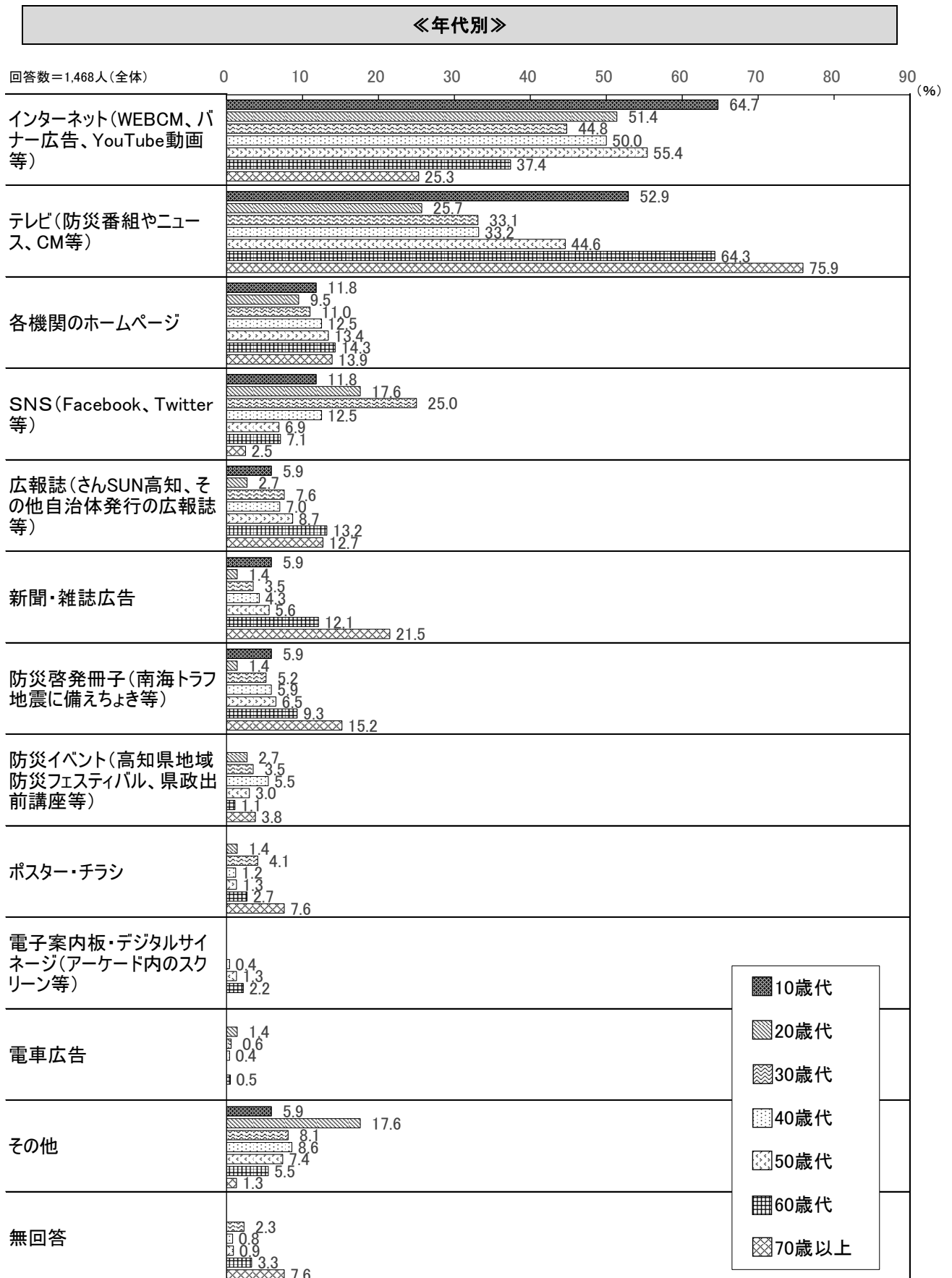
【性別】

男性では「インターネット（WEBCM、バナー広告、YouTube動画等）」が最も高く、女性では「テレビ（防災番組やニュース、CM等）」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代から50歳代では「インターネット（WEBCM、バナー広告、YouTube動画等）」が最も高く、60歳代、70歳以上では「テレビ（防災番組やニュース、CM等）」が最も高くなっている。



6. かかりつけ医及びかかりつけ薬局について

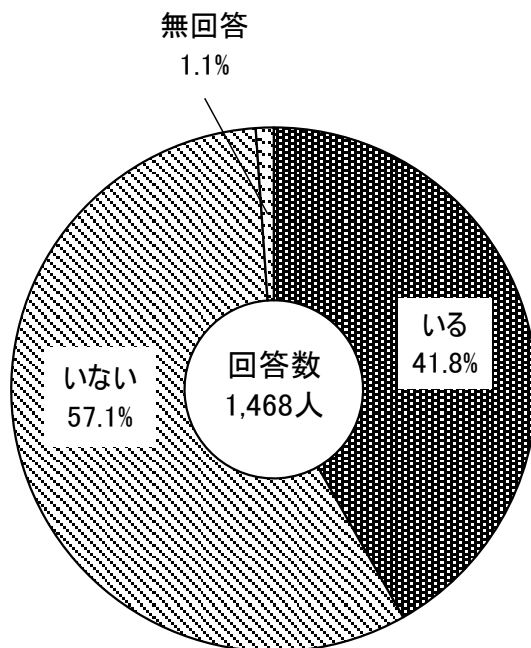
問 28 日ごろから診療を受けるだけでなく、病気や健康に関して相談することができる、かかりつけ医としている医師がいますか。(1つだけ○印)

【総合】

「いない」が 57.1%と 1 位になっている。

次いで、「いる」が 41.8%となっている。

《総合》

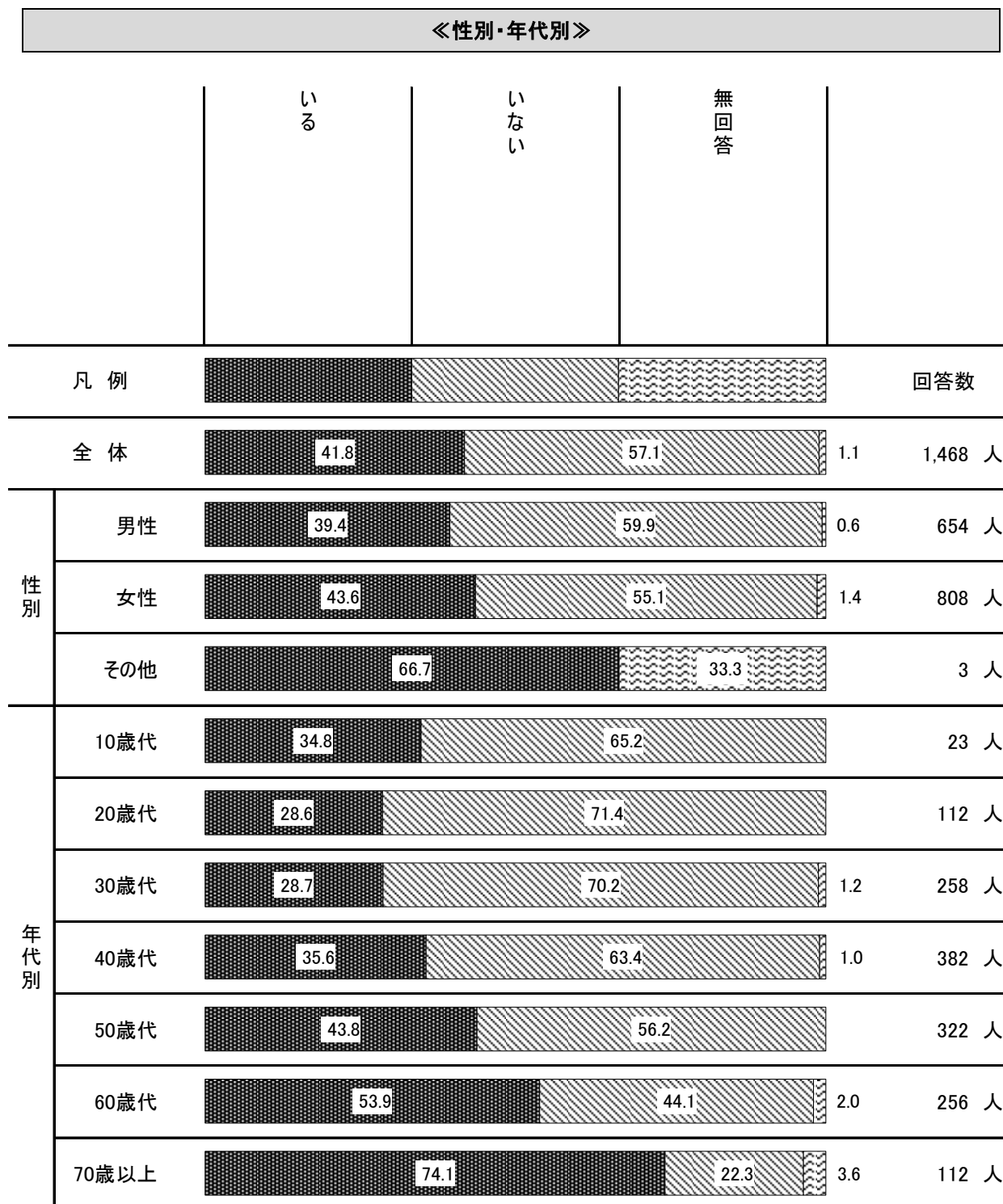


【性別】

男女ともに「いない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代から50歳代では「いない」が最も高く、60歳代、70歳以上では「いる」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

問 29 かかりつけ医に期待することは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

「どんな病気でもまずは診療できること」が60.3%と1位になっている。

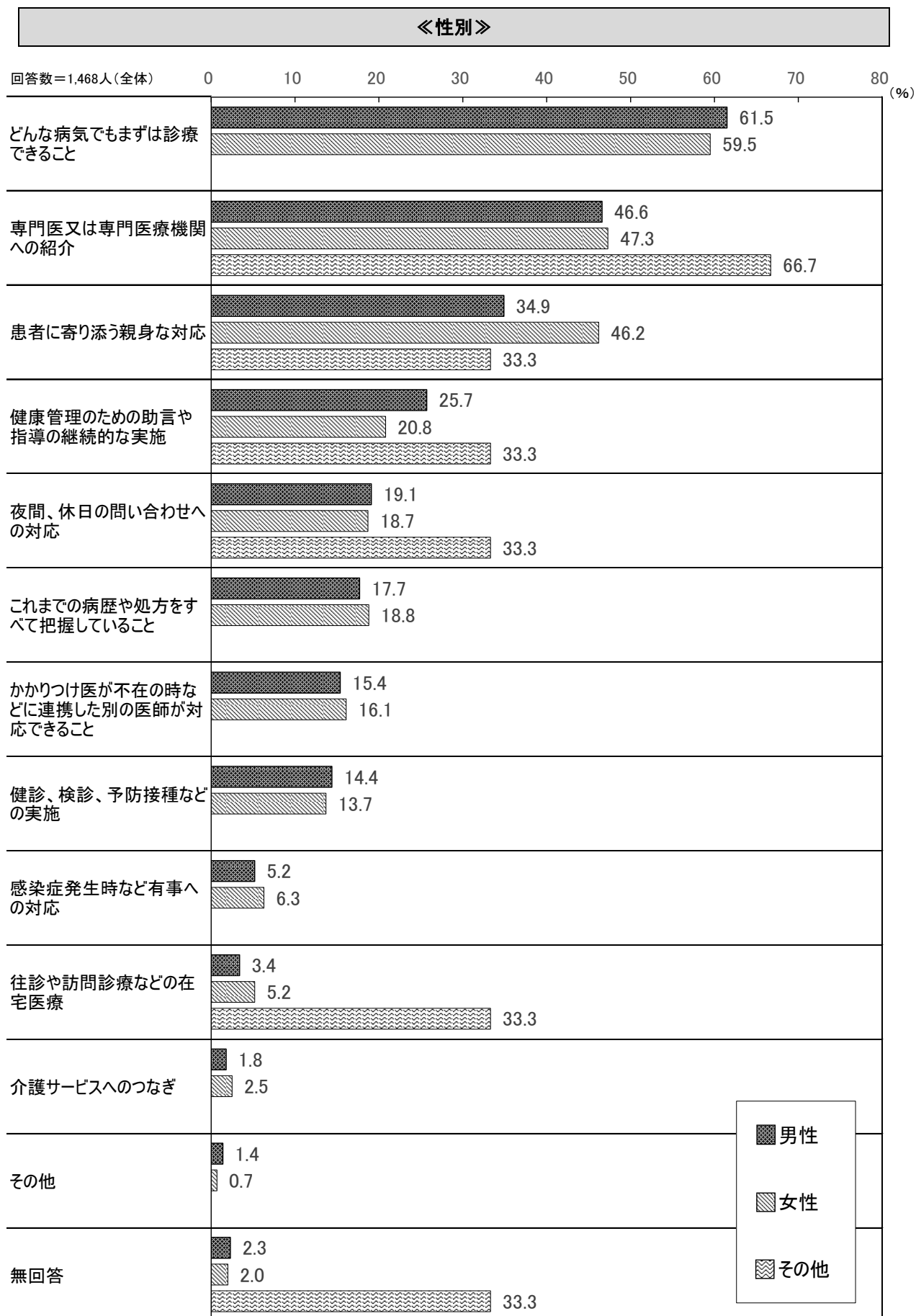
次いで、「専門医又は専門医療機関への紹介」が47.0%、「患者に寄り添う親身な対応」が41.0%と続いている。

《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,468 人
どんな病気でもまずは診療できること	60.3	885 人
専門医又は専門医療機関への紹介	47.0	690 人
患者に寄り添う親身な対応	41.0	602 人
健康管理のための助言や指導の継続的な実施	23.2	340 人
夜間、休日の問い合わせへの対応	18.9	278 人
これまでの病歴や処方すべてを把握していること	18.4	270 人
かかりつけ医が不在の時などに連携した別の医師が対応できること	15.7	231 人
健診、検診、予防接種などの実施	14.0	205 人
感染症発生時など有事への対応	5.8	85 人
往診や訪問診療などの在宅医療	4.4	65 人
介護サービスへのつなぎ	2.2	32 人
その他	1.0	15 人
無回答	2.2	32 人

グラフ単位(%)

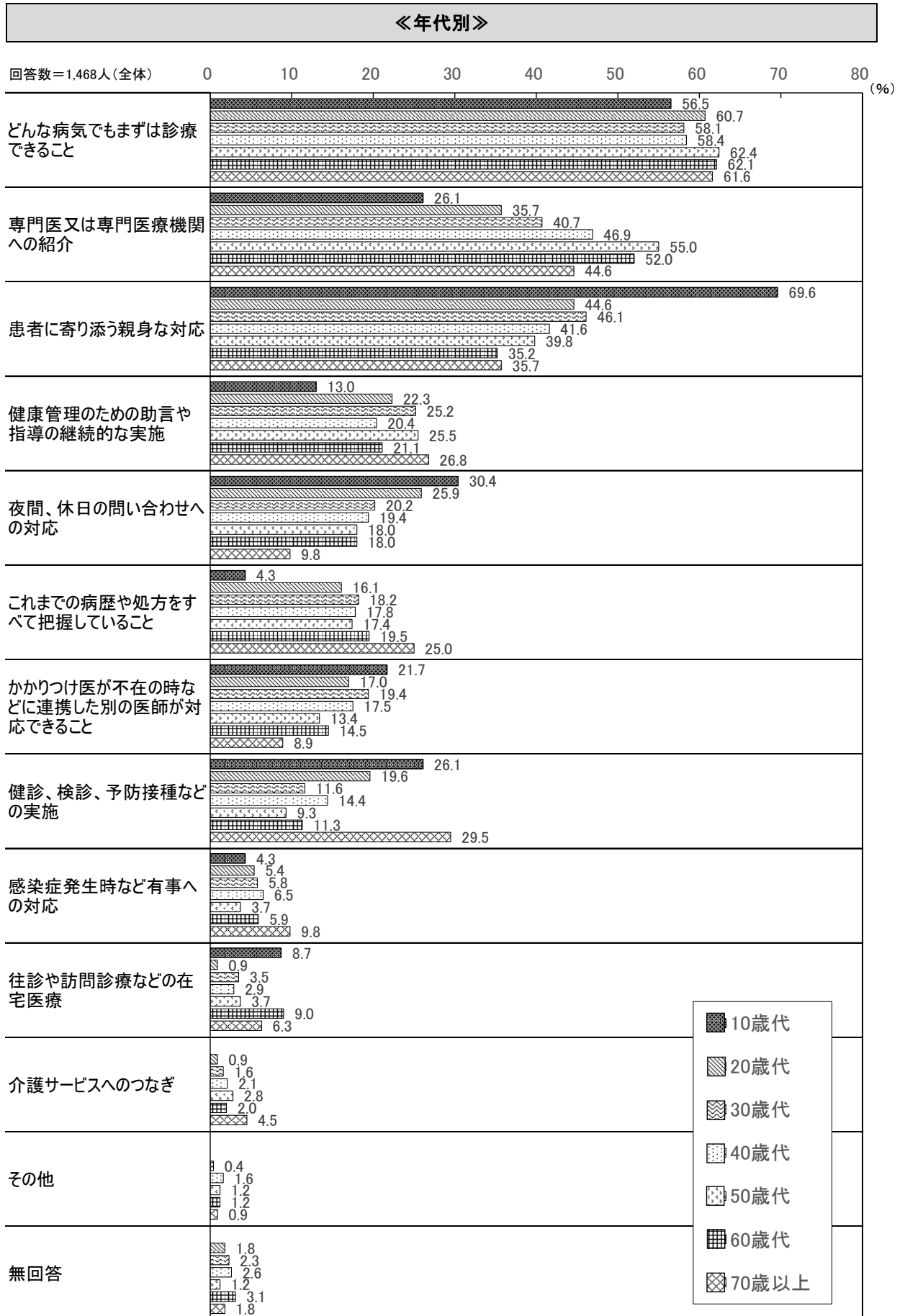
【性別】

男女ともに「どんな病気でもまずは診療できること」が最も高くなっている。また、「患者に寄り添う親身な対応」では女性が46.2%と、男性の34.9%より11.3ポイント高い。



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「どんな病気でもまずは診療できること」が最も高く、10歳代では「患者に寄り添う親身な対応」が最も高く、他の年代より20ポイント以上高くなっている。



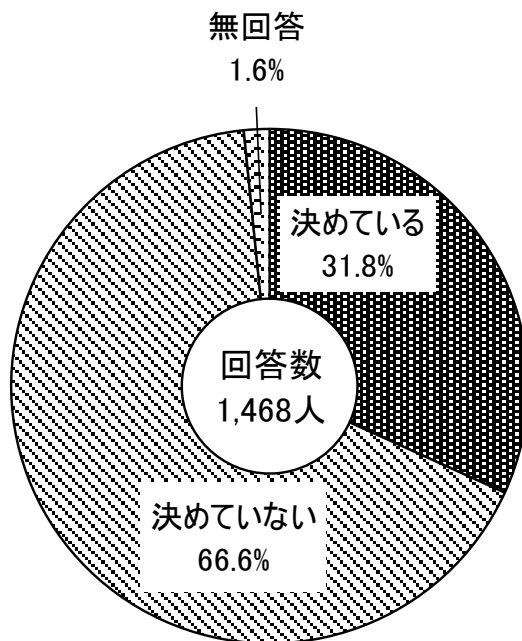
問 30 かかりつけ薬局を決めていますか。(1つだけ○印)

【総合】

「決めていない」が66.6%と1位になっている。

次いで、「決めている」が31.8%となっている。

《総合》

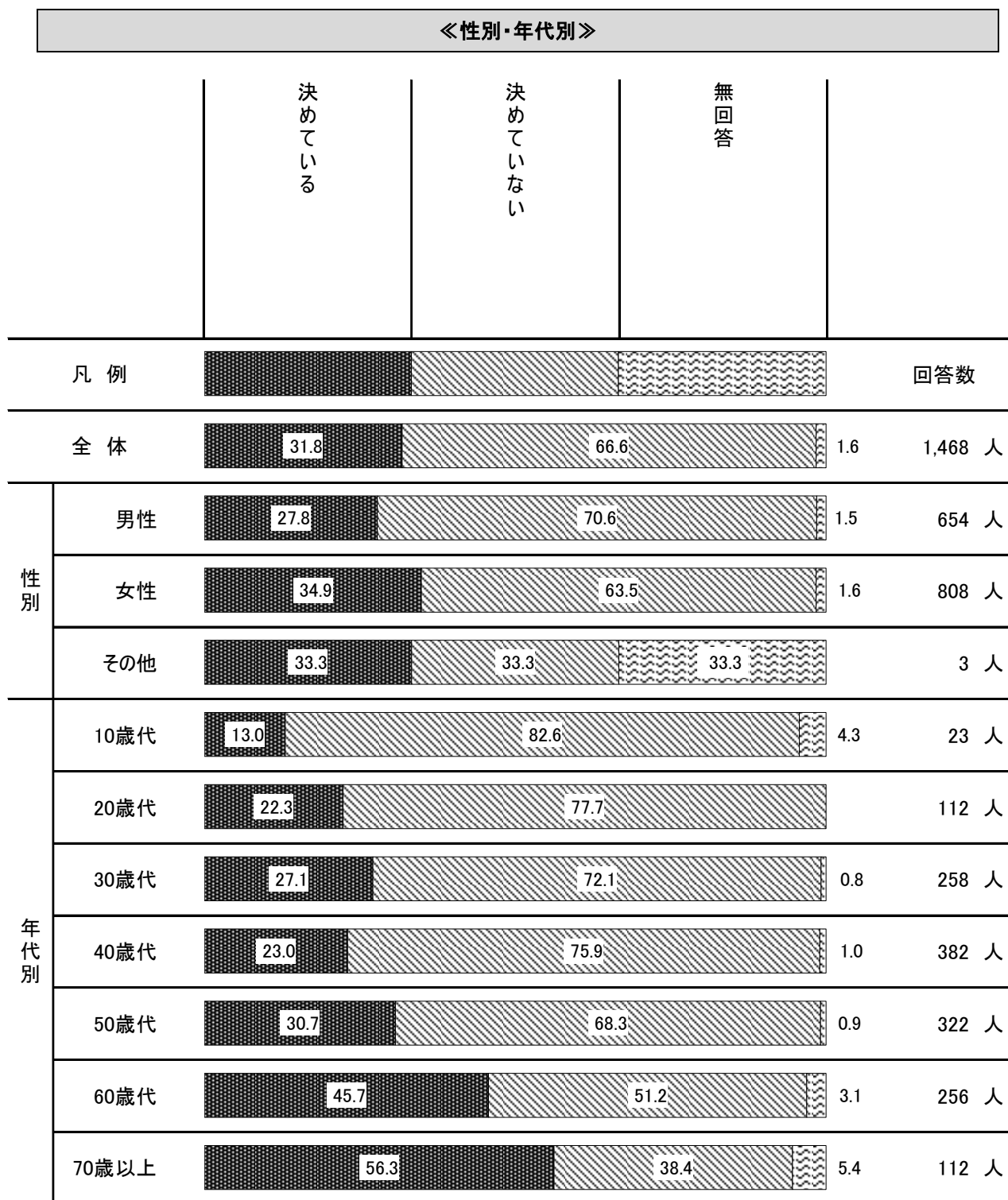


【性別】

男女ともに「決めていない」が最も高くなっている。

【年代別】

70歳以上を除くすべての年代で「決めていない」が最も高く、70歳以上では「決めている」が最も高くなっている。また、年代が高い方が「決めている」の割合が高くなる傾向にある。



グラフ単位(%)

問 31 薬剤師にどのようなことを相談したいと思いますか。(3つまで○印)

【総合】

「薬の副作用や飲み合わせ」が74.0%と1位になっている。

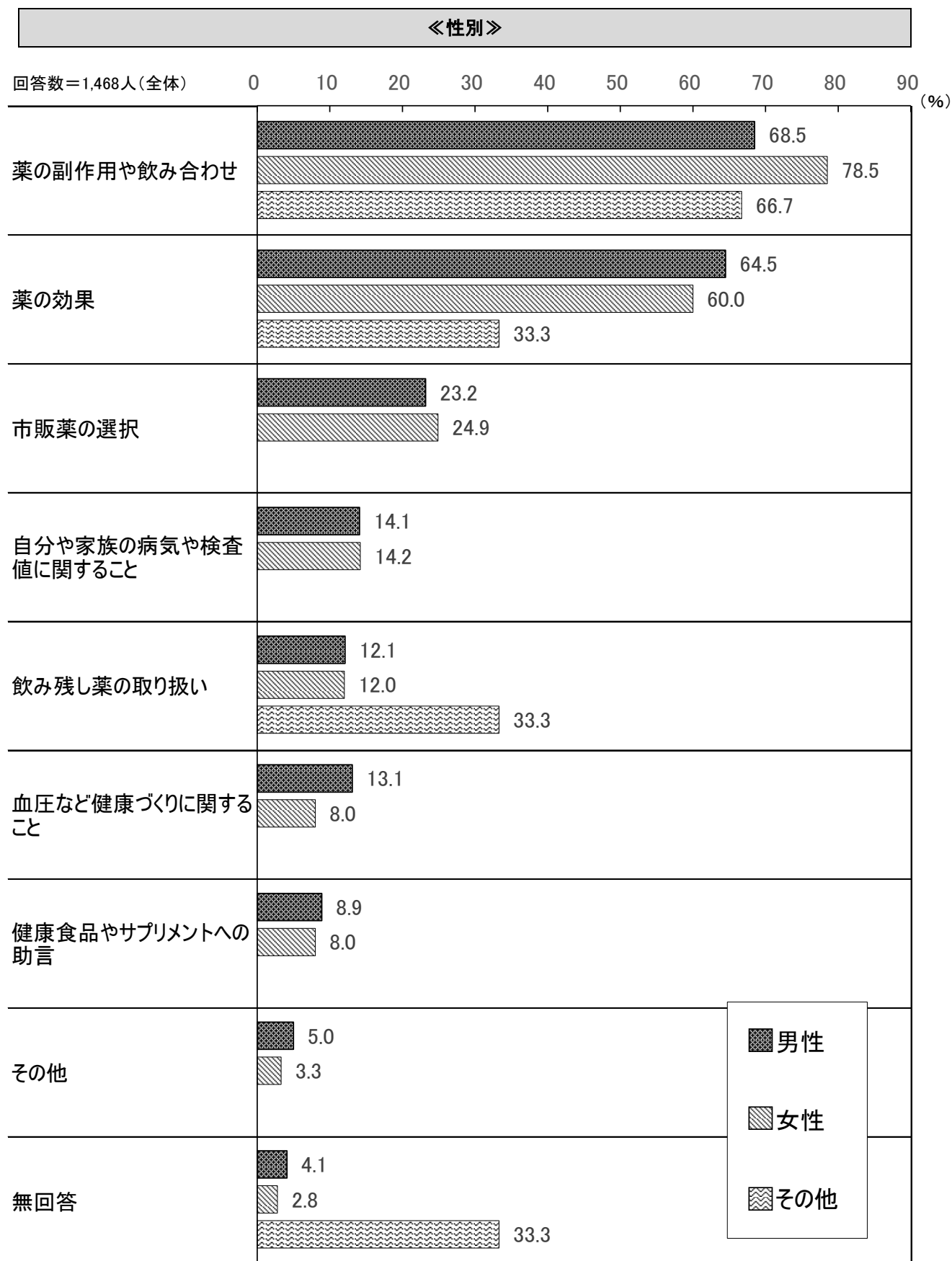
次いで、「薬の効果」が62.1%、「市販薬の選択」が24.1%と続いている。

《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,468 人
薬の副作用や飲み合わせ	74.0	1,087 人
薬の効果	62.1	911 人
市販薬の選択	24.1	354 人
自分や家族の病気や検査値に関する こと	14.1	207 人
飲み残し薬の取り扱い	12.1	177 人
血圧など健康づくりに関すること	10.3	151 人
健康食品やサプリメントへの助言	8.4	123 人
その他	4.1	60 人
無回答	3.5	51 人

グラフ単位(%)

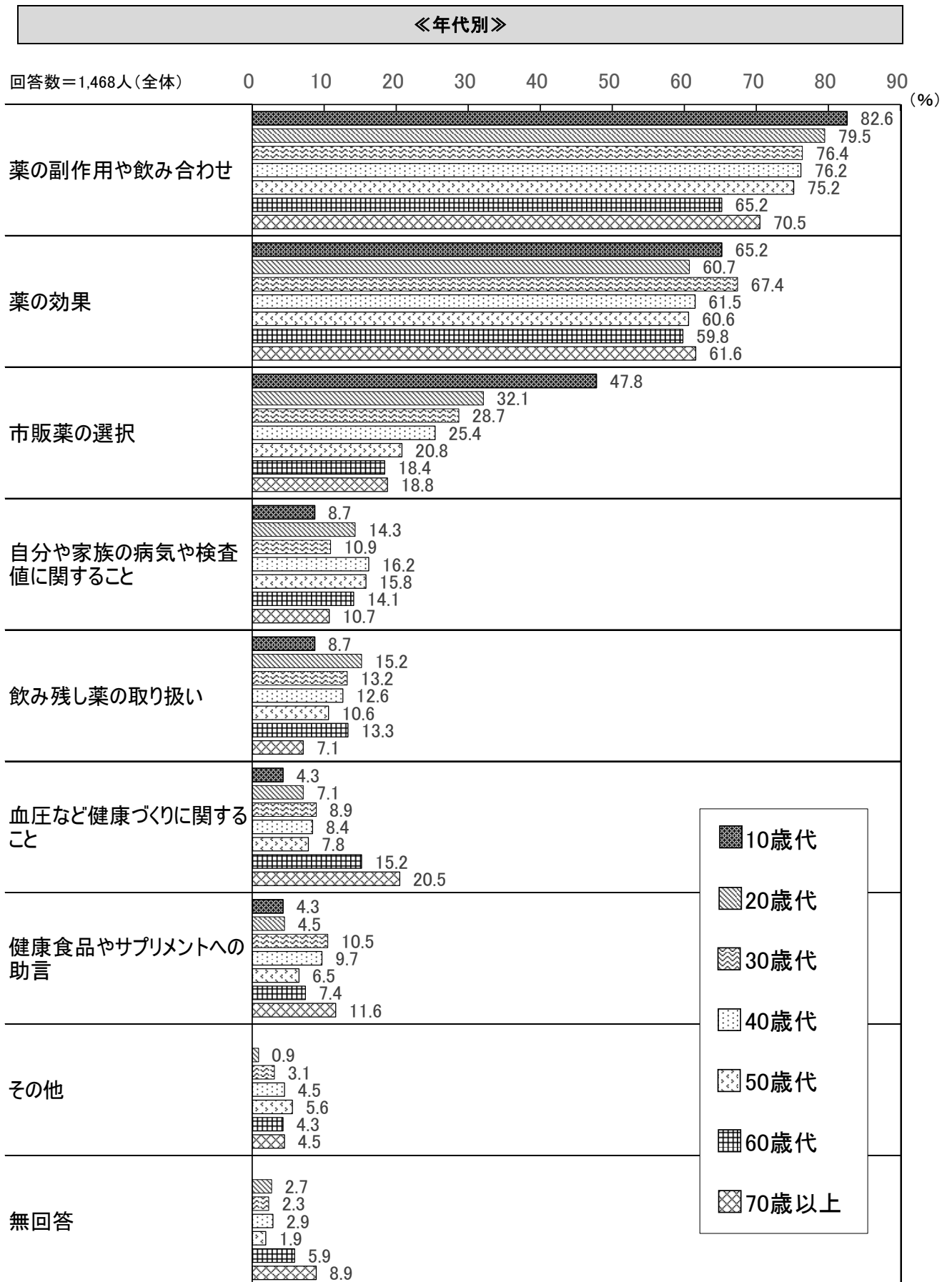
【性別】

男女ともに「薬の副作用や飲み合わせ」が最も高く、女性では78.5%と、男性の68.5%より10ポイント高くなっている。



【年代別】

すべての年代「薬の副作用や飲み合わせ」が最も高くなっている。また、「市販薬の選択」では10歳代が47.8%と他の年代より15ポイント以上高くなっている。



7. がん検診について

問 32 あなたが、がんについて知っていることをお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が73.4%と1位になっている。

次いで、「がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法（化学療法含）がある」が63.6%、「子宮頸がんのように、若い世代で増えているがんもある」が58.8%と続いている。

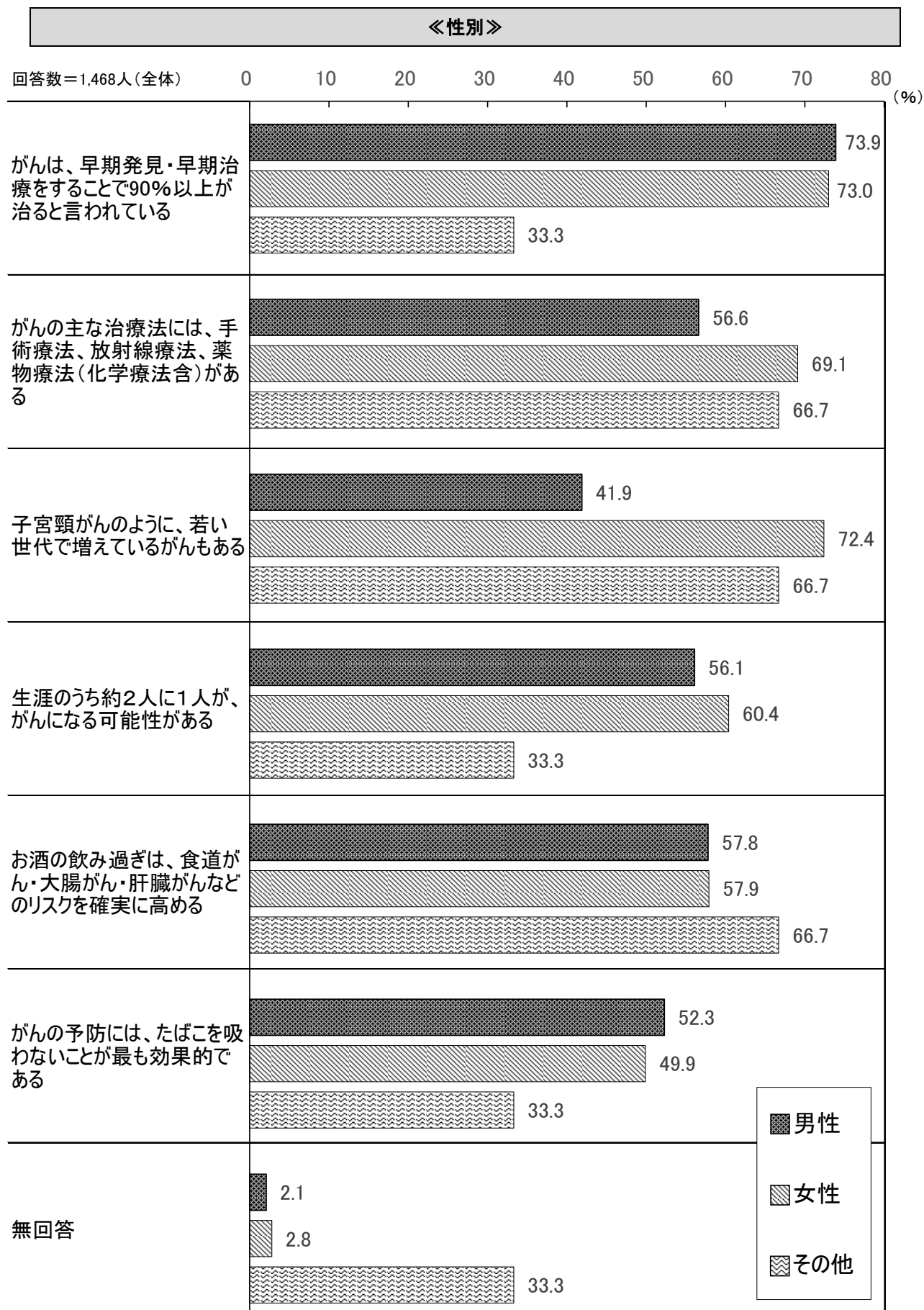
《総合》

		回答数
全 体	100.0	1,468 人
がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている	73.4	1,077 人
がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法（化学療法含）がある	63.6	933 人
子宮頸がんのように、若い世代で増えているがんもある	58.8	863 人
生涯のうち約2人に1人が、がんになる可能性がある	58.4	858 人
お酒の飲み過ぎは、食道がん・大腸がん・肝臓がんなどのリスクを確実に高める	57.8	849 人
がんの予防には、たばこを吸わないことが最も効果的である	50.9	747 人
無回答	2.6	38 人

グラフ単位(%)

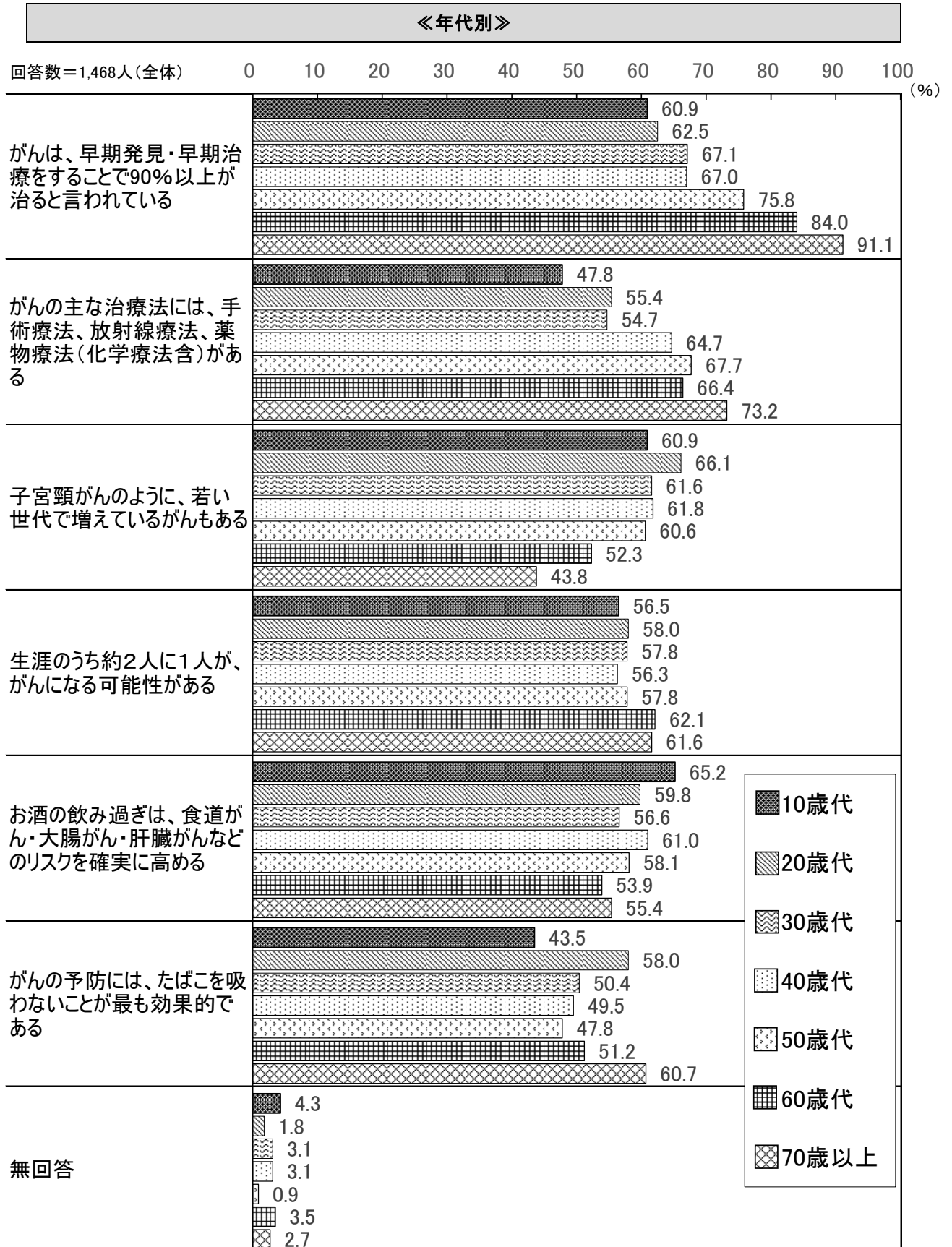
【性別】

男女ともに「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「お酒の飲み過ぎは、食道がん・大腸がん・肝臓がんなどのリスクを確実に高める」が最も高く、20歳代では「子宮頸がんのように、若い世代で増えているがんもある」が、30歳代から70歳以上では「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が最も高くなっている。



問 33 子宮頸がん検診は 20 歳以上の女性、乳がん検診は 40 歳以上の女性、肺がん・胃がん・大腸がん検診は 40 歳以上の全ての住民の方を対象に市町村が実施しなければならないこととなっています。また、職場健診や加入している医療保険者でがん検診が実施されている場合もあります。

あなたは、次の「1～5」のうち、どれに該当しますか。

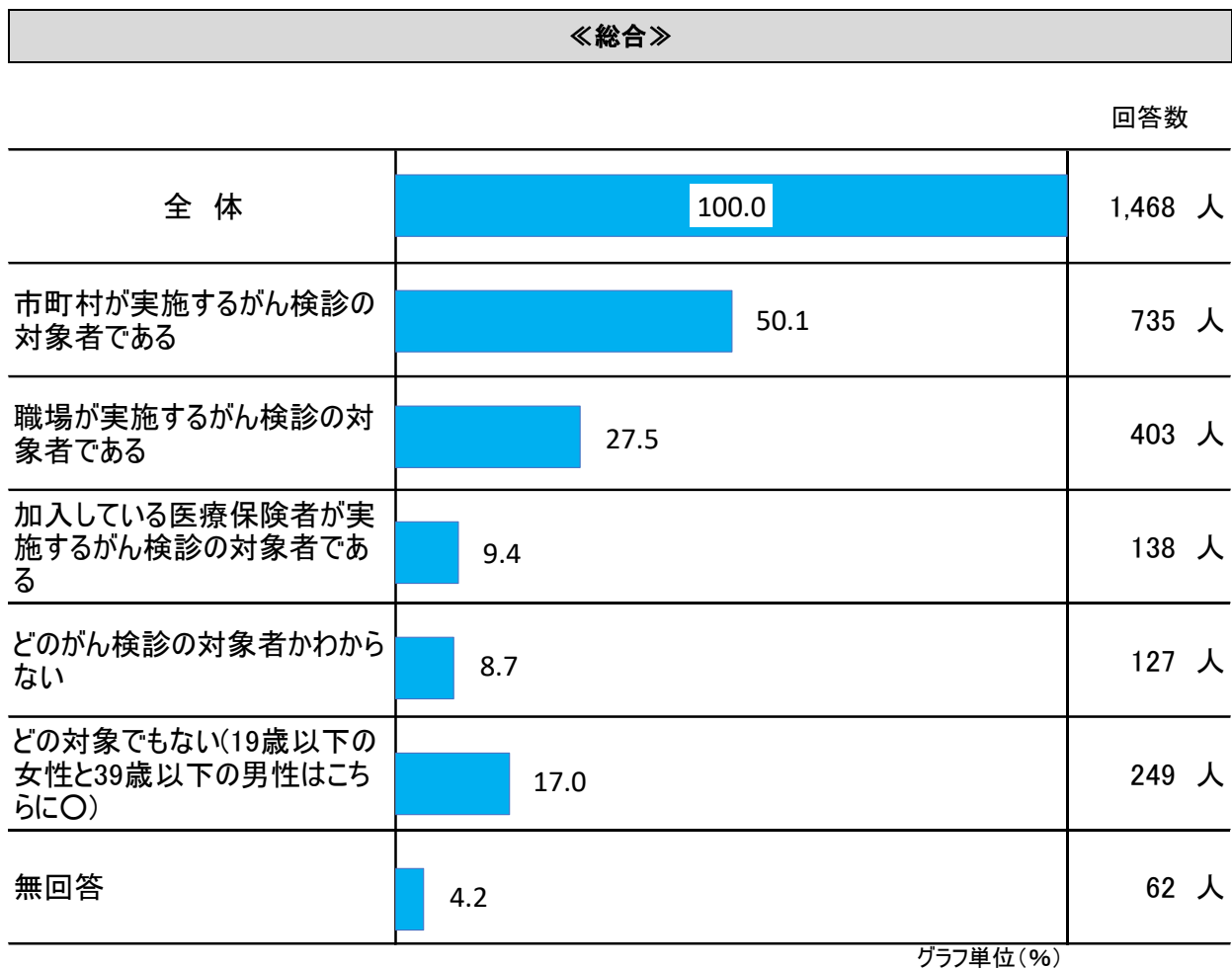
(19 歳以下の女性と 39 歳以下の男性は「5」を選んでください)

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

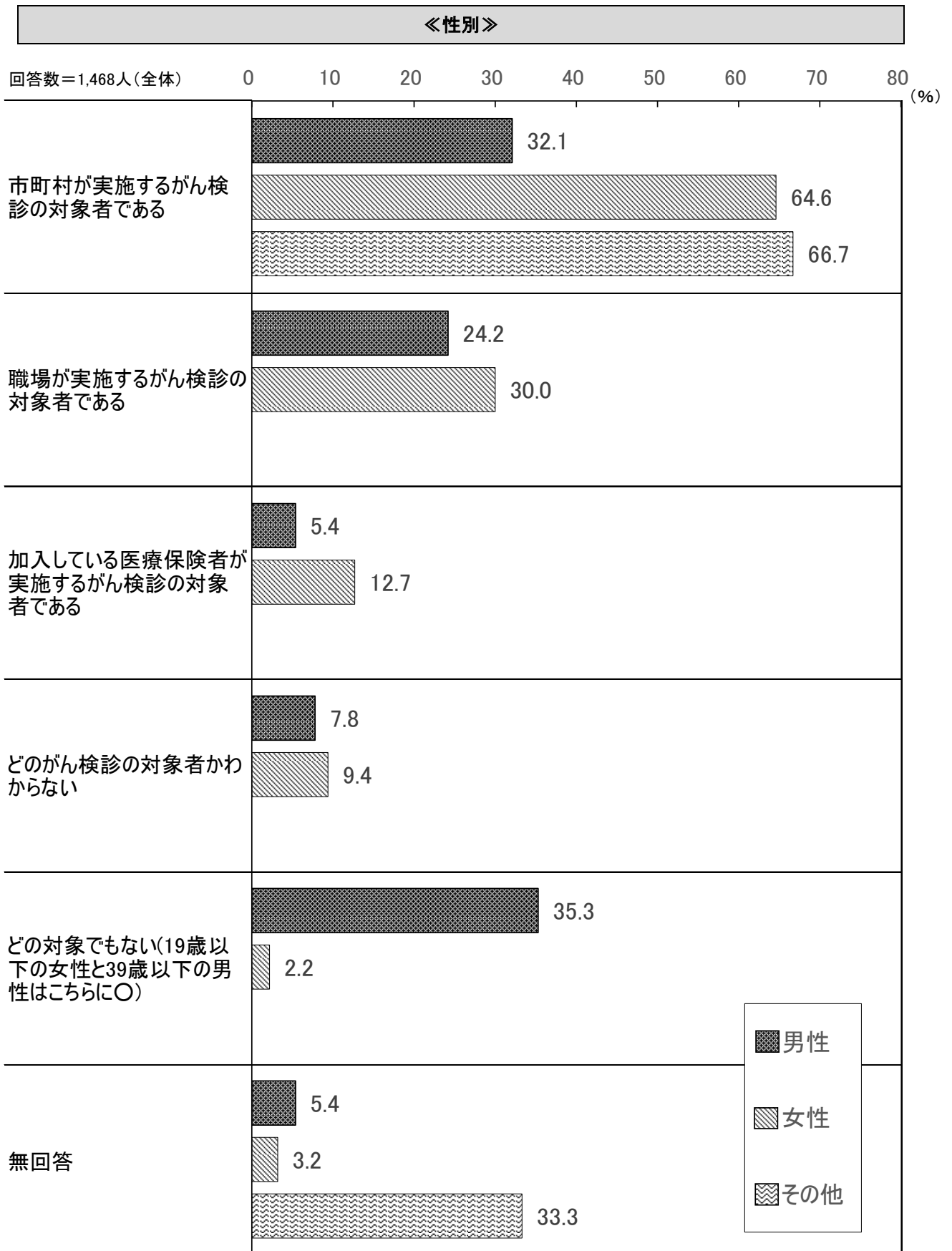
「市町村が実施するがん検診の対象者である」が 50.1%と 1 位になっている。

次いで、「職場が実施するがん検診の対象者である」が 27.5%、「どの対象でもない(19 歳以下の女性と 39 歳以下の男性はこちらに○)」が 17.0%と続いている。



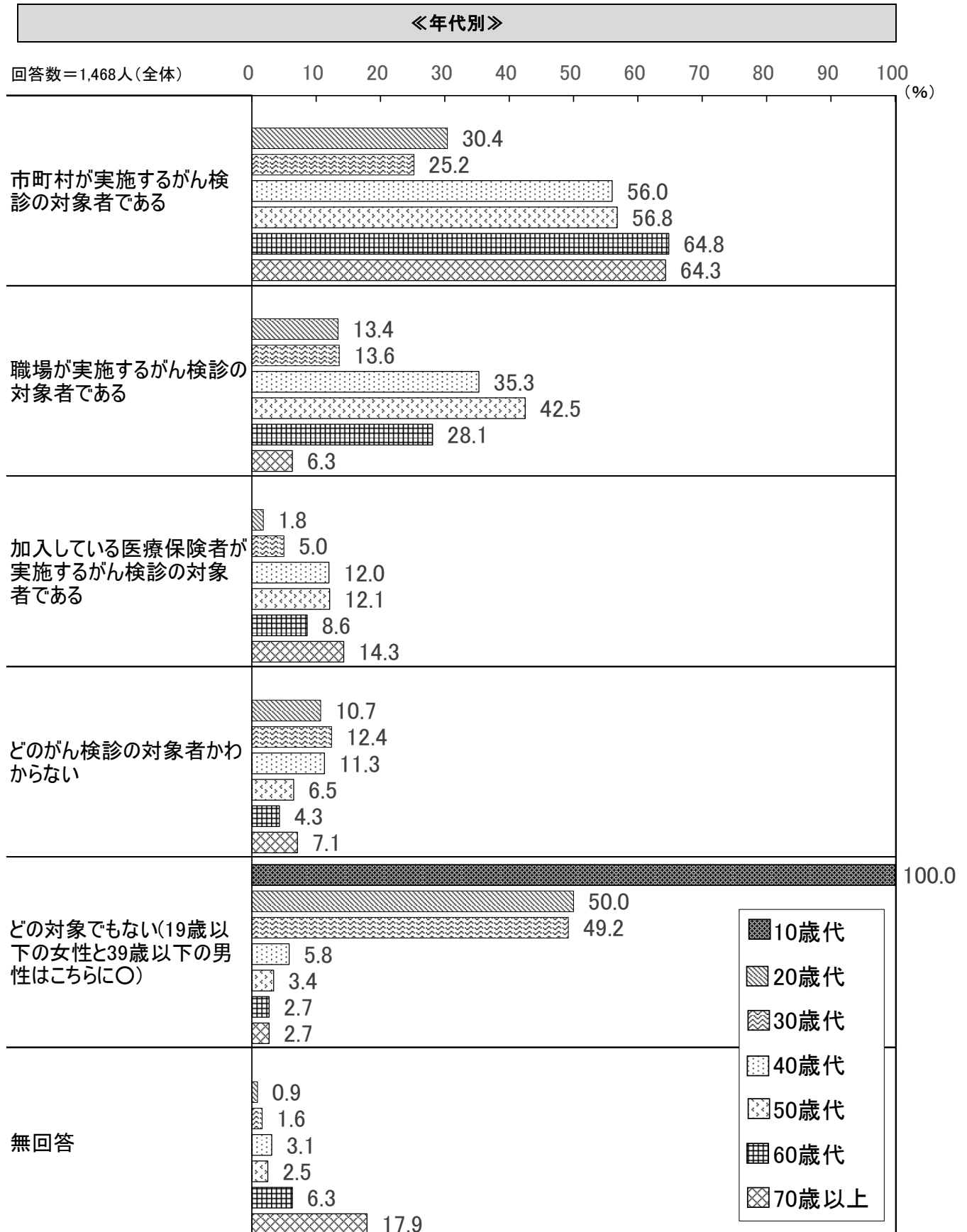
【性別】

男性では「どの対象でもない(19歳以下の女性と39歳以下の男性はこちらに○)」が最も高く、女性では「市町村が実施するがん検診の対象者である」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代では「どの対象でもない(19歳以下の女性と39歳以下の男性はこちらに○)」が最も高く、40歳代から70歳以上では「市町村が実施するがん検診の対象者である」が最も高くなっている。

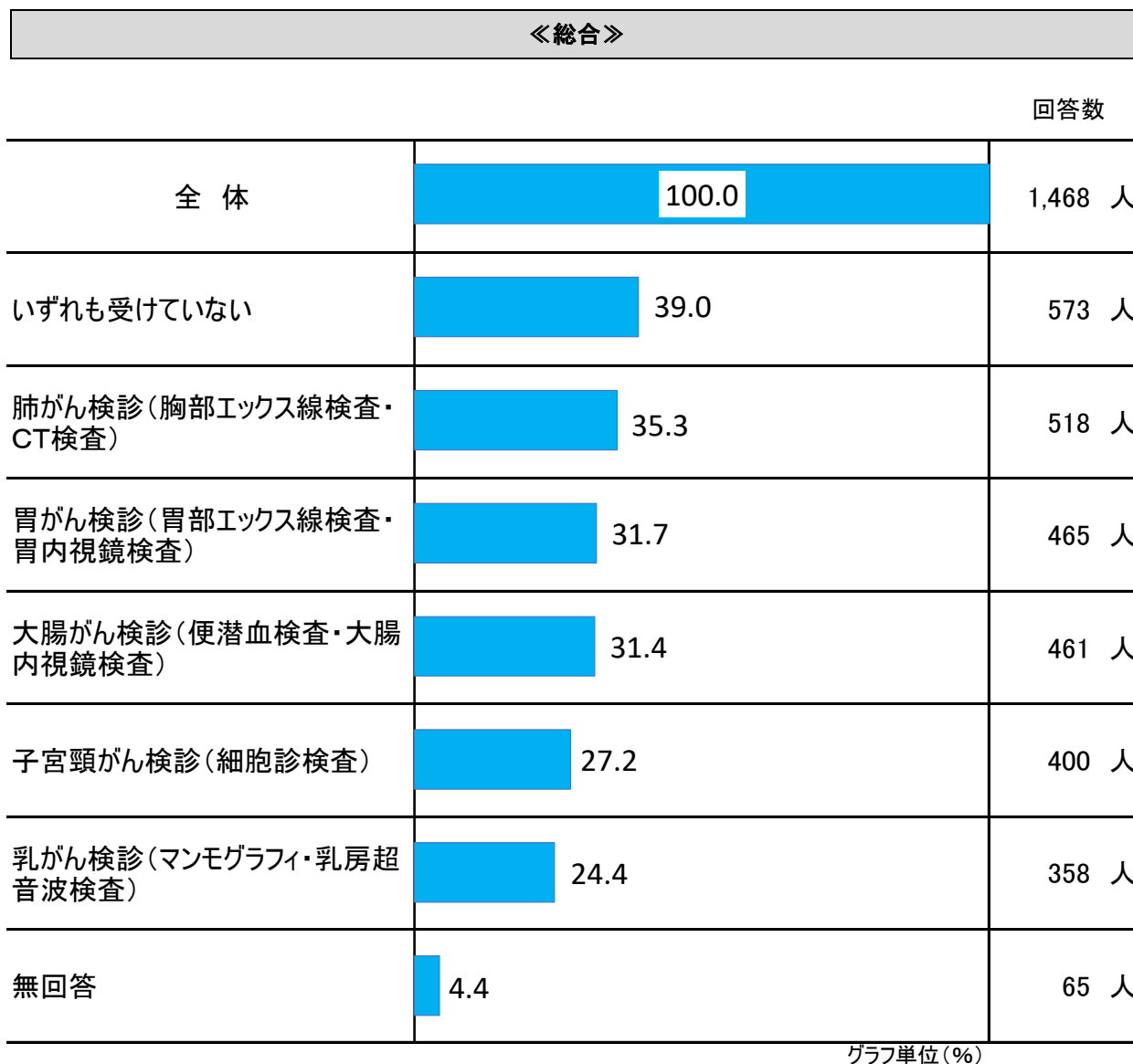


問 34 あなたが、過去1年間(子宮頸がん及び乳がん検診は過去2年間)に受診したがん検診の種類をお答えください。(健康診断や人間ドックで受診したものも含まます。)
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

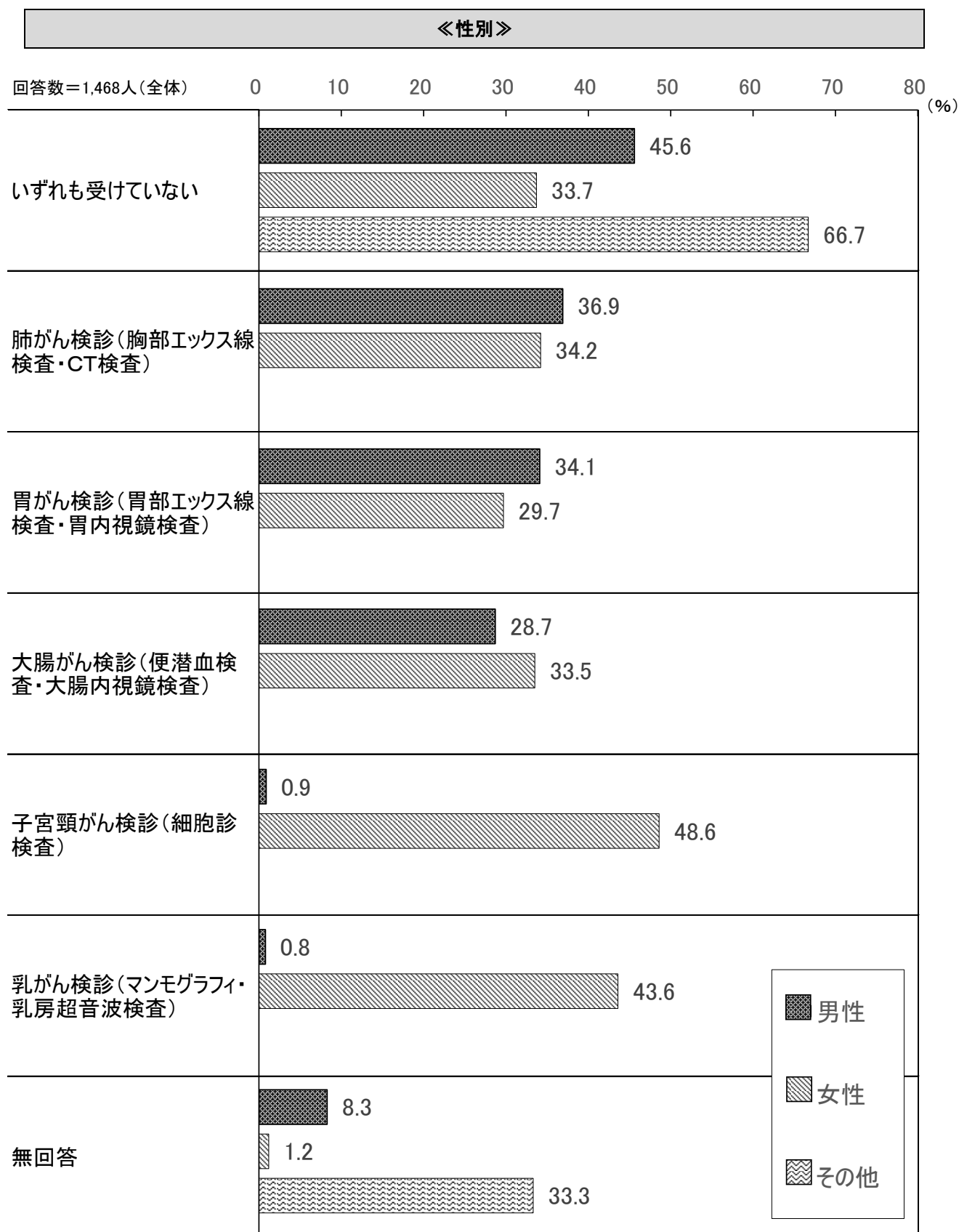
「いずれも受けていない」が39.2%と1位になっている。

次いで、「肺がん検診(胸部エックス線検査・CT検査)」が35.3%、「胃がん検診(胃部エックス線検査・胃内視鏡検査)」が31.7%と続いている。



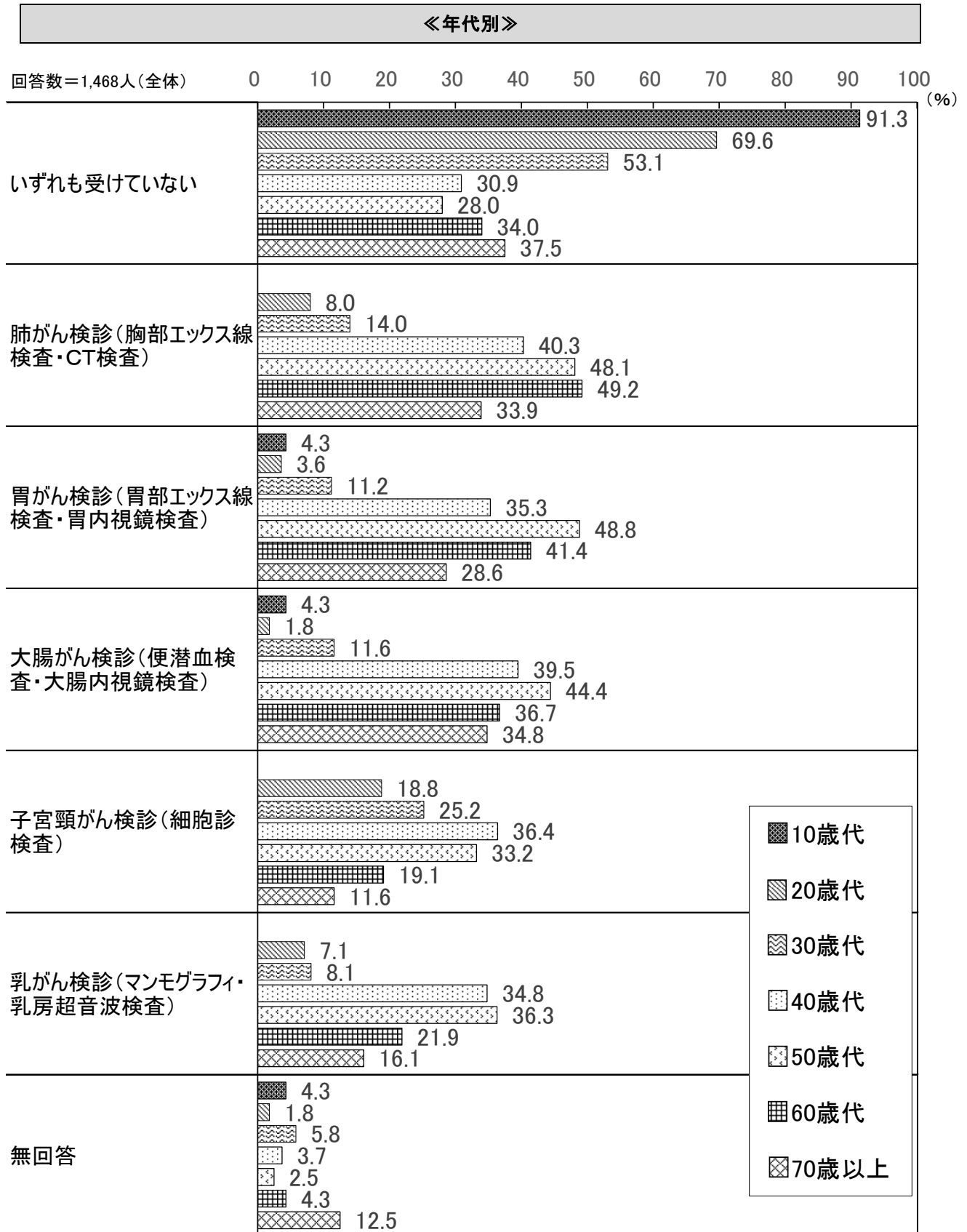
【性別】

男性では「いずれも受けていない」が最も高く、女性では「子宮頸がん検診（細胞診検査）」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、70歳以上では「いずれも受けていない」が最も高く、40歳代、60歳代では「肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）」が、50歳代では「胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）」が最も高くなっている。



副問1 (問 34 で「1^(※)」を選んだ方と、女性の方で「5・6^(※)」のいずれか一方又は両方ともを選ばなかった方の
みお答えください。)

がん検診を受けていない理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

※問 34 の選択肢「1」、「5」、「6」…「1.いずれも受けていない」、「5.子宮がん検診(細胞診検査)」、
「6.乳がん検診(マンモグラフィ・乳房超音波検査)」

【総合】

「忙しくて時間が取れないから」が 25.7%と 1 位になっている。

次いで、「受けるのが面倒だから」が 23.0%、「必要な時は医療機関を受診するから」が 21.8%と続いている。

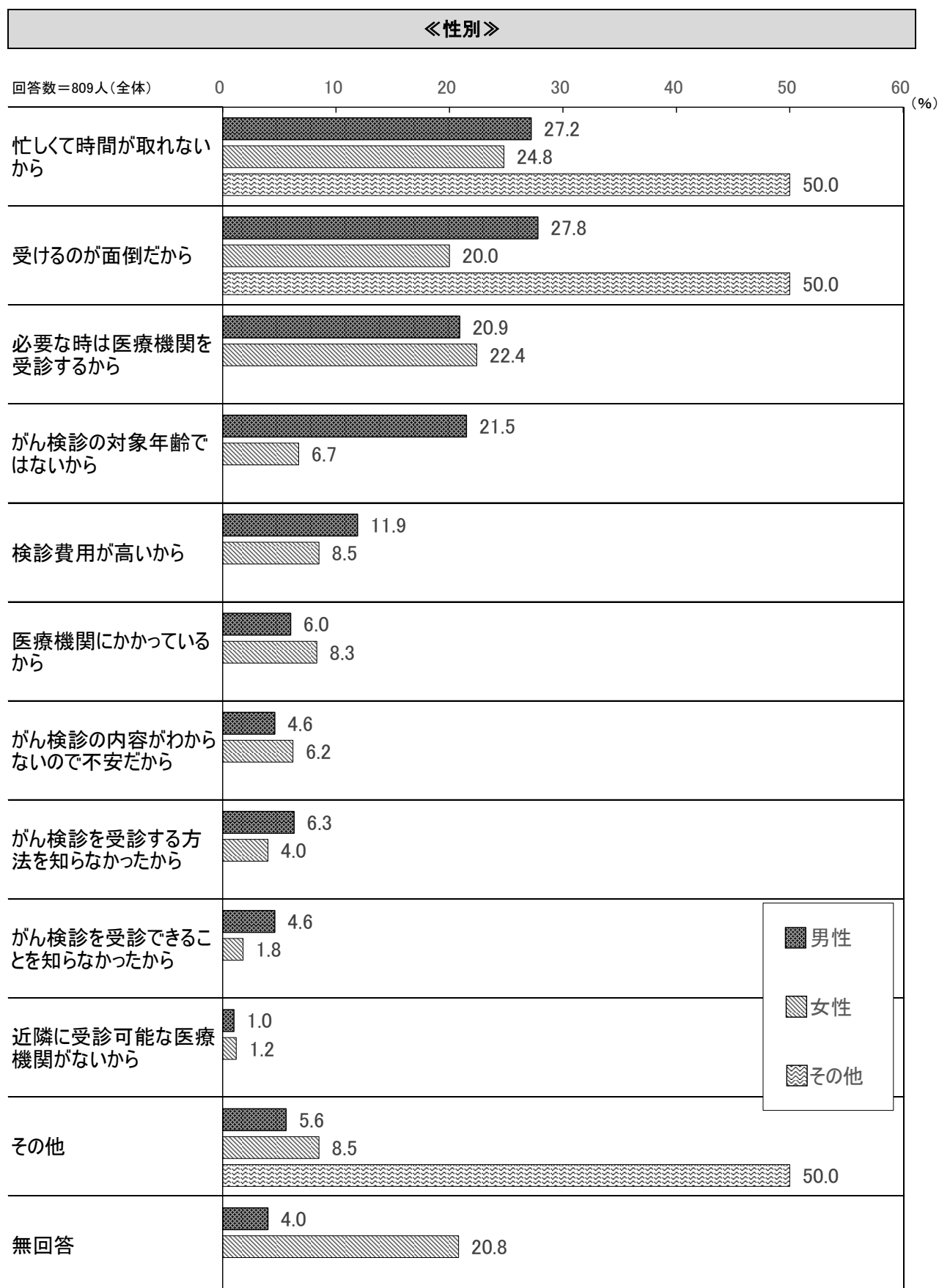
《総合》

		回答数
全体	100.0	809 人
忙しくて時間が取れないから	25.7	208 人
受けるのが面倒だから	23.0	186 人
必要な時は医療機関を受診するから	21.8	176 人
がん検診の対象年齢ではないから	12.1	98 人
検診費用が高いから	9.8	79 人
医療機関にかかっているから	7.3	59 人
がん検診の内容がわからないので不安だから	5.6	45 人
がん検診を受診する方法を知らなかったから	4.8	39 人
がん検診を受診できることを知らなかったから	2.8	23 人
近隣に受診可能な医療機関がないから	1.1	9 人
その他	7.7	62 人
無回答	14.7	119 人

グラフ単位(%)

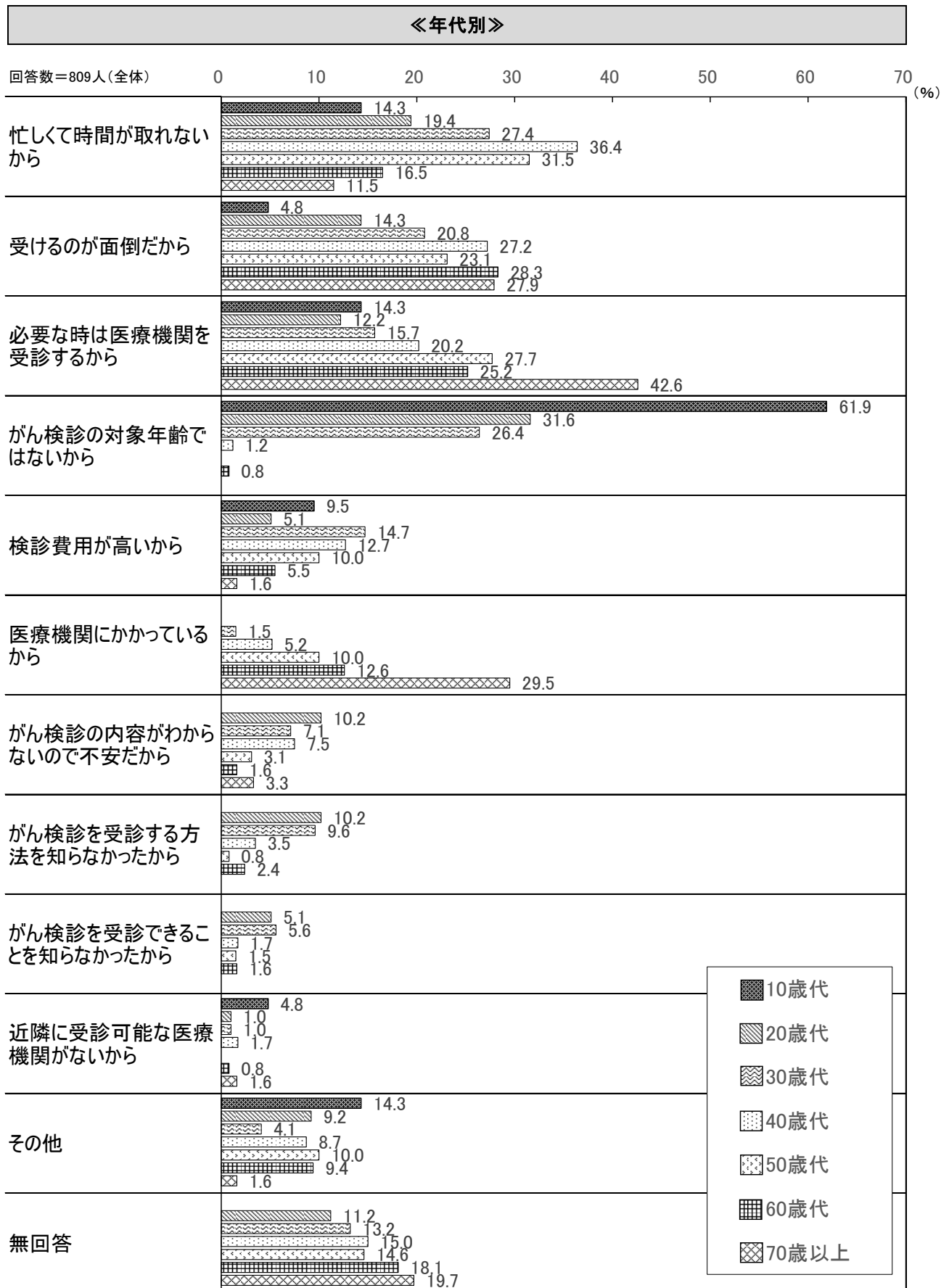
【性別】

男性では「受けるのが面倒だから」が最も高く、女性では「忙しくて時間が取れないから」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代では「がん検診の対象年齢ではないから」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代では「忙しくて時間が取れないから」が、60歳代では「受けるのが面倒だから」が、70歳以上では「必要な時は医療機関を受診するから」が最も高くなっている。



問 35 がん検診に関する情報を提供するにあたり、どの媒体を活用することがより効果的だと思いますか。
(2つまで○印)

【総合】

「テレビ」が56.7%と1位になっている。

次いで、「インターネット」が28.7%、「広報誌（県・市町村）」が27.2%と続いている。

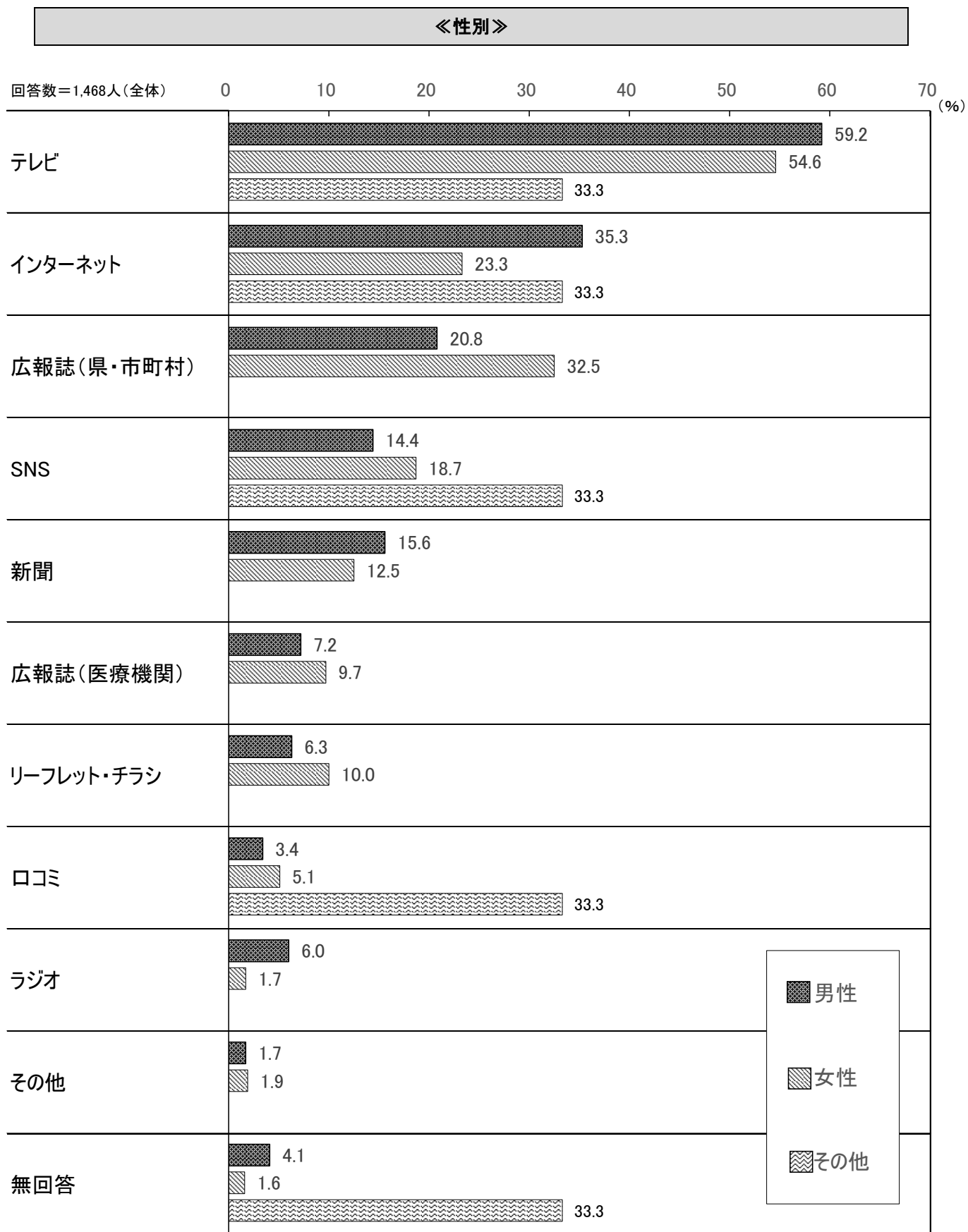
《総合》

		回答数
全体	100.0	1,468 人
テレビ	56.7	832 人
インターネット	28.7	421 人
広報誌(県・市町村)	27.2	400 人
SNS	16.8	246 人
新聞	13.8	203 人
広報誌(医療機関)	8.5	125 人
リーフレット・チラシ	8.3	122 人
口コミ	4.4	64 人
ラジオ	3.6	53 人
その他	1.8	26 人
無回答	2.8	41 人

グラフ単位(%)

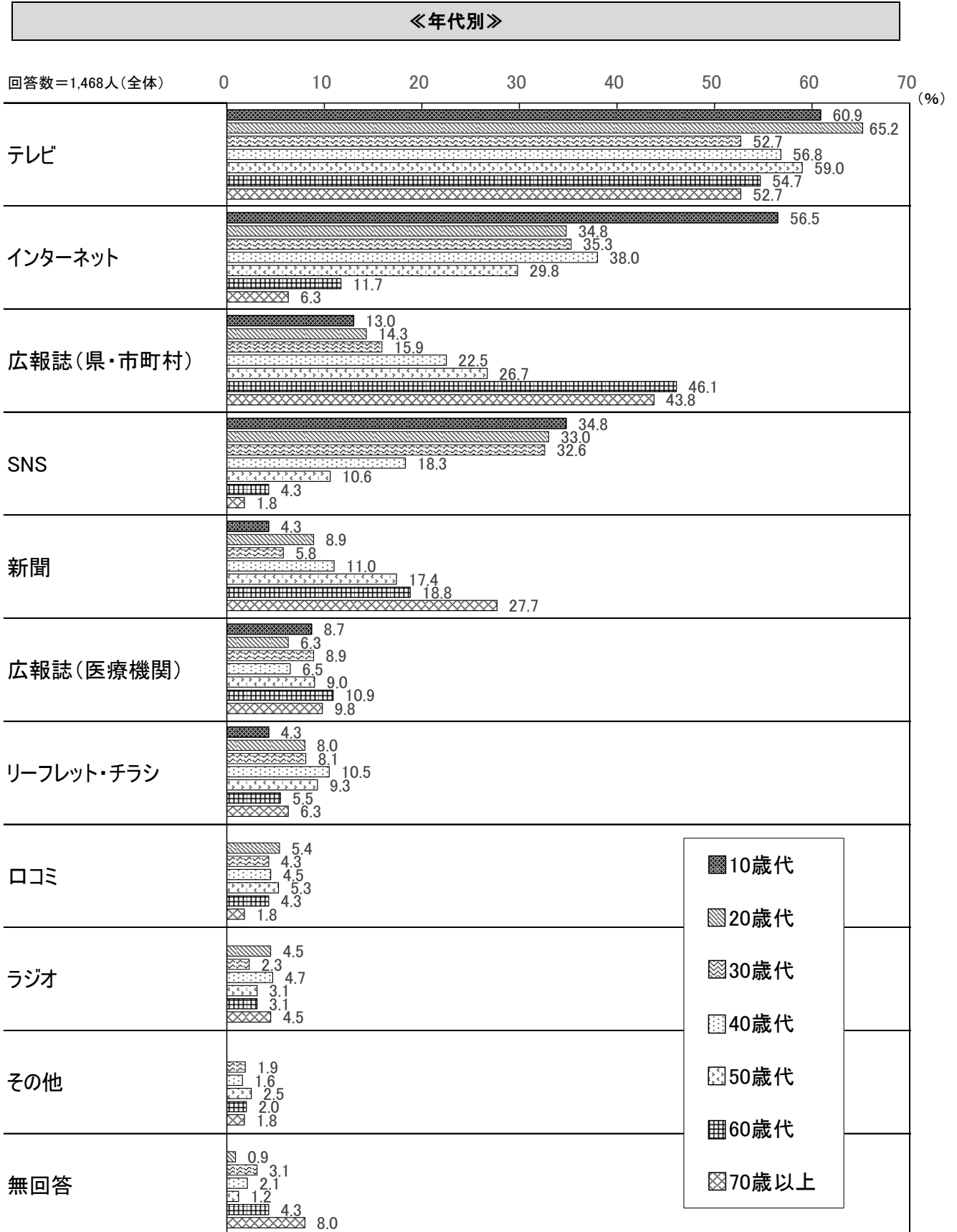
【性別】

男女ともに「テレビ」が最も高くなっている。次いで、男性では「インターネット」が、女性では「広報誌（県・市町村）」が続いている。



【年代別】

すべての年代で「テレビ」が最も高くなっている。また、「インターネット」や「SNS」と回答した人では年代が下がるほど選択した割合が高くなる傾向があり、「広報誌（県・市町村）」や「新聞」では年代が上がるほど回答した割合が高くなる傾向にある。



8. 県民の健康づくりについて

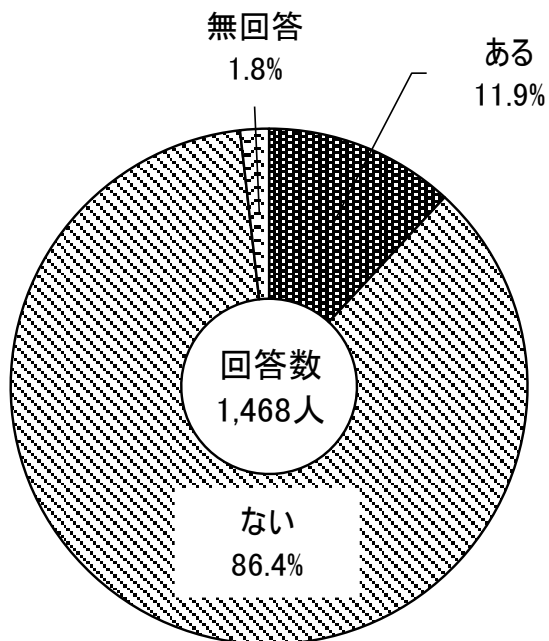
問 36 あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。

【総合】

「ない」が86.4%と1位になっている。

次いで、「ある」は11.9%となっている。

《総合》

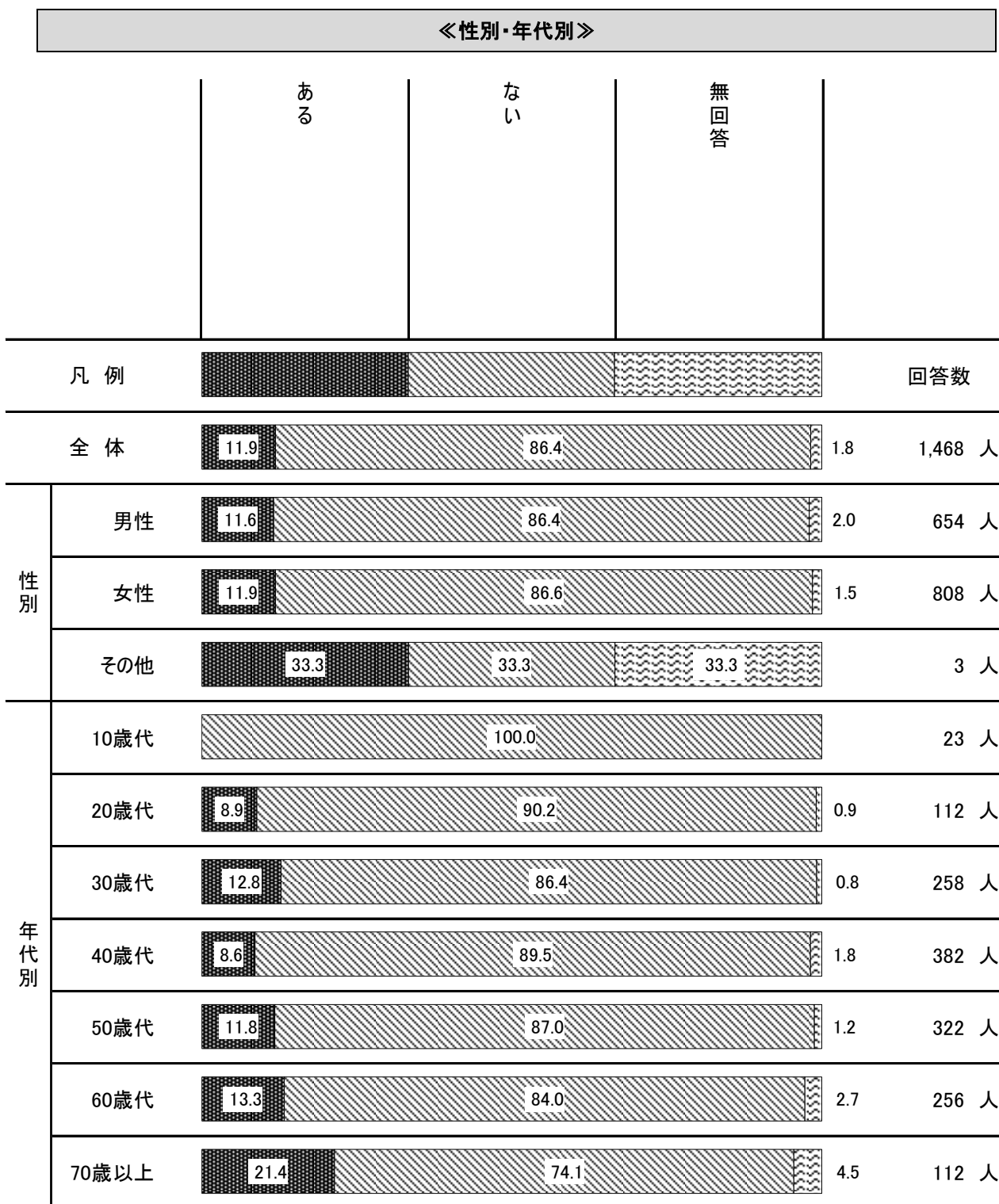


【性別】

男女ともに「ない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「ない」が最も高くなっている。また、30歳代、40歳代を除き、年代が上がるほど「ある」が高くなる傾向がみられる。



グラフ単位(%)

副問1 (問 36 で「1^(※)」を選んだ方のみお答えください。)

それはどのようなことに影響がありますか。(当てはまるものすべてに○印)

※問 36 の選択肢「1」…「1.ある」

【総合】

「仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）」が 55.7%と 1 位になっている。

次いで、「運動（スポーツを含む）」が 37.9%、「日常生活動作（起床、衣服脱着、食事、入浴など）」が 36.2%と続いている。

《総合》

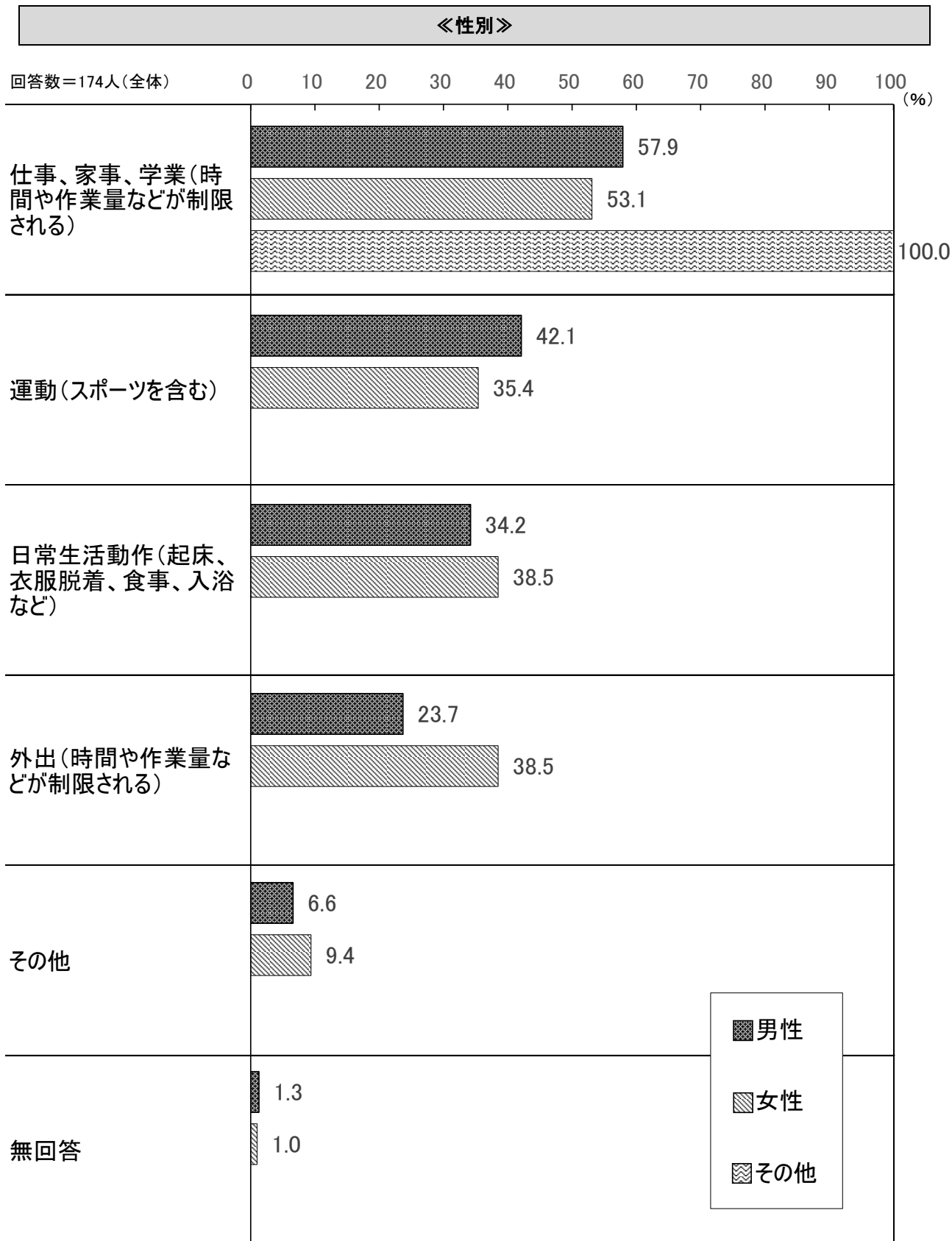
回答数

		回答数
全体	100.0	174 人
仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）	55.7	97 人
運動（スポーツを含む）	37.9	66 人
日常生活動作（起床、衣服脱着、食事、入浴など）	36.2	63 人
外出（時間や作業量などが制限される）	31.6	55 人
その他	8.0	14 人
無回答	1.1	2 人

グラフ単位(%)

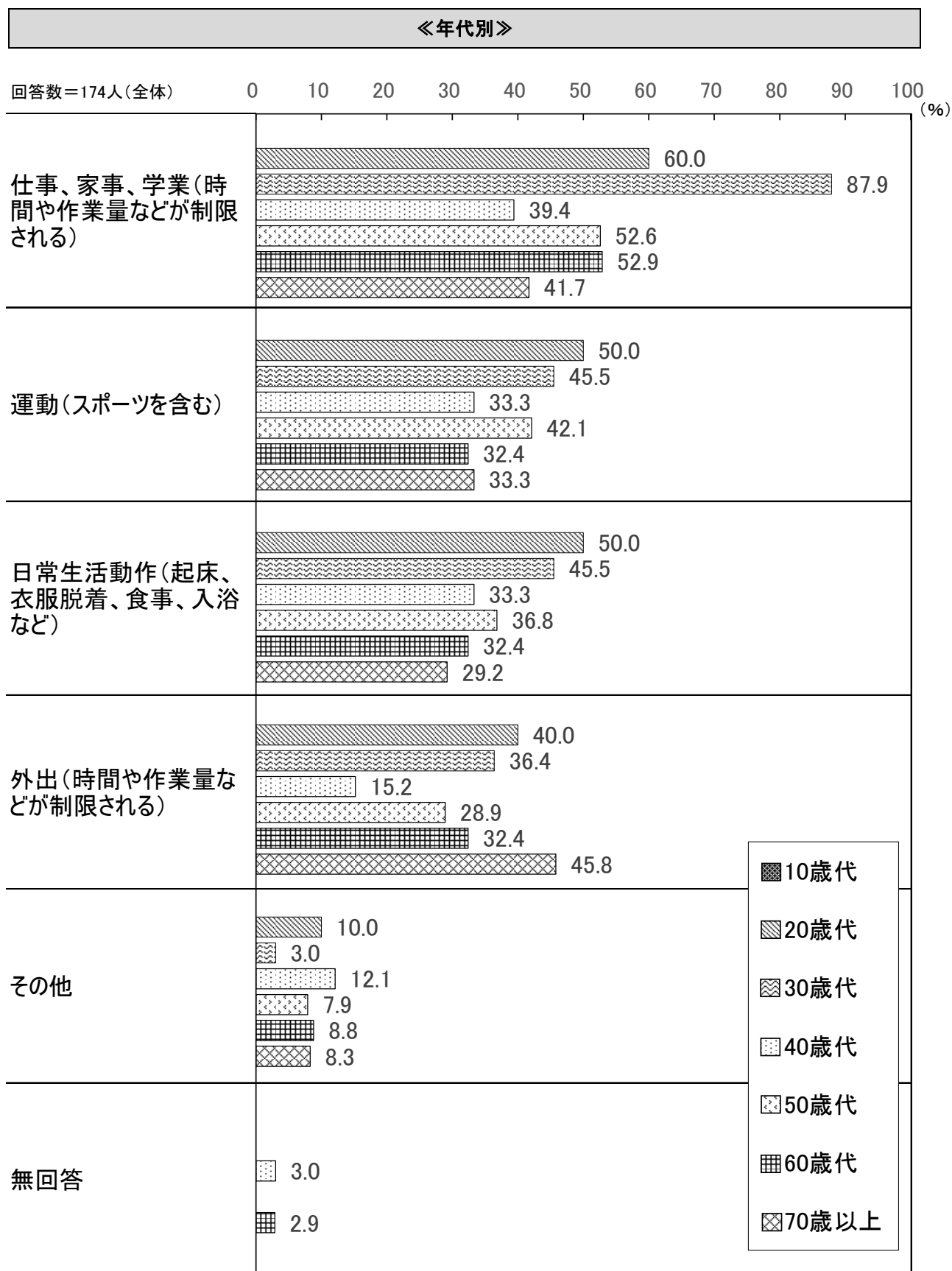
【性別】

男女ともに「仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）」が最も高くなっており、次いで、男性では「運動（スポーツを含む）」が、女性では同率で「日常生活動作（起床、衣服脱着、食事、入浴など）」と、「外出（時間や作業量などが制限される）」が続いている。



【年代別】

20歳代から60歳代では「仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）」が最も高く、70歳以上では「外出（時間や作業量などが制限される）」が最も高くなっている。



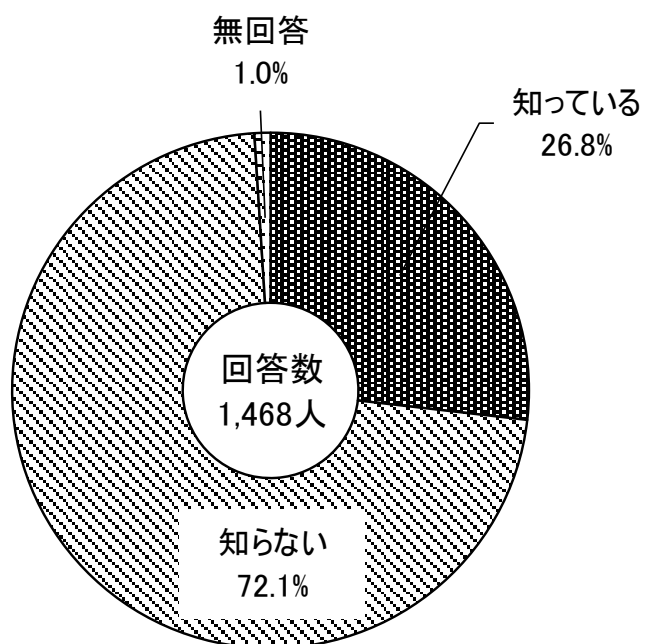
問 37 高知県は「日本一歩かない県」であることを知っていますか。

【総合】

「知らない」が72.1%と1位になっている。

次いで、「知っている」が26.8%となっている。

《総合》

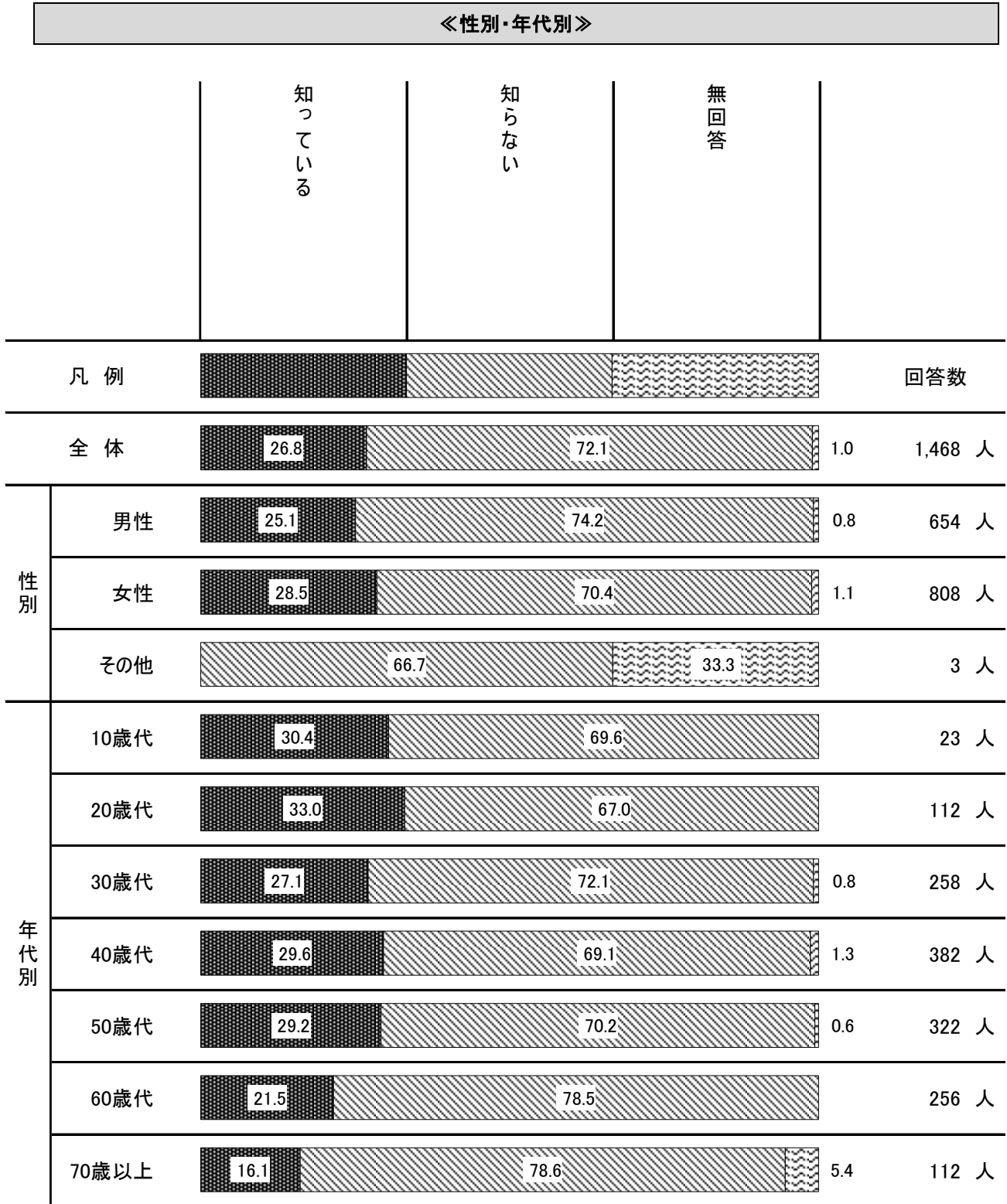


【性別】

男女ともに「知らない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「知らない」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

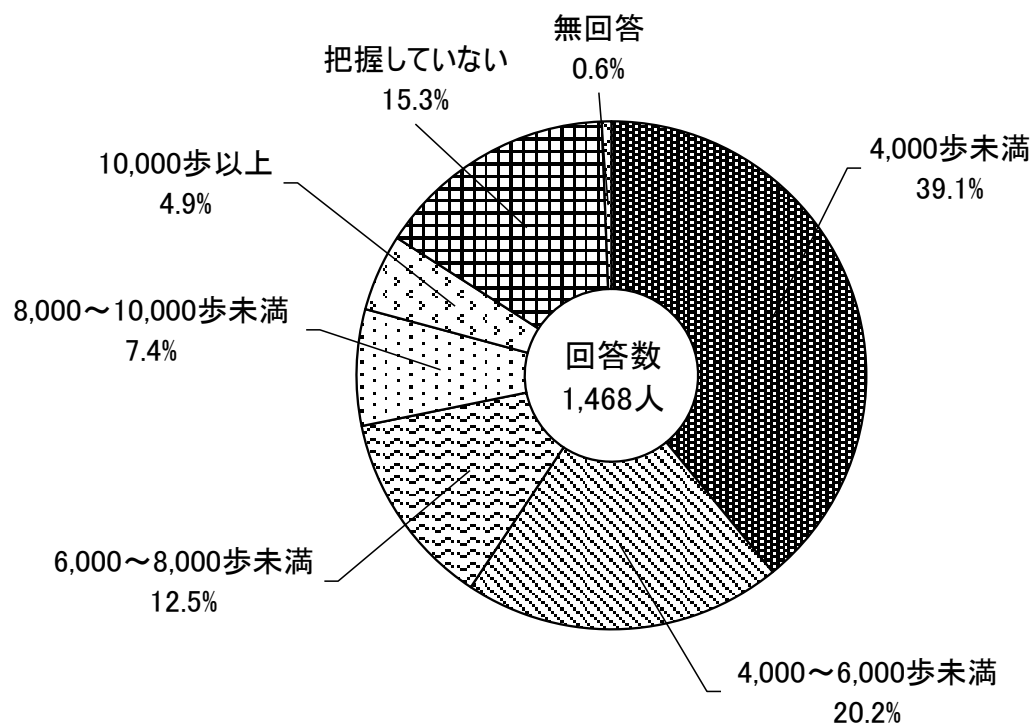
問 38 ご自身の1日の平均の歩数はおよどのくらいですか。(1つだけ○印)

【総合】

「4,000歩未満」が39.1%と1位になっている。

次いで、「4,000～6,000歩未満」が20.2%、「把握していない」が15.3%と続いている。

《総合》

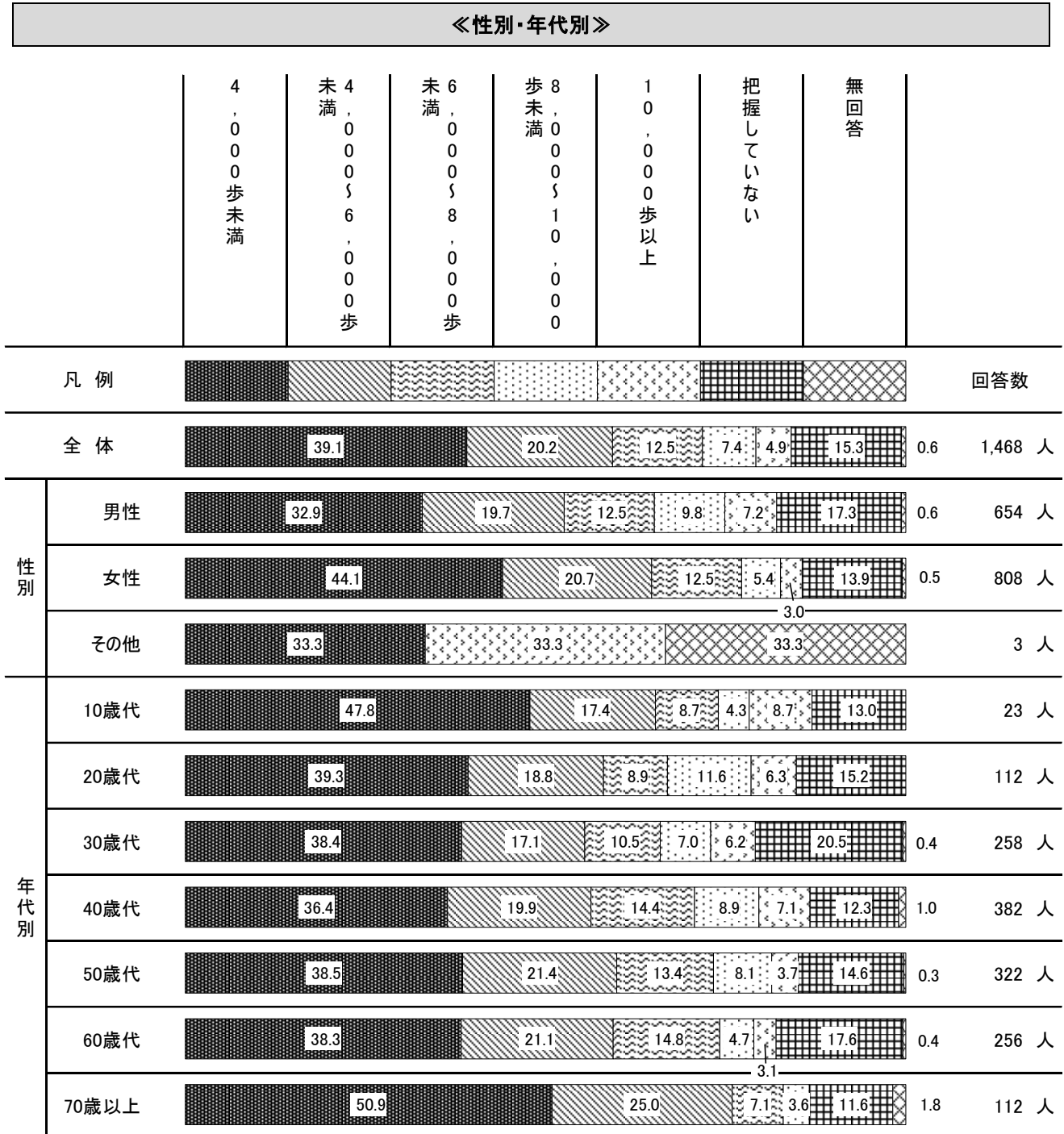


【性別】

男女ともに「4,000歩未満」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「4,000歩未満」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

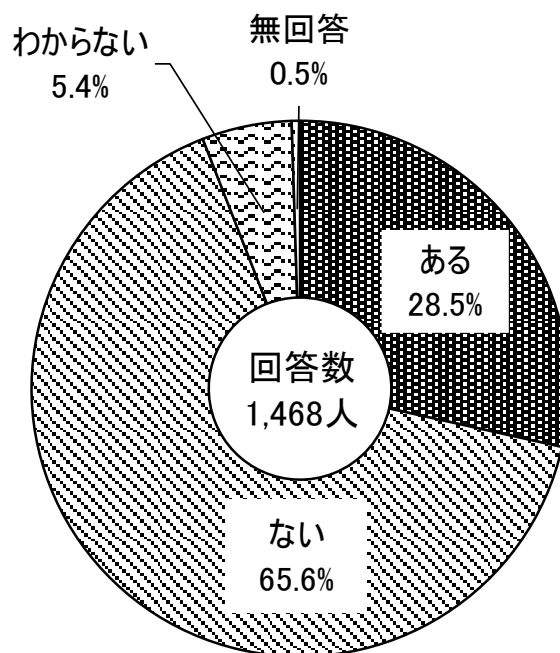
問 39 運動習慣(週2日以上、1回 30 分以上の運動を1年以上継続)はありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「ない」が 65.6%と 1 位になっている。

次いで、「ある」が 28.5%、「わからない」が 5.4%となっている。

《総合》



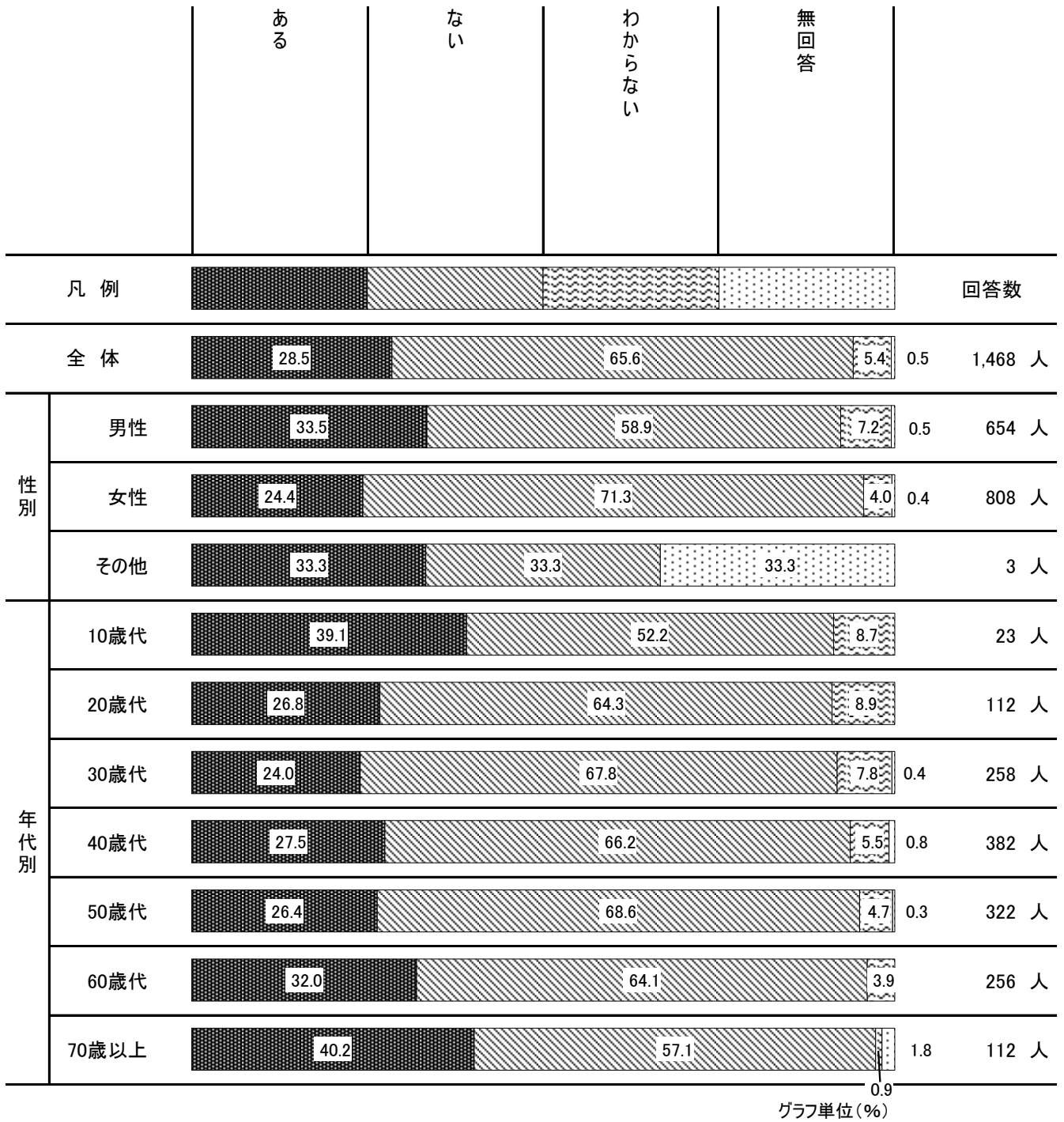
【性別】

男女ともに「ない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「ない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



副問1 (問 39 で「2^(※)」を選んだ方のみお答えください。)

運動習慣がない理由について教えてください。(当てはまるものすべてに○印)

※問 39 の選択肢「2」…「2.ない」

【総合】

「忙しくて時間がない」が47.1%と1位になっている。

次いで、「特に理由はない」が39.1%、「施設や機会がない」が12.7%と続いている。

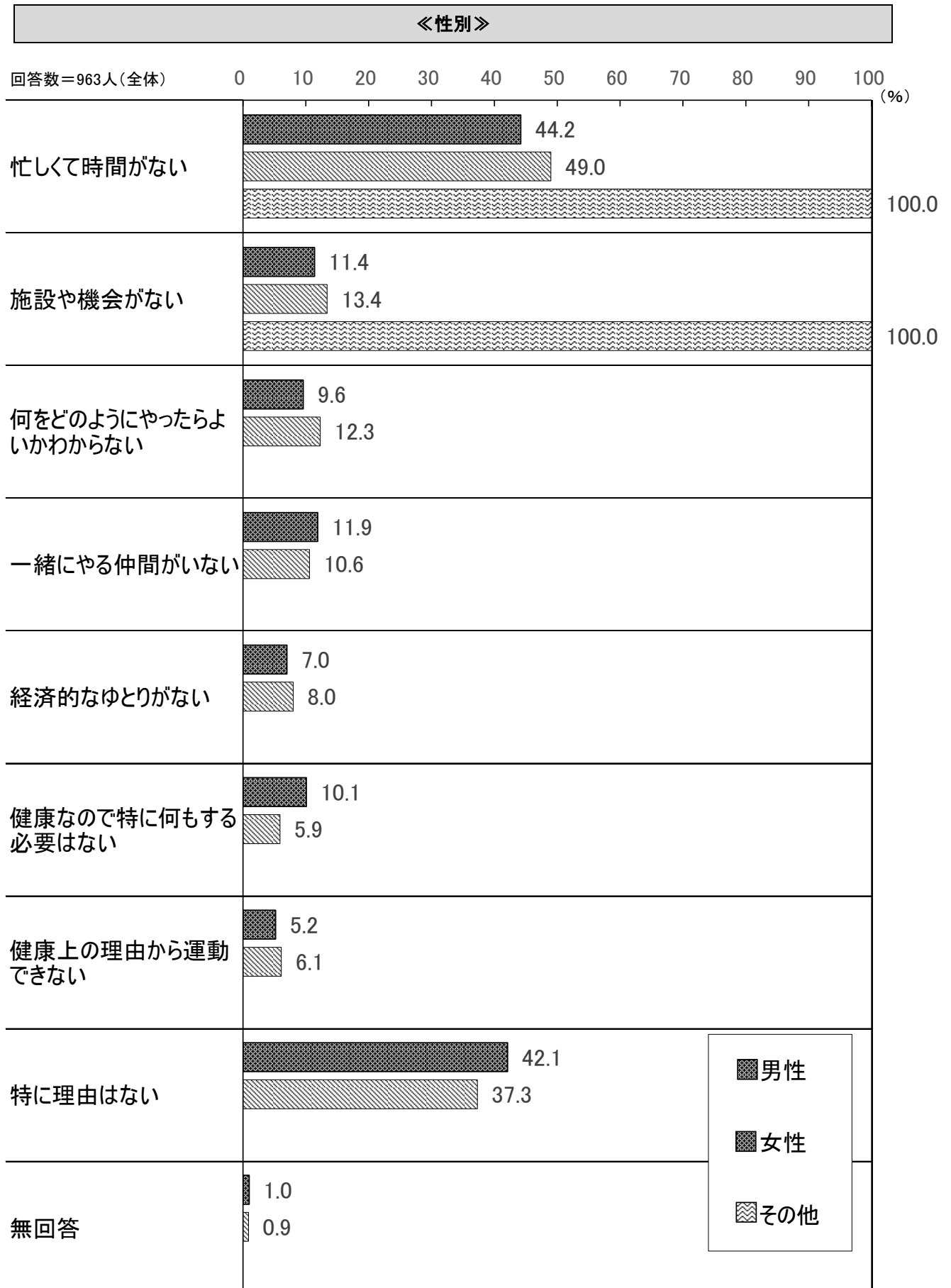
《総合》

		回答数
全体	100.0	963 人
忙しくて時間がない	47.1	454 人
施設や機会がない	12.7	122 人
何をどのようにやったらよいかわからない	11.2	108 人
一緒にやる仲間がない	11.1	107 人
経済的なゆとりがない	7.7	74 人
健康なので特に何もする必要はない	7.6	73 人
健康上の理由から運動できない	5.7	55 人
特に理由はない	39.1	377 人
無回答	0.9	9 人

グラフ単位(%)

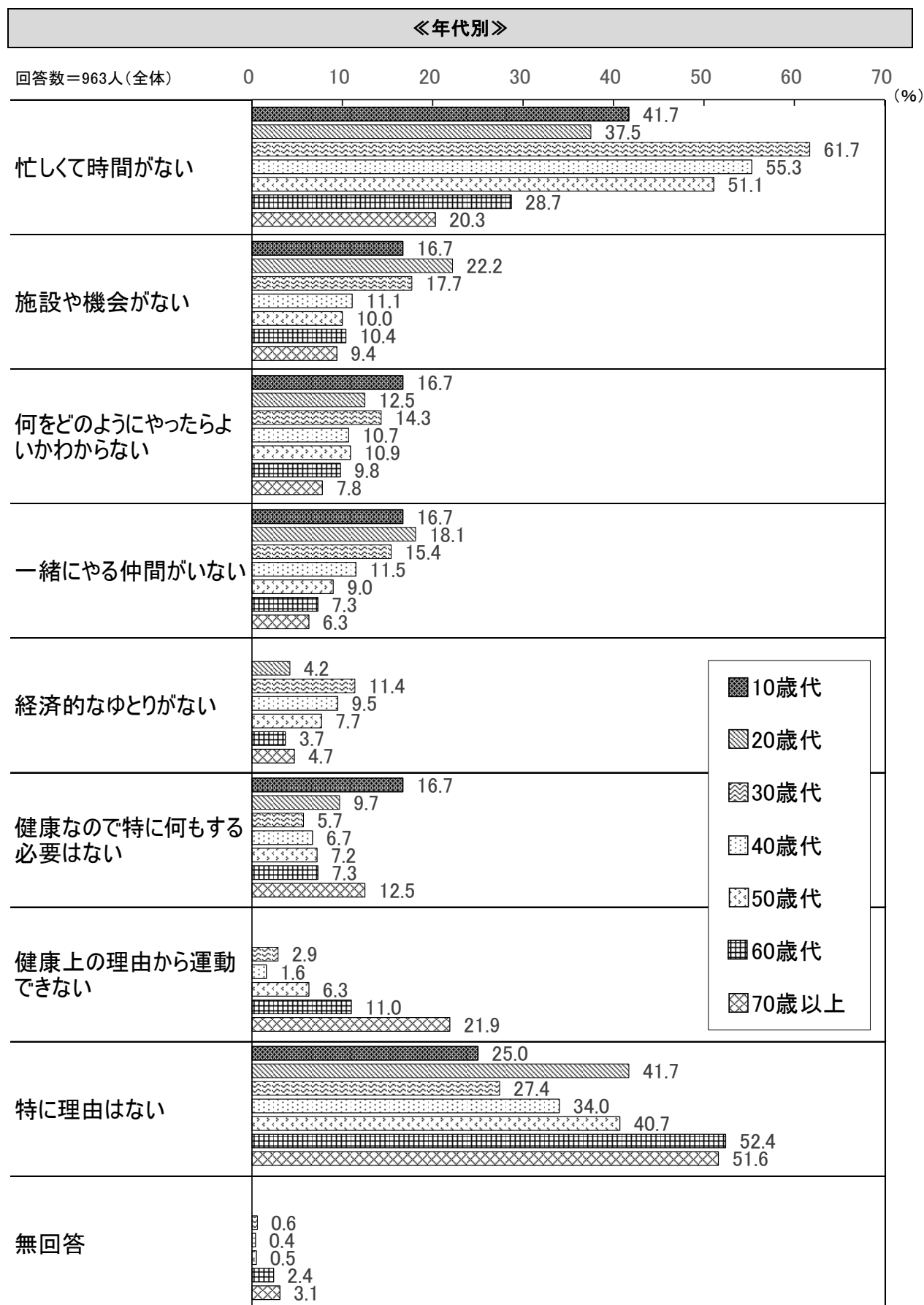
【性別】

男女ともに「忙しくて時間がない」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「忙しくて時間がない」が最も高く、20歳代、60歳代、70歳以上では「特に理由はない」が最も高くなっている。



問 40 あなたは日ごろ、健康のために次のような行動をしていますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「たばこを吸わない」が54.8%と1位になっている。

次いで、「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」が52.1%、「お酒を飲み過ぎないようにしている」が41.1%と続いている。

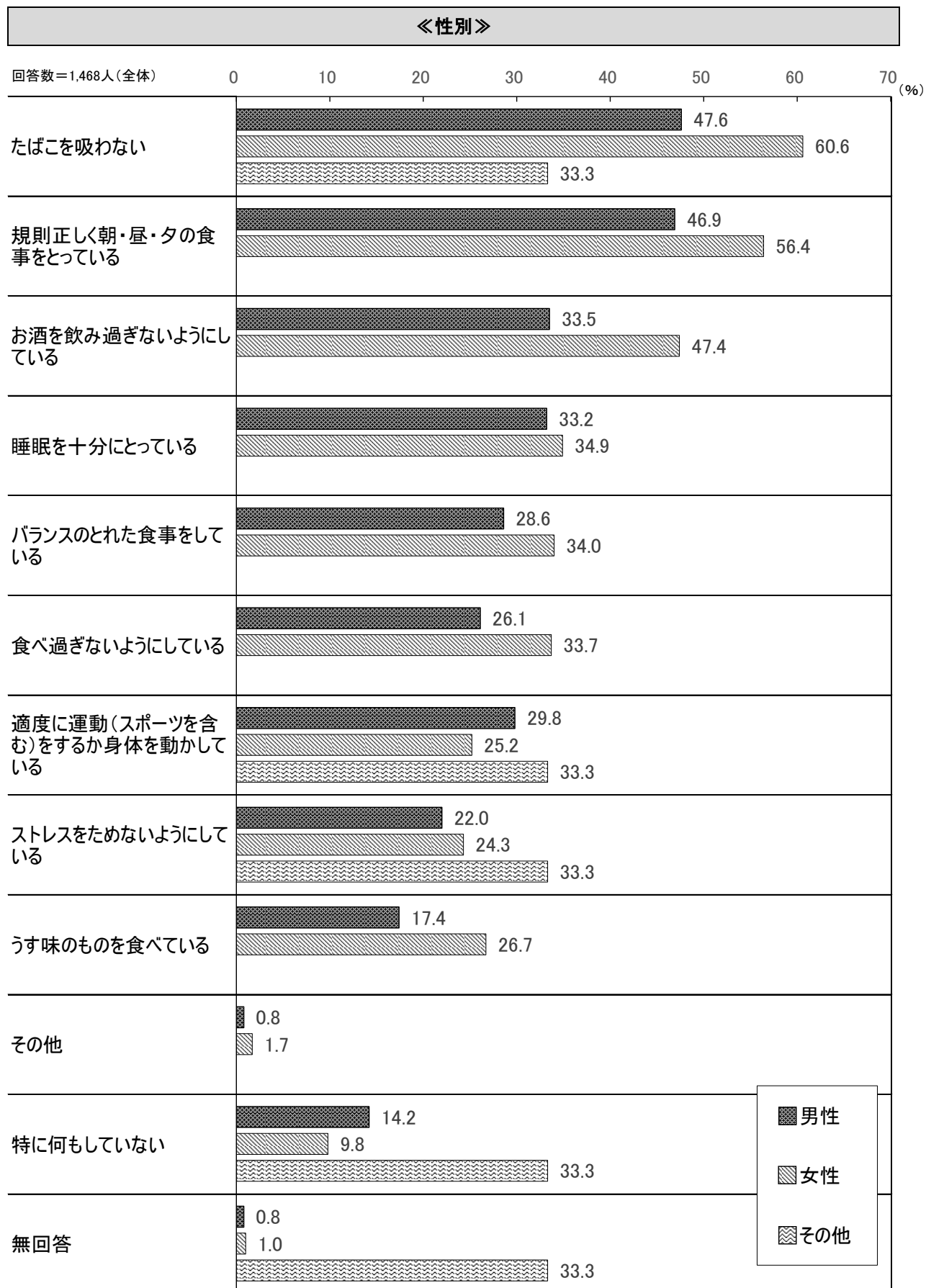
《総合》

		回答数
全 体	100.0	1,468 人
たばこを吸わない	54.8	804 人
規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている	52.1	765 人
お酒を飲み過ぎないようにしている	41.1	603 人
睡眠を十分にとっている	34.1	500 人
バランスのとれた食事をしている	31.6	464 人
食べ過ぎないようにしている	30.2	444 人
適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている	27.2	400 人
ストレスをためないようにしている	23.3	342 人
うす味のもの食べている	22.5	331 人
その他	1.3	19 人
特に何もしていない	11.9	174 人
無回答	1.0	14 人

グラフ単位(%)

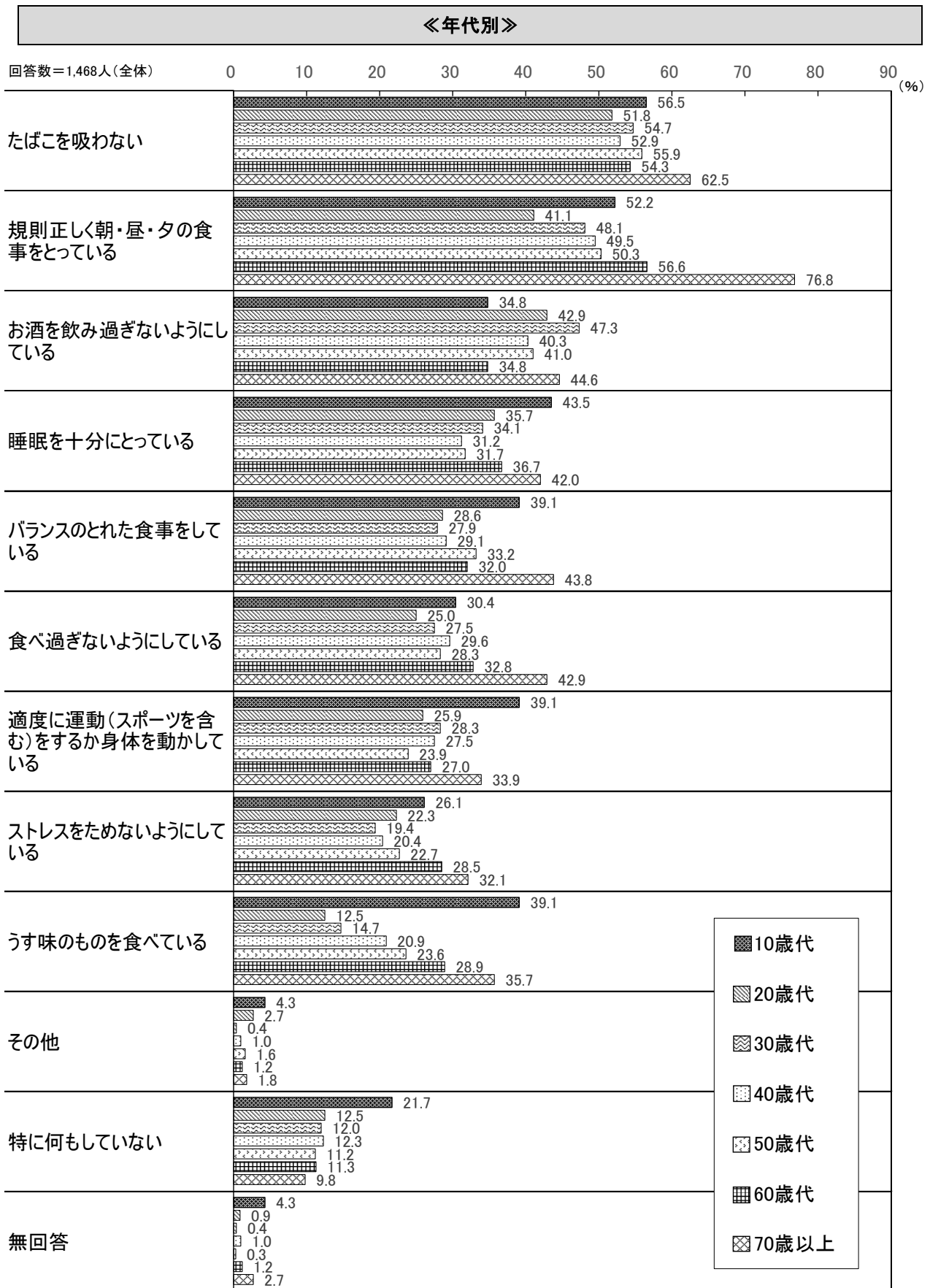
【性別】

男女ともに「たばこを吸わない」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代から50歳代では「たばこを吸わない」が最も高く、60歳代、70歳以上では「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」が最も高く、特に70歳以上では、他の年代より20ポイント以上高くなっている。



【問 36×問 40 のクロス分析】

「現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。」という質問に対して「健康のために行っている行動は。」の結果を見ると、「ある」と回答した人は「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」が最も高く、「ない」と回答した人は「たばこを吸わない」と回答した人が最も高くなっている。

《問 36×問 40 のクロス分析》

		全体	健康のために行っている行動													
			規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている	バランスのとれた食事をしている	うす味のもの食べている	食べ過ぎないようにしている	適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている	睡眠を十分にとっている	たばこを吸わない	お酒を飲み過ぎないようにしている	ストレスをためないようにしている	その他	特に何もしていない	無回答		
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)																
全体		1,468	765 52.1	464 31.6	331 22.5	444 30.2	400 27.2	500 34.1	804 54.8	603 41.1	342 23.3	19 1.3	174 11.9	14 1.0		
健康上の問題で日常生活に影響があるか	ある	174	52.3	34.5	20.7	27.0	29.3	30.5	46.6	39.7	22.4	2.3	12.1	0.6		
	ない	1,268	52.7	31.7	22.8	31.0	27.4	34.9	56.5	41.6	23.5	1.2	11.8	0.6		

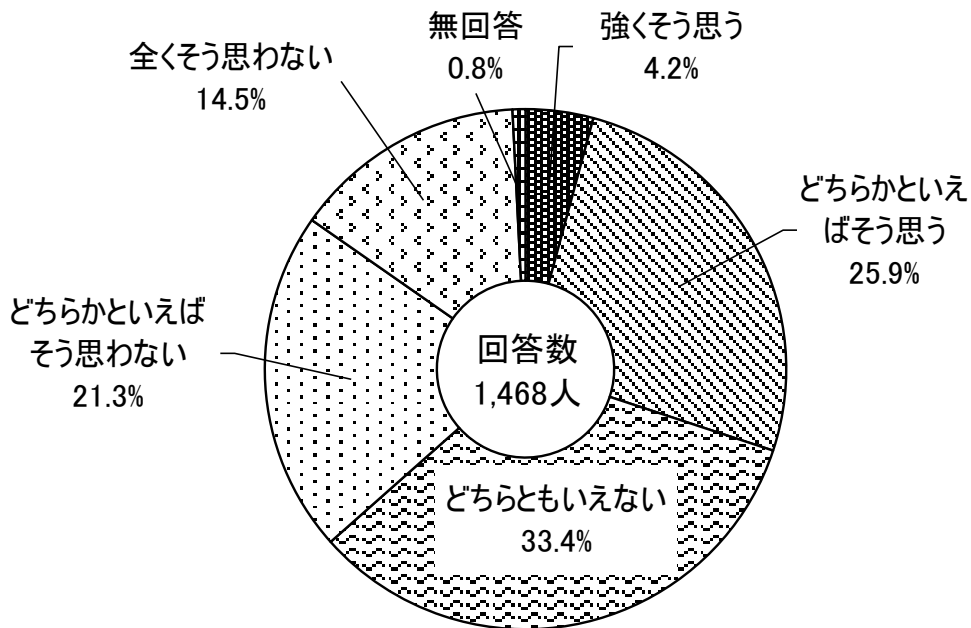
問 41 あなたとあなたのお住まいの地域の人々とのつながりは強いと思いますか。(1つだけ○印)

【総合】

「どちらともいえない」が33.4%と1位になっている。

次いで、「どちらかといえばそう思う」が25.9%、「どちらかといえばそう思わない」が21.3%と続いている。

《総合》

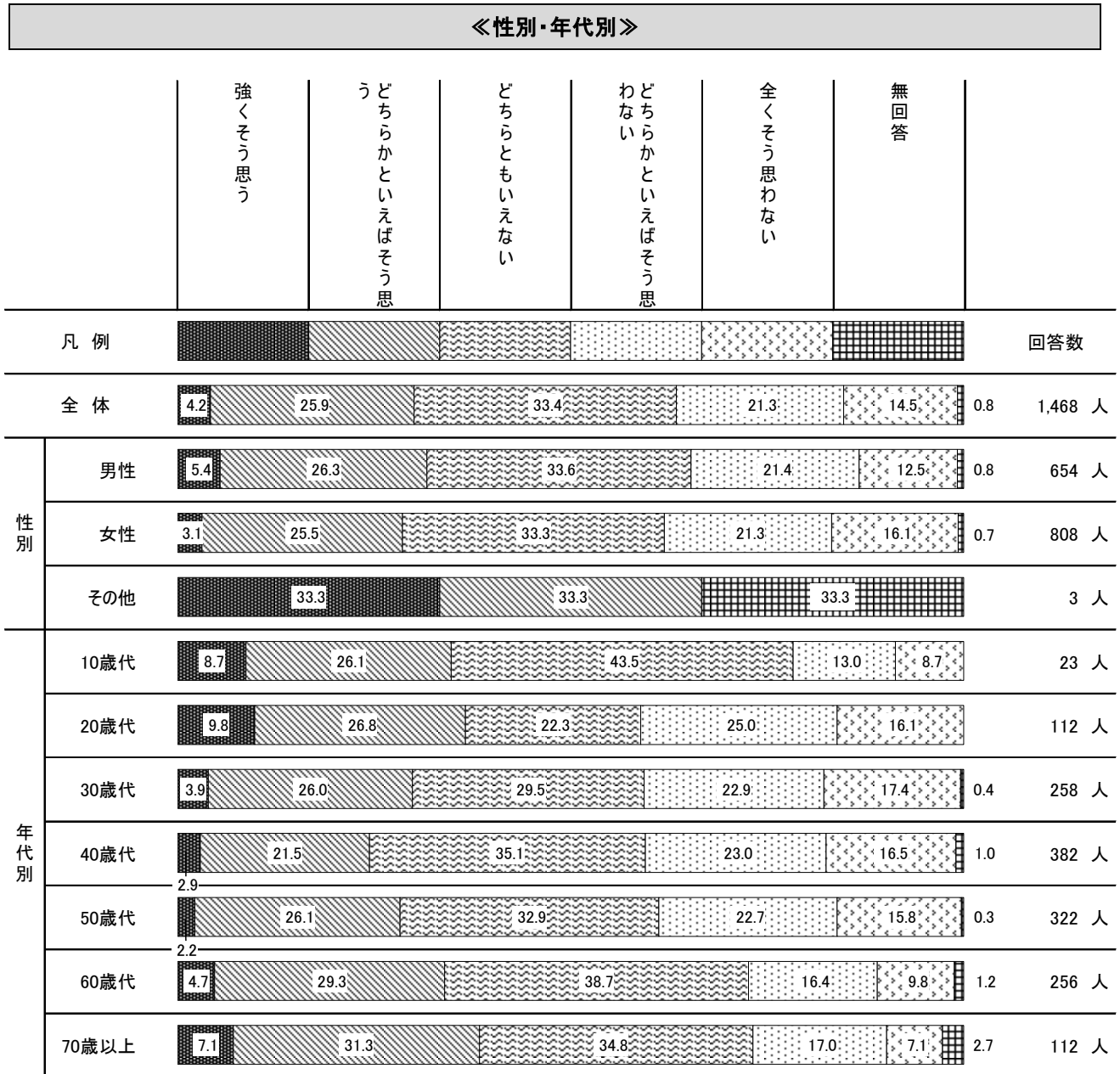


【性別】

男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっている。

【年代別】

20歳代を除くすべての年代で「どちらともいえない」が最も高く、20歳代では「どちらかといえば思う」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

【問 36×問 41 のクロス分析】

「現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。」という質問に対して「住まいの地域の人々とのつながりは強いと思いますか。」の結果を見ると、「ある」、「ない」どちらも「どちらともいえない」との回答した人が最も高くなっている。

次いで、「ある」では「どちらかといえばそう思わない」と回答した人が、「ない」では「どちらかといえばそう思う」との回答した人の比率が高くなっている。

《問 36×問 41 のクロス分析》

		全体	地域の人々とのつながりの強さ					無回答
			強くそう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	全くそう思わない	
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)								
全体		1,468	61 4.2	380 25.9	490 33.4	312 21.3	213 14.5	12 0.8
健康上の問題で日常生活に影響があるか	ある	174	5.7	20.7	31.0	21.3	20.1	1.1
	ない	1,268	3.9	26.8	33.8	21.5	13.7	0.2

【問 41×問 40 のクロス分析】

「住まいの地域の人々とのつながりは強いと思いますか。」という質問に対して「日ごろ、健康のためにしている行動は。」の結果を見ると、「強くそう思う」では「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」との回答した人が最も高く、「どちらかといえばそう思う」では同率で「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」と「たばこを吸わない」が、「どちらともいえない」、「どちらかといえばそう思わない」、「全くそう思わない」では「たばこを吸わない」が最も高くなっている。

《問 41×問 40 のクロス分析》

	全体	健康のためにやっている行動											
		と規則正しく朝・昼・夕の食事を	バランスのとれた食事をしている	うす味のものを食べている	食べ過ぎないようにしている	適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている	睡眠を十分にとっている	たばこを吸わない	お酒を飲み過ぎないようにしている	ストレスをためないようにしている	その他	特に何もしていない	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)													
全体	1,468	765 52.1	464 31.6	331 22.5	444 30.2	400 27.2	500 34.1	804 54.8	603 41.1	342 23.3	19 1.3	174 11.9	14 1.0
地域の 人々との つながりの 強さ	強くそう思う	61 59.0	41.0	34.4	31.1	41.0	44.3	47.5	34.4	24.6	1.6	6.6	1.6
	どちらかといえばそう思う	380 58.2	41.3	26.1	33.7	36.8	43.2	58.2	44.7	29.5	1.3	7.6	0.5
	どちらともいえない	490 53.3	30.0	22.9	31.8	24.1	35.5	56.7	41.4	25.5	1.6	10.4	0.4
	どちらかといえばそう思わない	312 51.6	28.2	19.6	28.2	23.1	26.9	56.7	42.0	19.9	1.6	11.2	0.3
	全くそう思わない	213 39.4	22.1	17.8	24.9	20.2	23.0	46.5	36.6	12.7	-	25.4	-

9. 高知型地域共生社会の実現に向けた支え合いの地域づくりについて

問 42 あなた自身に悩みや困りごとがある場合、家族や親戚以外の誰に相談しますか。(3つまで○印)

【総合】

「友人・知人」が75.7%と1位になっている。

次いで、「相談する人がいない」が19.3%、「近所の人」が8.8%と続いている。

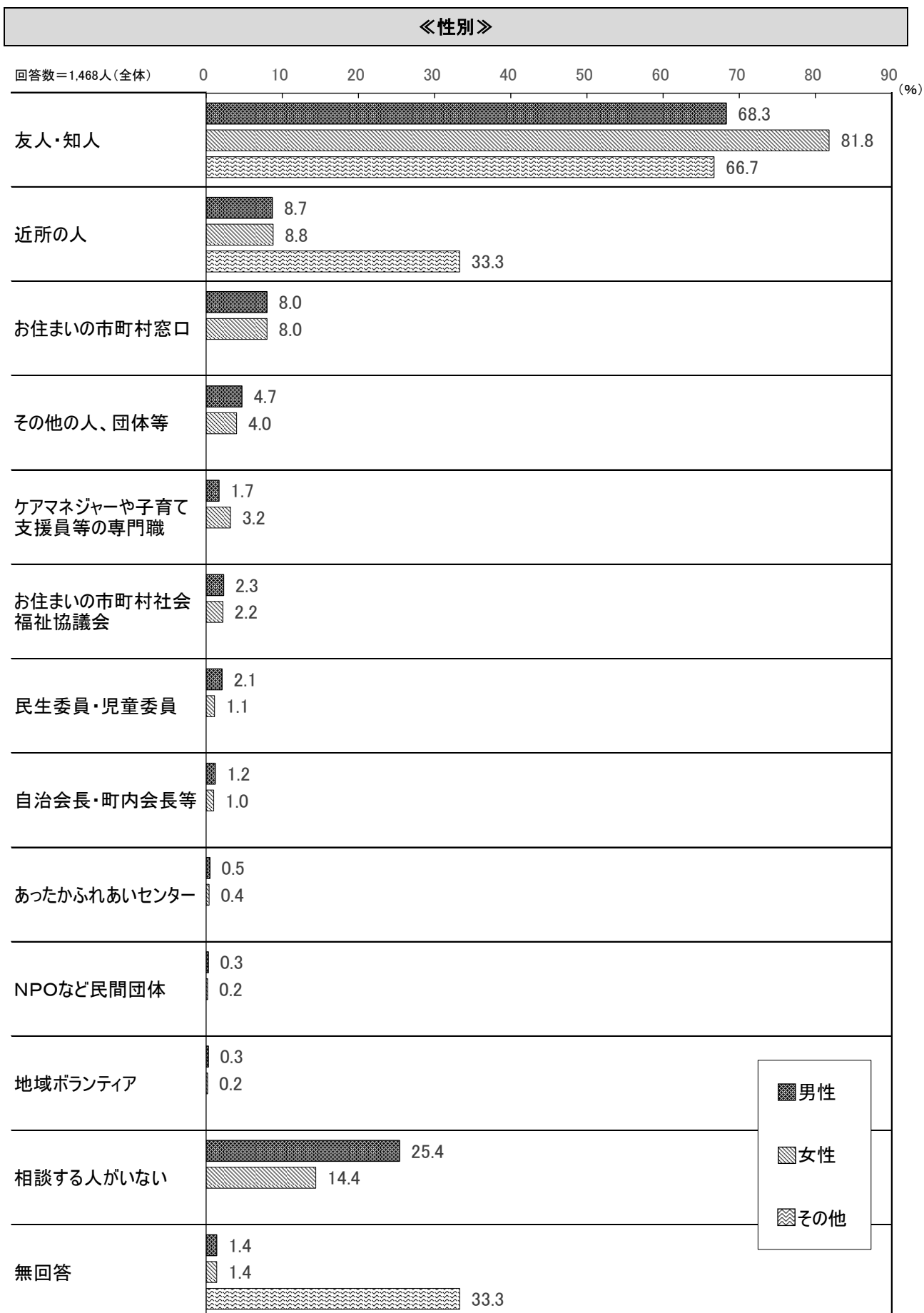
《総合》

		回答数
全体	100.0	1,468 人
友人・知人	75.7	1,112 人
近所の人	8.8	129 人
お住まいの市町村窓口	8.0	117 人
その他の人、団体等	4.3	63 人
ケアマネジャーや子育て支援員等の専門職	2.5	37 人
お住まいの市町村社会福祉協議会	2.2	33 人
民生委員・児童委員	1.6	23 人
自治会長・町内会長等	1.1	16 人
あったかふれあいセンター	0.4	6 人
NPOなど民間団体	0.3	4 人
地域ボランティア	0.3	4 人
相談する人がいない	19.3	283 人
無回答	1.4	21 人

グラフ単位(%)

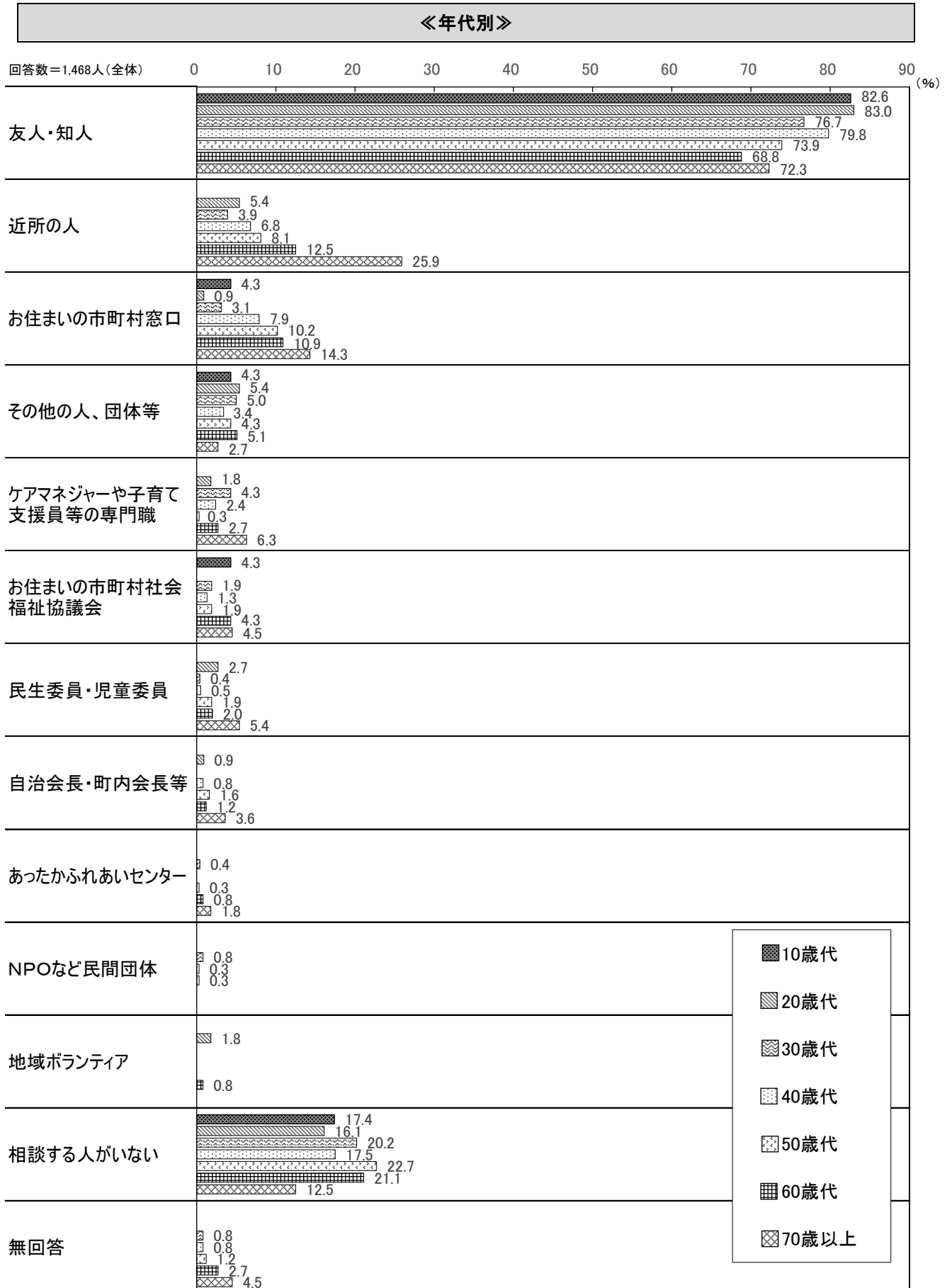
【性別】

男女ともに「友人・知人」が最も高く、女性では81.8%、男性では68.3%と、女性の方が13.5ポイント高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「友人・知人」が最も高くなっている。



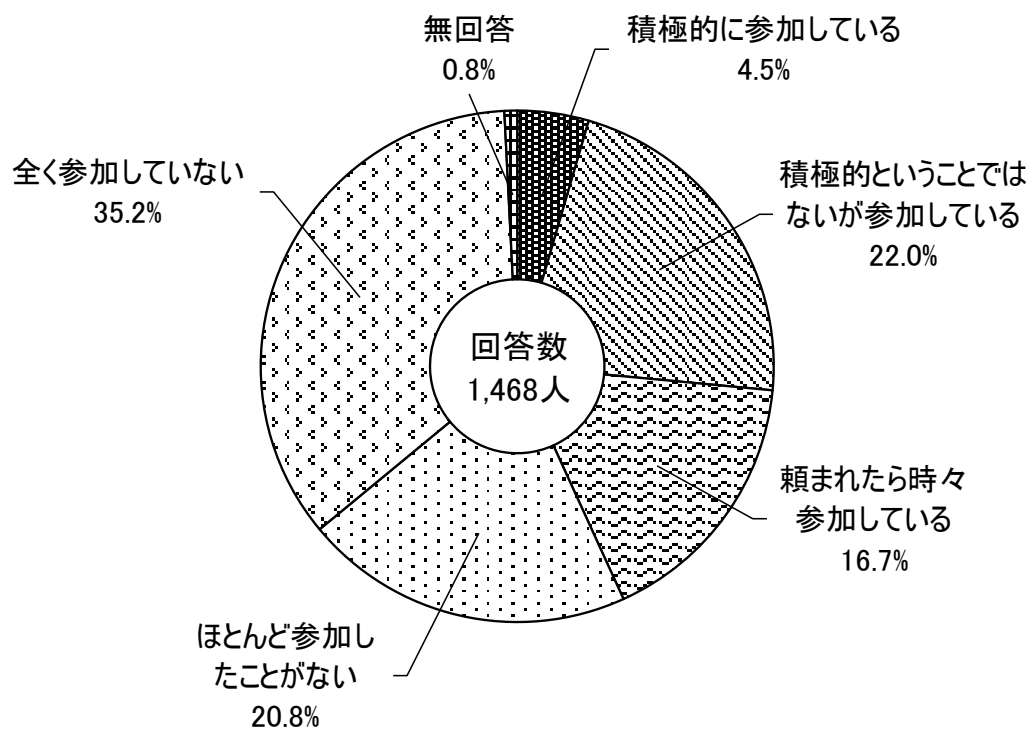
問 43 あなたは現在、地域の活動に参加していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「全く参加していない」が35.2%と1位になっている。

次いで、「積極的ということではないが参加している」が22.0%、「ほとんど参加したことがない」が20.8%と続いている。

《総合》



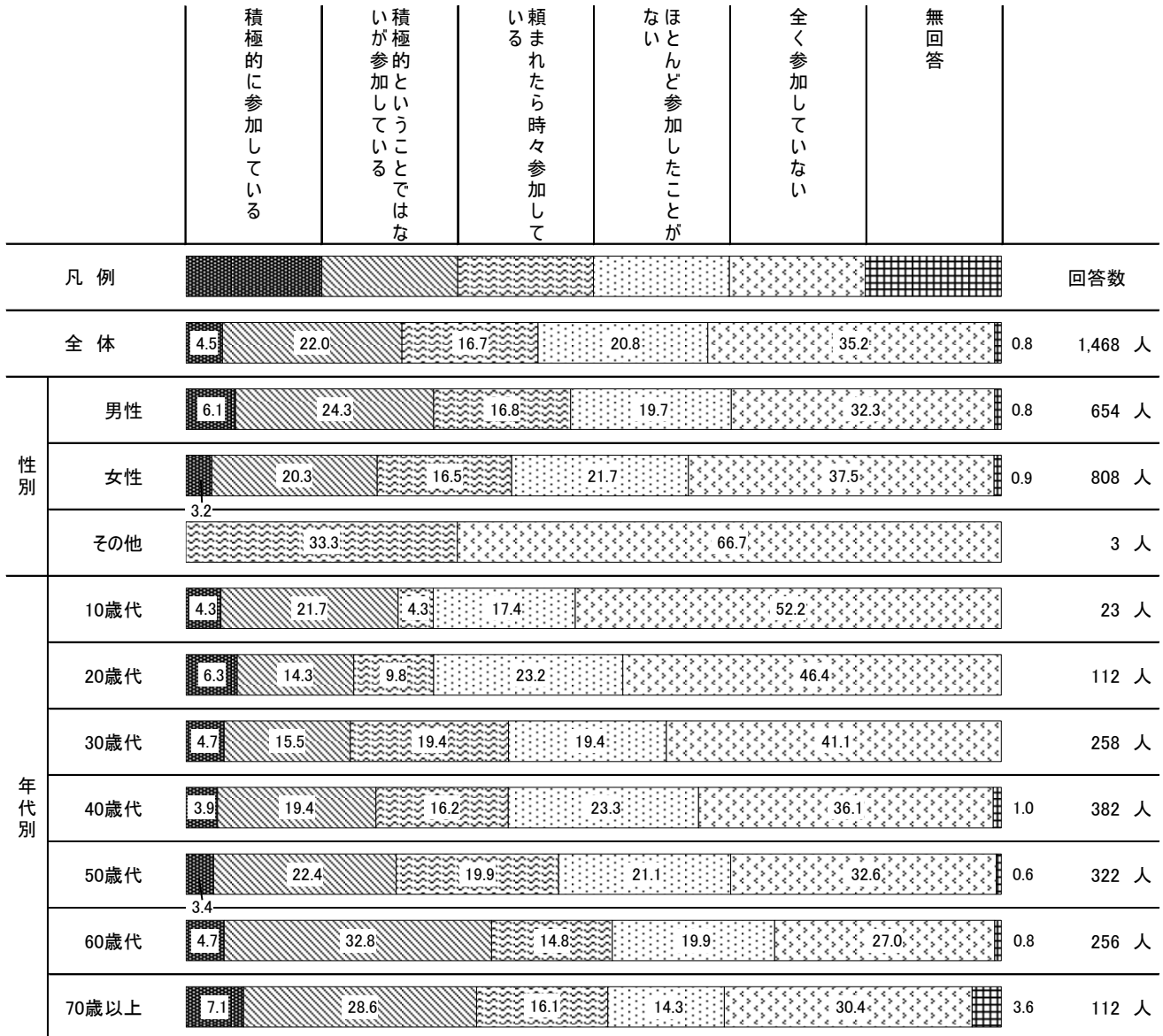
【性別】

男女ともに「全く参加していない」が最も高くなっている。

【年代別】

60歳代では「積極的ということではないが参加している」が最も高く、その他の年代では「全く参加していない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

問 44 地域での福祉に関する活動のうち、参加したことがある、もしくは、今後参加したいと思う活動はどれですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動」が49.7%と1位になっている。

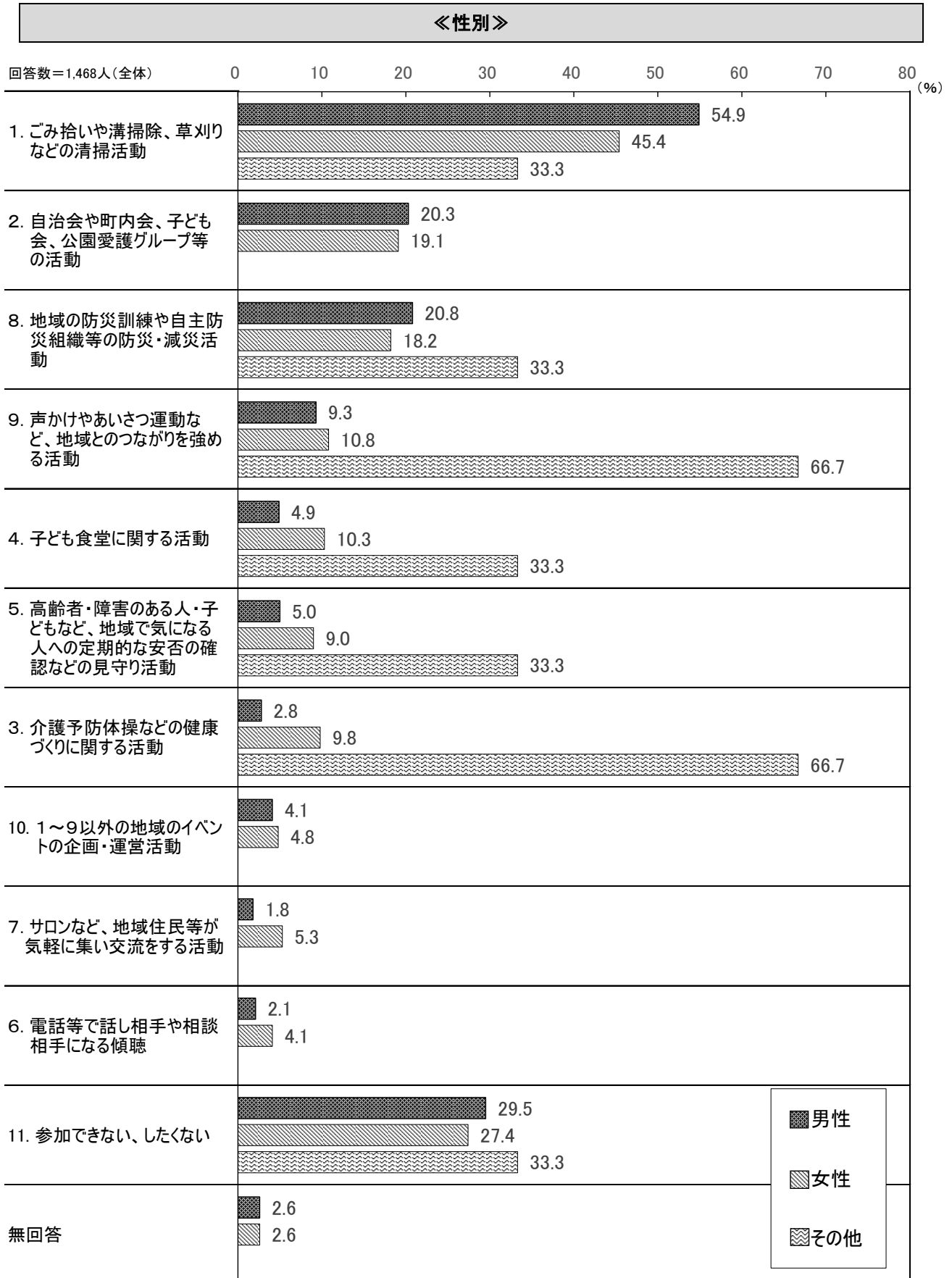
次いで、「参加できない、したくない」が28.3%、「自治会や町内会、子ども会、公園愛護グループ等の活動」が19.6%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,468 人
1. ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動	49.7	729 人
2. 自治会や町内会、子ども会、公園愛護グループ等の活動	19.6	287 人
8. 地域の防災訓練や自主防災組織等の防災・減災活動	19.3	284 人
9. 声かけやあいさつ運動など、地域とのつながりを強める活動	10.2	150 人
4. 子ども食堂に関する活動	7.9	116 人
5. 高齢者・障害のある人・子どもなど、地域で気になる人への定期的な安否の確認などの見守り活動	7.3	107 人
3. 介護予防体操などの健康づくりに関する活動	6.7	99 人
10. 1～9以外の地域のイベントの企画・運営活動	4.5	66 人
7. サロンなど、地域住民等が気軽に集い交流をする活動	3.7	55 人
6. 電話等で話し相手や相談相手になる傾聴	3.2	47 人
11. 参加できない、したくない	28.3	416 人
無回答	2.6	38 人

グラフ単位(%)

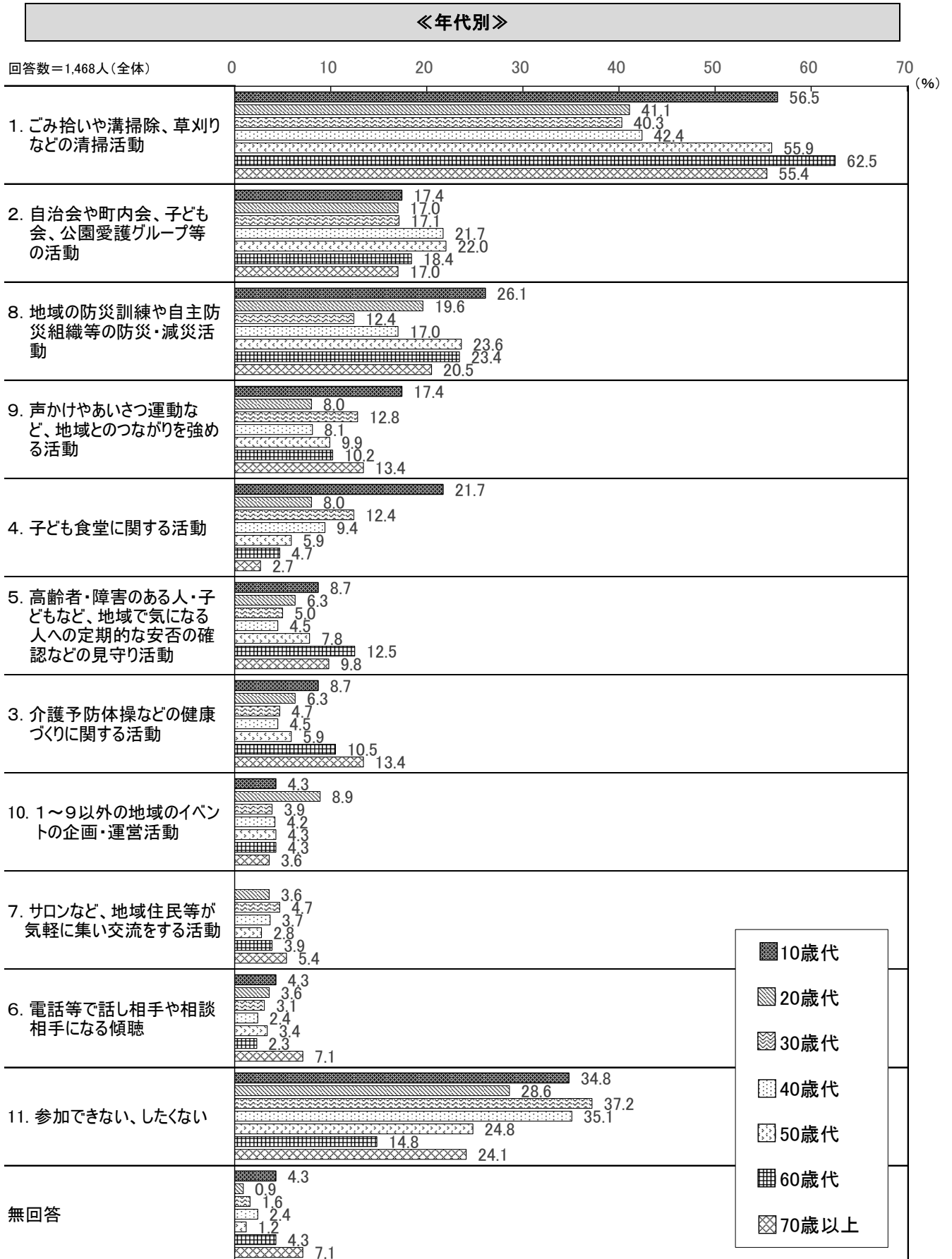
【性別】

男女ともに「ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動」が最も高くなっている。



10. グリーン化(地球温暖化対策)について

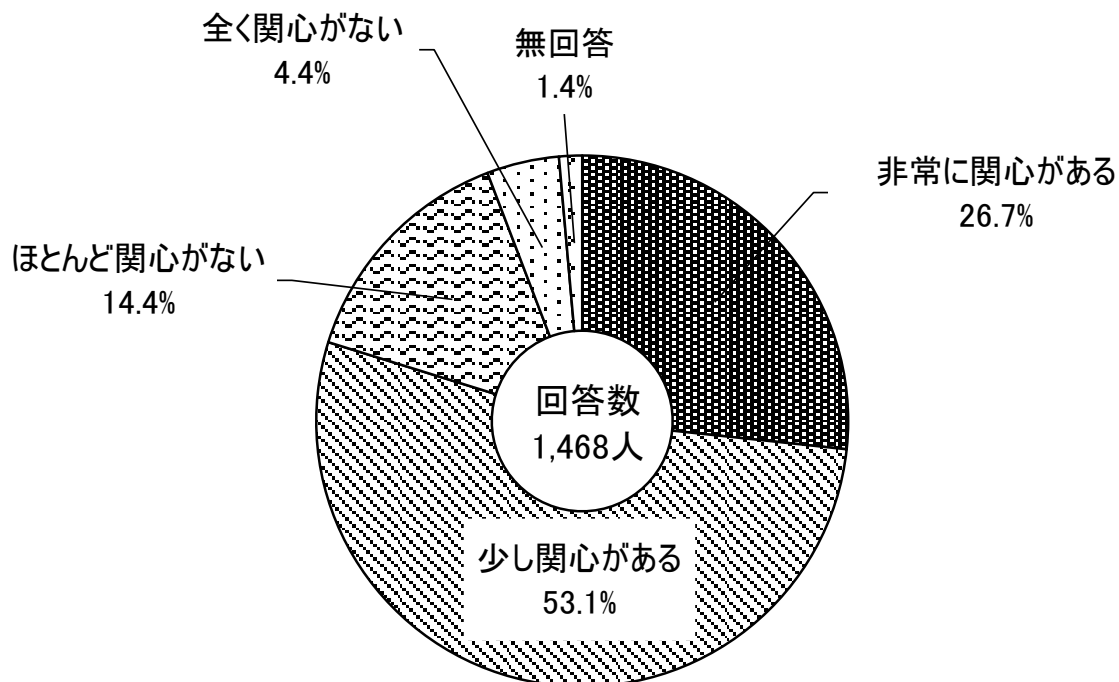
問 45 地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「少し関心がある」が53.1%と1位になっている。

次いで、「非常に関心がある」が26.7%、「ほとんど関心がない」が14.4%と続いている。

《総合》



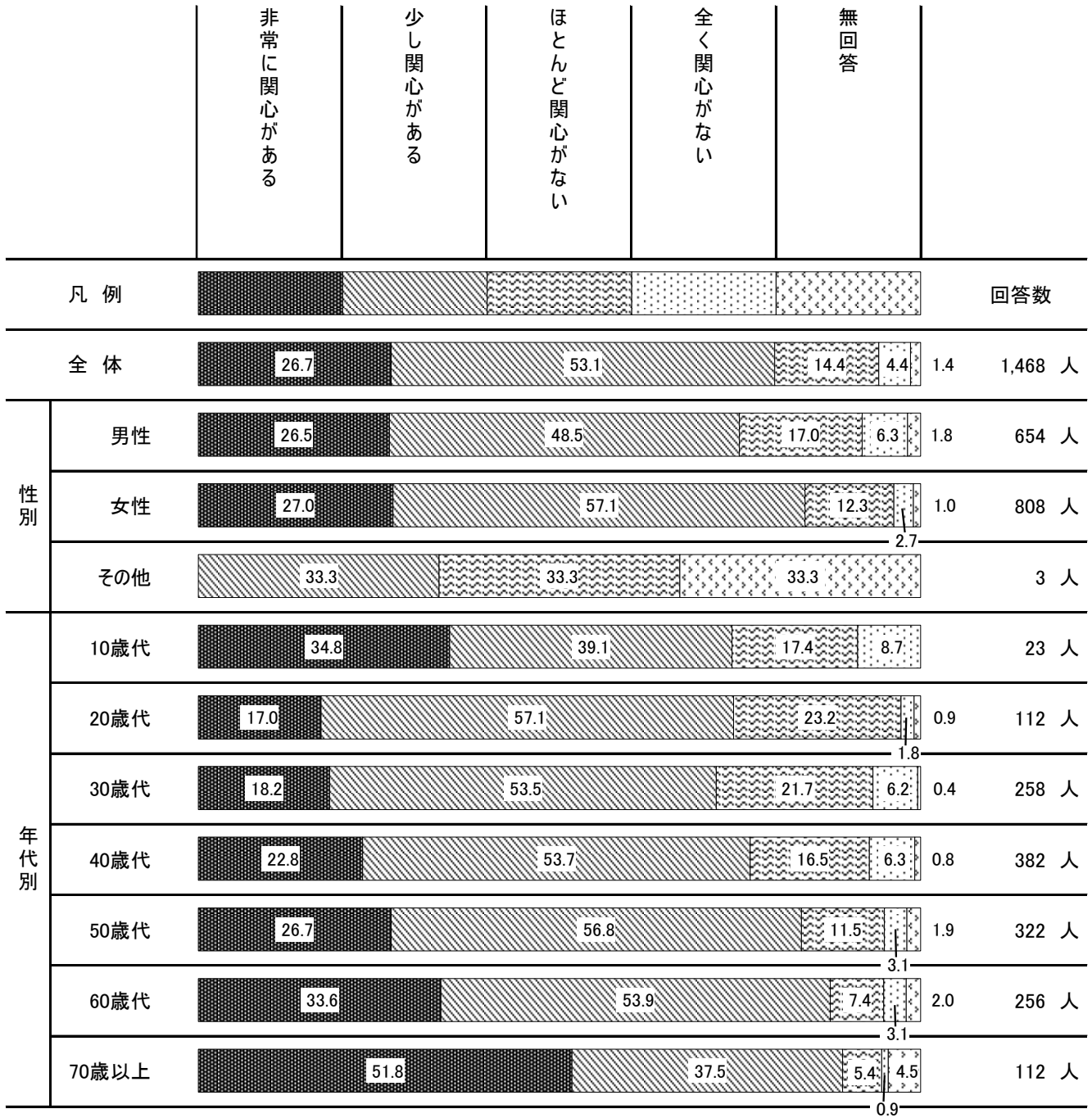
【性別】

男女ともに「少し関心がある」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代から60歳代では「少し関心がある」が最も高く、70歳以上では「非常に関心がある」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

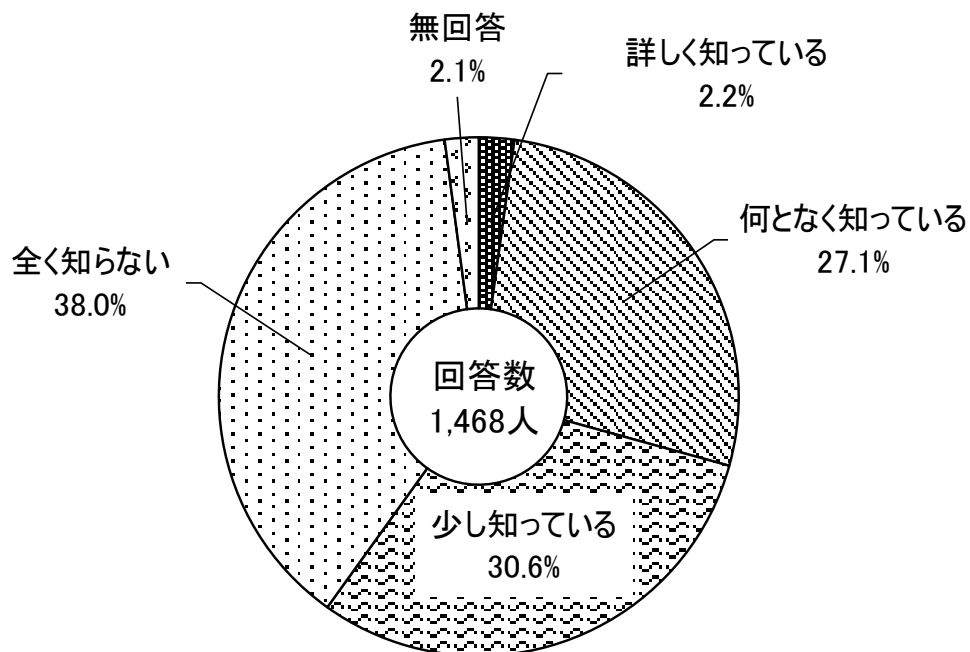
問 46 高知県がアクションプランに基づき、カーボンニュートラルの実現に向けた様々な取組を進めていることを知っていますか。(1つだけ○印)

【総合】

「全く知らない」が38.0%と1位になっている。

次いで、「少し知っている」が30.6%、「何となく知っている」が27.1%と続いている。

《総合》



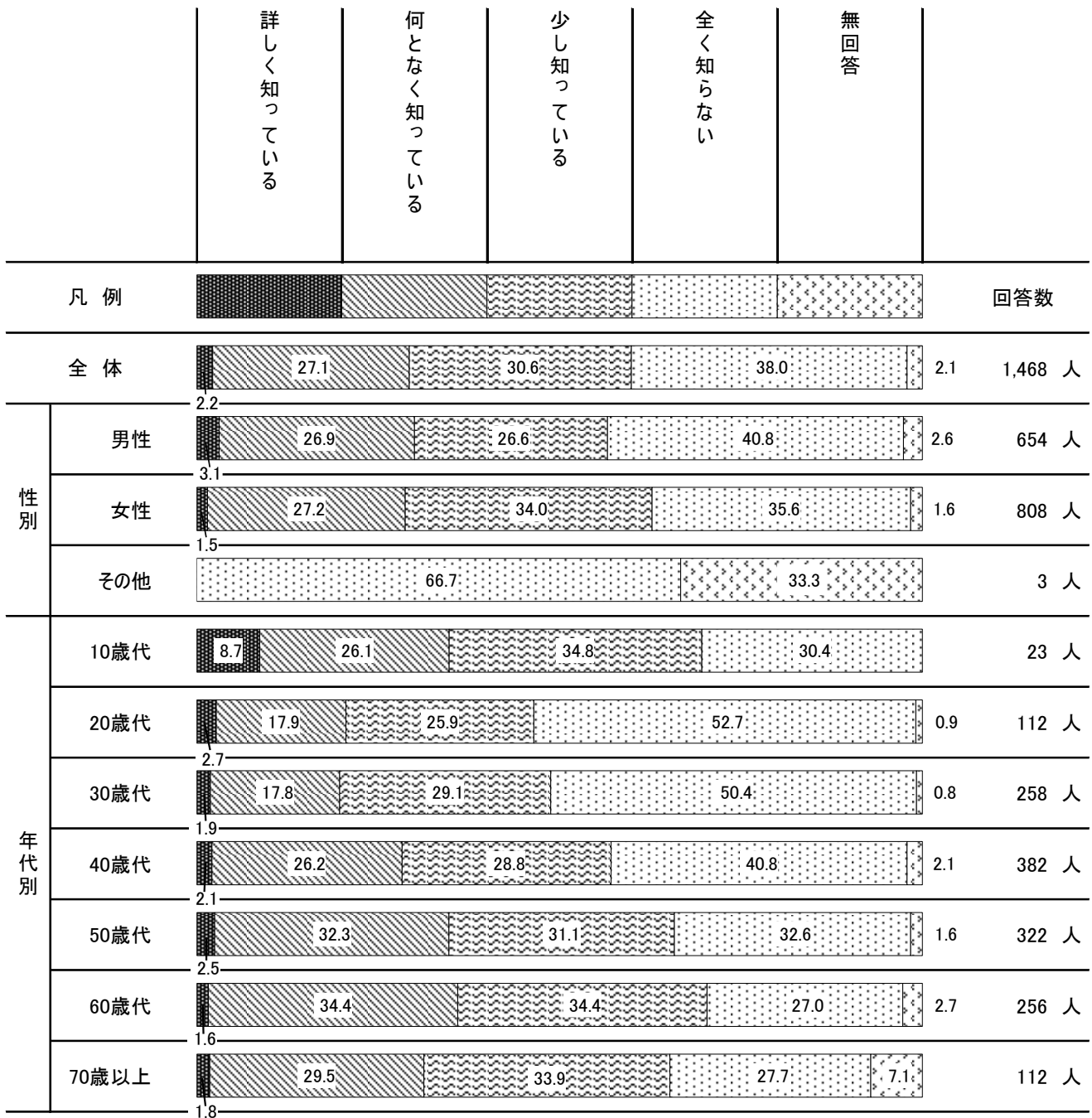
【性別】

男女ともに「全く知らない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では「少し知っている」が最も高く、20歳代から50歳代では「全く知らない」が、60歳代では同率で「何となく知っている」と「少し知っている」が、70歳以上では「少し知っている」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

【問 45×問 46 のクロス分析】

「地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。」という質問に対して「高知県がアクションプランに基づき、カーボンニュートラルの実現に向けた様々な取組を進めていることを知っていますか。」の結果を見ると、「非常に関心がある」と回答した人では、「何となく知っている」が、「少し関心がある」では「少し知っている」が、「ほとんど関心がない」と「全く関心がない」では「全く知らない」との回答が最も高くなっている。

		《問 45×問 46 のクロス分析》					
		全 体	高知県のカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの認知度				
			詳 しく 知 っ て い る	何 と な く 知 っ て い る	少 し 知 っ て い る	全 く 知 ら な い	無 回 答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)							
全体		1,468	32	398	449	558	31
		100.0	2.2	27.1	30.6	38.0	2.1
地球 温暖 化に 対す る関 心度	非常に関心がある	392	5.4	44.1	26.3	23.5	0.8
	少し関心がある	780	0.9	26.4	35.8	35.6	1.3
	ほとんど関心がない	211	0.9	7.1	28.0	64.0	—
	全く関心がない	64	3.1	4.7	10.9	79.7	1.6

問 47 地球温暖化対策について、次の中であなたが既に取り組んでいるものはありますか。

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「エコバッグでの買い物を心がける」が74.3%と1位になっている。

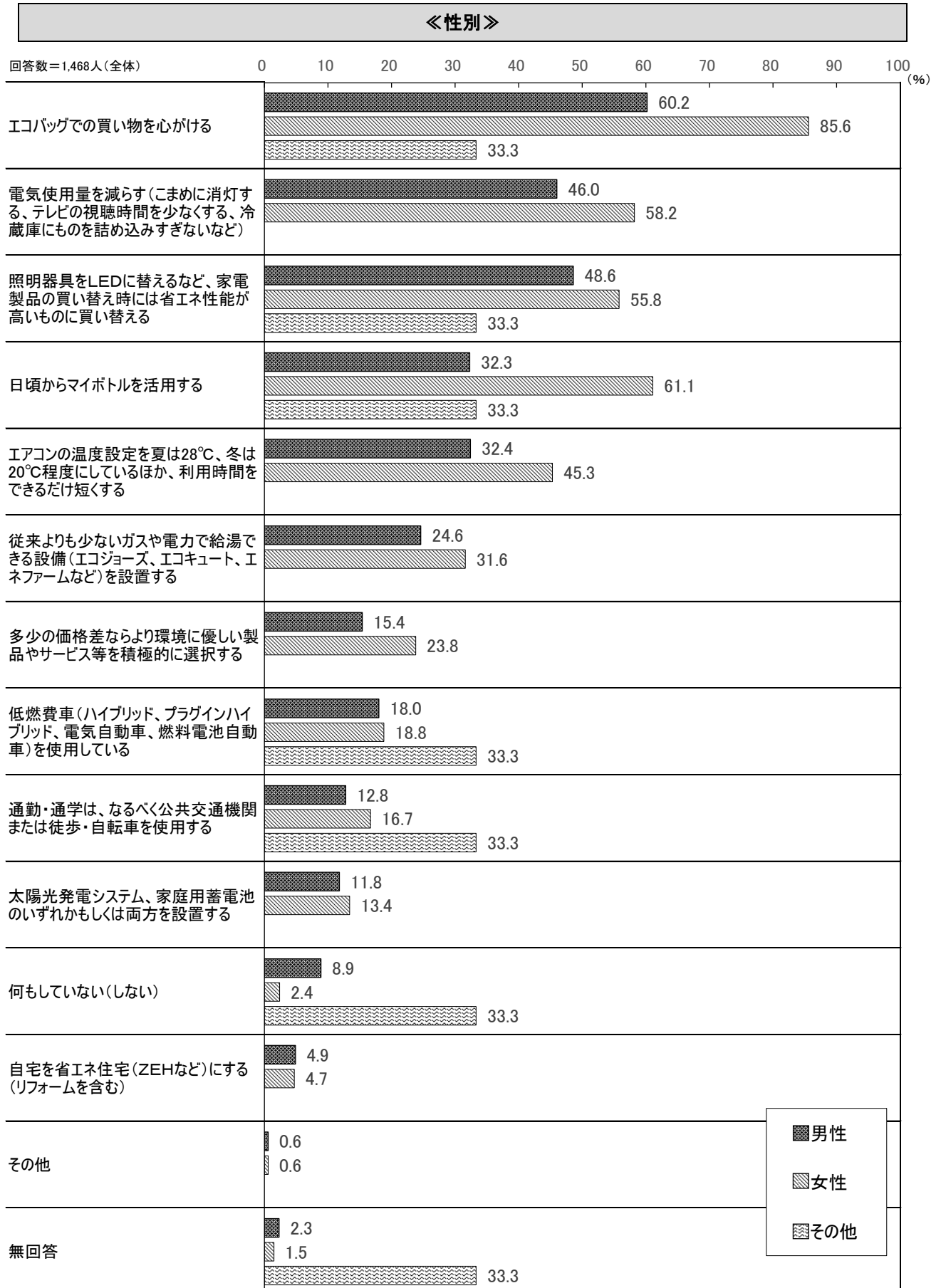
次いで、同率で「電気使用量を減らす（こまめに消灯する、テレビの視聴時間を少なくする、冷蔵庫にものを詰め込みすぎないなど）」と「照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える」が52.7%、「日頃からマイボトルを活用する」が48.3%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,468 人
エコバッグでの買い物を心がける	74.3	1,090 人
電気使用量を減らす（こまめに消灯する、テレビの視聴時間を少なくする、冷蔵庫にものを詰め込みすぎないなど）	52.7	773 人
照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	52.7	773 人
日頃からマイボトルを活用する	48.3	709 人
エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、利用時間をできるだけ短くする	39.4	578 人
従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備（エコジョーズ、エコキュート、エネファームなど）を設置する	28.5	418 人
多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する	20.1	295 人
低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している	18.5	272 人
通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	15.0	220 人
太陽光発電システム、家庭用蓄電池のいずれかもしくは両方を設置する	12.7	186 人
何もしていない（しない）	5.3	78 人
自宅を省エネ住宅（ZEHなど）にする（リフォームを含む）	4.8	71 人
その他	0.6	9 人
無回答	1.9	28 人

グラフ単位 (%)

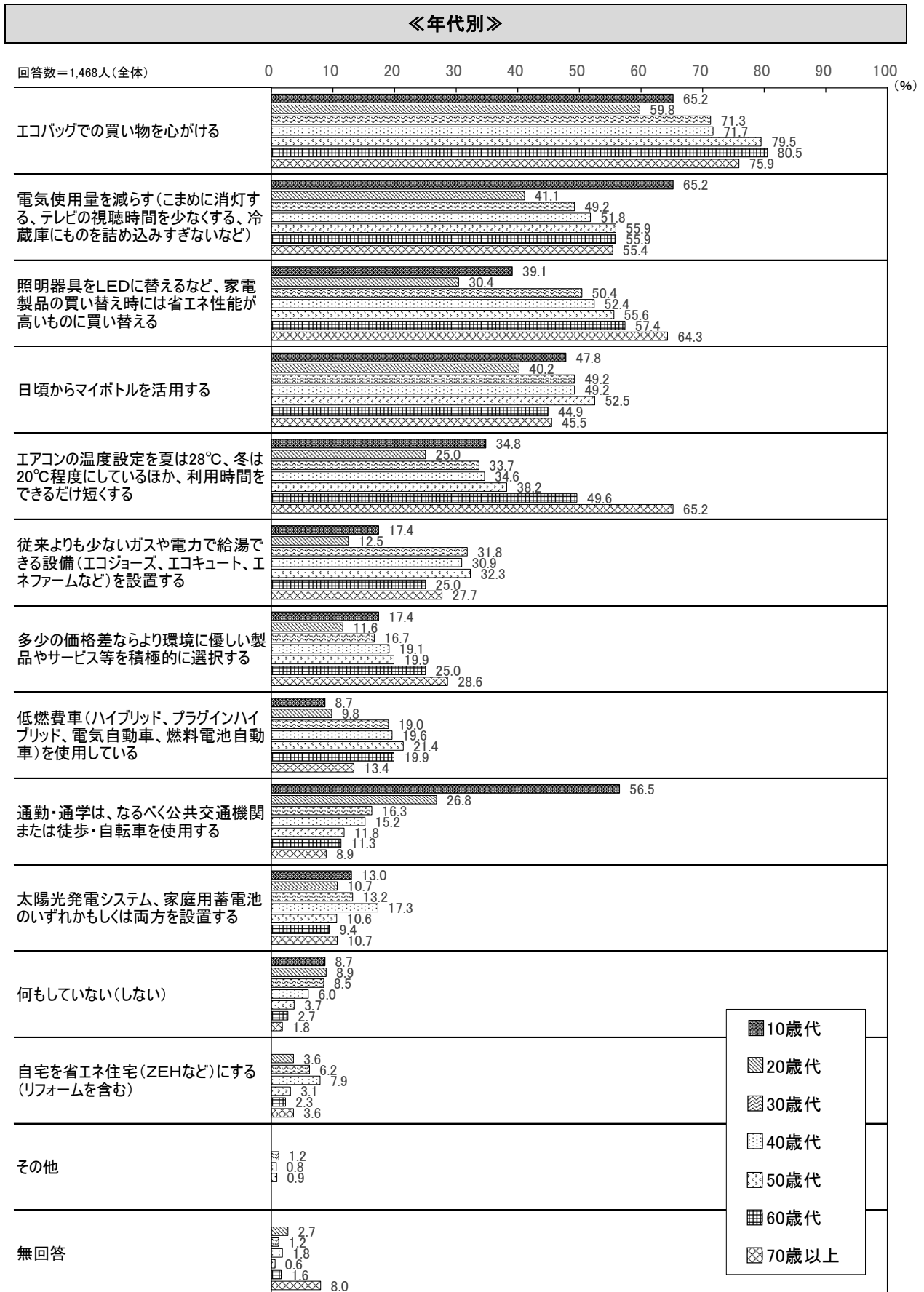
【性別】

男女ともに「エコバッグでの買い物を心がける」が最も高く、女性は85.6%と男性の60.2%より25.4ポイント高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「エコバッグでの買い物を心がける」が最も高く、10歳代では同率で「電気使用量を減らす（こまめに消灯する、テレビの視聴時間を少なくする、冷蔵庫にものを詰め込みすぎないなど）」も最も高くなっている。



【問 45×問 47 のクロス分析】

「地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。」という質問に対して「地球温暖化対策について、次の中であなたが既に取り組んでいるものはありますか。」の結果を見ると、関心の有無にかかわらず、すべての回答で「エコバッグでの買い物を心がける」が最も高くなっている。

《問 45×問 47 のクロス分析》

	全体	地球温暖化対策で既に取り組んでいること														
		ほか、利用時間をできるだけ短くする	エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしている	電気使用量を減らす（こまめに消灯する、テレビの視聴時間を少なくする、冷蔵庫にものを詰め込みすぎないなど）	エコバッグでの買い物を心がける	通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	日頃からマイボトルを活用する	従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備（エコジョーズ、エコキュート、エネファームなど）を設置する	太陽光発電システム、家庭用蓄電池のいずれかもしくは両方を設置する	低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している	自宅を省エネ住宅（ZEHなど）にする（リフォームを含む）	多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する	何もしていない（しない）	その他	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)	全体	1,468	578	773	1,090	220	773	709	418	186	272	71	295	78	9	28
			39.4	52.7	74.3	15.0	52.7	48.3	28.5	12.7	18.5	4.8	20.1	5.3	0.6	1.9
地球温暖化に対する関心度	非常に関心がある	392	54.1	68.4	83.7	18.4	64.8	59.7	33.2	16.1	23.0	6.6	37.2	2.6	0.8	1.0
	少し関心がある	780	38.1	52.2	76.3	15.1	53.3	49.1	30.9	12.6	19.1	4.9	17.2	2.8	0.6	0.8
	ほとんど関心がない	211	23.7	37.0	63.0	12.3	37.0	32.2	19.0	9.5	12.8	1.9	6.2	12.3	-	2.4
	全く関心がない	64	21.9	23.4	40.6	6.3	26.6	28.1	7.8	6.3	9.4	4.7	3.1	31.3	1.6	4.7

問 48 地球温暖化対策について、次の中で、あなたがまだ取り組んでいないが、今後取り組んでいきたいと思うものはありますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が24.0%と1位になっている。

次いで、「多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する」が23.2%、「照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える」が22.2%と続いている。

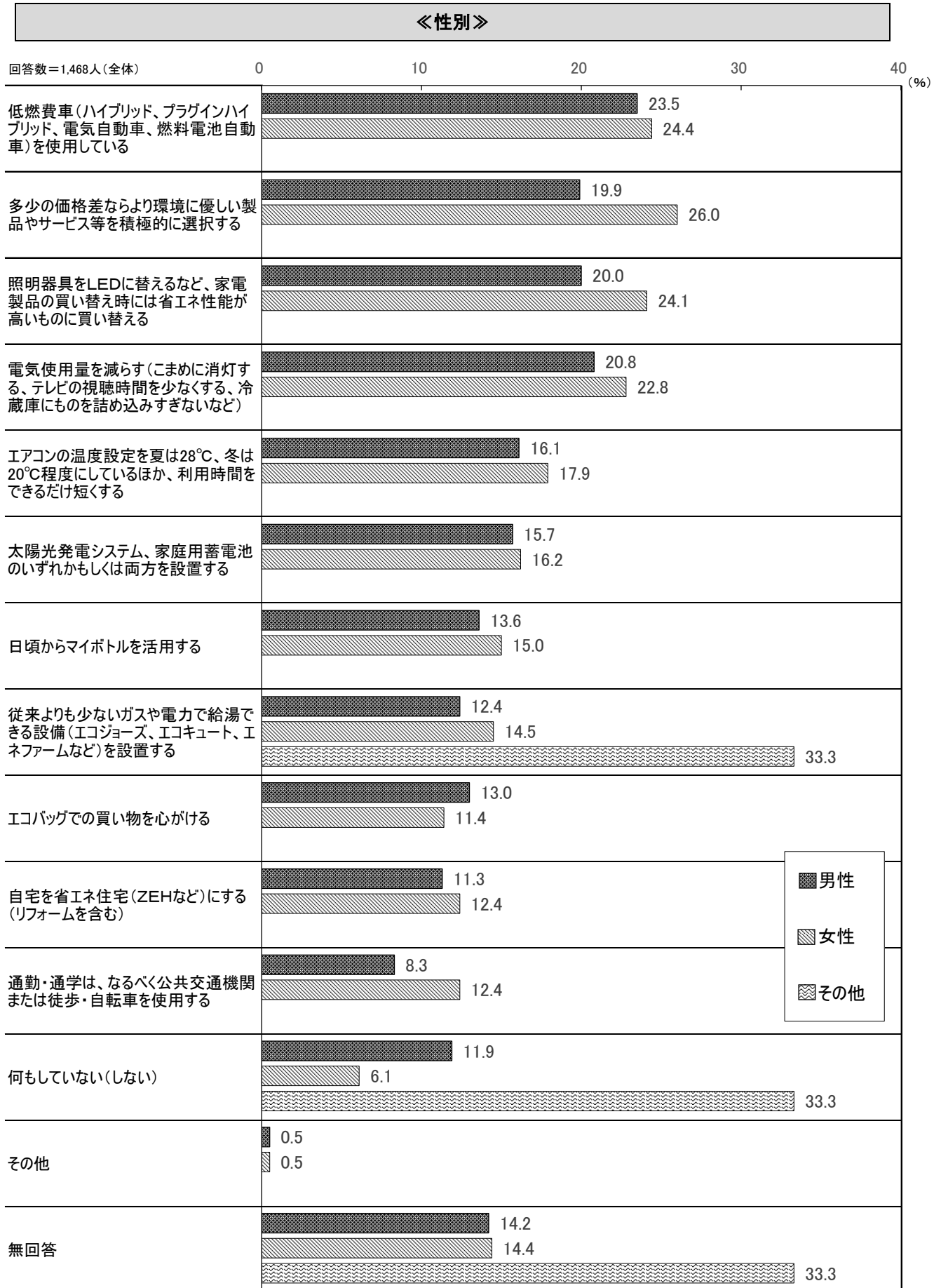
《総合》

		回答数
全体	100.0	1,468 人
低燃費車(ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車)を使用している	24.0	352 人
多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する	23.2	341 人
照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	22.2	326 人
電気使用量を減らす(こまめに消灯する、テレビの視聴時間を少なくする、冷蔵庫にものを詰め込みすぎないなど)	21.8	320 人
エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、利用時間をできるだけ短くする	17.0	250 人
太陽光発電システム、家庭用蓄電池のいずれかもしくは両方を設置する	15.9	234 人
日頃からマイボトルを活用する	14.3	210 人
従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備(エコジョーズ、エコキュート、エネファームなど)を設置する	13.6	200 人
エコバッグでの買い物心がける	12.1	177 人
自宅を省エネ住宅(ZEHなど)にする(リフォームを含む)	11.9	175 人
通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	10.5	154 人
何もしていない(しない)	8.7	128 人
その他	0.5	7 人
無回答	14.4	211 人

グラフ単位(%)

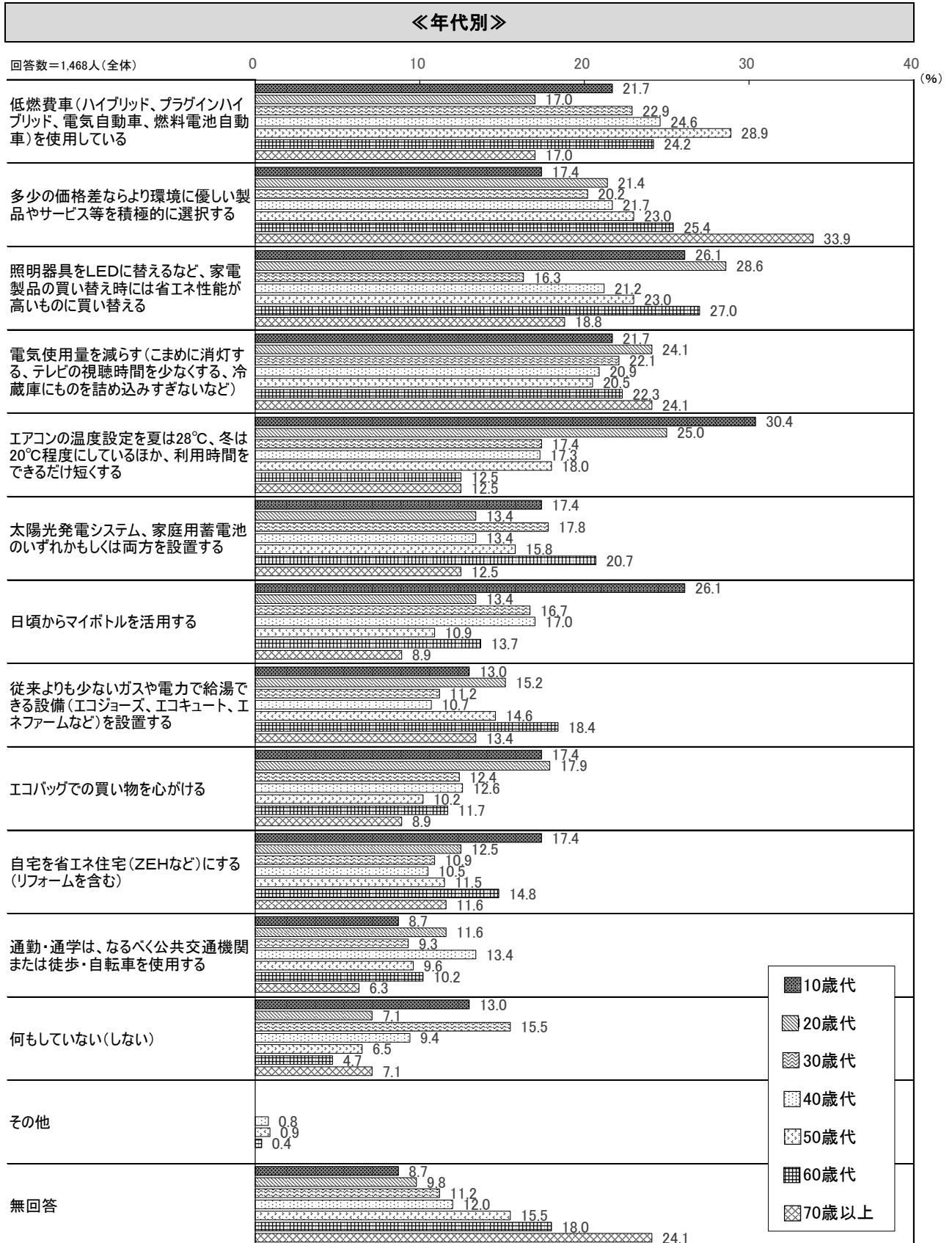
【性別】

男性では「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が最も高く、女性では「多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、利用時間をできるだけ短くする」が最も高く、20歳代、60歳代では「照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える」が、30歳代、40歳代、50歳代では「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が、70歳以上では「多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する」が最も高くなっている。



【問 45×問 48 のクロス分析】

「地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。」という質問に対し、「地球温暖化対策について、まだ取り組んでいないが、今後取り組んでいきたいと思うものはありますか。」の結果を見ると、「非常に関心がある」では「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が最も高く、「少し関心がある」では同率で「電気使用量を減らす（こまめに消灯する、テレビの視聴時間を少なくする、冷蔵庫にもものを詰め込みすぎないなど）」と「多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する」が、「ほとんど関心がない」では「照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える」が、「全く関心がない」では「何もしていない（しない）」が最も高くなっている。

《問 45×問 48 のクロス分析》

		全体	地球温暖化対策でまだ取り組んでいないが、今後取り組んでいきたいこと												その他	無回答
			ほか、利用時間をできるだけ短くする	エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしている	間を少なくする、冷蔵庫にもものを詰め込みすぎないなど	電気使用量を減らす（こまめに消灯する、テレビの視聴時間を少なくする、冷蔵庫にもものを詰め込みすぎないなど）	エコバッグでの買い物心がける	通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を 使用する	照明器具をLEDに替えるなど、家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	日頃からマイボトルを活用する	従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備（エコジョーズ、エコキュート、エネファームなど）を設置する	太陽光発電システム、家庭用蓄電池のいずれかもしくは両方を設置する	低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している	自宅を省エネ住宅（ZEHなど）にする（リフォームを含む）		
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)																
全体		1,468	250 17.0	320 21.8	177 12.1	154 10.5	326 22.2	210 14.3	200 13.6	234 15.9	352 24.0	175 11.9	341 23.2	128 8.7	7 0.5	211 14.4
地球温暖化に対する関心度	非常に関心がある	392	18.9	19.4	11.7	15.1	23.2	13.3	23.2	25.8	30.1	19.4	26.5	4.3	-	14.0
	少し関心がある	780	17.6	25.0	12.7	10.4	23.3	15.8	11.5	13.3	24.6	11.0	25.0	5.8	0.6	12.3
	ほとんど関心がない	211	17.5	19.4	13.7	5.2	21.8	13.7	7.1	11.8	15.6	5.2	16.6	17.1	0.5	14.7
	全く関心がない	64	3.1	7.8	4.7	3.1	9.4	7.8	4.7	3.1	6.3	1.6	7.8	43.8	1.6	28.1

問 49 今後、温室効果ガスの排出を削減していくために、県が力を入れるべき施策は何だと考えますか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電など）の普及拡大に向けた支援の強化」が41.6%と1位になっている。

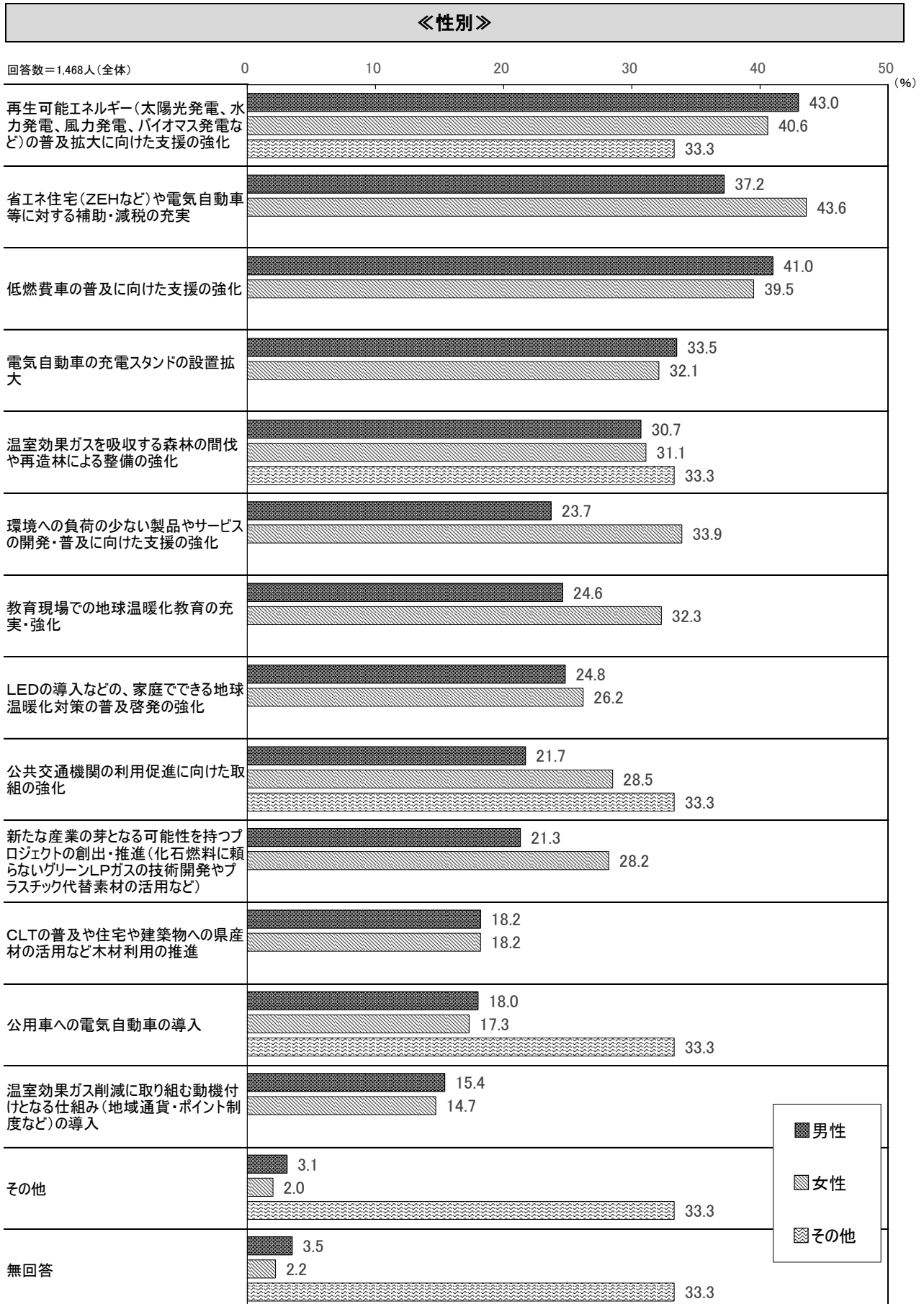
次いで、「省エネ住宅（ZEHなど）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が40.7%、「低燃費車の普及に向けた支援の強化」が40.1%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,468 人
再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電など）の普及拡大に向けた支援の強化	41.6	611 人
省エネ住宅（ZEHなど）や電気自動車等に対する補助・減税の充実	40.7	597 人
低燃費車の普及に向けた支援の強化	40.1	589 人
電気自動車の充電スタンドの設置拡大	32.6	479 人
温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備の強化	31.0	455 人
環境への負荷の少ない製品やサービスの開発・普及に向けた支援の強化	29.3	430 人
教育現場での地球温暖化教育の充実・強化	28.9	424 人
LEDの導入などの、家庭でできる地球温暖化対策の普及啓発の強化	25.7	377 人
公共交通機関の利用促進に向けた取組の強化	25.4	373 人
新たな産業の芽となる可能性を持つプロジェクトの創出・推進（化石燃料に頼らないグリーンLPガスの技術開発やプラスチック代替素材の活用など）	25.1	368 人
CLTの普及や住宅や建築物への県産材の活用など木材利用の推進	18.2	267 人
公用車への電気自動車の導入	17.6	259 人
温室効果ガス削減に取り組む動機付けとなる仕組み（地域通貨・ポイント制度など）の導入	15.0	220 人
その他	2.5	37 人
無回答	2.9	42 人

グラフ単位 (%)

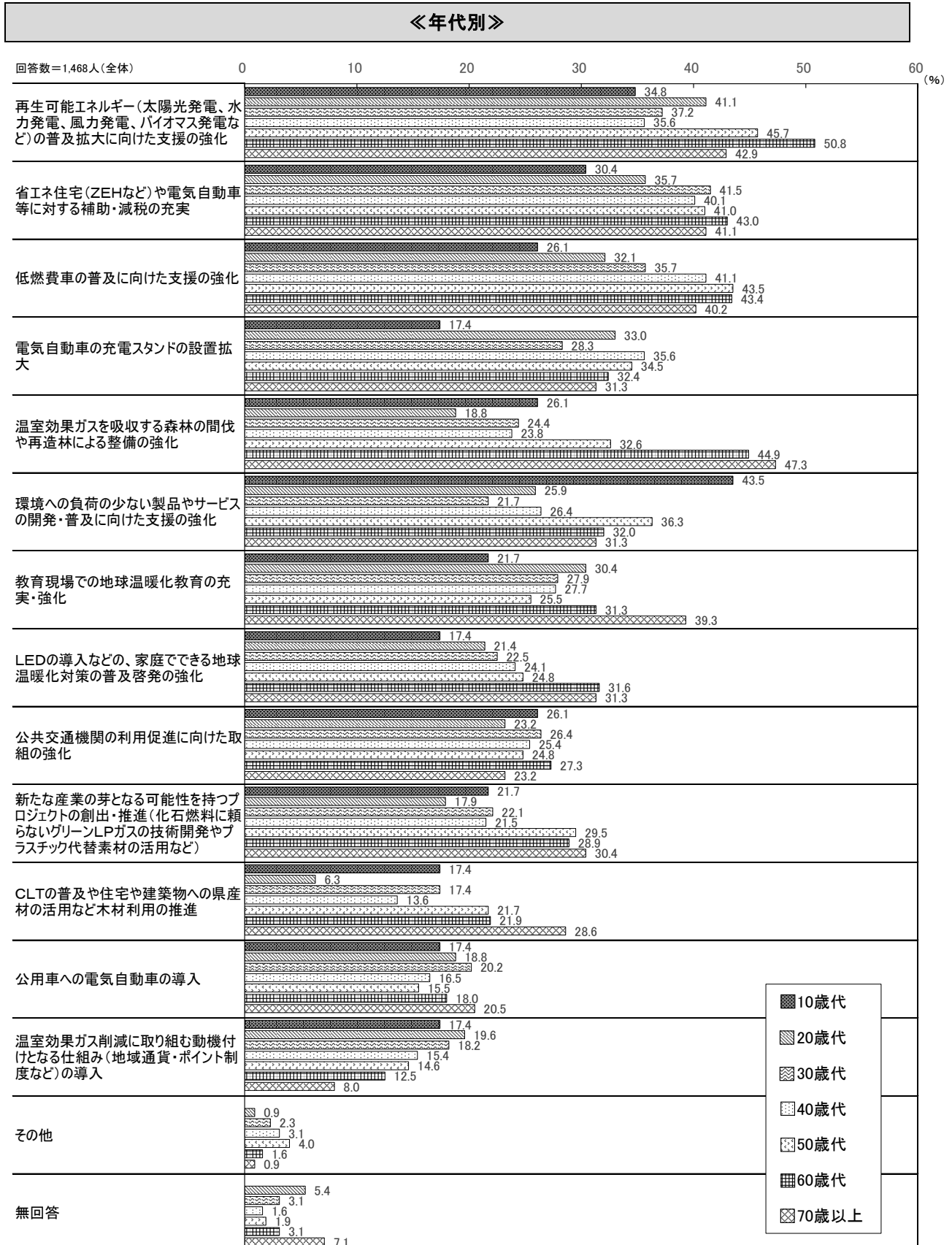
【性別】

男性では「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電など）の普及拡大に向けた支援の強化」が最も高く、女性では「省エネ住宅（ZEHなど）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が最も高くなっている。



【年代別】

10 歳代では「環境への負荷の少ない製品やサービスの開発・普及に向けた支援の強化」が最も高く、20 歳代、50 歳代、60 歳代では「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電など）の普及拡大に向けた支援の強化」が、30 歳代では「省エネ住宅（ZEHなど）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が、40 歳代では「低燃費車の普及に向けた支援の強化」が、70 歳以上では「温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備の強化」が最も高くなっている。



【問 46×問 49 のクロス分析】

「高知県がアクションプランに基づき、カーボンニュートラルの実現に向けた様々な取組を進めていることを知っていますか。」という質問に対し、「今後、温室効果ガスの排出を削減していくために、県が力を入れるべき施策は何だと考えますか。」の結果を見ると、「詳しく知っている」では同率で「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電など）の普及拡大に向けた支援の強化」と「新たな産業の芽となる可能性を持つプロジェクトの創出・推進（化石燃料に頼らないグリーンLPガスの技術開発やプラスチック代替素材の活用など）」が最も高く、「何となく知っている」では「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電など）の普及拡大に向けた支援の強化」が、「少し知っている」と「全く知らない」では「省エネ住宅（ZEHなど）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」と回答した人が最も高くなっている。

《問 46×問 49 のクロス分析》

	全体	温室効果ガスの排出を削減していくために、県が力を入れるべき施策														その他	無回答		
		省エネ住宅（ZEHなど）や電気自動車等に対する補助・減税の充実	電気自動車の充電スタンドの設置拡大	低燃費車の普及に向けた支援の強化	再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電など）の普及拡大に向けた支援の強化	公用車への電気自動車の導入	環境への負担の少ない製品やサービスの開発・普及に向けた支援の強化	公共交通機関の利用促進に向けた取組の強化	備の強化	温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備	CLTの普及や住宅や建築物への県産材の活用など木材利用の推進	普及啓発の強化	LEDの導入などの、家庭でできる地球温暖化対策の強化	教育現場での地球温暖化教育の充実・強化	（地域通貨・ポイント制度など）の導入			温室効果ガス削減に取り組む動機付けとなる仕組み	術開発やプラスチック代替素材の活用など
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)																			
全体	1,468	597 40.7	479 32.6	589 40.1	611 41.6	259 17.6	430 29.3	373 25.4	455 31.0	267 18.2	377 25.7	424 28.9	220 15.0	368 25.1	37 2.5	42 2.9			
実高 現知 県に 向 け た 取 組 み の 認 知 度	詳しく知っている	32 31.3	37.5	31.3	46.9	34.4	18.8	37.5	37.5	9.4	18.8	34.4	12.5	46.9	3.1	-			
	何となく知っている	398 43.7	41.0	46.2	50.3	22.9	37.9	32.7	39.9	23.1	30.7	31.7	20.1	31.9	2.3	1.0			
	少し知っている	449 42.8	30.7	41.4	41.6	14.0	30.3	26.3	33.2	22.5	28.5	34.3	15.8	25.8	1.6	1.6			
	全く知らない	558 37.8	28.9	35.8	36.4	15.8	24.0	19.0	23.7	12.2	21.0	23.3	11.6	18.8	3.4	3.4			

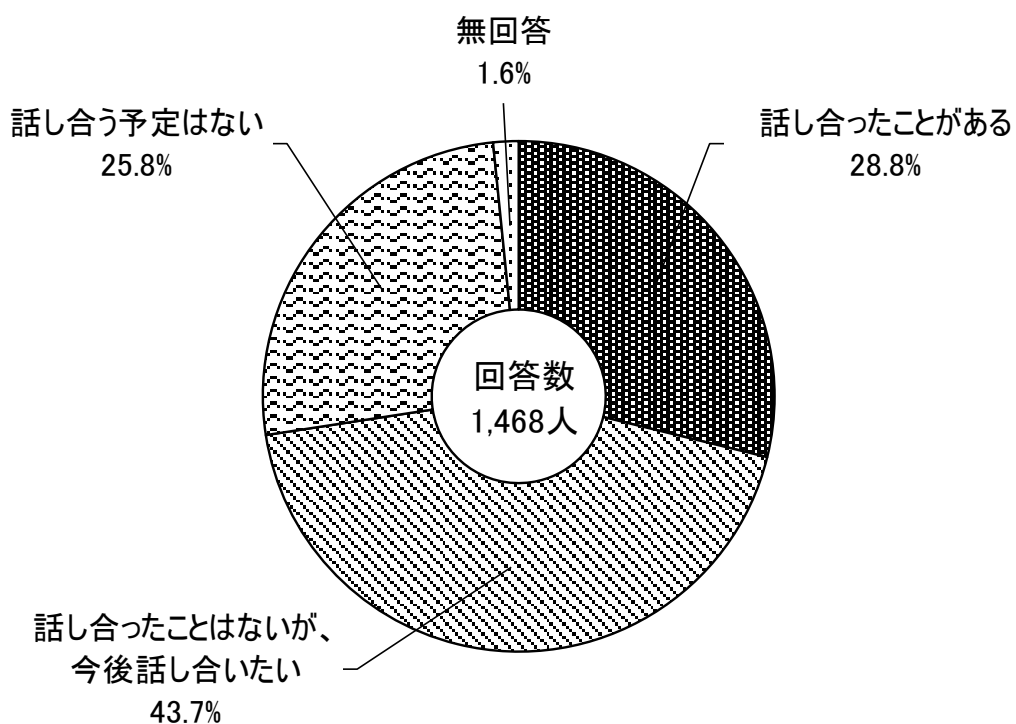
11. 空き家問題について

問 50 いざというときに家をどうするか家族で話し合っておくことは、空き家の発生抑制のために大事なことです。
あなたは、空き家またはご自身が住んでいる家や実家の将来のことについて、家族・親族と話し合ったことがありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」が43.7%と1位になっている。
次いで、「話し合ったことがある」が28.8%、「話し合う予定はない」が25.8%となっている。

《総合》

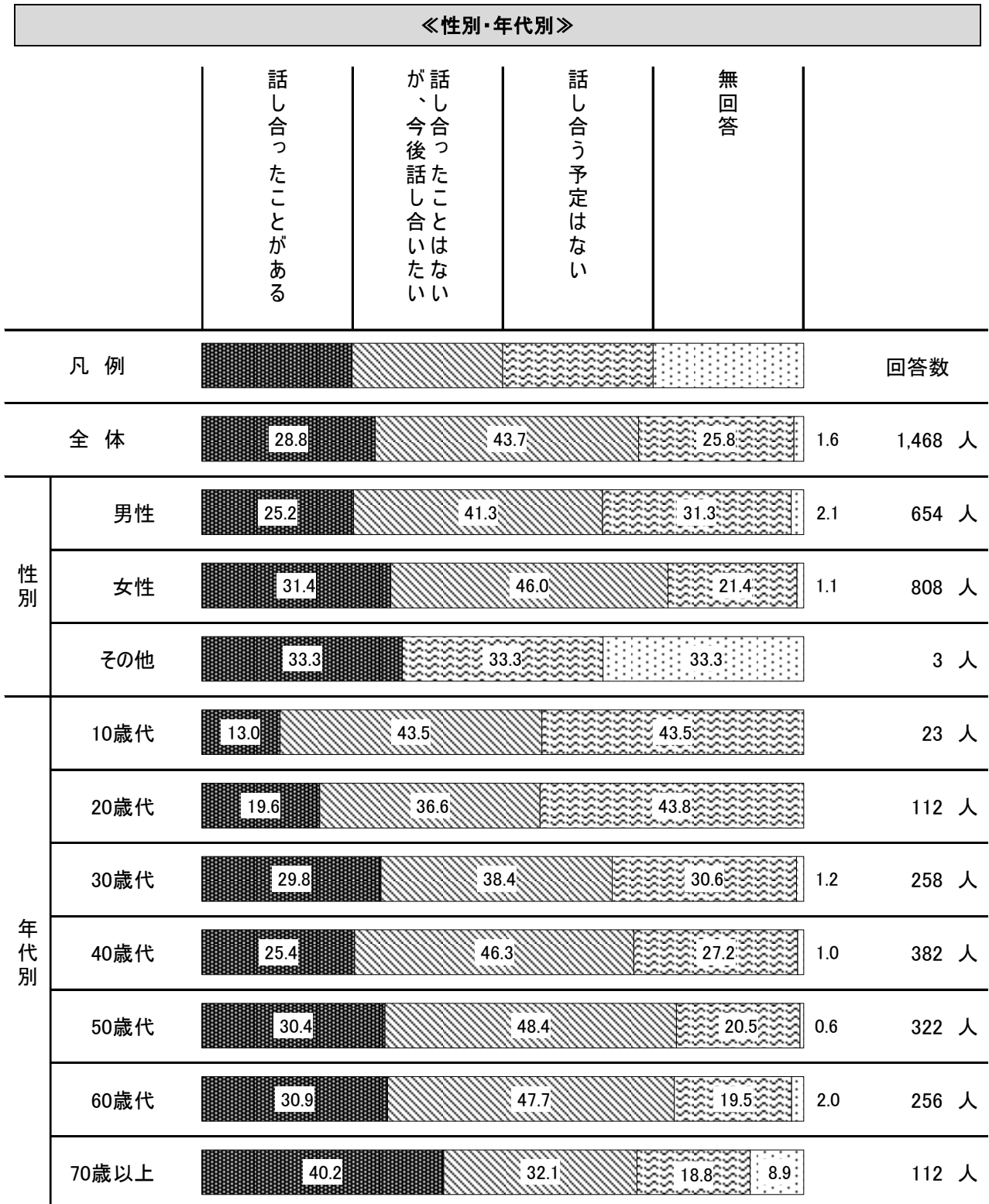


【性別】

男女ともに「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では同率で「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」と「話し合う予定はない」が最も高く、20歳代では「話し合う予定はない」が、30歳代から60歳代では「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」が、70歳以上では「話し合ったことがある」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

副問1 (問 50 で「1」もしくは「2^(※)」を選んだ方のみお答えください。)

話し合いのきっかけとなったこと、またはなりそうなことは何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

※問 50 の選択肢「1」及び「2」…「1.話し合ったことがある」、「2.話し合ったことはないが、今後話し合いたい」

【総合】

「空き家になったとき（居住者の引っ越しや入院、施設入所など）」が 44.2%と 1 位になっている。

次いで、「居住者本人の状況の変化（転職や退職、体調の変化など）」が 43.5%、「家族・親族の状況の変化（子や孫の就職、結婚、出産など）」が 38.0%と続いている。

《総合》

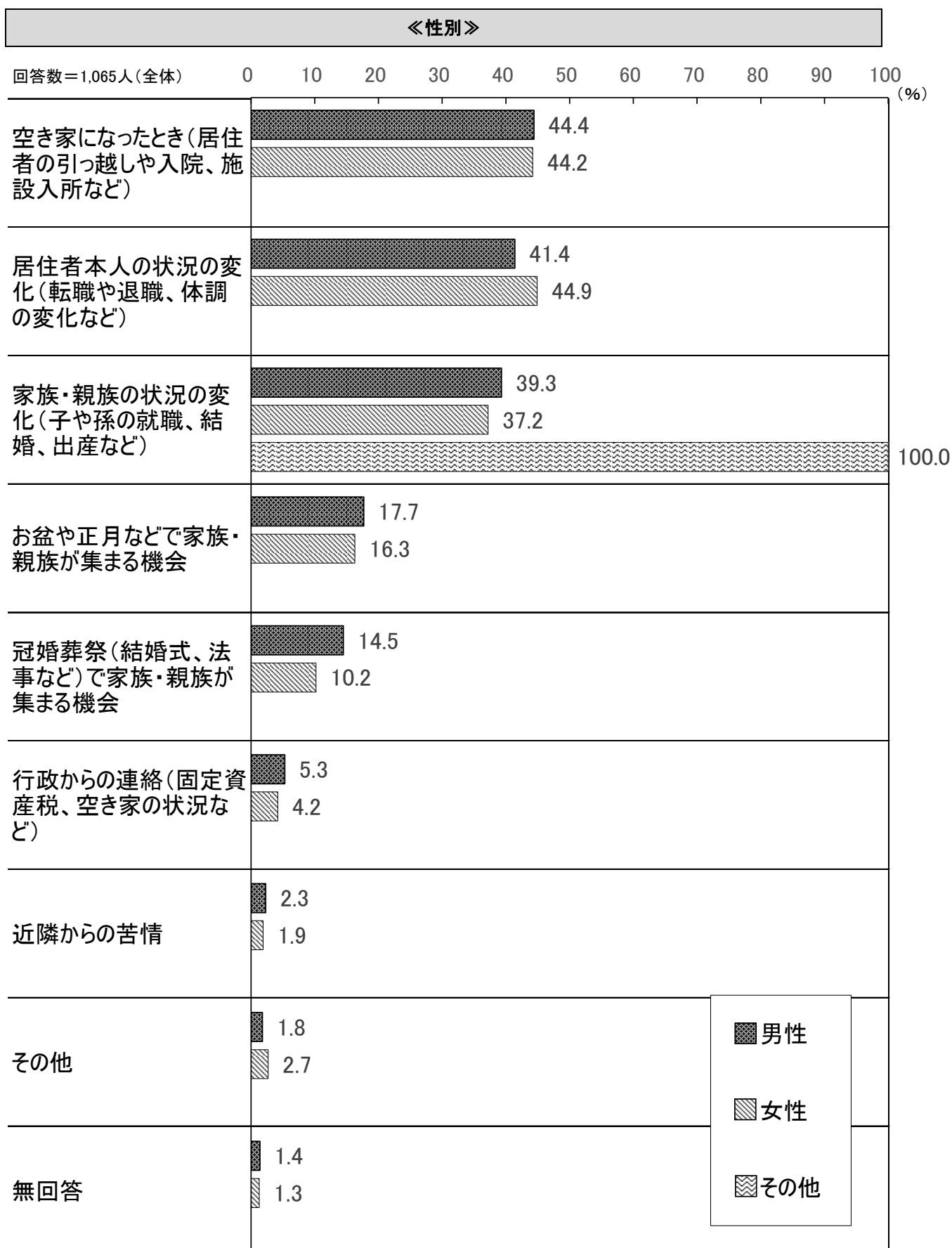
回答数

		回答数
全 体	100.0	1,065 人
空き家になったとき(居住者の引っ越しや入院、施設入所など)	44.2	471 人
居住者本人の状況の変化(転職や退職、体調の変化など)	43.5	463 人
家族・親族の状況の変化(子や孫の就職、結婚、出産など)	38.0	405 人
お盆や正月などで家族・親族が集まる機会	16.8	179 人
冠婚葬祭(結婚式、法事など)で家族・親族が集まる機会	11.9	127 人
行政からの連絡(固定資産税、空き家の状況など)	4.6	49 人
近隣からの苦情	2.1	22 人
その他	2.3	25 人
無回答	1.3	14 人

グラフ単位(%)

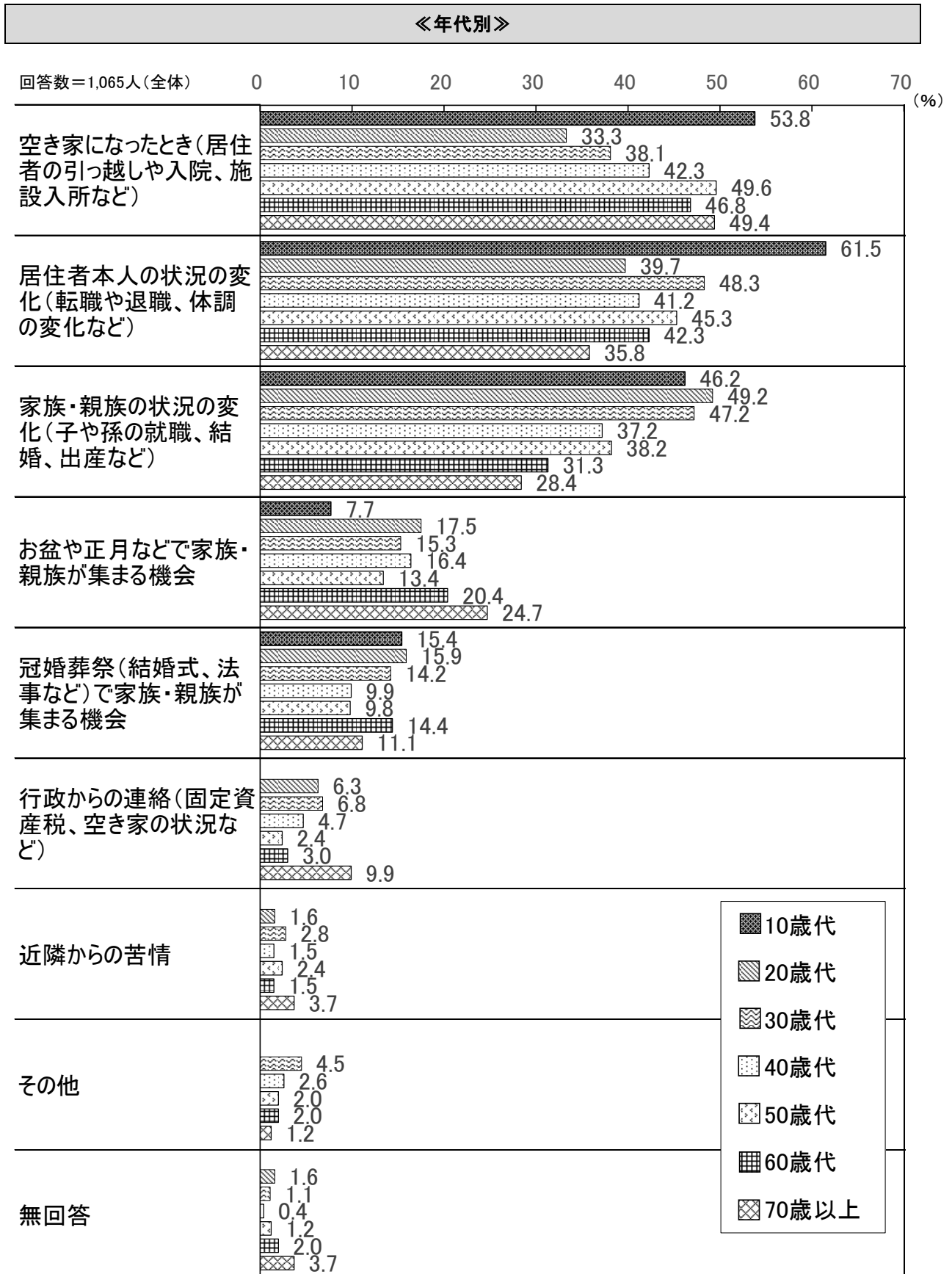
【性別】

男性では「空き家になったとき（居住者の引っ越しや入院、施設入所など）」が最も高く、女性では「居住者本人の状況の変化（転職や退職、体調の変化など）」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、30歳代では「居住者本人の状況の変化（転職や退職、体調の変化など）」が最も高く、20歳代では「家族・親族の状況の変化（子や孫の就職、結婚、出産など）」が、40歳代から70歳以上では「空き家になったとき（居住者の引っ越しや入院、施設入所など）」が最も高くなっている。



副問2 (問 50 で「3^(※)」を選んだ方のみお答えください。)

それはなぜですか。(1つだけ○印)

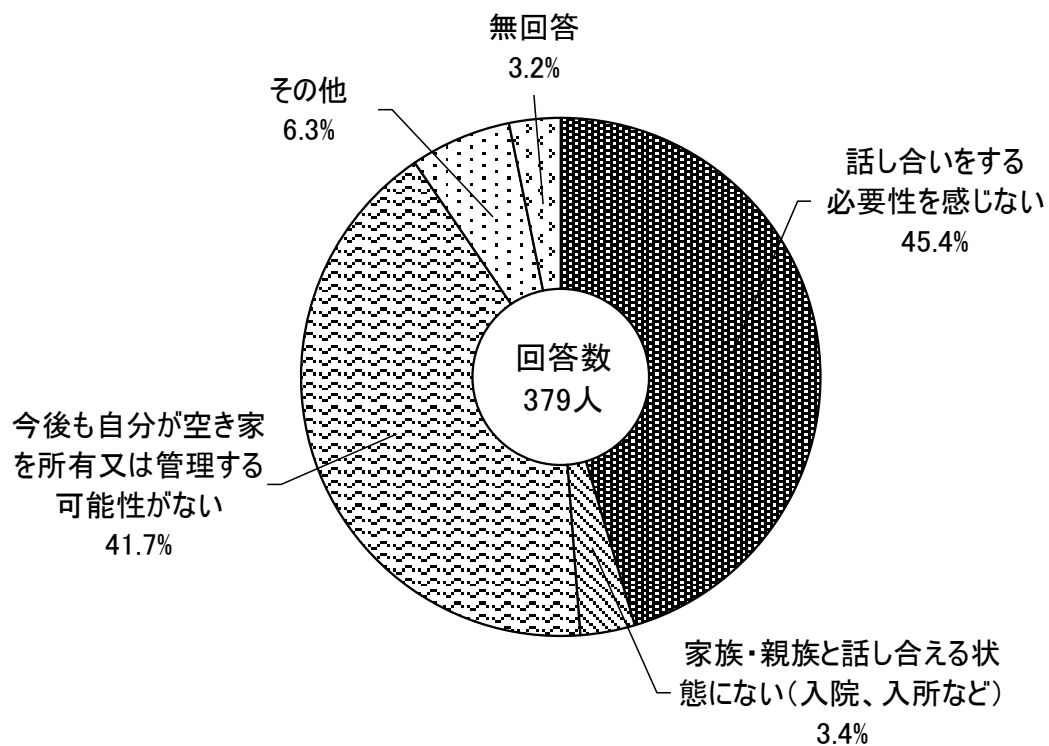
※問 50 の選択肢「3」…「3.話し合う予定はない」

【総合】

「話し合いをする必要性を感じない」が 45.4%と 1 位になっている。

次いで、「今後も自分が空き家を所有又は管理する可能性がない」が 41.7%、「家族・親族と話し合える状態にない(入院、入所など)」が 3.4%となっている。

《総合》



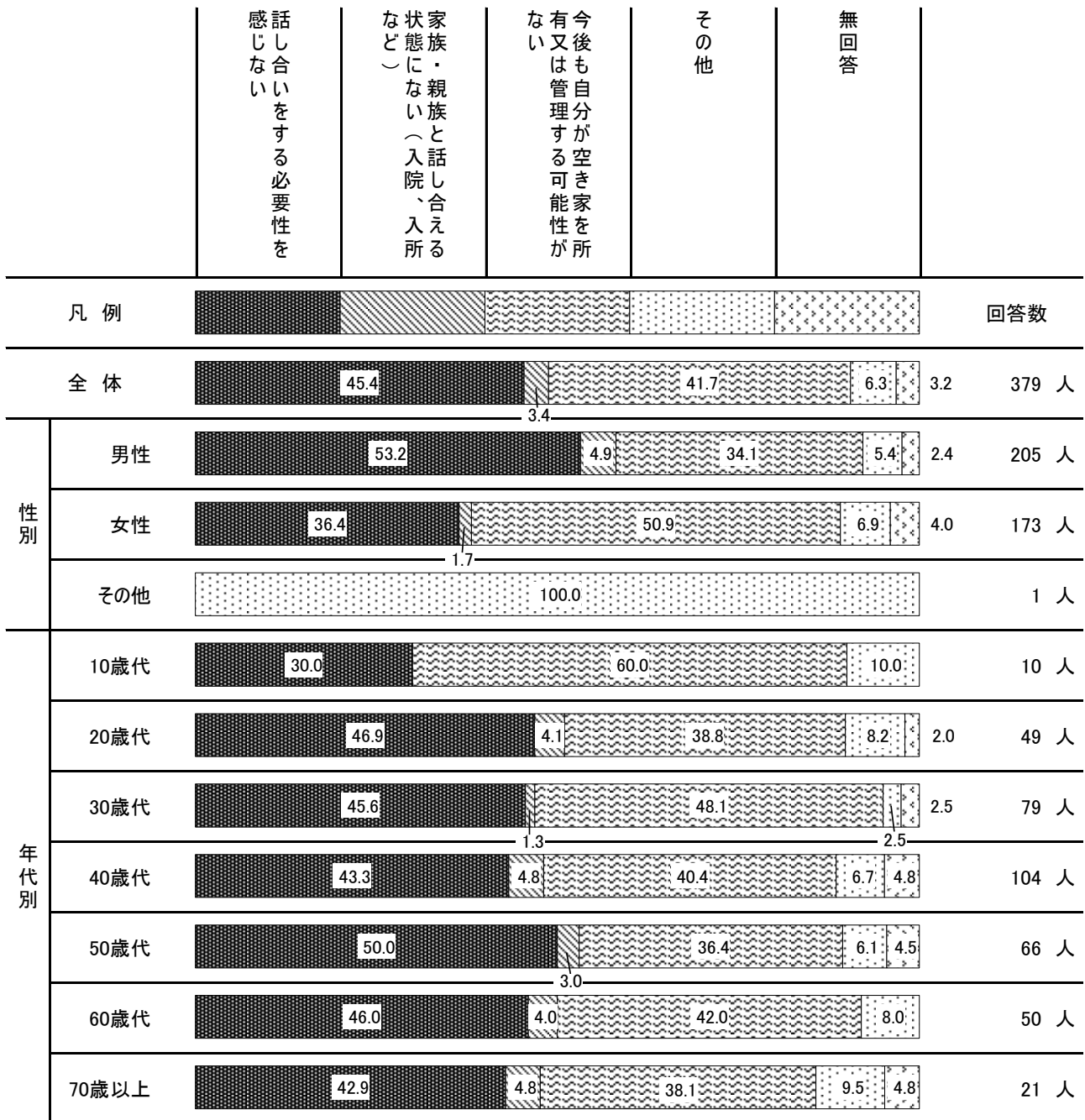
【性別】

男性では「話し合いをする必要性を感じない」が最も高く、女性では「今後も自分が空き家を所有又は管理する可能性がない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代、30歳代では「今後も自分が空き家を所有又は管理する可能性がない」が最も高く、それ以外の年代では「話し合いをする必要性を感じない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

問 51 今後、空き家の活用や処分※を進める際、問題となると思うことは何ですか。

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「リフォームや解体のための費用が捻出できない」が55.4%と1位になっている。

次いで、「家の中に荷物を置いたままにしている」が49.7%、「家が古い」が46.5%と続いている。

《総合》

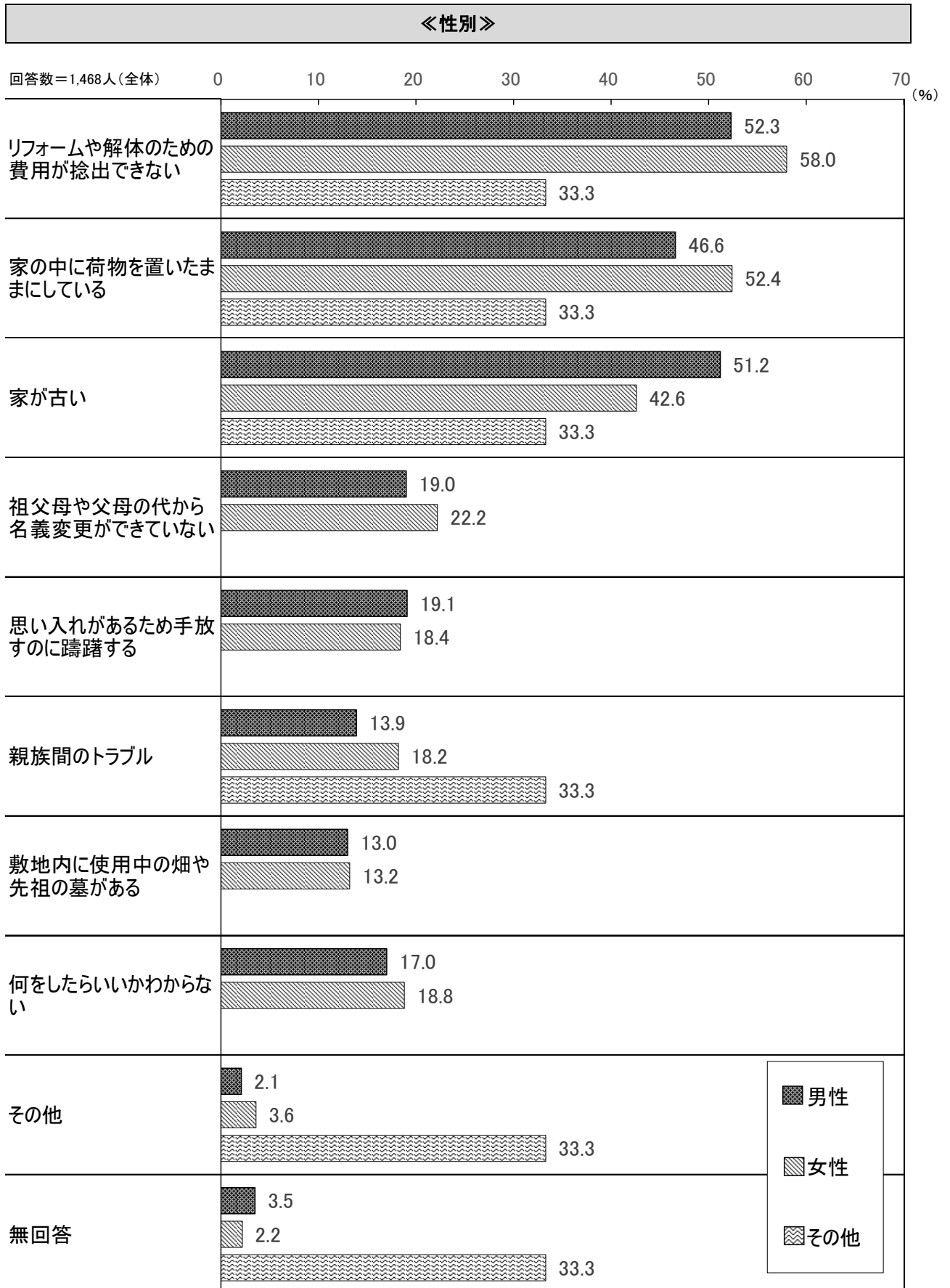
回答数

	割合 (%)	回答数
全 体	100.0	1,468 人
リフォームや解体のための費用が捻出できない	55.4	814 人
家の中に荷物を置いたままにしている	49.7	730 人
家が古い	46.5	682 人
祖父母や父母の代から名義変更ができていない	20.6	303 人
思い入れがあるため手放すのに躊躇する	18.7	274 人
何をしたらいいかわからない	17.9	263 人
親族間のトラブル	16.3	239 人
敷地内に使用中の畑や先祖の墓がある	13.1	192 人
その他	3.0	44 人
無回答	2.9	42 人

グラフ単位 (%)

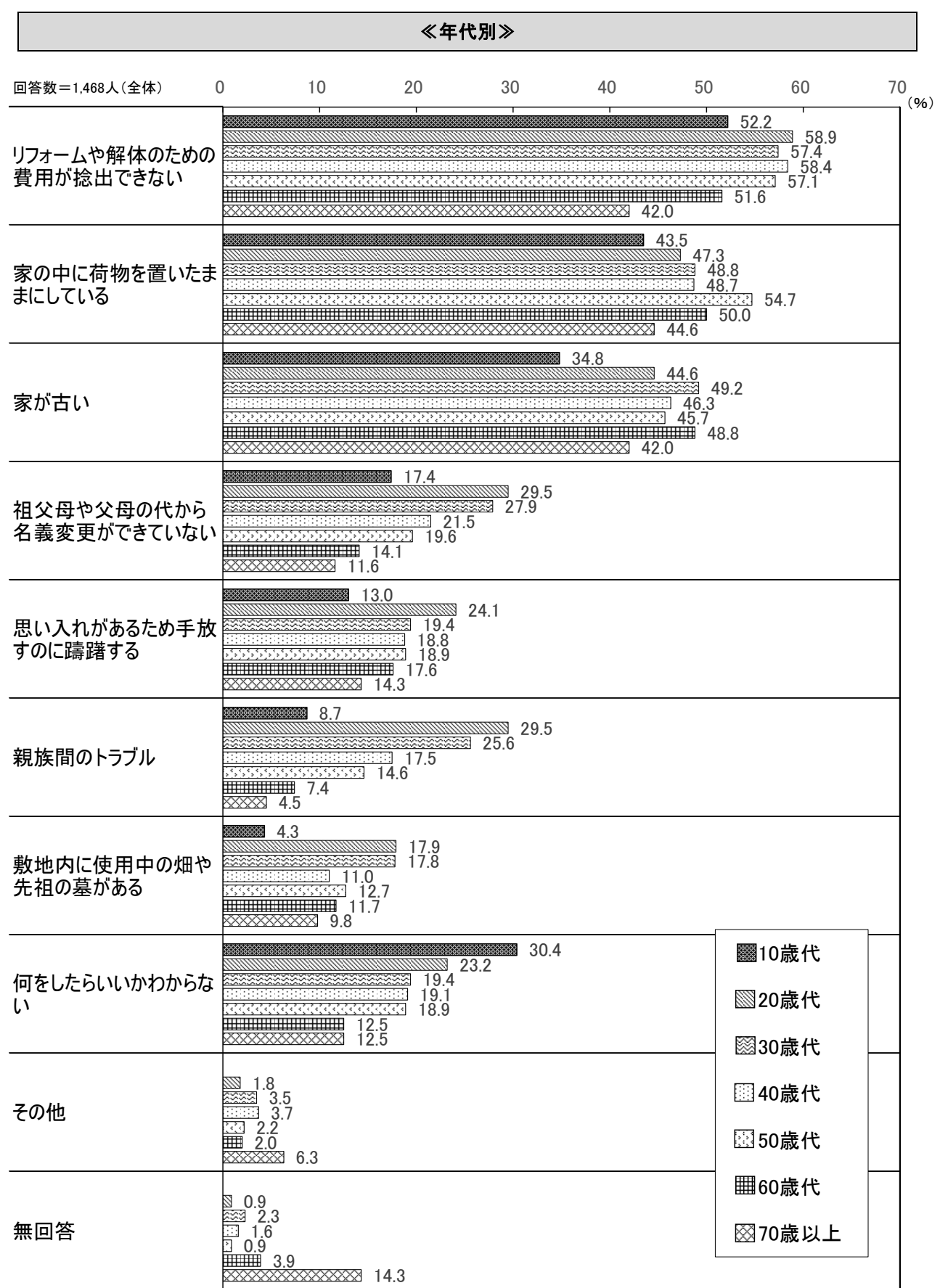
【性別】

男女ともに「リフォームや解体のための費用が捻出できない」が最も高くなっている。



【年代別】

70歳以上では「家の中に荷物を置いたままにしている」が最も高く、それ以外の年代では「リフォームや解体のための費用が捻出できない」が最も高くなっている。



12. 関西戦略の次期戦略について

問 52 関西戦略のうち、特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

「県産品等の外商の拡大（農・水産物、加工食品、木材、工業製品等）」が 60.8%と 1 位になっている。
 次いで、「アンテナショップの設置（食や観光等の情報発信拠点）」が 45.2%、「観光客誘致（関西圏の在住者や関西圏を訪れる国内外の観光客）」が 42.0%となっている。

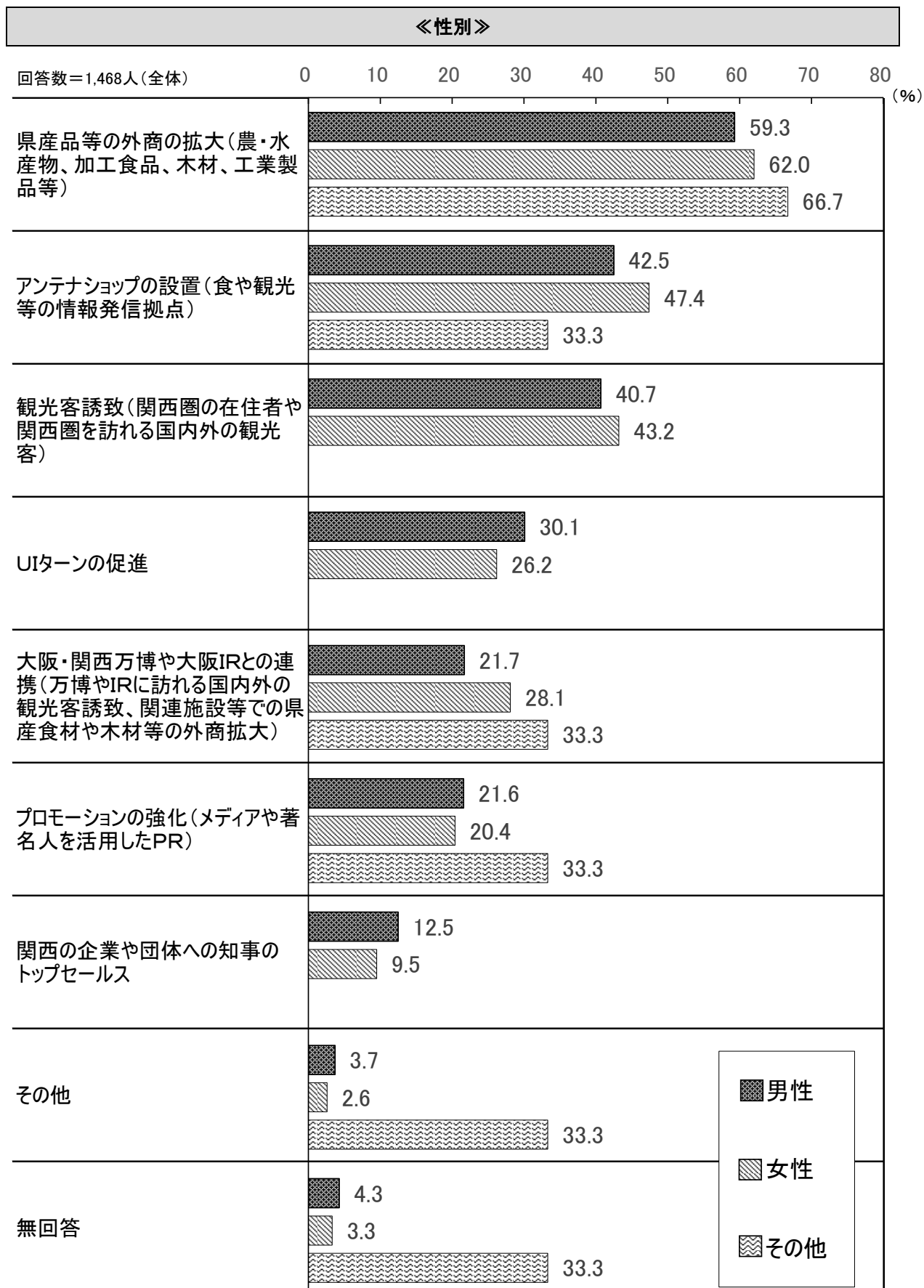
《総合》

		回答数
全 体	100.0	1,468 人
県産品等の外商の拡大（農・水産物、加工食品、木材、工業製品等）	60.8	892 人
アンテナショップの設置（食や観光等の情報発信拠点）	45.2	664 人
観光客誘致（関西圏の在住者や関西圏を訪れる国内外の観光客）	42.0	616 人
UTターンの促進	27.9	410 人
大阪・関西万博や大阪IRとの連携（万博やIRを訪れる国内外の観光客誘致、関連施設等での県産食材や木材等の外商拡大）	25.2	370 人
プロモーションの強化（メディアや著名人を活用したPR）	21.0	308 人
関西の企業や団体への知事のトップセールス	10.8	159 人
その他	3.1	46 人
無回答	3.9	57 人

グラフ単位(%)

【性別】

男女ともに「県産品等の外商の拡大（農・水産物、加工食品、木材、工業製品等）」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「県産品等の外商の拡大（農・水産物、加工食品、木材、工業製品等）」が最も高くなっている。

